



# AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition

## ユーザーマニュアル

ドキュメント改訂 90.2 (5. 12. 2009)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.  
その他のすべての商標は各所有者の財産です。

この製品は、RSA Data Security社のMD5 Message-Digest Algorithmを使用しています。著作権 (C) 1991-2, RSA Data Security社。1991年作成。

この製品は、C-SaCzech libraryのコードを使用しています。著作権 (c) 1996-2001 Jaromir Dolecek <dolecek@ics.muni.cz>

この製品は、compression library zlibを使用しています。著作権 (c) 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## コンテンツ

1. はじめに .....	8
1.1 AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition 概要 .....	8
1.2 主な機能 .....	10
1.3 サポートされているオペレーティングシステム .....	11
1.4 最小ハードウェア要件 .....	13
1.5 推奨ハードウェア要件 .....	13
1.6 ネットワーク要件 .....	13
1.6.1 ステーションで許可されるポート .....	13
1.6.2 リモート管理用に許可されるポート .....	13
1.7 以前のバージョンからのステーションの移行 .....	16
2. AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition インストール .....	17
2.1 コンポーネントの概要 .....	17
2.1.1 AVG 管理サーバー配置ウィザード .....	17
2.1.2 AVG ネットワークインストーラ .....	17
2.1.3 AVG 管理コンソール .....	17
2.1.4 AVG 管理 Lite .....	17
2.1.5 AVG 管理サーバー .....	17
2.1.6 サーバーロール .....	17
2.2 インストールおよび配置場所 .....	18
2.3 言語の選択 .....	19
2.4 ライセンス契約 .....	19
2.5 インストールタイプ .....	21
2.6 パーソナライズ .....	22
2.7 インストール先フォルダ .....	22
2.8 コンポーネントの選択 .....	23
2.9 インストールのサマリー .....	25
2.10 インストールの完了 .....	25
3. AVG 管理配置ウィザード .....	27
3.1 はじめに .....	28
3.2 複数の UpdateProxy の役割の配置 .....	28
3.3 役割の選択 .....	29
3.4 DataCenter の役割 .....	30
3.4.1 Firebird .....	30
3.4.2 MS SQL Server Express Edition .....	30

3.4.3 MS SQL Server .....	30
3.4.4 Oracle .....	30
3.4.5 MySQL 5 .....	30
3.4.6 データインポート .....	30
3.4.7 サーバーアクセス .....	30
3.5 UpdateProxy の役割 .....	43
3.5.1 アップデートサーバー .....	43
3.6 構成の概要 .....	47
<b>4. AVG ネットワークインストーラウィザード基本モード .....</b>	<b>49</b>
4.1 Windows XP Home でのリモートインストール .....	49
4.2 コンポーネントでの推奨設定 .....	49
4.3 ようこそ .....	51
4.4 インストール方法 .....	52
4.5 リモートネットワークインストール .....	53
4.5.1 ドメインのすべてのステーション .....	53
4.5.2 IP 範囲を入力 .....	53
4.5.3 ファイルからのステーションのインポート .....	53
4.5.4 1つのステーションを選択 .....	53
4.5.5 Active Directory から選択 .....	53
4.6 リモートネットワークインストール - 最終ステップ .....	65
4.7 AVG インストールスクリプトの作成 .....	67
<b>5. AVG ネットワークインストーラウィザード詳細モード .....</b>	<b>74</b>
5.1 ようこそ .....	75
5.2 インストール方法 .....	76
5.3 リモートネットワークインストール .....	77
5.3.1 ドメインのすべてのステーション .....	77
5.3.2 IP 範囲を入力 .....	77
5.3.3 ファイルからのステーションのインポート .....	77
5.3.4 1つのステーションを選択 .....	77
5.3.5 Active Directory から選択 .....	77
5.4 リモートネットワークインストール - 最終ステップ .....	94
5.5 AVG インストールスクリプトの作成 .....	96
<b>6. AVG 管理コンソール .....</b>	<b>107</b>
6.1 AVG 管理コンソールとは .....	107
6.2 AVG 管理コンソールインターフェイスの概要 .....	109
6.2.1 上部のメインメニュー .....	109

6.2.2 ナビゲーションツリー .....	109
6.2.3 記録セクション .....	109
6.2.4 ステータスパネル .....	109
6.2.5 クイックヘルプパネル .....	109
6.2.6 フィルタパネル .....	109
6.2.7 最新のバージョン .....	109
6.3 同期プロセス .....	122
6.3.1 ステーション設定同期化 .....	122
6.3.2 スキャン結果の同期化 .....	122
6.3.3 ステーションコンポーネント状態の同期化 .....	122
6.4 ステーション .....	124
6.4.1 非標準ステーション .....	124
6.4.2 AVG ファイアウォールのあるステーション .....	124
6.4.3 新規ステーション .....	124
6.4.4 フィルタリング .....	124
6.5 サーバー .....	129
6.5.1 AVG 管理サーバー .....	129
6.5.2 アプリケーションサーバー .....	129
6.5.3 フィルタリング .....	129
6.6 スキャン結果 .....	133
6.6.1 フィルタリング .....	133
6.7 イベント .....	137
6.7.1 フィルタリング .....	137
6.8 通知 .....	138
6.8.1 [状態] タブ .....	138
6.8.2 [メッセージ] タブ .....	138
6.9 グラフィックレポート .....	142
6.9.1 レポートテンプレート .....	142
6.9.2 レポートスケジュール .....	142
6.9.3 生成されたレポート .....	142
6.9.4 フィルタリング .....	142
6.10 ライセンス .....	151
6.10.1 共有設定 .....	151
6.10.2 ステーション .....	151
6.11 リクエストの保留 .....	152
6.11.1 フィルタリング .....	152
<b>7. AVG 管理サーバー .....</b>	<b>154</b>

8. AVG 管理 Lite .....	155
8.1 AVG 管理配置ウィザード Lite .....	155
8.1.1 構成の概要 .....	155
8.1.2 完了 .....	155
8.2 AVG ネットワークインストーラウィザード Lite .....	158
8.2.1 インストール設定 .....	158
8.2.2 AVG インストールスクリプトの作成 .....	158
8.2.3 完了 .....	158
9. AVG 設定マネージャ .....	163
10. 構成 .....	166
10.1 ステーション/グループの共有設定 .....	166
10.1.1 一般的な管理および優先レベル .....	166
10.1.2 警告マネージャの設定 .....	166
10.1.3 リモート管理 .....	166
10.1.4 許可されたアクション .....	166
10.1.5 ライセンス .....	166
10.1.6 構成のコピー .....	166
10.1.7 スケジュール済みスキャン .....	166
10.1.8 グループ/サーバーへの値の移動 .....	166
10.1.9 スпам対策 .....	166
10.2 共有ファイアウォール設定 .....	182
10.2.1 アイテムを必須として設定するには .....	182
10.2.2 プロファイル .....	182
10.3 アプリケーションサーバーの共有設定 .....	186
10.3.1 概要 .....	186
10.3.2 Anti-Spam Server for MS Exchange .....	186
10.3.3 E-mail Scanner for MS Exchange ( ルーティング TA ) .....	186
10.3.4 E-mail Scanner for MS Exchange ( SMTP TA ) .....	186
10.3.5 E-mail Scanner for MS Exchange ( VSAPI ) .....	186
10.3.6 Document Scanner for MS SharePoint .....	186
10.3.7 検出アクション .....	186
10.3.8 メールフィルタリング .....	186
10.4 AVG 管理サーバーの設定 .....	197
10.4.1 [全般] タブ .....	197
10.4.2 [DataCenter] タブ .....	197
10.4.3 [UpdateProxy] タブ .....	197

10.4.4 [電子メール] タブ .....	197
10.5 接続文字列 .....	205
10.6 プロキシ サーバー .....	206
10.7 AVG 管理コンソール .....	207
10.7.1 コンテキストメニュー .....	207
10.7.2 ステーショングループ .....	207
<b>11. How to...</b> .....	<b>217</b>
11.1 ステーションを AVG DataCenter に接続するには .....	217
11.1.1 ステーションを手動で接続するには .....	217
11.2 異なる DataCenter 間でステーションを移行するには .....	219
11.2.1 AVG DataCenter 8.5 からのステーションおよび設定のインポート .....	219
11.2.2 他の AVG DataCenter へのステーションの移行 .....	219
11.3 ステーションを同期するには .....	221
11.4 アップデート関連の問題を解決するには .....	221
11.5 AVG を Windows XP Home にリモートでインストールするには .....	223
11.6 ユーザーインターフェイス言語を変更するには .....	224
11.7 ステーションのユーザーアクションを管理するには .....	226
11.8 リクエストの処理およびステータスメッセージ .....	226
11.9 アクセス権を管理するには .....	228
11.10 DataCenter データベースを保守するには .....	232
11.11 AVG セットアップパラメーターのリスト .....	233
<b>12. AVG DataCenter</b> .....	<b>241</b>
12.1 保守 .....	241
12.2 パスワード保護 .....	241
12.3 AVG DataCenter を別のデータベースに変換するには .....	242
12.4 Web インターフェイス .....	242
<b>13. AVG 管理アップデート</b> .....	<b>244</b>
<b>14. アップデート</b> .....	<b>252</b>
14.1 一般情報 .....	252
14.2 ローカルネットワーク内でのアップデート .....	252
<b>15. AVG Admin Server for Linux</b> .....	<b>254</b>
15.1 インストール .....	254
15.1.1 Firebird インストール .....	254
15.1.2 データベースのセットアップ .....	254



15.1.3 AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta インストール .....	254
15.1.4 ライセンス .....	254
15.1.5 AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta 構成 .....	254
15.1.6 インストールの検証 .....	254
15.1.7 インストールのトラブルシューティング .....	254
15.2 スタートアップパラメーター .....	259
15.3 構成 .....	261
16. FAQ およびテクニカルサポート .....	266



## 1. はじめに

このユーザーマニュアルでは、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionに関する包括的なドキュメントを提供します。

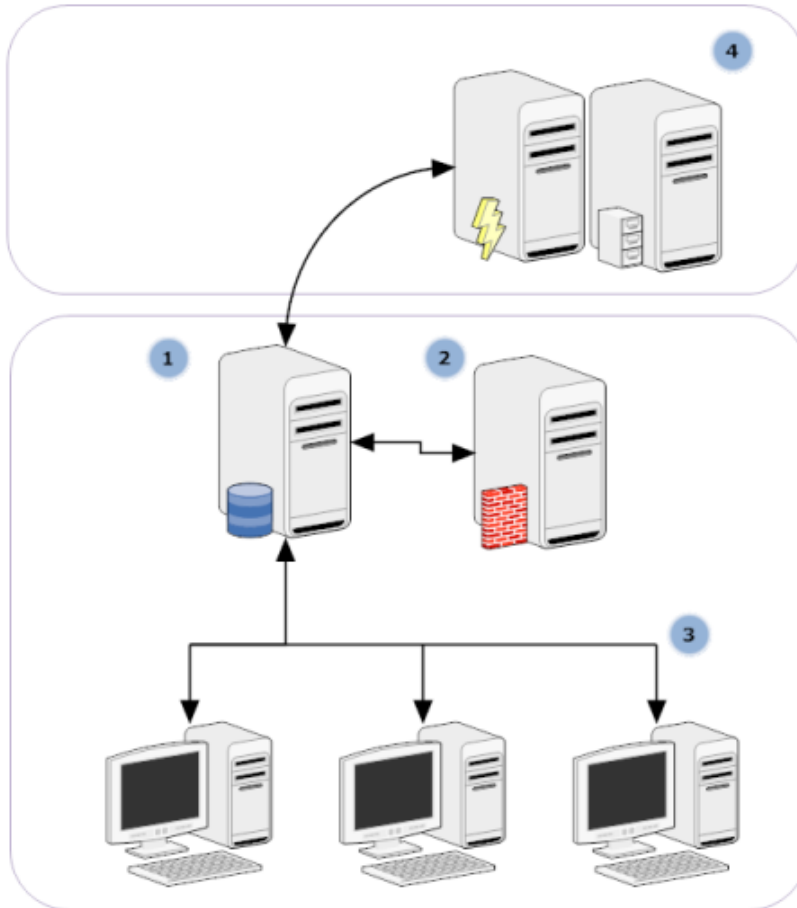
### 重要：

このドキュメントには、他のユーザーガイド、特にインターネットセキュリティガイドへの参照が記載されている場合があります。AVGユーザーインターフェイスやAVG詳細設定/Firewall設定の知識がない場合は、<http://www.avg.com> Webサイトの [Support Center/Download/Documentation](#) セクションから、すべての関連ガイドをすべて、あらかじめダウンロードしておくことを強く推奨します。

また、必要な情報を入手するには、アプリケーションで入手できるコンテキストヘルプも使用できます。

### 1.1. AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition 概要

基本的な接続と、リモート管理コンポーネントの最も一般的なデフォルト設定における相互作用については、**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition**の簡易版スキームをご覧ください。



## 1) AVG DataCenter

は 1 つのデータベースと **AVG Admin Server** から構成されています。 **AVG Admin Server** は、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG Admin console は AVG Admin Server を使用して、AVG DataCenter にアクセスし、ステーション設定とシステムパラメータを一元的に定義できます。AVG ステーションは AVG Admin Server にアクセスし、セットアップパラメータを読み込みます。また、AVG DataCenter に現在定義されている設定とスキャン結果を保存します。

AVG Admin Server はローカルアップデートソースとしても機能します。UpdateProxy ロールを複数のサーバーに展開する場合は、それをステーションのアップデートに使用し、帯域幅やロードのバランスを保つことができます。



## 2) AVG Admin console

は、AVG ステーションを管理するプログラムです。AVG Admin Serverと直接通信します。

## 3) ステーション

AVG Admin Serverと通信し、デフォルト設定の受け入れ、特定の設定の要求、スキャン結果を送信などを行います。

## 4) AVG Technologies サーバー

AVG Admin Serverにアップデートファイルを提供します。

## 1.2. 主な機能

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** は、次の機能を提供します。

- リモートインストール

この機能を使用すると、ローカルネットワークのすべてのステーションで AVG を容易にインストールできます。このリモートインストールは、[AVG %> ネットワークインストーラウィザード](#)によってセキュリティ保護されています。このウィザードは、直接リモートインストールおよび、セットアップインストールプログラムをすべてのリモートネットワークステーションで実行することを可能にするインストールスクリプトの作成用のプログラムです。

- 一元管理されたアップデート

ネットワーク内のすべての AVG ステーションは、AVG Admin consoleを使用して、一元的にアップデートできます。

- サーバーロール

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** は 複数の役割で動作することが可能になっており、各役割は個別に配置することができるので ( DataCenter の役割はリモートステーションの管理に使用され、UpdateProxy の役割はアップデートの管理に使用 )、ユーザーは複数の物理サーバー間で負荷を分割できます。

- セキュリティ保護された通信

AVG 管理 ( AVG Admin Server ) とステーション間のネットワーク通信は完全に暗号化されています。

- ネットワークの完全リモート管理

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** の完全機能は次のことを保証します。

- 新しい AVG ネットワークインストーラウィザードにより、すべてのネットワークステーションで、自動リモート AVG インストールが実現
- すべてのネットワーク AVG ステーションの現在のステータスを継続的に把握することが可能
- AVG ステーションの構成を一元的に制御および管理

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** の完全機能は、AVG Admin consoleおよびAVG DataCenter によって提供されます。

完全機能が不要な場合は、[AVG Admin Lite](#) のみをインストールして配置することができます (インストールスクリプトの生成とローカルアップデートソース)。

- すべての標準機能のほか、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition には、次のコンポーネントサポートが含まれています (構成は AVG Admin console から直接入手可能)。
  - *スパム対策保護*
  - *スパイウェア対策保護*
  - *ファイアウォール保護*
  - *Web シールド保護*
  - *LinkScanner 保護*
  - *ルートキット対策保護*

*注意: ご使用の製品に応じて、コンポーネントのサポートは異なります。*

- 下位互換性には、以前のバージョンからの容易な移行が含まれます。

### 1.3. サポートされているオペレーティングシステム

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** は、次のオペレーティングシステムでステーションを管理/保護するように設計されています (リストの下に例外事項があります)。



- MS Windows 2000 Professional SP4 + Update Rollup
- MS Windows Server 2000 SP4 + Update Rollup
- MS Windows XP Professional SP2
- MS Windows XP Home SP2
- MS Windows XP Professional x64 SP1
- MS Windows Server 2003 SP1
- MS Windows Server 2003 x64
- MS Windows 2008 Server
- MS Windows 2008 Server x64
- MS Windows Vista (すべてのエディション)
- MS Windows Vista x64 (すべてのエディション)
- MS Windows 7 (すべてのエディション)
- MS Windows 7 x64 (すべてのエディション)

**AVG Admin console、AVG Admin Server**、および関連コンポーネントは、次のオペレーティングシステムでサポートされています。

- MS Windows 2000 Professional SP4 + Update Rollup
- MS Windows Server 2000 SP4 + Update Rollup
- MS Windows XP Professional SP2
- MS Windows XP Home SP2
- MS Windows XP Professional x64 SP1
- MS Windows Server 2003 SP1
- MS Windows 2008 Server
- MS Windows 2008 Server x64



- MS Windows Vista (すべてのエディション)
- MS Windows Vista x64 (すべてのエディション)
- MS Windows 7 (すべてのエディション)
- MS Windows 7 x64 (すべてのエディション)

Linux の AVG Admin Serverは、Redhat、Suse、Mandriva、Ubuntu、Debian およびその他の i386 ベース Linux ディストリビューションでサポートされています。

#### 1.4. 最小ハードウェア要件

AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition の最小ハードウェア要件と関連コンポーネントは次のとおりです。

- Intel Pentium CPU 1.5 GHz
- 500 MB のハードディスク空き容量
- 512 MB の RAM メモリ

#### 1.5. 推奨ハードウェア要件

AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの推奨ハードウェア要件は以下のとおりです。

- Intel Pentium CPU 1.8 GHz
- 600 MB のハードディスク空き容量
- 512 MB の RAM メモリ

#### 1.6. ネットワーク要件

ステーションへのAVGのリモートインストールを正常に実行するには、あらかじめ実行する必要のある手順があります。

注：以下の章を参照しても、リモート管理/インストール/接続の問題が解消されない場合は、<http://www.avg.com>にあるFAQ(よくある質問と答)で正しい解決方法を見つけてください。

### 1.6.1. ステーションで許可されるポート

個人ファイアウォールを使用するネットワークの個別のステーションの場合、AVG リモートインストーラを正常に実行するには、おそらく特定のポートやシステム機能を許可する必要があると考えられます。

ファイアウォールタイプや各ステーションの設定に応じて、以下の要件の一部はすでに事前定義されているか、許可されているか、または同じ名前と記述下ではその設定を使用できない場合があります。上級ユーザーのみが変更作業を行うことを強くお勧めします。設定を変更する前に、ご使用のファイアウォールのユーザーマニュアルまたはヘルプガイドを必ず参照してください。

- **Ping ( ICMP タイプ 0 - 着信エコー要求 )**

スイッチがオンになっていて完全に稼働しているネットワークステーションが、AVG ネットワークインストーラによって検出されない場合にだけ、この設定を変更します。

リモートステーションで使用されているファイアウォール設定では、ローなるネットワーク内で着信 ping 要求が許可されます。多くの場合、この機能は ICMP タイプ 0 または着信エコー要求などにあります。正しく設定すると、AVG ネットワークインストーラはネットワークのステーションを検索できるようになります。

- **Microsoft ネットワーク用のファイルおよびプリンタ共有**

Admin\$ 共有で、AVG ネットワークインストーラへのアクセスを許可するには、まず、リモートステーションの Microsoft ネットワークのファイルとプリンタ共有を許可する必要があります。具体的には、TCP ポート 139 および 445、UDP ポート 137、138、445 を許可する必要があります。このようにして、AVG ネットワークインストーラは AVG エージェントをリモートステーションにコピーできます。

最初の手順では、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタ共有がリモートステーションにインストールされていることを確認する必要があります。

Windows 2000 または XP を使用している場合は、[スタート/設定/ネットワーク]の下に設定があります。ネットワーク接続のプロパティウィンドウで、[Microsoft ネットワークのファイルとプリンタ共有]をオンにします。このアイテムが表示されない場合は、インストールされていない可能性があります。そのような場合は、ステーション管理者に問い合わせるか、コンポーネントをインストール CD からインストールしてください。

Windows Vista の場合は、コントロールパネル/ネットワークと共有センターに移動して、ネットワーク共有を有効にします。

Windows 7 を使用している場合は、**コントロールパネル/すべてのコントロールパネルアイテム/ネットワークと共有センター/高度な共有設定**に移動します。ネットワークに適用するプロファイルを選択 (あるいは両方をステップごとに選択) し、**[ファイルとプリンタの共有をオンにする]** ラジオボタンをクリックします。

**[Microsoft ネットワークのファイルとプリンタ共有]** が正常にインストールされたら、リモートステーションではなく、ファイアウォールで上述のポートを許可する必要があります。例えば、組み込み Windows XP ファイアウォールを使用する場合は、**[例外]** タブにある **[ファイルとプリント共有]** アイテムをクリックするだけで、簡単にこの機能を使用できます。

- **RPC : Remote Procedure Call ( リモートプロシージャコール )**

リモートステーションで AVG エージェントを起動できるようにするには、ステーションのファイアウォールで TCP および UDP ポート 135 を許可する必要があります。

- **TCP ポート番号 6150 上での通信**

AVG ネットワークインストーラと AVG エージェントコンポーネント間の通信を正常に行うには、最初に、TCP ポート 6150 上の通信を許可する必要があります。このポートを使用して、AVG ネットワークインストーラは AVG エージェントツールを管理して、AVG インストールファイルに渡します。

### 1.6.2. リモート管理用に許可されるポート

リモート管理が許可される必要のあるポートが、以下にリストされています。

- **TCP ポート番号 80 上での通信**

)AVG アップデートをインターネットからAVG Admin Serverアップデートプロキシにダウンロードするには、TCP ポート 80 でのこれらのコンポーネントの送信通信を許可する必要があります。

AVG Admin Serverとステーション間で通信を正常に行うには、ルーター/ファイアウォール/ハブ/VPN または関連する接続タイプのその他のタイプ、ハードウェアまたはソフトウェア上の他のポートを許可する必要もあります。

- **TCP ポート 4158**

)AVG Admin Server、AVG ステーション、AVG Admin console間の基本通信を行うには、TCP ポート 4158 を許可する必要があります (既定として定義済み)。

このポートは AVG Admin Server構成およびステーション上の AVG ユーザーインターフェース (メニュー [ツール] - [高度な設定] - [リモート管理] 経由) で変更できます。

- TCP ポート 6051

このポートは AVG Admin Serverから AVG ステーションへの直接メッセージに使用されます。

*このポートはステーション上の AVG ユーザーインターフェース (メニュー [ツール] - [高度な設定] - [リモート管理グループ] 経由) で変更できません。*

- TCP ポート 6054

このポートは AVG Admin Serverから AVG Admin consoleへの直接メッセージに使用されます。このポートは構成不可です。このポートが利用できない場合、AVG Admin consoleはリスニングのためこのポートを自動的に開こうと試みます。利用可能なポートが見つからない場合は後に続くポート (6055、6056、...) を開こうとします。

## 1.7. 以前のバージョンからのステーションの移行

ある AVG DataCenter を別の AVG DataCenter に移行する方法については、「[How to/Migrate stations from/to different DataCenter](#)」に記載されています。



## 2. AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition インストール

AVG をステーションにリモートにインストールするには、最初に、**AVG 9.0 Remote Administration** およびそのコンポーネントをインストールする必要があります。

プロセス全体は基本的に 2 つのステップからなります。

- コンポーネントのインストール
- 配置プロセス

注：ニーズに最も適した構成を設定できるように、最初に全章を読んで、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition インストールの可能性の概要を理解しておくことを強く推奨します。特に、「[Where to Install and Deploy](#)」および「[Components Overview](#)」の章をご確認ください。

**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition** は、インストール CD の **AVG Admin** ディレクトリ内にある exe ファイルを使用して起動できます。また、最新のインストールパッケージは、AVG Web サイト (<http://www.avg.com/download>) からいつでもダウンロードできます。

*AVG Remote Administration* をインストールする前に、AVG Web サイトにアクセスして、最新のインストールファイルを確認してください。

### 2.1. コンポーネントの概要

次はすべてのコンポーネントの概要です。

#### 2.1.1. AVG 管理サーバー配置ウィザード

このウィザードを使って、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition サーバーへの配置、または複数のサーバーへの分散を行います。

#### 2.1.2. AVG ネットワークインストーラ

AVG ネットワークインストールウィザードは、数回クリックするだけで自動的にリモートステーションへのインストールを行うことができます。AVG

#### 2.1.3. AVG 管理コンソール

**AVG Admin console** はネットワーク内のリモートステーションを管理する中枢の機能です。AVG AVG Admin Server やコントロールと通信、処理を行い、関連イベントを表示します。



#### 2.1.4. AVG 管理 Lite

AVG 管理ライトは簡易インストールに付けられた名前です。AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition ローカルアップデートのソースとステーションへの AVG インストールのスクリプト提供に限られており、AVG DataCenter や **AVG Admin console** の機能は利用できません。

#### 2.1.5. AVG 管理サーバー

**AVG Admin Server** は、データベース (AVG DataCenter) にデータを保存し、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG Admin Server はローカルアップデートソースとしても機能します。

**AVG DataCenter** は、スキャンやタスク設定などを含むすべての AVG ステーション設定を含んだデータベースです。**AVG**、および AVG Admin console プログラムがインストールされすべてのステーションは、**AVG DataCenter** と通信します。通信は、**遠隔管理** コンポーネントが **AVG Admin Server** に接続されているすべてのステーションに正しくインストールされている場合のみ利用可能です。

**AVG DataCenter** は 1 つの埋め込みおよび複数のスタンドアロン (商業用) SQL データベースシステムをサポートします。配置処理中に特定のデータベースシステムを選択できます ([AVG Admin Deployment Wizard](#) がインストール後に起動します)。

#### 2.1.6. サーバーロール

AVG Admin Server のインストール後に配置できる役割は 2 つあります。役割の選択は、配置プロセスの重要な部分です。このプロセスは製品インストールの直後に開始されます。オプションは次のとおりです。

- **DataCenter の役割**

AVG Admin console を介した AVG ステーション構成の一元管理を許可し、スキャン結果を AVG ステーションから収集し、コンポーネントの状態を表示します。そのほかにも、さまざまな機能があります。

- **UpdateProxy の役割**

ステーションへのアップデートのダウンロードや配布用のプロキシサーバーとして動作します。

## 2.2. インストールおよび配置場所

AVG Remote Administration の各種コンポーネント/役割を様々なサーバー/ステーションにインストールして配置することができます。1 つのマシンにすべてをインストールする必要はありません。



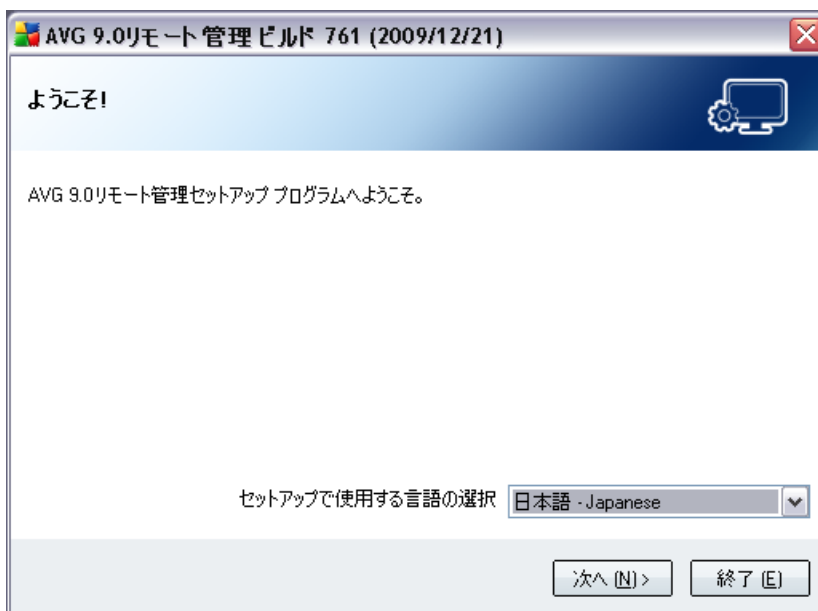
製品のインストールが終了したら、異なるサーバーの役割を配置できる配置プロセスに進みます。

例えば、AVG DataCenter の役割は、ネットワーク内の一部の中央サーバーに配置できます。ネットワークまたはステーションの数が大量な場合は、ProxyServer の役割をネットワーク全体の複数のサーバーに配置すると、負荷分散と適切な帯域使用を達成できます。

また、AVG Admin console (ステーション管理のための中央アプリケーション) は、別のステーションにインストールすることもでき、管理者はステーションをどこからでも管理を行うことができます。

### 2.3. 言語の選択

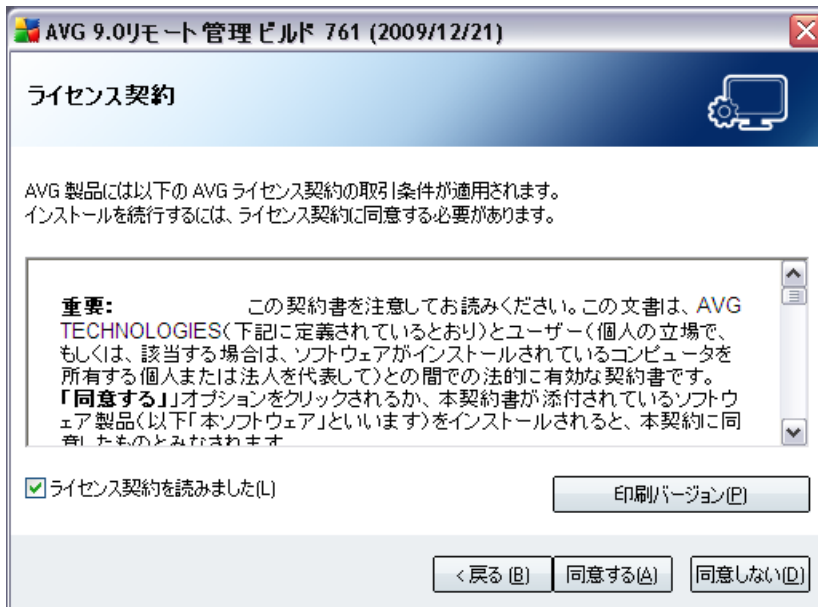
AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition がインストールされているオペレーティングシステムの言語で、ウェルカムダイアログが表示されます。別の言語に切り替えて、[次へ] ボタンを押して選択を確定することができます。



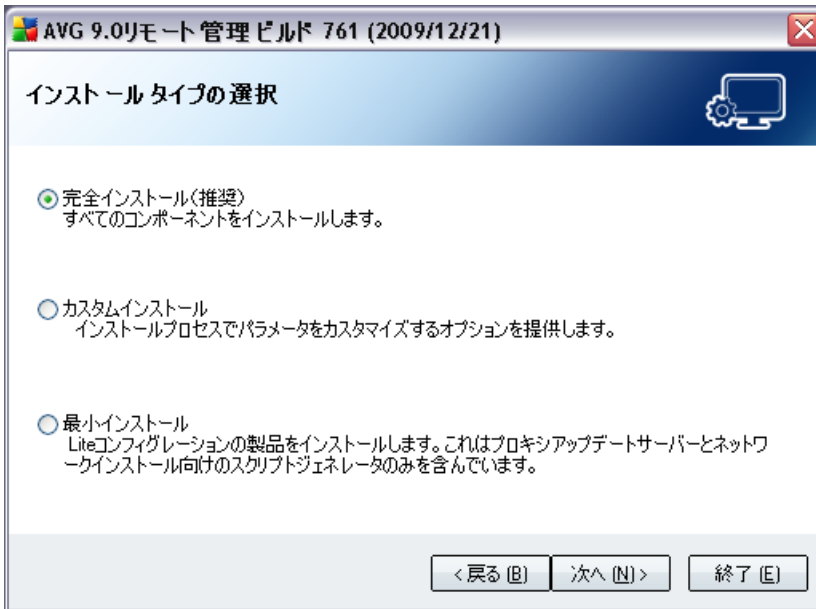
### 2.4. ライセンス契約

このダイアログウィンドウはライセンス契約の全文を表示します。AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionスクロールダウンしてテキストを読むことも、[印刷版] ボタンをクリックして、ライセンス契約全文を印刷するためのオプションが付いた新しいウィンドウ (サイズ変更可能) で表示することもできます。

読み終えたら、[ライセンス契約を読みました] チェックボックスをオンにして、[許諾] ボタンをクリックして先に進みます。許諾しない場合は、[許諾しない] ボタンをクリックして、インストールプロセスを取り消します。



## 2.5. インストールタイプ



このダイアログでは、インストールする Remote Administration のタイプを選択します。次のオプションがあります。

- 完全インストール

こちらが推奨オプションです。すべてのコンポーネントがインストールされます。

- カスタムインストール

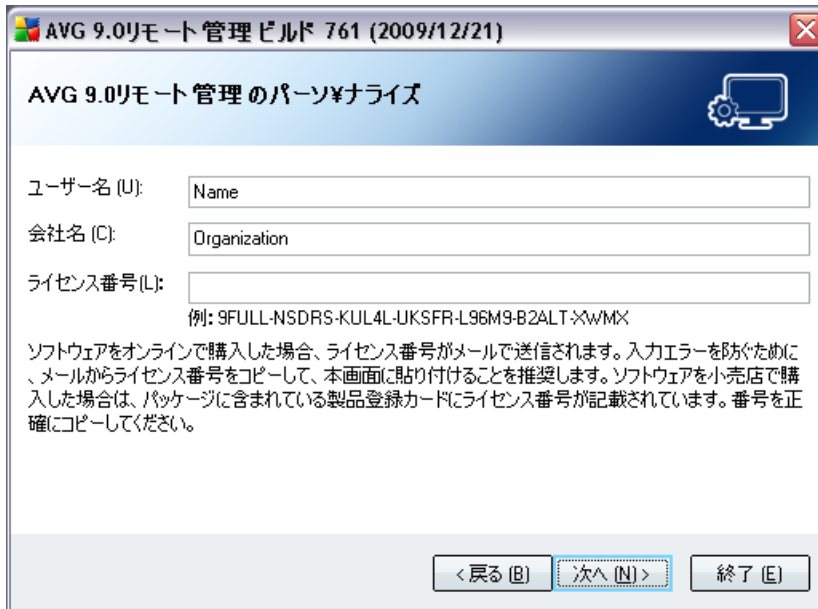
このオプションでは、インストールするコンポーネントを選択することができます。

- Lite インストール

このオプションでは、**UpdateProxy** ロールのみが事前定義された設定を含んだ簡単なウィザードにより、製品がインストールされます。AVG ネットワークインストーラウィザードでは、シンプルなスクリプトの生成のみが可能です。管理用のコンソールはインストールされず、AVG DataCenter も配置されません。

Lite インストールの詳細については、「[AVG Admin Lite](#)」の章を参照してください。

## 2.6. パーソナライズ



ユーザー名 (U):

会社名 (C):

ライセンス番号 (L):

例: 9FULL-NSDRS-KUL4L-UKSFR-L96M9-B2ALT-xwMX

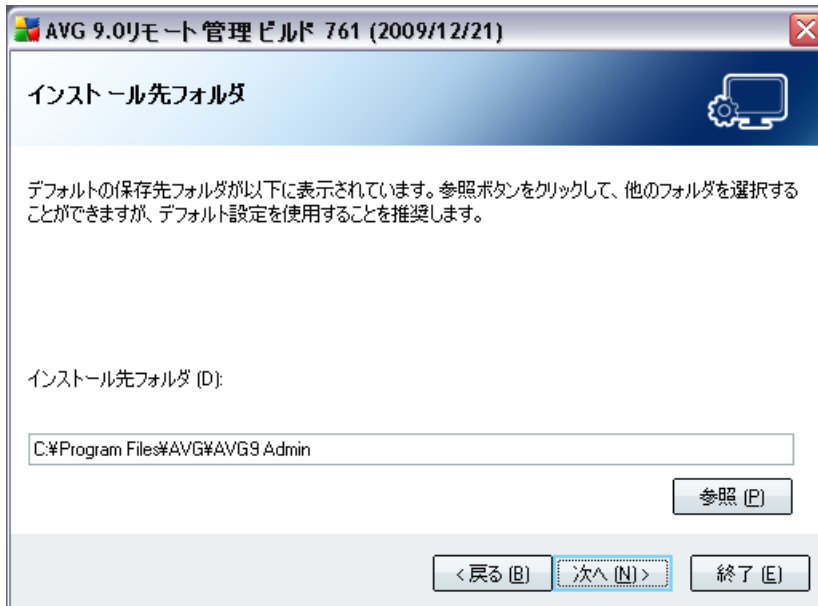
ソフトウェアをオンラインで購入した場合、ライセンス番号がメールで送信されます。入力エラーを防ぐために、メールからライセンス番号をコピーして、本画面に貼り付けることを推奨します。ソフトウェアを小売店で購入した場合は、パッケージに含まれている製品登録カードにライセンス番号が記載されています。番号を正確にコピーしてください。

<戻る (B)   次へ (N) >   終了 (E)

このダイアログには、ユーザー名、会社名（該当する場合）、およびライセンスを入力します。次へボタンをクリックして、操作を続行します。

## 2.7. インストール先フォルダ

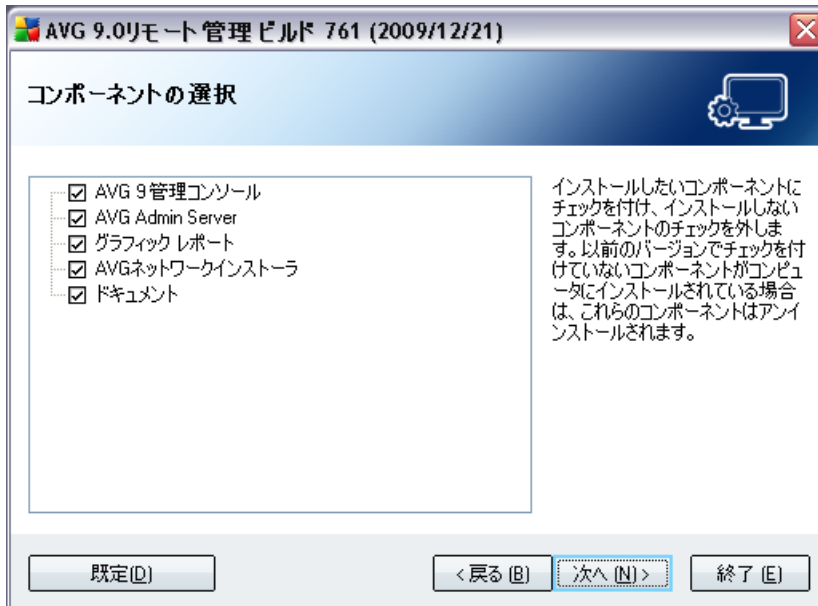
AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionとその内容をインストールするフォルダを指定する必要があります。他のディレクトリを選択する場合、ディレクトリパスを指定するか、[参照] ボタンをクリックしてローカルディスクからディレクトリを選択します。インストールを続行するには、[次へ] ボタンをクリックします。



既定以外のディレクトリを指定した場合で、指定したディレクトリが存在しない場合、別のポップアップダイアログが表示され、新しいディレクトリを作成するかを確認します。ディレクトリの作成を確定するには、[はい] ボタンをクリックします。

## 2.8. コンポーネントの選択

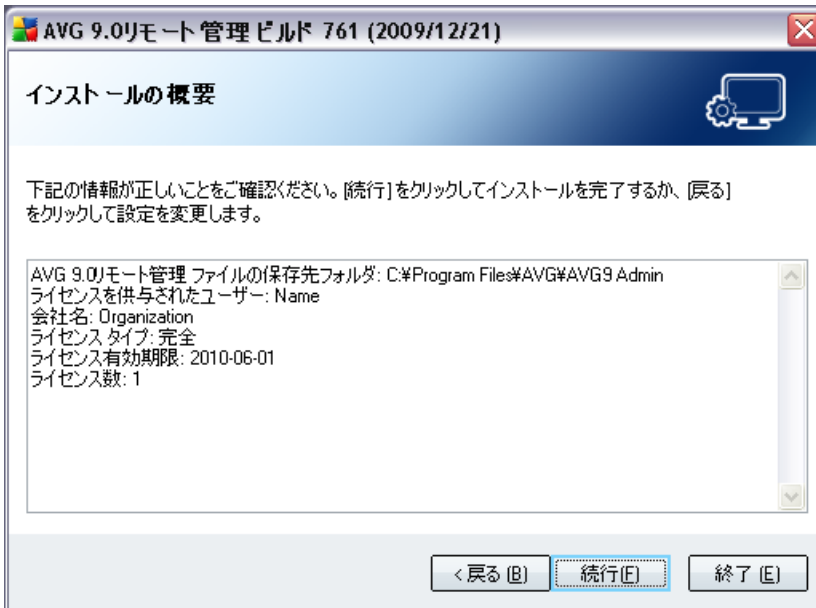
AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionインストールするコンポーネントを選択するように要求する新しいダイアログ画面が表示されます（これはライトインストールオプションには適用されません）。デフォルトでは、すべての主要コンポーネントが選択されています。設定を変更する場合は、対応するチェックボックスをオンまたはオフにします。インストールプロセスを続行するために、[次へ] ボタンをクリックします。。



**注意:** グラフィックレポートを使用する場合は、AVG Admin Serverをインストールしたコンピュータと、AVG Admin consoleをインストールした各コンピュータに、コンポーネントをインストールしてください。グラフィックレポートはAVG Admin Serverにより作成され、AVG Admin consoleより確認できません。

## 2.9. インストールのサマリー

このダイアログは、選択されたすべてのパラメーターのリストを示します。インストールを続行するには、[終了] ボタンを押します。



## 2.10. インストールの完了

AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition およびそのコンポーネントが正常にインストールされたことを確認するインストール完了ダイアログが表示されます。[OK] ボタンを押して、インストールを確定します。

インストールが正常に行われたら、インストールプロセス中に選択した内容に応じて、以下のいずれかのウィザードが自動的に起動します。

- **AVG Admin Deployment Wizard**

[[インストールタイプ](#)] ダイアログで [完全] または [カスタムインストール] を選択した場合は、このウィザードが自動的に開始されます。

詳細については、「[AVG Admin Deployment Wizard](#)」の章を参照してください。

注：AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition を正常に動作させるには、このウィザードを完了する必要があります。



- **AVG Admin Deployment Wizard Lite**

[[インストールタイプ](#)] ダイアログで [Lite インストール] を選択した場合は、このウィザードが開始されます。詳細については、「[AVG Admin Deployment Wizard Lite](#)」の章を参照してください。

注： AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition を正常に動作させるには、このウィザードを完了する必要があります。

注： インストールプロセス中にエラーが発生したり、インストールに失敗したりすると、エラーダイアログが表示されます。この場合には、[ログの保存] ボタンを使用して、インストールプロトコルを保存します。次に、ファイルをテクニカルサポート部門に送信して、分析を依頼します。お問い合わせ先のページ (<http://www.avg.com/support-existing>) をご利用ください。

### 3. AVG 管理配置ウィザード

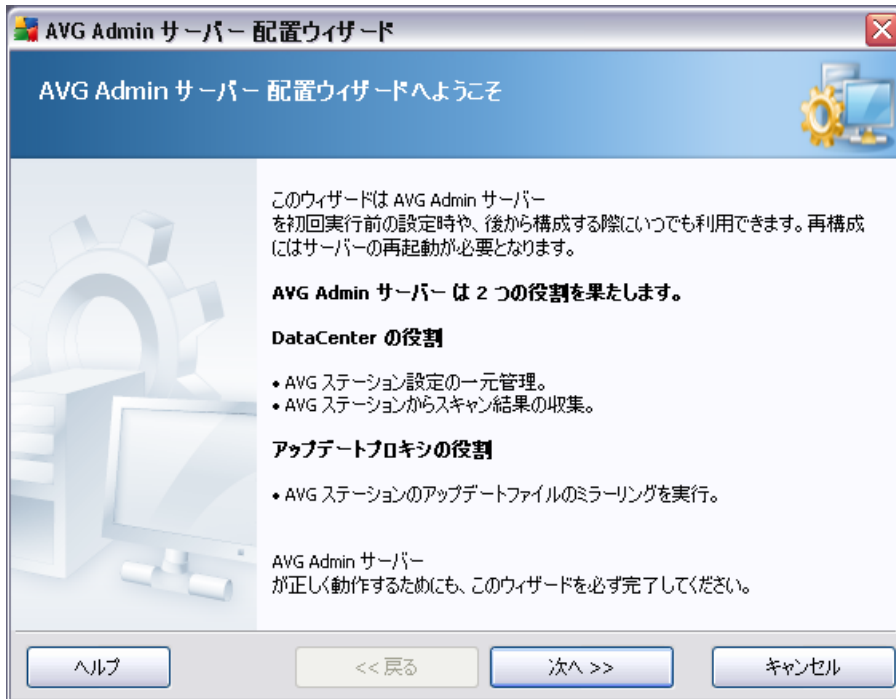
AVG Admin Server 配置ウィザードは、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition のインストールの直後に起動します。また、次のプログラムフォルダからいつでも起動できます。[すべてのプログラム/AVG9.0 遠隔管理/AVG Admin Server 展開ウィザード]。

このウィザードは選択したデータベースエンジン上にある AVG DataCenter データベースのコンフィグレーションプロセスを案内します。このウィザードを使用すると、ローカルネットワークの AVG アップデートを反映するように、AVG Admin Server を設定することもできます。ウィザードは次の概要にリスト表示されている手順で、コンフィグレーションプロセスを案内します。

**注意:** ウィザードのナビゲーションは同じです。

- [戻る] ボタンをクリックすると、ウィザードの前のステップに戻ります。
- [次へ] ボタンをクリックすると、次のステップに進み、現在のステージで選択したすべてのアクションを実行できます。
- [ヘルプ] ボタンを使うと、その手順に関連した総合的な情報を表示します。
- [キャンセル] ボタンをクリックすると、

### 3.1. はじめに



最初のダイアログでは、ウィザードの目的の説明および 2 つの主なオプションに関する簡単な説明が示されます。[次へ] ボタンをクリックして、次のステップに進みます。

*注： AVG Admin Server を正常に稼働させるために、このウィザードを完了することを強くお勧めします。*

### 3.2. 複数の UpdateProxy の役割の配置

サーバーに AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition ロールを配置する前に、次を参考にしてください。

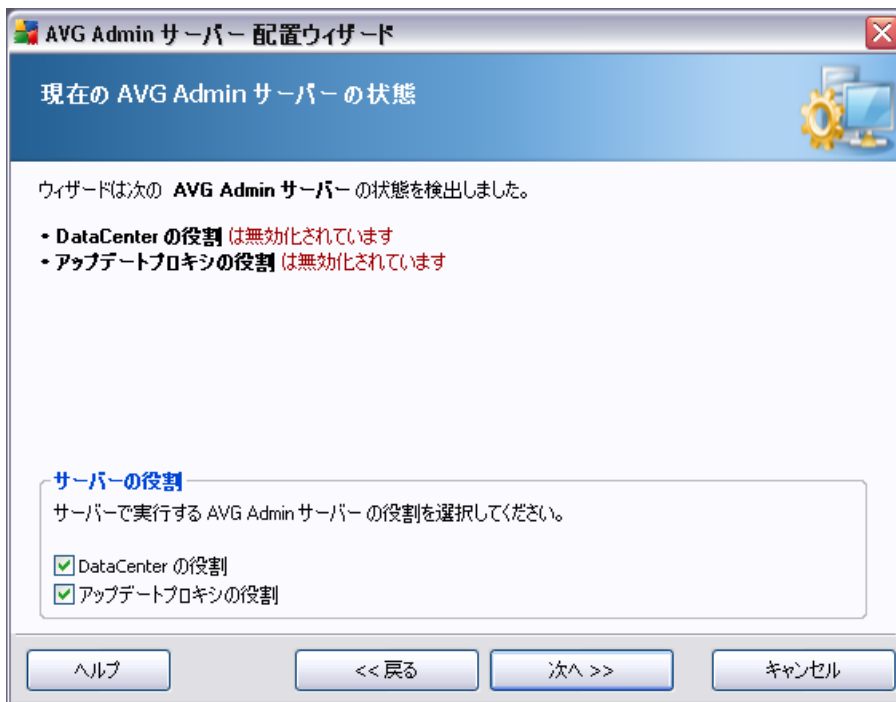
サーバーのオーバーロードや帯域幅の問題を避けるために、UpdateProxy ロールを複数のサーバーに配置し、異なるソースからアップデートを配布できます。

サーバーの割り当ては、ネットワーク規模やサーバーおよびネットワーク仕様によって異なります。一般的には、ネットワークが 150 台のステーションで構成されている場合、あるいはネットワークが異なるロケーションの複数セグメントに分割されている場合は、異なるサーバーに複数の UpdateProxy ロールを配置して負荷を分散させる

ことを検討するようお勧めします。

UpdateProxy ロールを別のサーバーに配置するには、他のサーバーでインストールと配置処理を繰り返す必要があります。

### 3.3. 役割の選択



この画面では、**AVG Admin Server**の現在の状態に関する情報が表示されます。すべてが正常な場合、それぞれの情報は緑色のテキストで表示されます。

これが初回実行ではなく、すべてが正常と思われる場合は（現時点で警告やエラーがないなど）、構成プロセスを（変更の必要がない限り）再度実行する必要はありません。

構成に問題がある場合は、すぐにその理由が表示されます。情報は赤で強調表示されます。そのような場合、ウィザード全体を実行して、問題を修正する必要があります。

[**サーバーの役割**] セクションでは、このサーバーで実行するサーバーロールを選択する必要があります。いずれかのオプションを選択する必要がありますが、両方を選択することもできます。オプションは次のとおりです。

- **DataCenter の役割**

AVG Admin consoleを介した AVG ステーション構成の一元管理を許可し、スキャン結果を AVG ステーションから収集し、コンポーネントの状態を表示します。そのほかにも、さまざまな機能があります。

この役割のみをインストールする場合は、「[DataCenter Role](#)」の章に進んでください。

- **UpdateProxy の役割**

ステーションへのアップデートのダウンロードや配布用のプロキシサーバーとして動作します。

この役割のみをインストールする場合は、「[UpdateProxy role](#)」の章に進んでください。

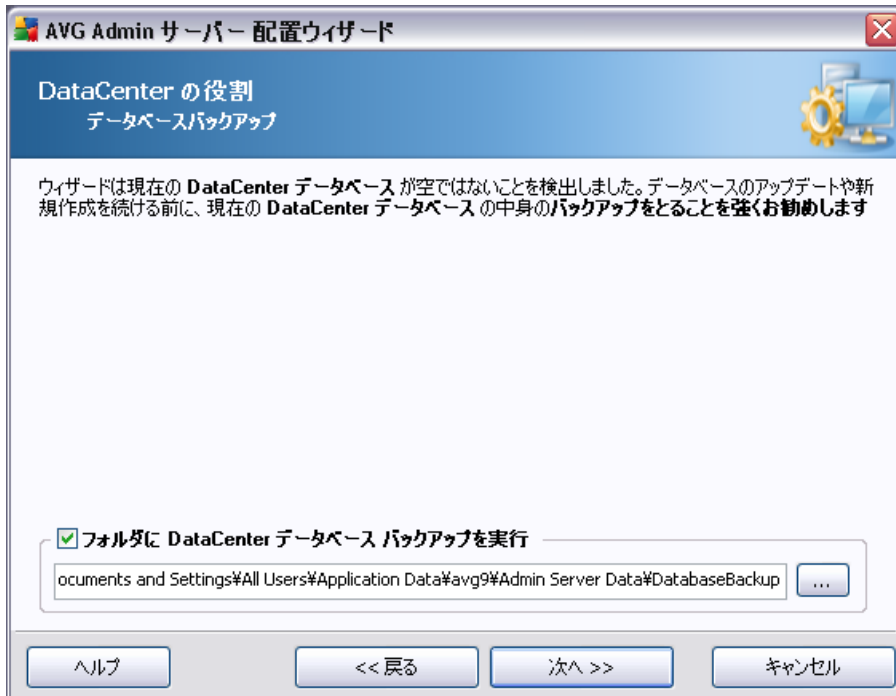
両方のオプションを選択する場合は、「[DataCenter Role](#)」の章に進んでください。

### 3.4. DataCenter の役割

[AVG Admin Serverの現在の状態] ステップ ( [ロール選択](#) の章を参照 ) で、[DataCenter ロール] を選択していた場合、次のダイアログのいずれかが表示されます。

既にステーションが検出されたデータベースが存在する場合、ウィザードではまず現在の内容をバックアップすることをお勧めします。

**注意:** データベースがエラー状態の場合バックアップは利用できません。



実行するには、[DataCenter データベースバックアップをフォルダに実行] チェックボックスをオンにし、保存する場所を入力します。

次のダイアログで DataCenter データベースの状態を通知します。2つの可能性があります。つまり、DataCenter データベースは最新のものか、または期限切れです。データベースが最新の場合、以下の2つのオプションがあります。

- **既存の DataCenter データベースを保持**

このオプションはデータベースをそのままの状態を保持します。データベースのバージョンが最新のもので、その内容を維持する必要がある場合はこのオプションを選択します。

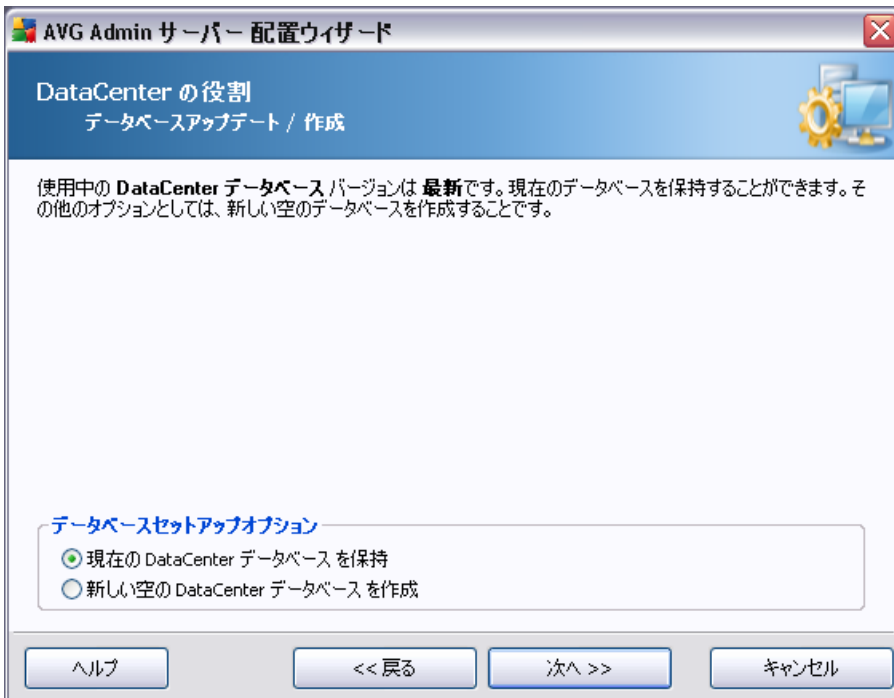
- **新しく空の DataCenter データベースを作成**

完全に新しいデータベースを作成する場合はこのオプションを選択します（これまで保存されていたデータは失われます）。実行する前に、DataCenter データベースをバックアップするを強くお勧めします。

一方で、DataCenter データベースが期限切れの場合は、既存のデータベースをアップデートするか、または新しく作成するかを確認します。

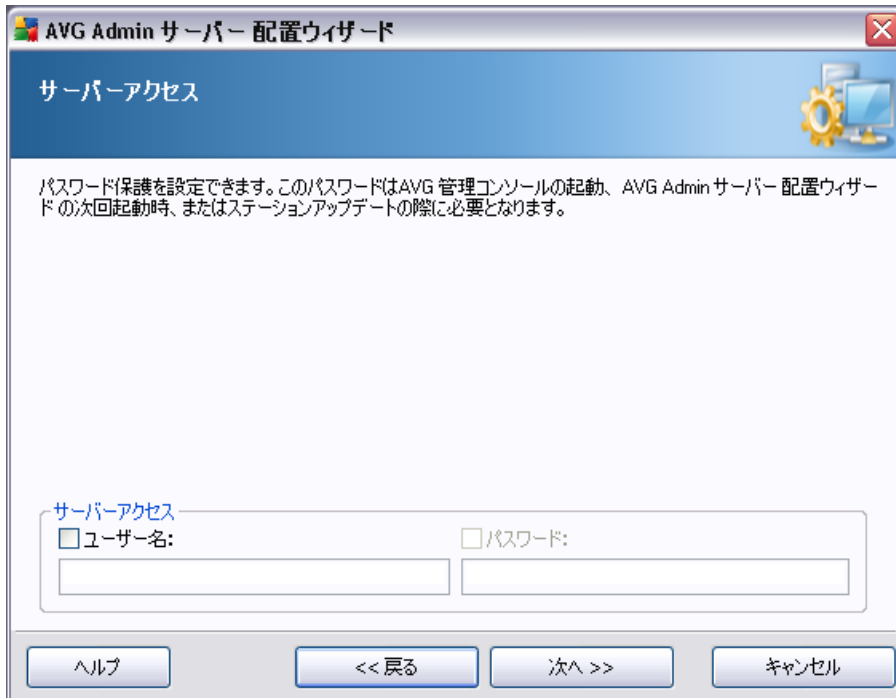
- **現在のデータベースをアップデート**

このオプションはデータベースを現在のバージョンにアップデートします。

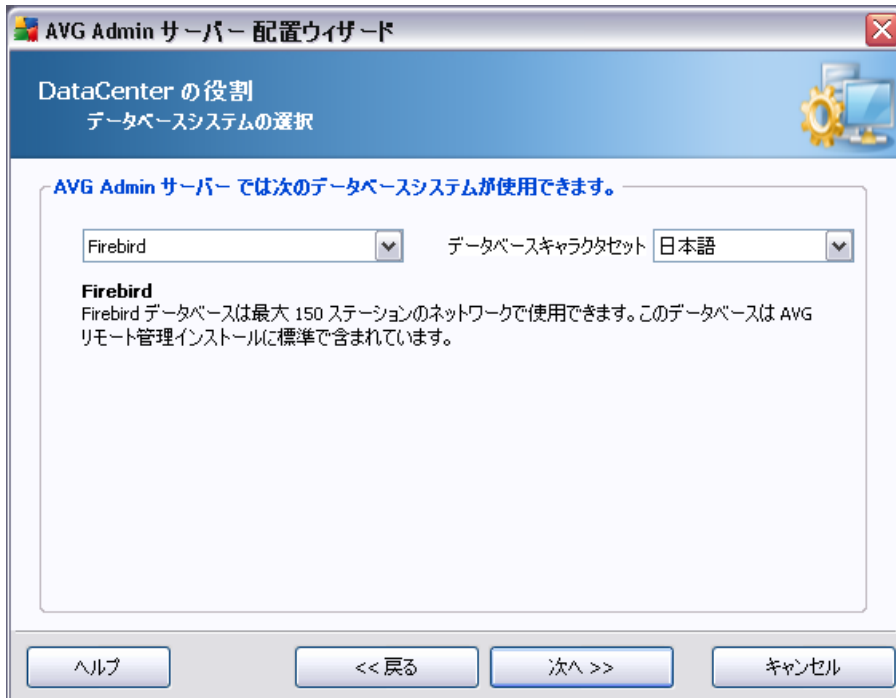


次のステップで、[ユーザー名] と [パスワード] オプションのチェックボックスを選択し、希望のユーザー名とパスワードを入力できます。これらは AVG Admin console や AVG Admin Server Deployment Wizard を起動する際、もしくはステーションアップデートを実行する際に毎回必要となります。

**注意:** ユーザー名とパスワードをここで設定する場合、すべてのステーションが正しく Datacenter に接続するため、ステーションに同じ値を手動で定義する必要があります。



初めて DataCenter を配置している場合や、新しいデータベースを作成する場合は、ここでデータベースエンジンを選択する必要があります。



ニーズに合わせてデータベースシステムを選択します。次のオプションが利用できません。

- **Firebird**

このソリューションは1台から150台までの小規模ネットワークに適しています。このデータベースは、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition標準インストールに含まれます。

さらに、ロールダウンメニューから利用する言語に応じて特定のデータベース文字セットを選択できます。

- **SQL Server Express**

*Microsoft SQL Server Express Editionは Microsoft SQL Server の縮小版で最大 1000 ステーションをサポートできません。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれません。その利用は商業用ライセンスによって制限されていません。*

- **Microsoft SQL Server**

*Microsoft SQL Server エンジンは大規模ネットワークの 1000 以上のステー*



ションをサポートします。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、Microsoft SQL Server のライセンスによって使用が制限されます。

- **Oracle 10g**

このエンジンは大規模ネットワークの1000以上のステーションをサポートします。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、商業版ライセンスによって、使用が制限されます。

- **MySQL 5**

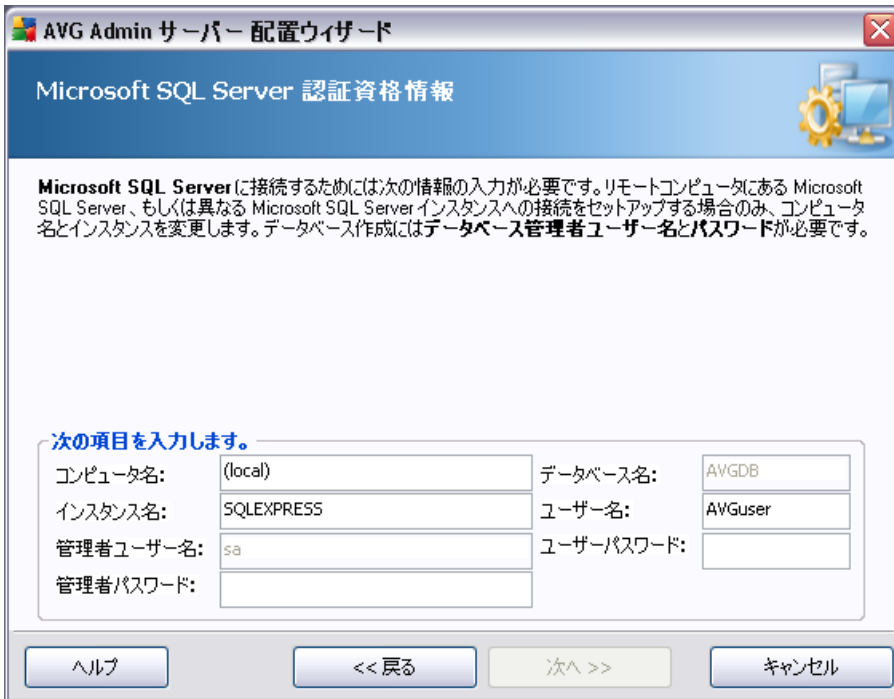
大規模なネットワークにはこのデータベースを使用することをお勧めします ( 1000 ステーション以上 )。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、商業環境での利用には商業版ライセンスが必要になります。

現在使用しているものとは異なるデータベースタイプを選択すると、ウィザードは以前にエクスポートした AVG DataCenter の内容を新しく選択したデータベースタイプにインポートできます。

### 3.4.1. Firebird

**[Firebird]** オプションを選択した場合は、さらに設定を行う必要はなく、[次のステップ \( Data Import \) に進むことができます。](#)

### 3.4.2. MS SQL Server Express Edition



The screenshot shows a window titled "AVG Admin サーバー 配置ウィザード" (AVG Admin Server Configuration Wizard) with a sub-header "Microsoft SQL Server 認証資格情報" (Microsoft SQL Server Authentication Information). The main text explains that information is needed to connect to Microsoft SQL Server. Below this, a section titled "次の項目を入力します。" (Enter the following items) contains a form with the following fields:

コンピュータ名:	(local)	データベース名:	AVGDB
インスタンス名:	SQLEXPRESS	ユーザー名:	AVGuser
管理者ユーザー名:	sa	ユーザーパスワード:	
管理者パスワード:			

At the bottom of the window are buttons for "ヘルプ" (Help), "<< 戻る" (Back), "次へ >>" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

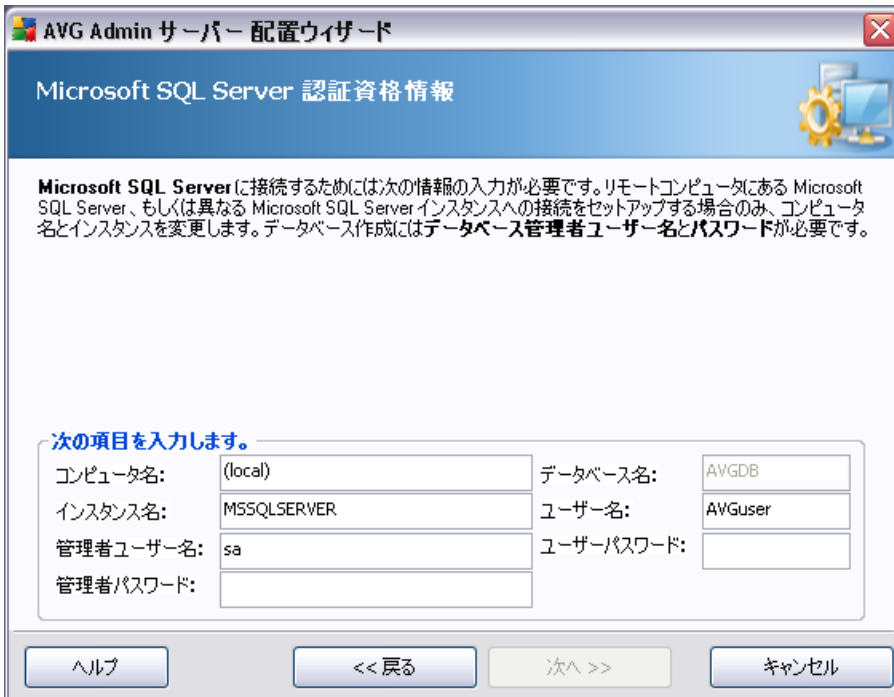
DataCenter の保存用に Microsoft SQL Server Express を使用する場合は、次の情報を入力します。

- **コンピュータ名** - SQL Express Edition をインストールするステーション名を定義します。
- **インスタンス名** - ステーションに複数のインスタンスがインストールされている場合に特定の SQL Express Edition インストールを示します。
- **管理者のユーザー名** - 自動的に事前定義されるので、変更の必要はありません。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワード
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。
- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します (AVG Admin Server接続で利用されます)。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい希望するパスワードを入力しま

す ( AVG Admin Server接続で利用されます ) 。

[次へ] ボタンを押して、次の手順「[Data Import](#)」に進みます。

### 3.4.3. MS SQL Server



The screenshot shows a window titled "AVG Admin サーバー 配置ウィザード" (AVG Admin Server Configuration Wizard) with a sub-header "Microsoft SQL Server 認証資格情報" (Microsoft SQL Server Authentication Information). The main text explains that information is required for connecting to a Microsoft SQL Server, either locally or on a remote computer. Below this, a section titled "次の項目を入力します。" (Enter the following items) contains a form with the following fields:

コンピュータ名:	(local)	データベース名:	AVGDB
インスタンス名:	MSSQLSERVER	ユーザー名:	AVGuser
管理者ユーザー名:	sa	ユーザーパスワード:	
管理者パスワード:			

At the bottom of the form are four buttons: "ヘルプ" (Help), "<< 戻る" (Back), "次へ >>" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

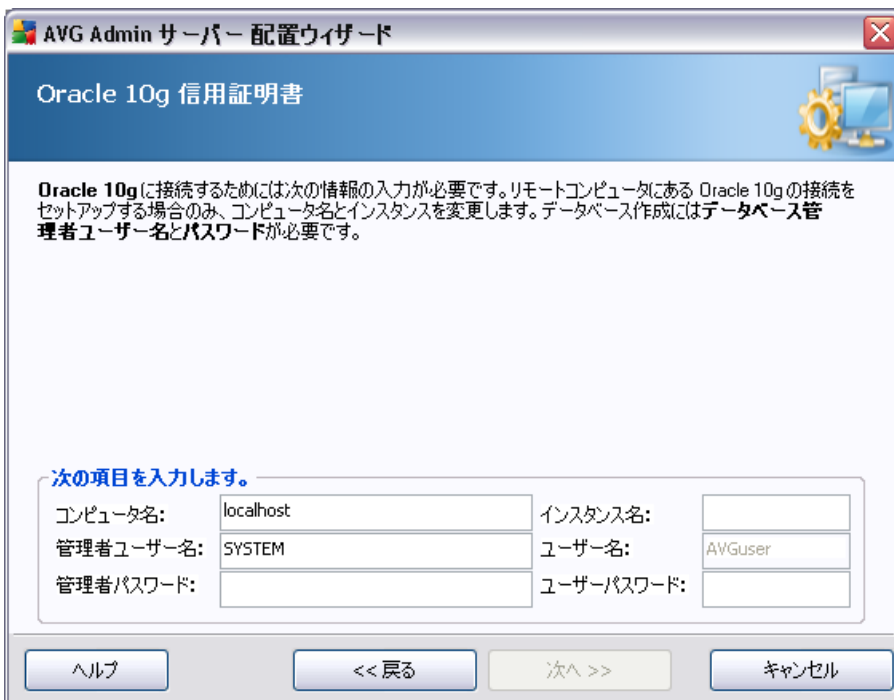
以下の情報を入力します。

- **コンピュータ名** - SQL Server 2000/2005 がインストールされているサーバー名を定義します。
- **インスタンス名** - ステーションに複数のインスタンスがインストールされている場合は、特定の SQL Server 2000/2005 インストールを参照します。
- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。

- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します ( AVG Admin Server接続で利用されます )。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい希望するパスワードを入力します ( AVG Admin Server接続で利用されます )。

[次へ] ボタンを押して、次の手順「[Data Import](#)」に進みます。

### 3.4.4. Oracle



Oracle 10g 信用証明書

Oracle 10gに接続するためには次の情報の入力が必要です。リモートコンピュータにある Oracle 10gの接続をセットアップする場合のみ、コンピュータ名とインスタンスを変更します。データベース作成にはデータベース管理者ユーザー名とパスワードが必要です。

次の項目を入力します。

コンピュータ名:	localhost	インスタンス名:	
管理者ユーザー名:	SYSTEM	ユーザー名:	AVGuser
管理者パスワード:		ユーザーパスワード:	

ヘルプ      << 戻る      次へ >>      キャンセル

**注意：** データベースを別のコンピュータで実行している場合は、最初に、Oracle データベースのクライアント部分をそのコンピュータにインストールする必要があります。Windows Vista へのインストールには Oracle 11g のクライアントを使用することをお勧めします。

各種オペレーティングシステム用の Instant Client : <http://www.oracle.com/technology/software/tech/oci/instantclient/index.html>

以下の情報を入力します。

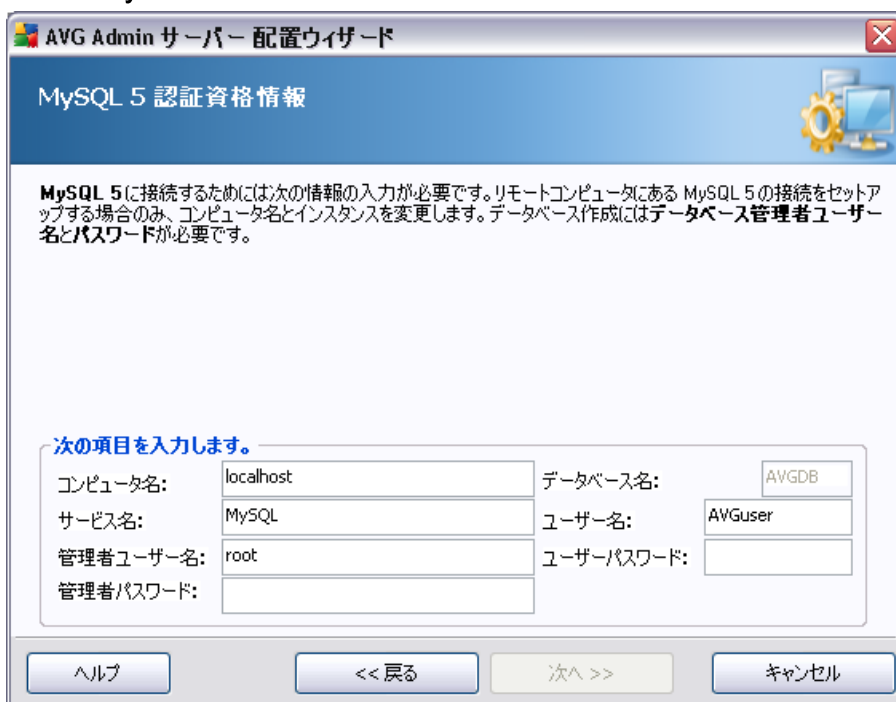
- **コンピュータ名** - Oracle 10g がインストールされているサーバー名を定義します。リモートコンピュータにインストールされている場合にも、値を変更しま

す。

- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **インスタンス名** - ご使用の Oracle のインスタンス名を入力します。
- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します ( AVG Admin Server接続で利用されます )。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい希望するパスワードを入力します ( AVG Admin Server接続で利用されます )。

[次へ] ボタンを押して、次の手順「[Data Import](#)」に進みます。

### 3.4.5. MySQL 5



The screenshot shows a window titled "AVG Admin サーバー 配置ウィザード" (AVG Admin Server Configuration Wizard) with a sub-header "MySQL 5 認証資格情報" (MySQL 5 Authentication Information). The main text explains that MySQL 5 connection requires the following information: computer name, service name, administrator user name, administrator password, database name, user name, and user password. Below this, a form titled "次の項目を入力します。" (Enter the following items) contains the following fields:

コンピュータ名:	localhost	データベース名:	AVGDB
サービス名:	MySQL	ユーザー名:	AVGuser
管理者ユーザー名:	root	ユーザーパスワード:	
管理者パスワード:			

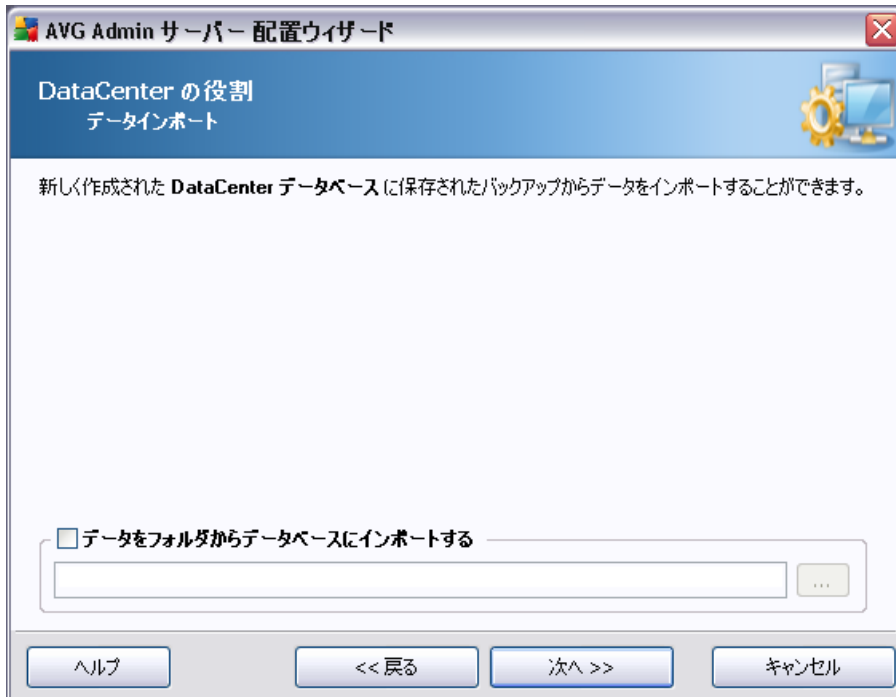
At the bottom of the window, there are four buttons: "ヘルプ" (Help), "<< 戻る" (Back), "次へ >>" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

以下の情報を入力します。

- **コンピュータ名** - MySQL 5 がインストールされているサーバー名を定義します。リモートコンピュータにインストールされている場合にのみ、値を変更します。
- **サービス名** - MySQL エンジン用の既定のオペレーティングシステムサービス名。初期値を保持することをお勧めします。
- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。
- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します (AVG Admin Server接続で利用されます)。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい希望するパスワードを入力します (AVG Admin Server接続で利用されます)。

[次へ] ボタンを押して、次の手順「[Data Import](#)」に進みます。

### 3.4.6. データインポート



データベースの選択を確定後、既存のデータを新しく作成したデータベースにインポートすることもできます。実行するには、[データをフォルダからデータベースにインポート] ボックスにチェックを付けます。フォルダの選択フィールドが利用できるようになります。この  ボタンをクリックしバックアップフォルダを選択し、インポート用のオリジナルファイルが保存されているフォルダを見つけます。

現在、前の 8.5 バージョンからアップグレード中の場合は、このダイアログで AVG DataCenter 8.5 データをインポートできます。詳細は、[ステーションと設定を AVG DataCenter 8.5 からインポート](#) の章をご覧ください。

[次へ] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。

**注意:** AVG Admin Serverは既定で自動データベースバックアップを次のフォルダに作成します。

C:\Documents and settings\All users\Application Data\AVG9\Admin Server  
Data\AutoDatabaseBackup

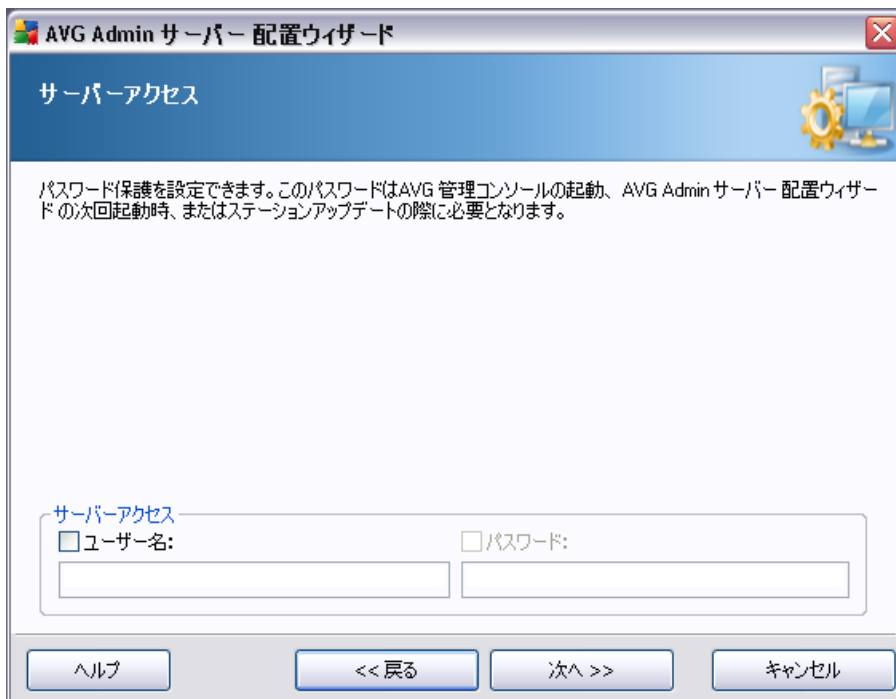
以前に AVG リモート管理を使用し、そのときのデータベースバックアップを使用する場合は、バックアップ機能をオフにしていない限り、この場所にバックアップファイ

ルがあります。フォルダは違いがわかりやすいように、年-月-年 時間の形式で名前がつけられています。

### 3.4.7. サーバーアクセス

このステップで、[ユーザー名] と [パスワード] オプションのチェックボックスを選択し、希望のユーザー名とパスワードを入力できます。これらは AVG Admin console や AVG Admin Server Deployment Wizard を起動する際、もしくはステーションアップデートを実行する際に毎回必要となります。

**注意:** ユーザー名とパスワードをここで設定する場合、すべてのステーションが正しく Datacenter に接続するため、ステーションに同じ値を手動で定義する必要があります。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "AVG Admin サーバー 配置ウィザード" (AVG Admin Server Configuration Wizard). The current step is "サーバーアクセス" (Server Access). The dialog contains the following text: "パスワード保護を設定できます。このパスワードはAVG 管理コンソールの起動、AVG Admin サーバー 配置ウィザードの次回起動時、またはステーションアップデートの際に必要となります。" (You can set password protection. This password is required for starting the AVG management console, the next time you start the AVG Admin Server Configuration Wizard, or during a station update.) Below this text are two checkboxes: "サーバーアクセス" (Server Access), "ユーザー名:" (Username:), and "パスワード:" (Password:). Each checkbox is followed by an empty text input field. At the bottom of the dialog are four buttons: "ヘルプ" (Help), "<< 戻る" (Back), "次へ >>" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

### 3.5. UpdateProxy の役割

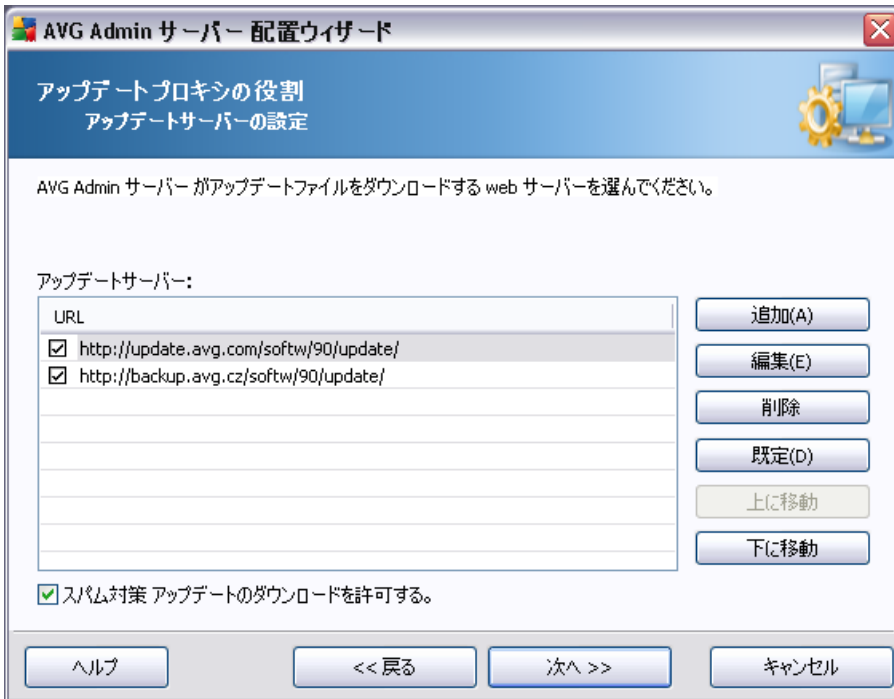
[[役割の選択](#)] ダイアログで、Update Proxy の役割を配置することを選択した場合、このダイアログが表示されます。



アップデートファイルをダウンロードして格納するためのフォルダを選択する必要があります。フォルダが存在しない場合、作成するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

この [ ... ] ボタンをクリックして、フォルダを選択します。完了したら、[次へ] ボタンをクリックして、操作を続行します。

### 3.5.1. アップデートサーバー



このダイアログでは、アップデートサーバを選択します。このサーバから、アップデートファイルが AVG Admin Serverによってダウンロードされます（さらに配信するため）。これらの設定で不明な点がある場合は、デフォルトの構成を使用することをお勧めします。

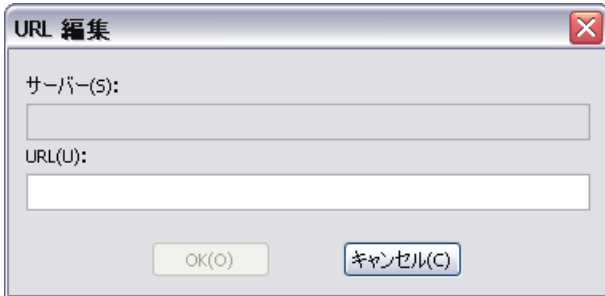
何らかの理由により、スパム対策アップデートをダウンロードしたくない場合は、[**スパム対策アップデートのダウンロードを許可する**] アイテムをオフにします。

*注：このチェックボックスは、スパム対策アップデートが Mailshell サーバから直接ダウンロードされることを意味します。*

スパム対策アップデートの詳細については、「[Configuration/Shared Settings for Stations/Groups/Anti-Spam](#)」の章を参照してください。

これらのサーバのいずれかを変更する必要がある場合は、次のオプションを使用します。

追加のアップデートサーバを定義する場合は、[追加] ボタンを押します。



完全なサーバーアドレスを [**URL**] フィールドに入力します。http:// 接頭語と、80 以外の場合は、ポート番号も含めます。

次のボタンも使用できます。

**編集** - 選択したサーバーのアドレスを変更します。

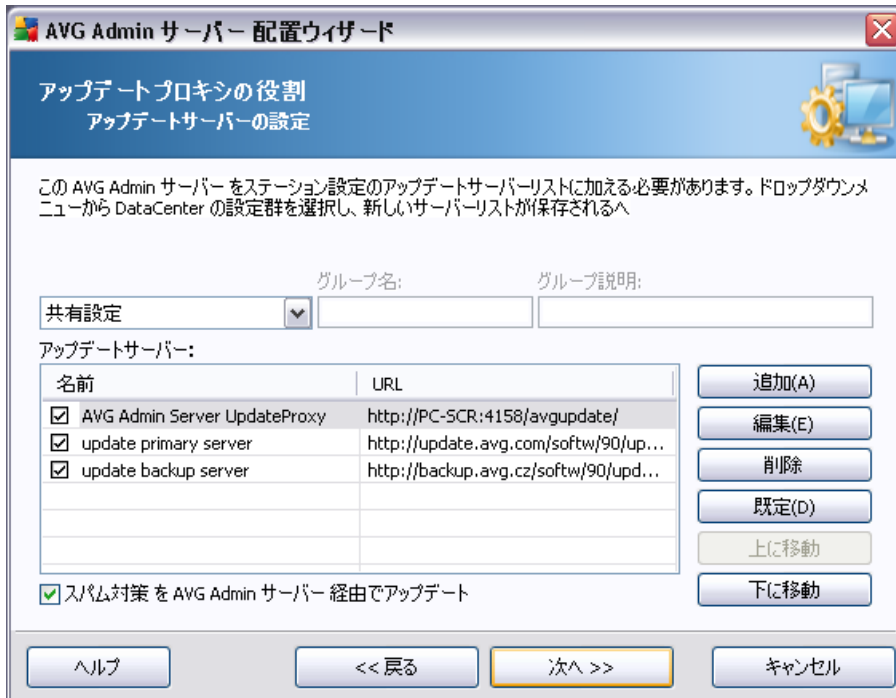
**削除** - 選択したサーバーのアドレスを削除します。

サーバーは優先度順にリストされています。最初のサーバーは必ず最優先のサーバーであり、まずこのサーバーからダウンロードされます。順序を変更する必要がある場合は、次のボタンを押して変更します。

**上に移動** - 選択したサーバーを上に移動します。

**下に移動** - 選択したサーバーを下に移動します。

完了したら、[次へ] ボタンをクリックして、操作を続行します。



このダイアログでは、現在配置されている AVG Admin Server URL を、ステーション設定に適用されるアップデートサーバーのリストに追加するためのオプションがあります。

ドロップダウンメニューから、以下のいずれかを選択します。

- **DC への書き込み禁止** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL は、DataCenter 設定に書き込まれなくなります。
- **アプリケーションサーバー** - 現在配置されている AVG Admin Server URL は、アプリケーションサーバーのグループ設定に保存されます。
- **共有設定** - 現在配置されている AVG Admin Server URL は、ステーションの共有設定に保存されます。
- **新しいグループ...** - 現在配置されている AVG Admin Server URL は新しいグループに保存されます。このオプションを選択する場合は、グループ名を選択する必要があります、任意で説明も入力します。
- **新しいステーション** - 現在配置されている AVG Admin Server URL は、新しいステーションのグループ設定に保存されます。

注：ドロップダウンメニューからは1つのみのオプションを使用できます。アップデートサーバーのリストは、ユーザーの選択内容に従ってアップデートされます。

アップデートサーバーのリストでは、上述の一連の設定のために維持するサーバーをオンにします。以前のダイアログと同じ機能ボタンを使用します。

AVG Admin Serverを介してスパム対策データベースを直接アップデートするには、[スパム対策をAVG Admin Serverを介してアップデートする] アイテムをオンにします。

注：このチェックボックスを使用するには、**AVG Admin Server UpdateProxy** をリストの最初に移動します。それには、[上に移動] ボタンを使用します。

スパム対策アップデートの詳細については、「[Configuration/Shared Settings for Stations/Groups/Anti-Spam](#)」の章を参照してください。

### 3.6. 構成の概要



このダイアログにはこれまでに選択された設定の概要が含まれています。[配置] ボタンをクリックして、選択を確定してください。配置プロセスが開始します。この処理には時間がかかる場合があります。お待ちください。



プロセスが完了したら、[完了] ボタンをクリックしてウィザードを終了します。AVG Admin Serverが開始されます。

すぐにリモートステーションへのAVGのインストールを開始する場合は、[AVG ネットワークインストールウィザードの章](#)で詳細を参照してください。

**関連トピック:**

- [AVG ネットワークインストールウィザード基本モード](#)
- [AVG ネットワークインストールウィザード高度モード](#)
- [ステーションを AVG DataCenter へ接続](#)
- [ステーションを別の AVG DataCenter 間で移動する](#)

また、一般的な [...の方法](#) の章も参照ください。AVG 遠隔管理に関する他の操作について説明されています。

## 4. AVG ネットワークインストーラウィザード基本モード

AVG ネットワークインストーラウィザードは AVG をステーションにリモートインストールし、オンサイトインストール用のインストールスクリプトを作成します。

ウィザードは 2 つの方法で起動できます。

- [Windows スタートメニュー/すべてのプログラム/AVG9.0 リモート管理/AVG ネットワークインストーラウィザード] から起動します。
- AVG Admin console 環境の上部メニューの [ツール/ステーションに AVG をインストール...] から起動します。

ウィザードは基本モードまたは高度モードで実行できます。ウィザードの最初に [[高度モード](#)] オプションを選択することができます。オプションが選択されなかった場合、プログラムは基本モード (一般ユーザー向け) で実行されます。

この章では簡単な方法での設定やインストールを希望するユーザー向けの基本モードについて説明します。インストールには、AVG 正常かつ包括的な機能に必要な AVG 情報とパラメータが含まれます。

### 4.1. Windows XP Home でのリモートインストール

このオペレーティングシステム上でのインストール処理は、Windows 2000/2003/XP/Professional OS で実行されているステーションでのインストールと同じです。ただし、この古いオペレーティングシステムの制限により、AVG エージェントサービス

したがって、Windows XP Home オペレーティングシステムのすべてのステーションで AVG を起動する前には、手動で AVG エージェントサービスをインストールするか、ログインスクリプトを使用する必要があります。

このトピックの詳細については、「[Windows XP Home Remote Installation](#)」の章を参照してください。

### 4.2. コンポーネントでの推奨設定

AVG をステーションにインストールする前に、個々のコンポーネントに関する次の推奨設定を確認してください。

**注意:** AVG ネットワークインストーラウィザードの基本モードでは、インストール時に個々のコンポーネントを選択できません。カスタムコンポーネントを選択するには、ウィザードの高度モードを使用する必要があります。詳細については、「[AVG ネットワークインストーラウィザード高度モード](#)」の章を参照してください。

次の AVG コンポーネントは通常のワークステーションでの使用に限定されています。

- **AVG ファイアウォール**
- **AVG ウェブシールド**
- **AVG パーソナルメールスキャナ**

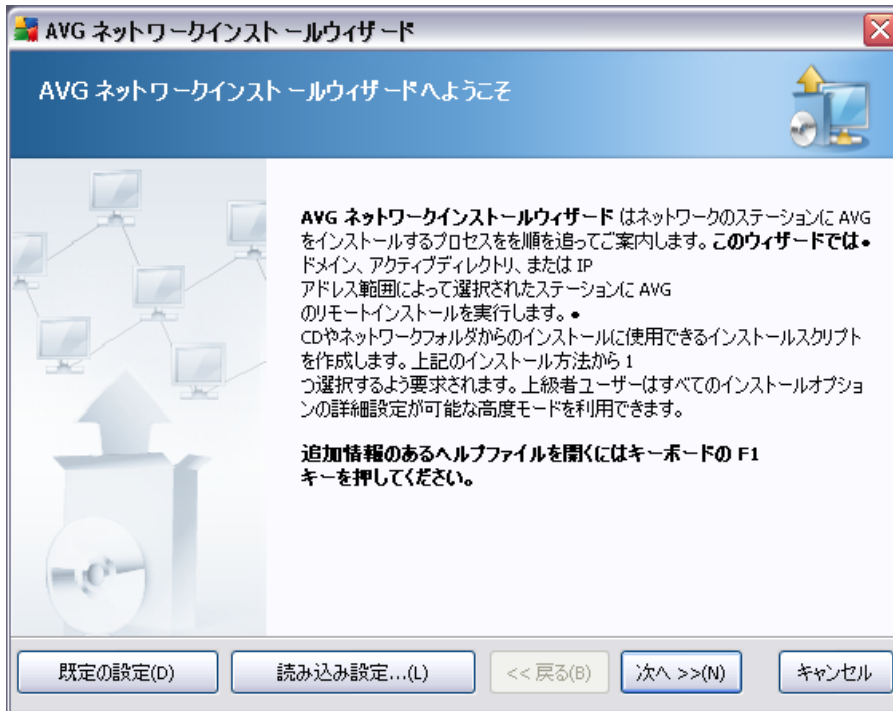
上記のコンポーネントではサーバー負荷テストが行われていません。サーバーオペレーティングシステム (ISA、プロキシ、電子メールサーバー、ターミナルサーバーなど) にインストールすると、コンポーネントでサーバー通信の障害が発生するおそれがあります。この問題を回避するために、サーバーオペレーティングシステムに前述のコンポーネントをインストールしないことをお勧めします。

- **AVG Link Scanner**

このコンポーネントで使用する特殊なドライバを正常に更新するには、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。したがって、このコンポーネントをサーバー環境にインストールすることは推奨されません。

**注意:** 一部のサーバーオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータ (Windows Server 2000、2003 など) で、サーバー機能を有効にせずに、標準ワークステーションとして使用する場合には、この制限は適用されません。

### 4.3. ようこそ



すでに AVG ネットワークインストーラウィザードを使用し、カスタマイズされた構成を構成ファイル（最終ステップで入手可能）に保存してある場合は、[設定をロード] ボタンを選択して、すぐに設定をロードできます。

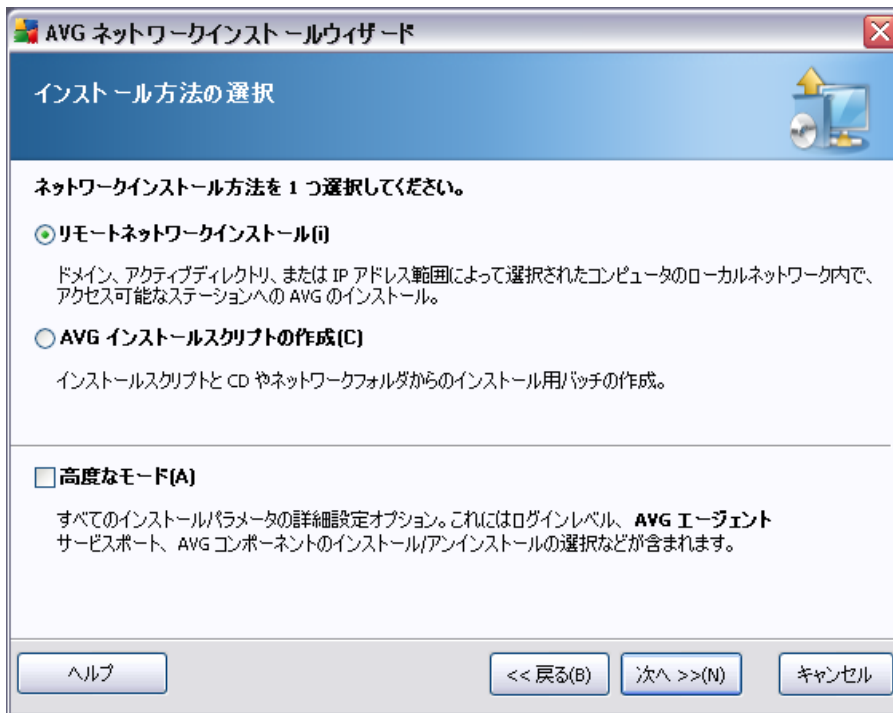
デフォルトで事前設定されていた元の設定に戻るには、[デフォルト設定] ボタンを押します。

インストールプロセス全体の間、F2 キーまたは CTRL+S を押すと、構成の進捗状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、そのダイアログで構成ファイル名を選択することができます。

操作を続けるには、[次へ] ボタンをクリックします。

#### 4.4. インストール方法

基本モードで続行するには、[詳細モード] オプションを選択しないでください。それ以外の場合は、「[Advanced Mode](#)」の章に進んでください。



ダイアログウィンドウには、インストールスクリプトを作成し使用するための 2 つのオプションのいずれかを選択できます。

- [リモートネットワークインストール](#)

このオプションを使用すると、ローカルネットワークで利用できるステーション (IP 範囲やインポートされたリストに基づいて、ドメイン、Active Directory から選択されたコンピュータ) に AVG をインストールできます。

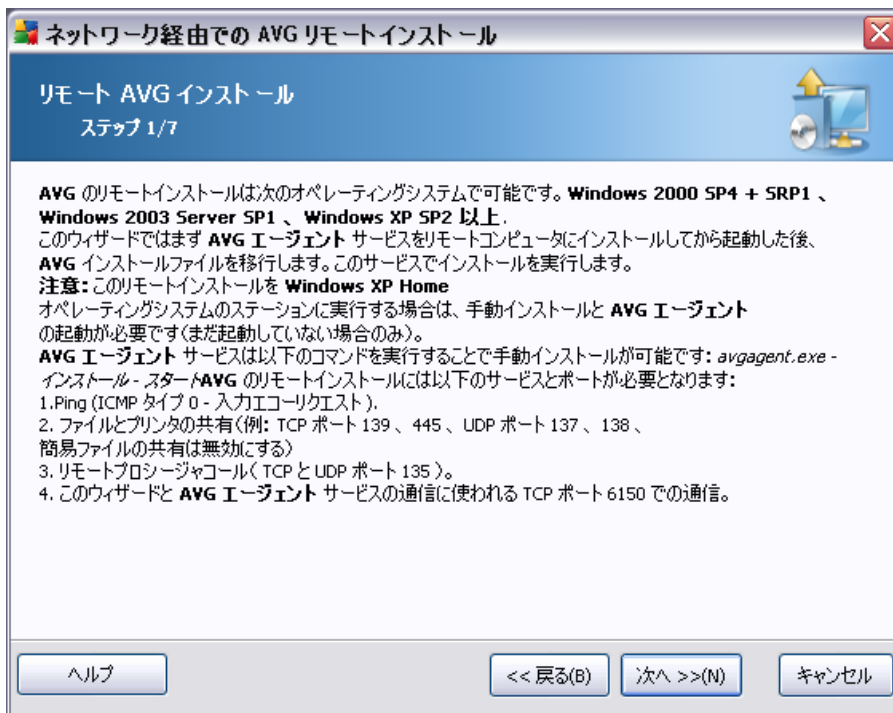
以前の AVG DataCenter からステーションを削除 (および新しいものに移動) する場合にもこのオプションを使用できます。

- [AVG インストールスクリプトの作成](#)

このオプションを使用すると、ローカルインストール用またはリムーバブルメディア/ネットワークフォルダからのインストール用のインストールスクリプト

とバッチファイルを作成できます。

#### 4.5. リモートネットワークインストール

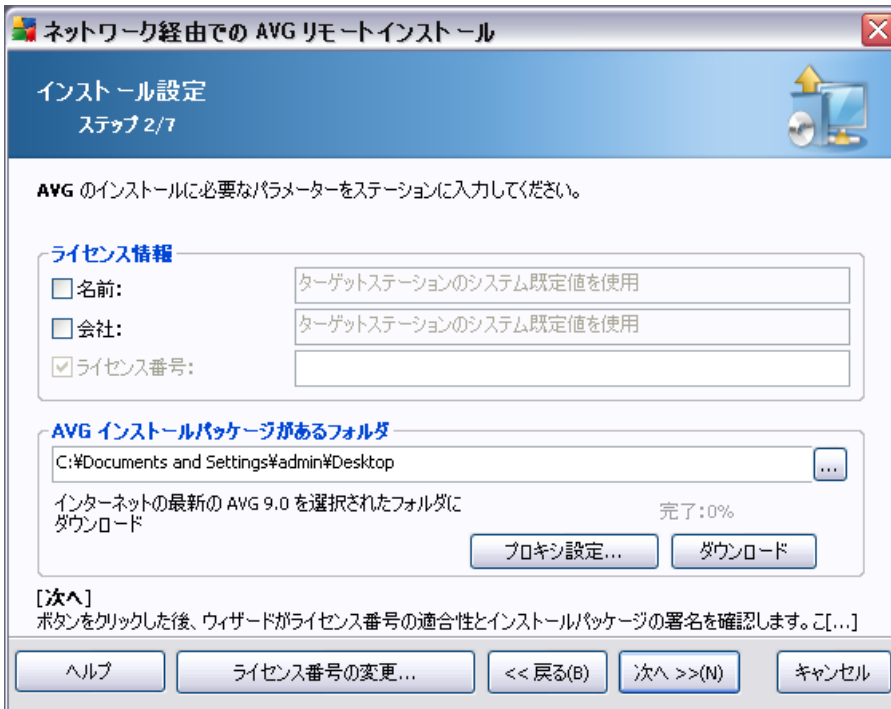


AVG正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上に エージェントサービスをインストールして起動します。その後、AVG インストールファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。

処理を進める前に、リモートインストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。AVG

ポート設定の詳細については、「[Network Requirements](#)」の章を参照してください。

リモートインストールは、Windows XP Home のステーションでは自動的に有効になりません。詳細については、「[Windows XP Home Remote Installation](#)」の章を参照してください。



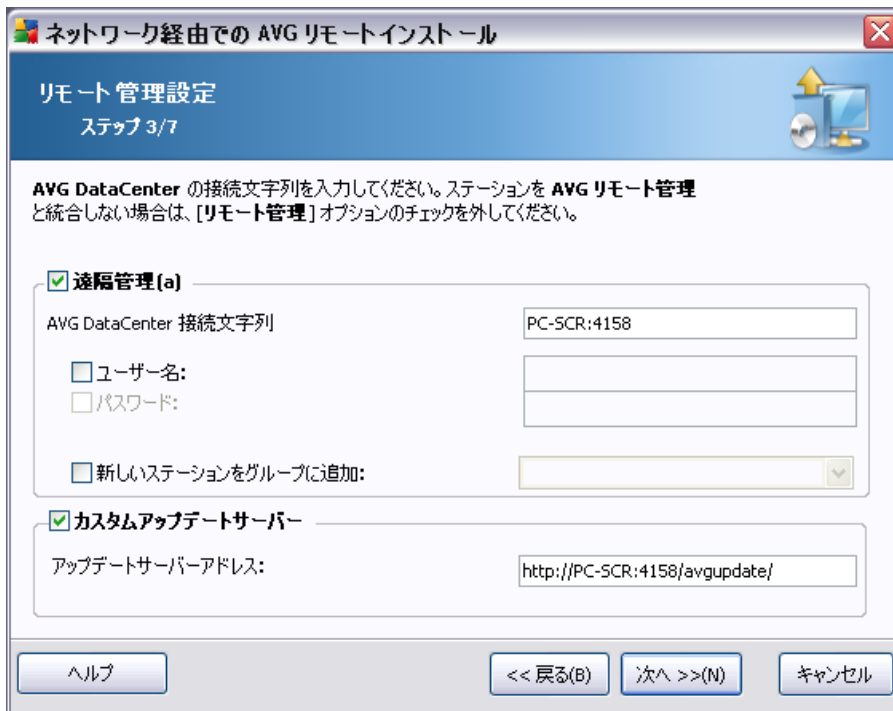
この手順の間に、次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当のチェックボックスを選択しないで、デフォルトシステム設定が使用されるようにします。
- AVG インストールパッケージのあるフォルダ** - インストールパッケージへの完全パスを入力するか、AVGこの [...] ボタンを使用して適切なフォルダを選択します。

まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックし、ウィザードを使用して、選択したフォルダにインストールファイルをダウンロードします。[ダウンロード] ボタンの上に、ダウンロードの進捗状況が表示されます。

- プロキシ設定ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、[プロキシ設定] ボタンをクリックすると、プロキシサーバーの詳細を入力できます。
- ライセンス番号の変更** - このボタンを使用して、ローカルステーションにイン

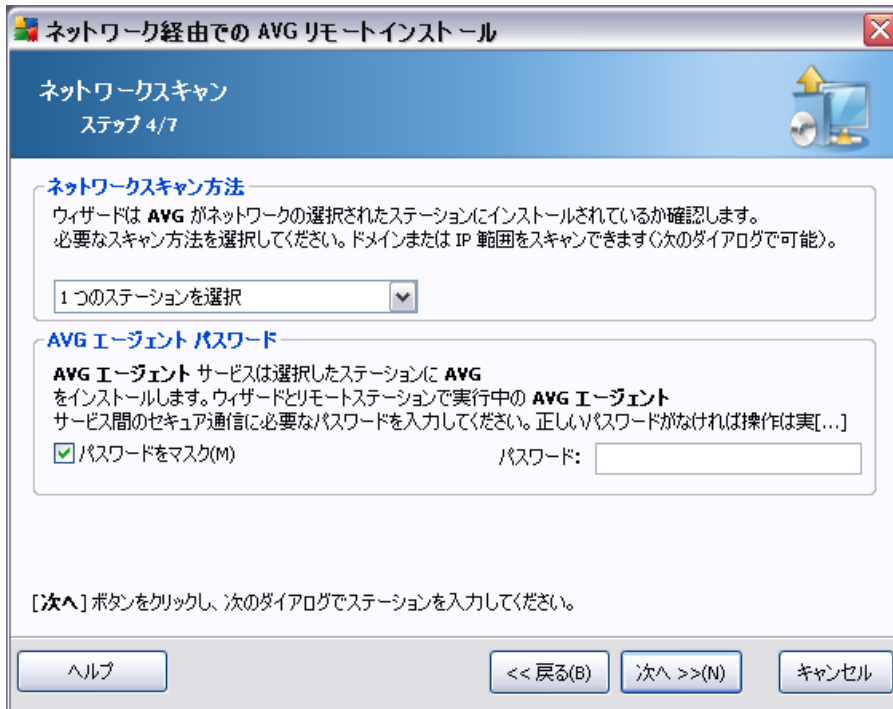
ストールされた AVG Remote Administration に適用する新しいライセンス番号を入力します。



次のオプションはこのステップで利用できます。

**注：** これらの設定について不明な点がある場合は、デフォルト設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。該当する場合は、ユーザー名とパスワードも入力します。ステーションを AVG Admin console で管理しない場合は、このオプションをオフにしてください。
- **新しいステーションをグループに追加** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップデートサーバー** - ステーションで使用したい既存のアップデートサーバーがある場合は、このチェックボックスをオンにして、アドレスを入力してください。



ウィザードはまず一部のステーションをスキャンして、ステータスを確認してから、AVGをインストールする必要があります。

[ネットワークのスキャン方法] セクションで、ドロップダウンリストから、ステーションを選択する方法を選びます。オプションは次のとおりです。

- **ドメインのすべてのステーション** - ローカルドメインで利用できるすべてのステーションがスキャンされます。
- **IP 範囲を入力** - このオプションでは、特定の範囲の IP アドレスを選択できません。
- **ファイルからステーションをインポート** - 新しいダイアログが表示され、スキャンするステーションのリストを選択できます。例えば、このようなリストを古いバージョンの AVG 遠隔管理 (7.5) から作成できますが、ソーステキストファイルの各行にはステーション名または IP アドレスが 1 つ記述されているため、自分でファイルを作成することもできます。
- **1つのステーションを選択** - 特定のコンピュータ名 (DNS 名) または IP アドレスを入力します。
- **Active Directory から選択** - Active Directory から直接、特定のステーションを

選択できます。

[AVG エージェントのパスワード] セクションには、[パスワード] フィールドがあり、ここにパスワードを任意で入力して、ウィザードとリモートステーション上の AVG エージェント サービスとの通信を保護することができます。このフィールドを設定した場合、パスワードを入力しないと、ウィザードを使用してリモートステーション上で操作できなくなります。パスワードは AVG エージェント サービスにのみ関連付けられており、その他のリモートステーション設定には影響しません。

[パスワードをマスク] チェックボックス - このオプションを選択すると、パスワードがコンピュータのモニタに表示されるのを防ぐことができます。

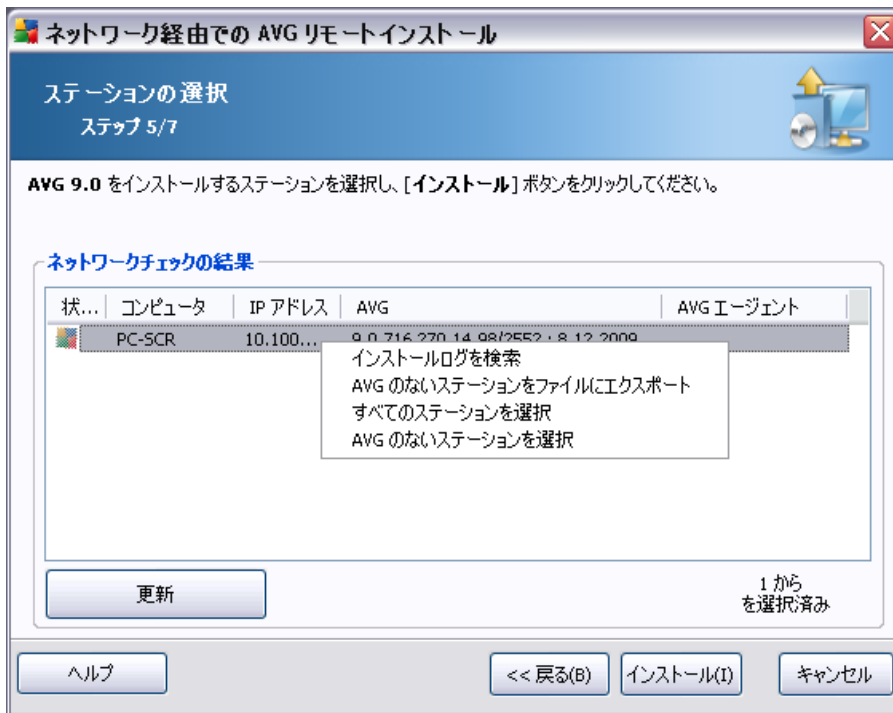
注：ステーション上のインストールプロセスは非表示になっています。つまり、ログインしているユーザーはインストールの進行に介入することはできません。

警告：AVG リモートインストールは、サポートされているオペレーティングシステムがインストールされているステーションでのみ実行されます。「[サポートされているオペレーティングシステム](#)」章のサポートされているオペレーティングシステムの完全なリストを参照してください。また、管理者権限のあるログインユーザー名が必要です。MS Windows XP Home を稼働しているステーションでは、AVG インストールを手動で実行するか、ログインスクリプトと AVG エージェント サービスを使用する必要があります (詳細については、「[Remote Installation on Windows XP Home](#)」の章を参照)。

また、場合によっては、「[Network Requirements](#)」の章も参照する必要があります。

#### 4.5.1. ドメインのすべてのステーション

AVG をドメインからリモートですべてのコンピュータにインストールする場合、ドメインで利用可能なステーションのリストを含む次のダイアログが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- **[インストールログを取得]**

注: インストールが正常に行われると、AVG エージェントは削除されるので、インストールログは取得できません。AVG

- **[AVG のないステーションをファイルにエクスポート]** - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG のないステーションを選択** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

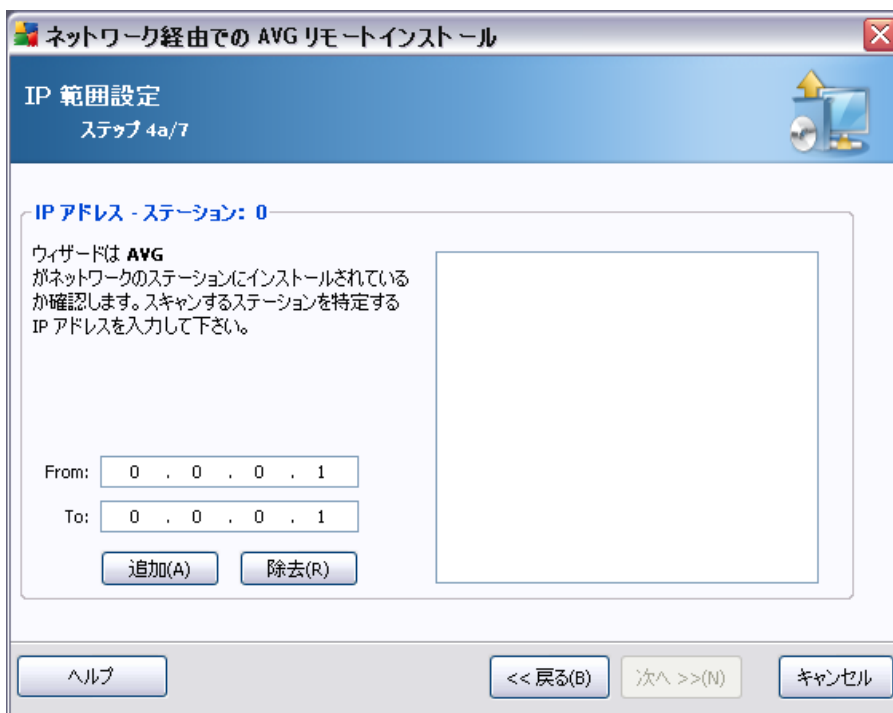
[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーション

の状態をリロードします。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 4.5.2. IP 範囲を入力

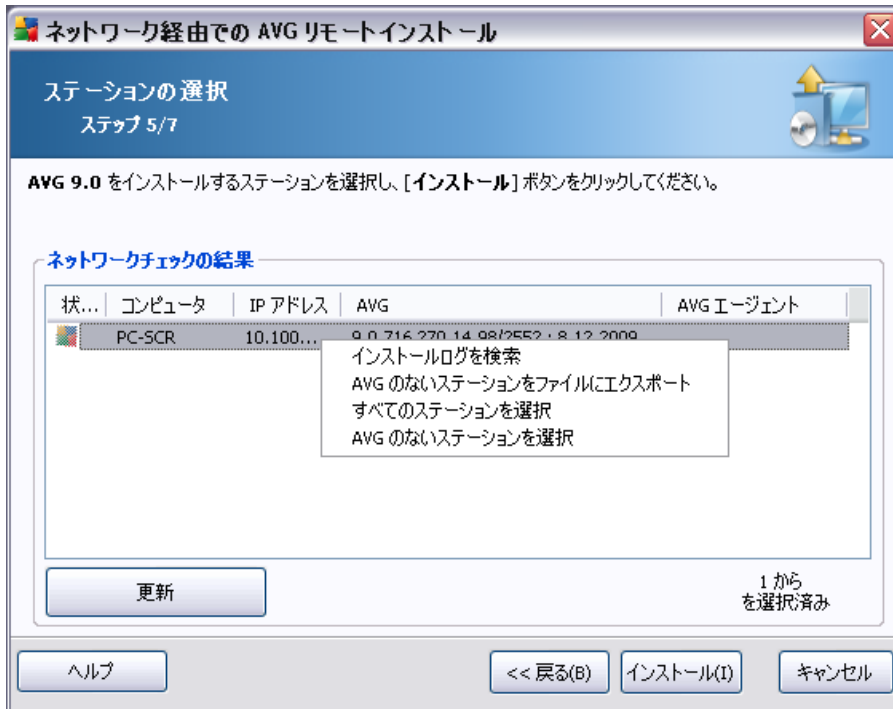
AVG を IP 範囲に従ってリモートにインストールする場合は、以下のダイアログが表示されます。



ここで IP アドレスを入力してスキャン範囲を指定する必要があります。[From] フィールドには開始 IP アドレスを、[To] フィールドには終了 IP アドレスを入力します。リストに IP アドレス範囲を追加するには [追加] ボタンをクリックします。

リストから範囲を削除するには、削除するアイテムを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

IP 範囲の選択が終了したら、[次へ] ボタンをクリックして次へ進んでください。完了したら、[ステーション選択] 画面が表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- **[インストールログを取得]**

注: インストールが正常に行われると、AVG エージェントは削除されるので、インストールログは取得できません。AVG

- **[AVG のないステーションをファイルにエクスポート]** - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG のないステーションを選択** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

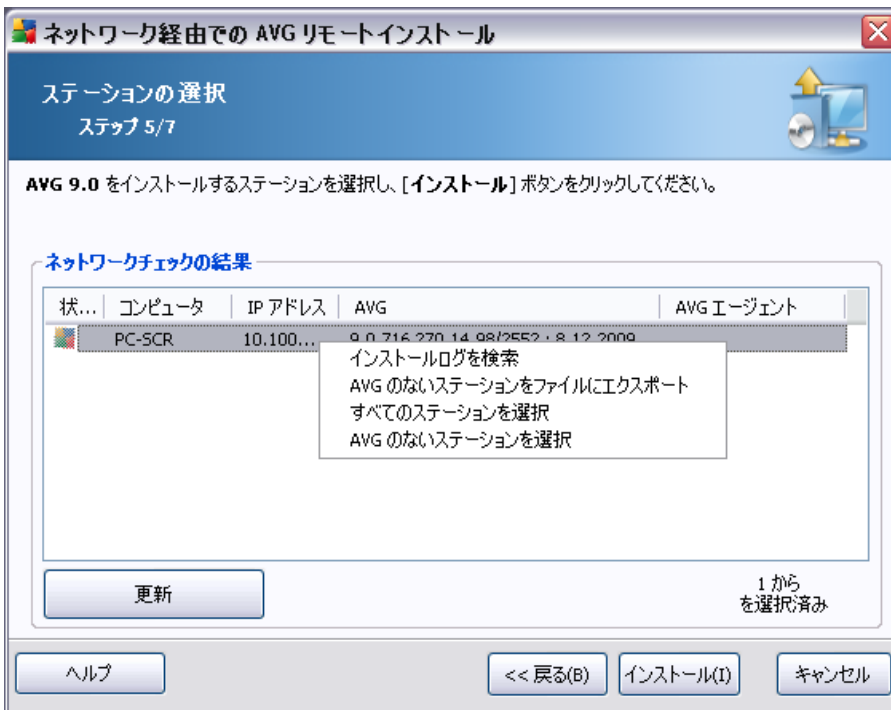
[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

### 4.5.3. ファイルからのステーションのインポート

注：このオプションは通常、ステーションを別の AVG DataCenter に移行する場合に使用します。このトピックの詳細については、「[Migrate Stations from/to Different DataCenter](#)」の章を参照してください。

ファイルから選択したステーションに、AVG をリモートにインストールする場合は、ファイルを参照するためのダイアログが表示されます。ファイルを参照して、選択を確認します。ソースファイル形式には、シンプルなテキスト形式で行ごとに 1 つのステーション名が含まれています。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストールログを取得]

注：インストールが正常に行われると、AVG エージェントは削除されるので、インストールログは取得できません。AVG

- [AVG のないステーションをファイルにエクスポート] - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。

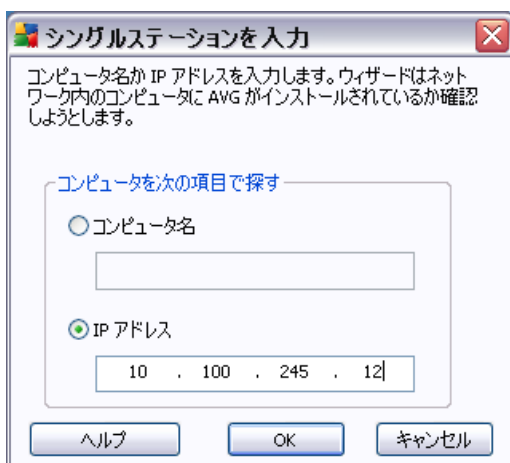
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVGのないステーションを選択** - AVGがまだインストールされていないか、AVGを検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

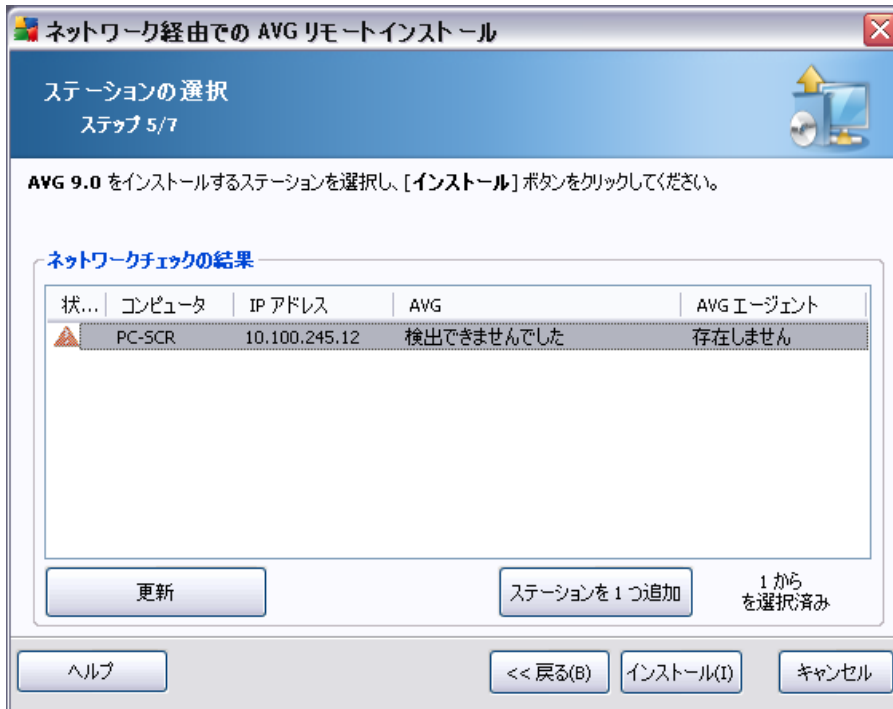
[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 4.5.4. 1つのステーションを選択

AVGをリモートで1つのステーションにインストールする場合は、次のダイアログが表示されます。



[コンピュータ名] または [IP アドレス] フィールドのいずれかをクリックして、適切な名前または IP アドレスを入力してください。) [OK] ボタンをクリックして、**選択内容を確認します**。AVG インストール用に選択したステーションのチェックプロセスが開始されます。完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- **[インストールログを取得]**  
 注: インストールが正常に行われると、AVG エージェントは削除されるので、インストールログは取得できません。AVG
- **[AVG のないステーションをファイルにエクスポート]** - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG のないステーションを選択** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

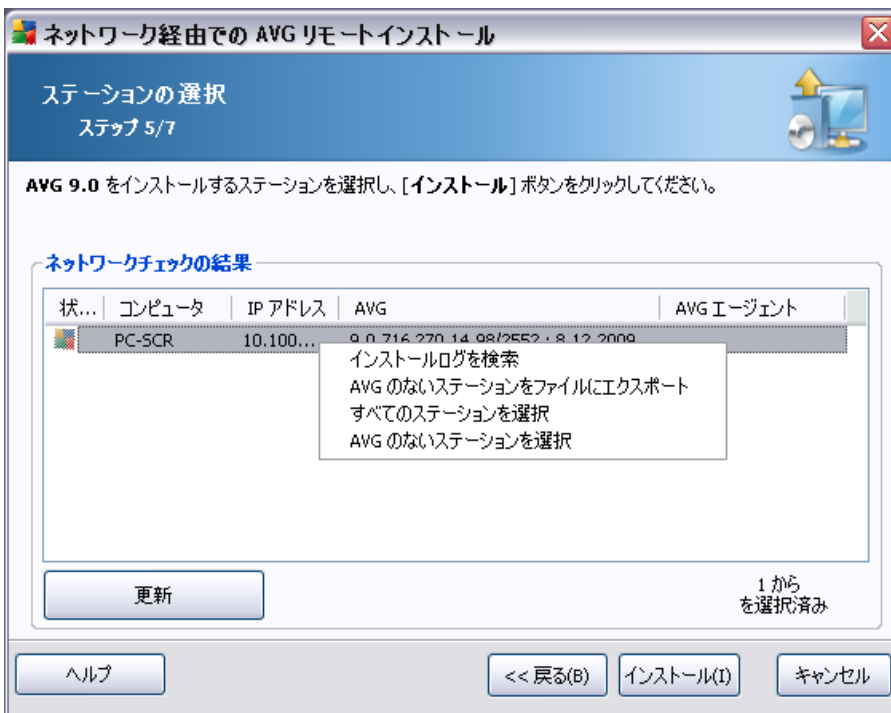
[更新] は、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。[ステーションを1つ追加] では、別のステーションを1つ追加できます。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 4.5.5. Active Directory から選択

ネットワークがドメインベースの場合は、Active Directory で選択したステーションに、AVG をリモートでインストールすることができます。新しいダイアログが表示されます（ステーションを選択するための標準的な Windows ダイアログ）。ステーション名を手動で入力するか、または検索用のダイアログ詳細機能を使用して、複数のステーションを選択できます（セミコロンで値を区切ってください）。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストールログを取得]
 

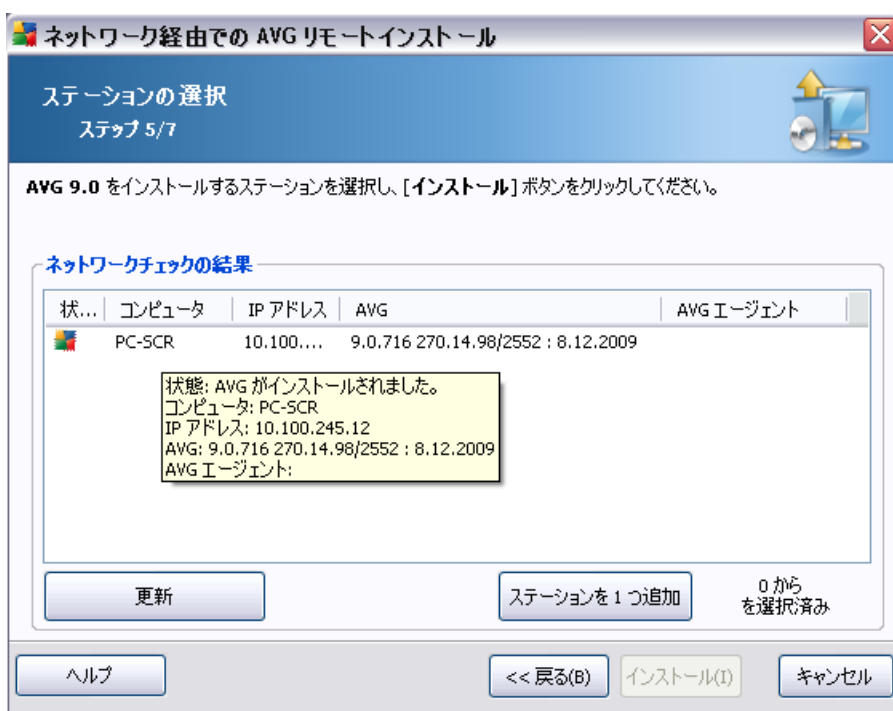
注: インストールが正常に行われると、AVG エージェントは削除されるので、インストールログは取得できません。AVG
- [AVG のないステーションをファイルにエクスポート] - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- すべてのステーションを選択 - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。

- **AVGのないステーションを選択** - AVGがまだインストールされていないか、AVGを検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 4.6. リモートネットワークインストール - 最終ステップ

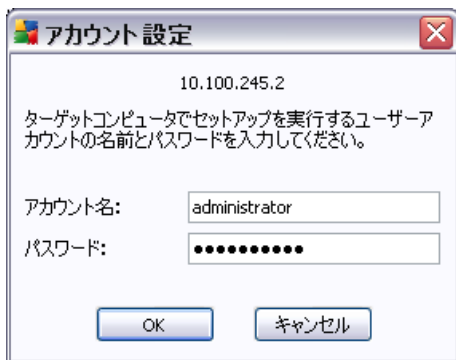


また、リスト内のステーションをポイントしたときに、数秒間、「ツールチップ」というものを表示できます。ツールチップには、ステーションの状態およびその他の詳細が表示されます。

処理を進める準備ができたら、対象のステーションを選択し、[インストール] ボタンをクリックして、リモートインストールを開始します。

リストから一部のステーションだけを選択した場合は、AVGインストールはこれらのステーションのみで実行されます。それ以外の場合は、リストされているすべてのステーションでインストールが実行されます。

アクセス権が不十分で、リモートステーション上で AVG エージェントサービスをインストールできない場合は、インストール中にドメイン管理者のログイン/パスワードを要求されます。



管理者権限付きのユーザー名を ( 管理者のグループのメンバーであるユーザー名 ) 入力します。[OK] をクリックして変更を確定します。

すべてのステーションで共通の管理者アカウントがない場合は ( 同じログイン名とパスワード )、各ステーションで情報を個別に入力するように求められます。

[キャンセル] ボタンを押すと、現在のステーションのインストールがスキップされて、ウィザードはリスト内の次のステーションでインストールを続行します。

AVG は、ステーションに転送され、インストールされます。インストールが正常に行われると、各行にインストールの成功が表示されます ( ただし、処理にはしばらく時間がかかる場合があります )。

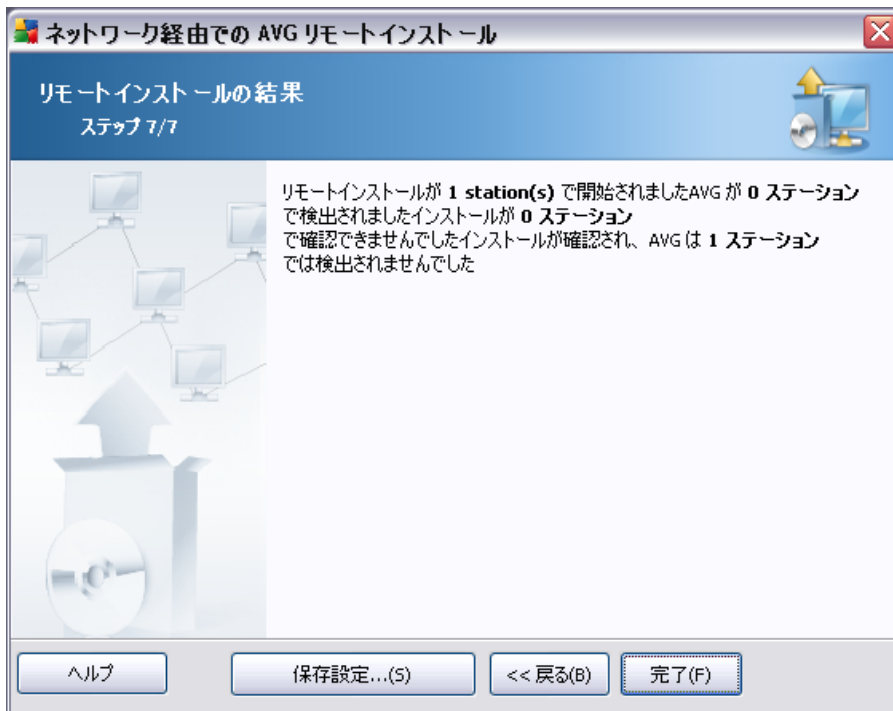
すべてのステーションがインストールファイルを受信し、インストール処理が完了した時点で、[次へ] ボタンをクリックしてこのダイアログを終了できます。

**注：** [ステーション/新規ステーション] または [リモート管理設定] ダイアログの間に選択したグループのいずれかの **AVG Admin console** で、最近インストールされたステーションを後で表示できます。

不正な状態にある ( リモートインストール失敗のため ) 最近インストールしたステーションをリスト表示するには、[ステーション/非準拠ステーション] に移動します。

また、Windows XP SP2/Windows 7/Vista 以上で Windows ファイアウォールを有効にすると、AVG エージェントがインストールされた後で、自動的に通信ルールが作成され、ルールの実行およびネットワーク通信が許可されます。

最後のダイアログには、ステーション上のアクティビティの短い概要が示されます。



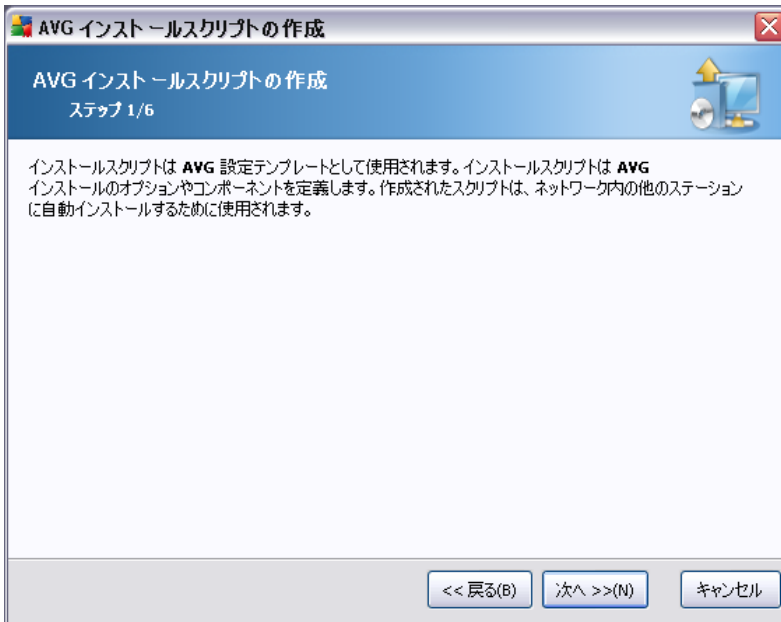
[**設定を保存**] ボタンを使用すると、以前選択した構成を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その構成を再使用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

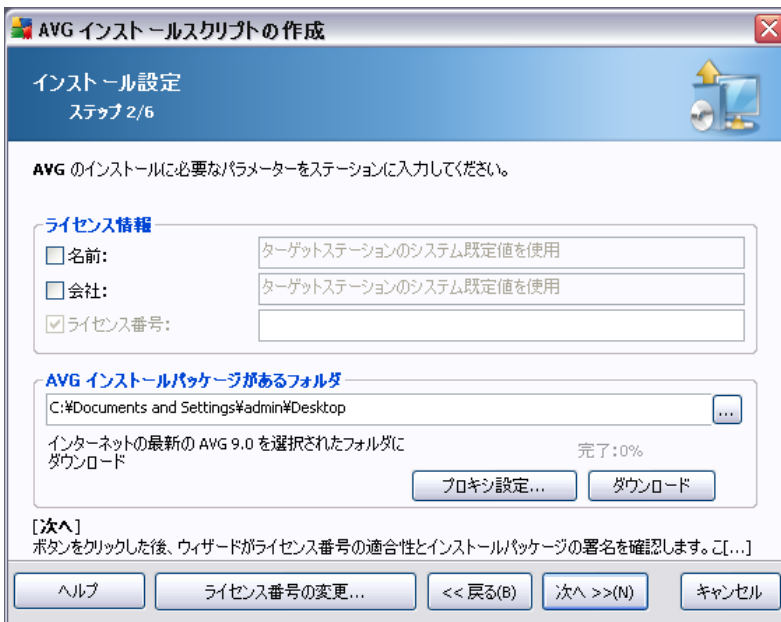
#### 4.7. AVG インストールスクリプトの作成

[**AVG インストールスクリプトの作成**] オプションを選択すると、ウィザードがインストールスクリプトを選択したディレクトリに作成します。ディレクトリの内容を CD やネットワークフォルダから、もしくはディレクトリに直接コピーすることでステーションへのインストールに使用できます。

このオプションではネットワークステーションやサーバーへのリモートインストールは利用できません。



最初のステップはこのオプションの概要を説明しています。続行するには、[次へ] をクリックします。

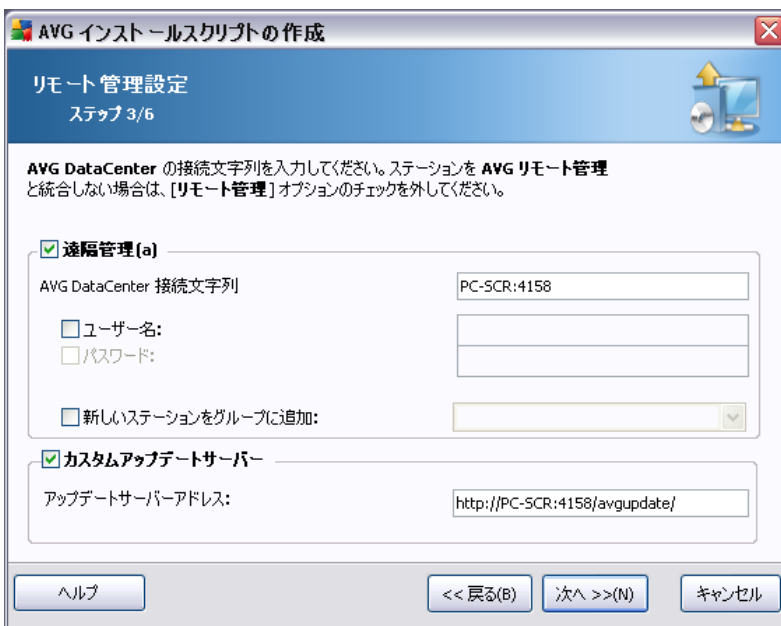


このステップの間に、次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号（必須値）などのライセンスデータを入力します。この名前フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、各チェックボックスにチェックを入れずに既定のシステム設定がそのまま使用されるようにします。
- **AVG インストールパッケージを含むフォルダ** - AVGインストールパッケージまでのフルパスを入力するか、この  ボタンを使用して正しいフォルダを選択します。

パッケージをダウンロードしていない場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックして、ウィザードを使用してインストールファイルを選択したフォルダにダウンロードします。[ダウンロード] ボタンの上に、ダウンロードの進捗状況が表示されます。

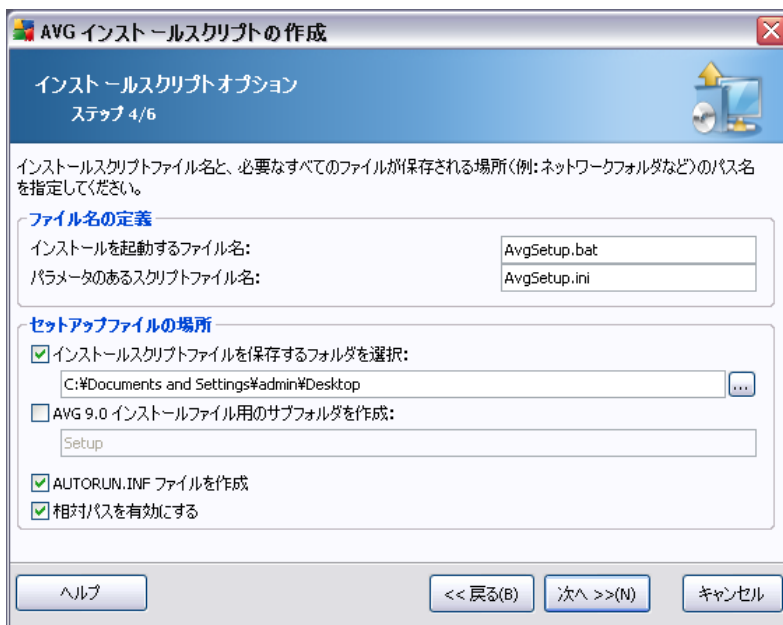
- **プロキシ設定ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、[プロキシ設定] ボタンをクリックすると、プロキシサーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンを使用して、ローカルステーションにインストールされた AVG Remote Administration に適用する新しいライセンス番号を入力します。



次のオプションはこのステップで利用できます。

注意: これらの設定がわからない場合は、既定の値を保持することをお勧めします。

- **遠隔管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。必要に応じて、ユーザー名とパスワードも入力します。ステーションを AVG Admin consoleで管理しない場合は、このオプションをオフにしてください。
- **新しいステーションをグループに追加** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップグレードサーバー** - ステーションで使用するアップデートサーバーが既に存在する場合は、このチェックボックスにチェックを入れそのアドレスを入力します。



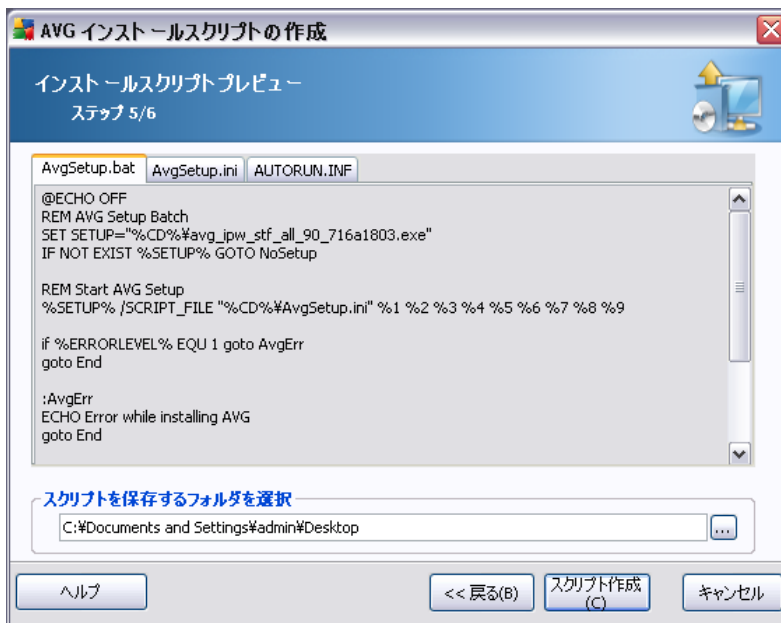
このステップでは、インストールスクリプトファイル名、保存場所、その他のオプションを指定できます。

[ファイル名定義] では次のオプションを定義します。

- **インストールを起動するファイル名** - インストールの起動に使用するファイルのカスタム名を入力します。ファイル拡張子は **.bat** でなければなりません。
- **パラメータ付きのスクリプトファイル名** - スクリプトパラメータファイルのカスタム名を入力します。ファイル拡張子は **.ini** でなければなりません。

[セットアップファイルの場所] では次のオプションを定義します。

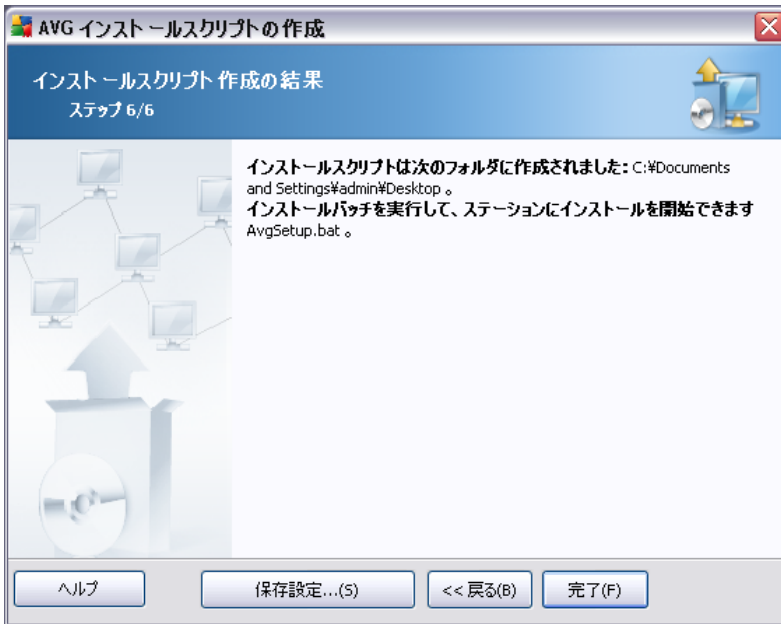
- **インストールスクリプトファイルを格納するフォルダを選択** - このチェックボックスにチェックを付け、インストールスクリプトを格納するカスタムディレクトリを選択します。
- **AVG 9.0インストールファイルサブフォルダを作成** - AVGセットアップファイルをサブフォルダに保存する場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **AUTORUN.INFファイルを作成** - AVG - スクリプトを CD/DVD または USB フラッシュディスクに作成し、挿入した時点で自動的にインストールを実行する場合は、このチェックボックスをオンにして、AUTORUN.INF を作成します。
- **相対パスを有効にする** - このオプションにチェックを付けておくことをお勧めします。相対パスは、現在のソースディレクトリに対して相対的です。たとえば、ソースディスクドライブとパスが c:\avginstallation で、このオプションをオフにすると、出力スクリプトはまったく同じパスのインストールファイルを検索します。これは多くの場合、スクリプトを実行するターゲットステーションで異なり、スクリプトが動作しない可能性があります。



このステップにはセットアップファイルと設定ファイルのプレビューが含まれます。最初のタブには、セットアップファイルに関する情報が含まれ、2番目のタブには、事前設定された情報が含まれます。

まだ出力パスの入力を完了していない場合は [スクリプトの保存先フォルダを選択] セクションに入力します。

インストールスクリプトをコンパイルし選択した場所に保存するには [スクリプト作成] ボタンをクリックします。



[設定を保存] ボタンは選択した設定を保存します。再度ウィザードを実行するときに、この設定を最初に読み込むだけで再利用できます。

[完了] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

作成したスクリプトファイルを使用するには複数のオプションがあります。ここに、2つの最も一般的な例があります。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには：

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。

*注意:* スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できます。

2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。

3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。

スクリプトを外付けハードドライブや USB フラッシュディスクなどのリムーバブルデバイスに保存できます。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには：

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。
2. 自動実行機能がステーションのオペレーティングシステムで有効になっていて、スクリプト準備中に autorun.inf ファイルの作成を選択した場合、インストールは自動的に開始されます。
3. そうでない場合は、リムーバブルデバイスディスク文字を開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。

## 5. AVG ネットワークインストーラウィザード詳細モード

AVG ネットワークインストーラウィザードの高度モードでは、AVG をステーションにリモートインストールし、オンサイトインストール用のインストールスクリプトを作成します。

高度モードは、必要に応じて手動でインストールスクリプト（機能性、パラメータ、AVG 動作）を設定する上級ユーザー向けです。

ウィザードは 2 つの方法で起動できます。

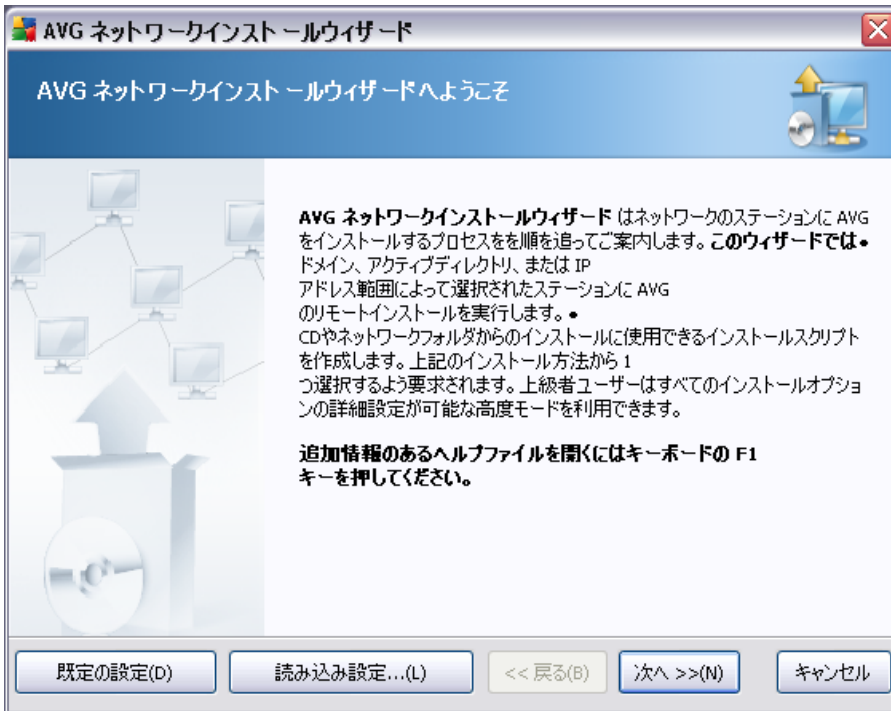
- Windows [ スタートメニュー / すべてのプログラム / AVG9.0 リモート管理 / AVG ネットワークインストーラウィザード ] から起動します。
- AVG Admin console 環境の上部メニューの [ ツール / ステーションに AVG をインストール... ] から起動します。

ウィザードは基本モードまたは高度モードで実行できます。2 つ目のステップで [ 高度モード ] オプションを選択できます。オプションが選択されなかった場合、プログラムは基本モード（一般ユーザー向け）で実行されます。

この章では高度モードについて説明します。

**注意:** 「[コンポーネントでの推奨設定](#)」章を読んでから、AVG のリモートインストールを進めてください。

## 5.1. ようこそ



すでに AVG ネットワークインストーラウィザードを使用し、カスタマイズされた構成を構成ファイル（最終ステップで入手可能）に保存してある場合は、[設定をロード] ボタンを選択して、すぐに設定をロードできます。

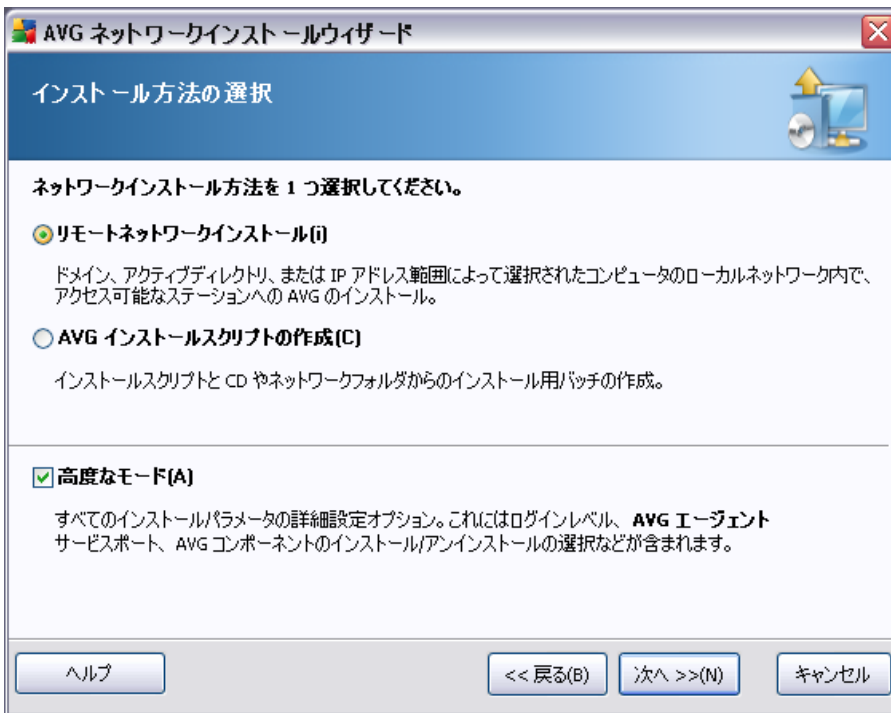
デフォルトで事前設定されていた元の設定に戻るには、[デフォルト設定] ボタンを押します。

インストールプロセス全体の間、F2 キーまたは CTRL+S を押すと、構成の進捗状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、そのダイアログで構成ファイル名を選択することができます。

操作を続けるには、[次へ] ボタンをクリックします。

## 5.2. インストール方法

詳細モードで続行するには、[詳細モード] チェックボックスをオンにします。それ以外の場合は、「[Basic Mode](#)」の章に進んでください。



ダイアログウィンドウでは、インストールスクリプトを作成し使用するための 2 つのオプションのいずれかを選択できます。

- [リモートネットワークインストール](#)

このオプションを使用すると、ローカルネットワークで利用できるステーション (IP 範囲やインポートされたリストに基づいて、ドメイン、Active Directory から選択されたコンピュータ) に AVG をインストールできます。

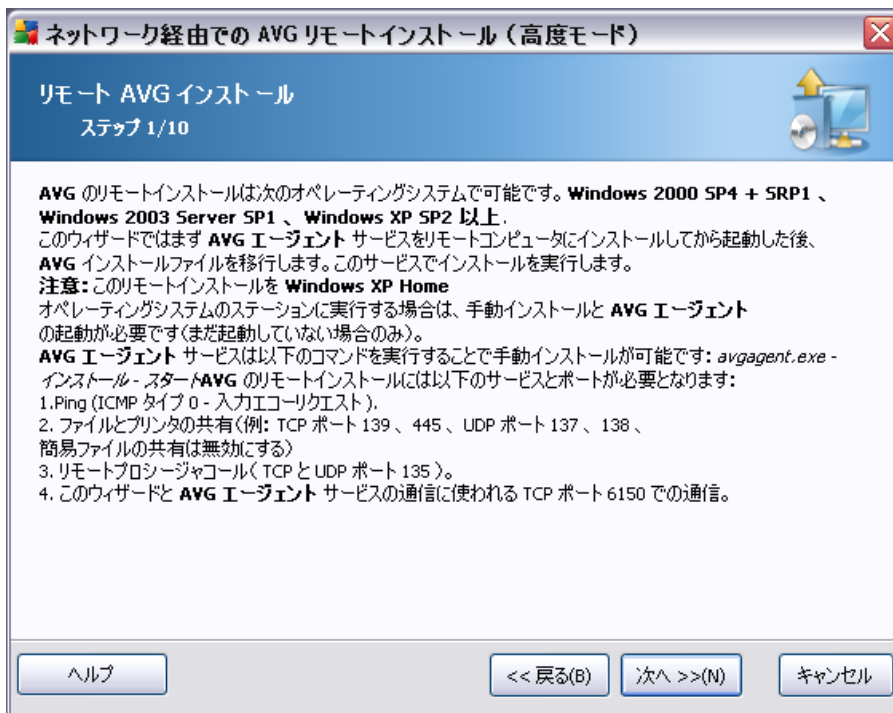
以前の AVG DataCenter からステーションを削除 (および新しいものに移動) する場合にもこのオプションを使用できます。

- [AVG インストールスクリプトの作成](#)

このオプションを使用すると、ローカルインストール用またはリムーバブルメディア/ネットワークフォルダからのインストール用のインストールスクリプト

とバッチファイルを作成できます。

### 5.3. リモートネットワークインストール

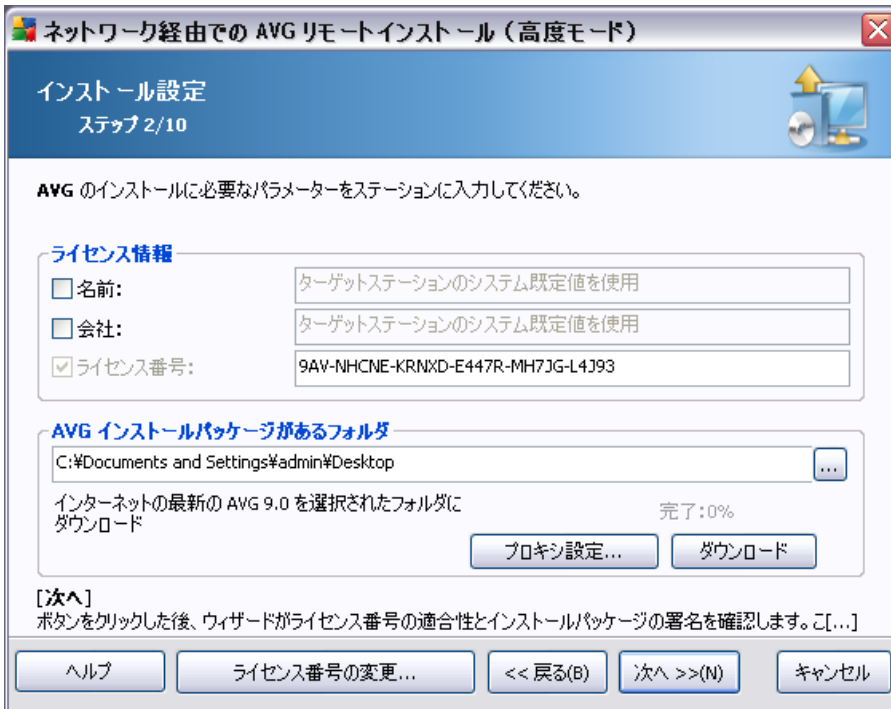


AVG正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上に エージェントサービスをインストールして起動します。その後、AVG インストールファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。

処理を進める前に、リモートインストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。AVG

ポート設定の詳細については、「[Network Requirements](#)」の章を参照してください。

リモートインストールは、Windows XP Home のステーションでは自動的に有効になりません。詳細については、「[Windows XP Home Remote Installation](#)」の章を参照してください。



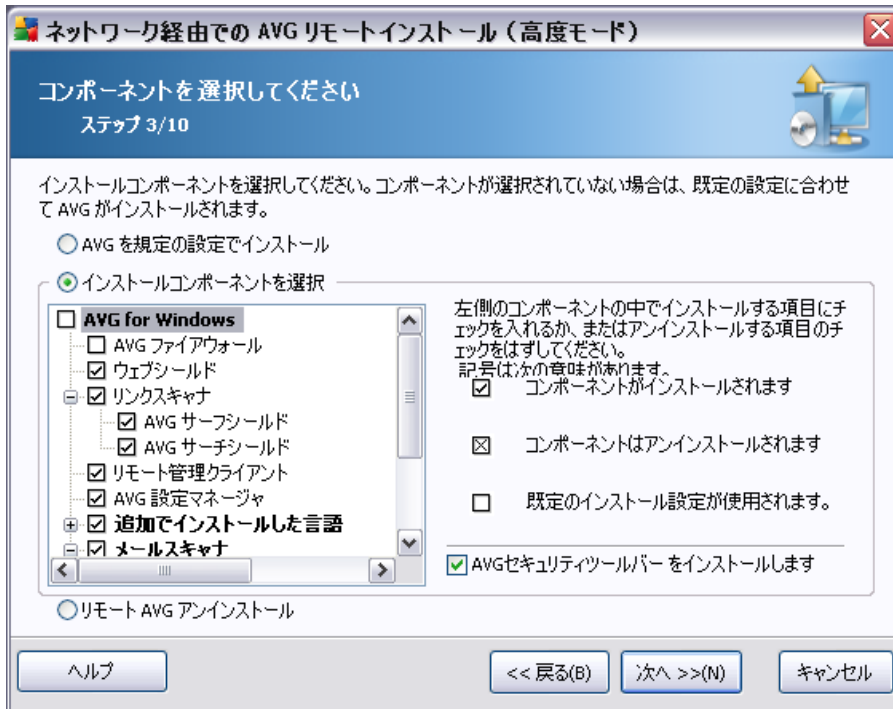
この手順の間に、次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号（必須値）などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当のチェックボックスを選択しないで、デフォルトシステム設定が使用されるようにします。
- **AVG インストールパッケージのあるフォルダ** - インストールパッケージへの完全パスを入力するか、AVGこの [ ... ] ボタンを使用して適切なフォルダを選択します。

まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックし、ウィザードを使用して、選択したフォルダにインストールファイルをダウンロードします。[ダウンロード] ボタンの上に、ダウンロードの進捗状況が表示されます。

- **プロキシ設定ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、[プロキシ設定] ボタンをクリックすると、プロキシサーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンを使用して、ローカルステーションにイン

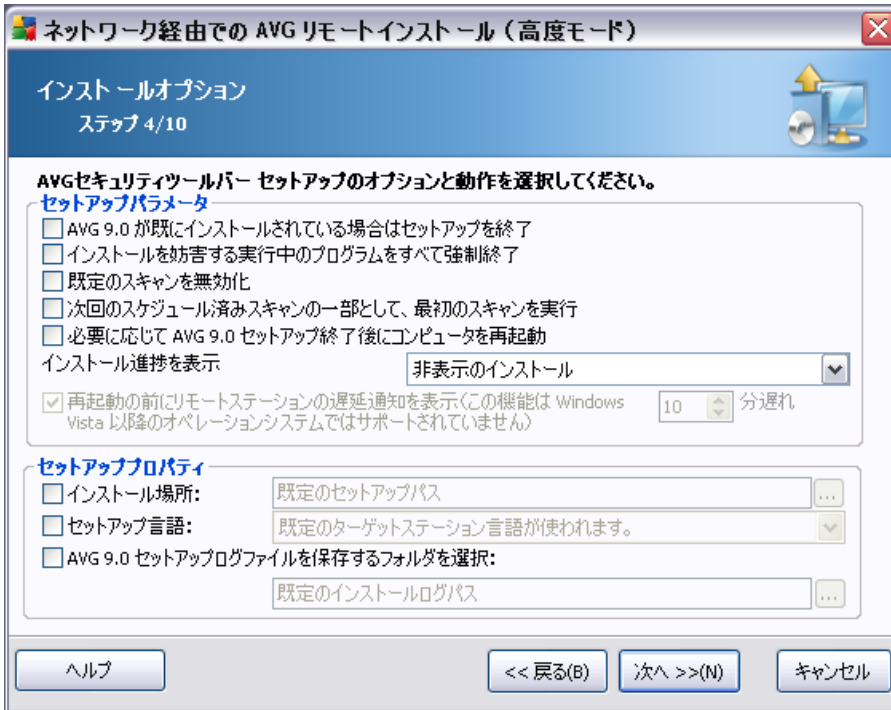
ストールされた AVG Remote Administration に適用する新しいライセンス番号を入力します。



このステップでは、AVG をデフォルト設定でインストールするか、カスタムコンポーネントを選択するかを選ぶことができます。

- **デフォルト設定で AVG をインストール** - デフォルトコンポーネントをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- **インストールコンポーネントを選択** - このオプションを選択すると、インストールまたはアンインストールできるコンポーネントのリストを示すツリー構造を表示できます。AVGコンポーネントのリストから以下を選択します。
  - インストールする必要があるコンポーネント。次のようにマーク付けします。☑
  - インストールするかアンインストールするコンポーネントをこのようにマークします。☒
  - ブランクにしたコンポーネントにはデフォルト設定が使用されます (□)。

- リモート AVG アンインストール - AVG を削除できます。



[セットアップパラメーター] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **AVG 9.0がすでにインストールされている場合はセットアップを終了** - AVG 9.0 が既にターゲットステーションに存在する場合は、リモート管理は実行されません。
- **インストールを妨害するすべての実行中アプリケーションを停止** - リモートインストールプロセスを妨害する可能性のあるすべてのアプリケーションを強制終了します。通常は、実行中の電子メールクライアントやインターネットブラウザです。
- **デフォルトスキャンを無効化** - 毎日のスキャンのデフォルト設定が無効になります。
- **最初のスキャンを、次にスケジュールされたスキャンの一部として実行する** - 最初の最適化スキャンは、最初にスケジュールされたスキャンとともに実行されます。
- **必要に応じて、AVG 9.0セットアップ完了後にコンピュータを再起動** - 場合によっては (ファイアウォールコンポーネントのインストールなど)、インスト

ールを完了するためには、コンピュータを再起動しなければならない場合があります。

- **インストールの進捗状況を表示** - ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。
  - **インストールを非表示にする** - セットアッププロセスの間、ログインしているユーザーに対し、情報がまったく表示されなくなります。
  - **インストールの進捗状況のみを表示** - インストール中、ユーザーが何らかの介入をする必要はありませんが、進捗状況だけがステーションに表示されます。
  - **インストールウィザードを表示** - ステーションにインストールが表示され、現在ログインしているユーザーは、すべてのステップを手動で確定する必要があります。
- **リモートコンピュータのスケジュール済みの再起動に関する通知メッセージを表示** - 直前のチェックボックスがオンになっている場合、再起動を実施する前の待機を定義することができます。デフォルト値は 10 分です。

*注：このオプションは、MS Windows 2000 ではサポートされていません。*

[**セットアッププロパティ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール場所** - インストールの場所をカスタマイズする場合は、パスをここに入力して選択できます。デフォルト設定を維持することをお勧めします。
- **言語のセットアップ** - AVG インストールのカスタム言語を選択します。
- **AVG 9.0 セットアップのログファイルが保管されているフォルダを選択する** - セットアップログファイル用としてカスタムロケーションが望ましい場合は、ここでその場所を選択します (フォルダはターゲットステーションに存在している必要があります)。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

リモート管理設定  
ステップ 5/10

AVG DataCenter の接続文字列を入力してください。ステーションを AVG リモート管理と統合しない場合は、[リモート管理] オプションのチェックを外してください。

遠隔管理 (a)

AVG DataCenter 接続文字列: PC-SCR:4158

ユーザー名:

パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

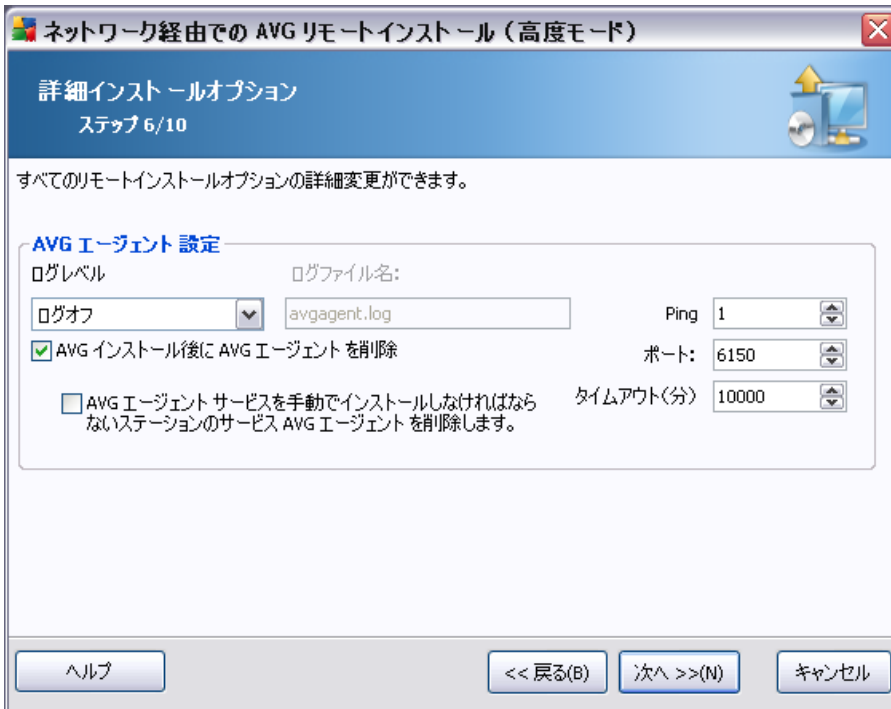
アップデートサーバーアドレス:

ヘルプ << 戻る(B) 次へ >> (N) キャンセル

次のオプションはこのステップで利用できます。

注：これらの設定について不明な点がある場合は、デフォルト設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。該当する場合は、ユーザー名とパスワードも入力します。ステーションを AVG Admin console で管理しない場合は、このオプションをオフにしてください。
- **新しいステーションをグループに追加** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップデートサーバー** - ステーションで使用したい既存のアップデートサーバーがある場合は、このチェックボックスをオンにして、アドレスを入力してください。



[AVG エージェント 設定] セクションには、次のオプションがあります。

[ログレベル] オプションでは、ロギングの詳細レベルを選択できます。

- エラーのみ - 不正な接続の試みやネットワークタイムアウトなど、エラーに関するアプリケーションの実行のみがログ出力されます。
- 詳細 - ステーション上でサービスによってリクエストおよび実行された処理に関する情報。
- デバッグ - プログラム診断を含む非常に詳細なレコード。このレベルを選択すると、ログファイルが大きくなります。
- ログイングオフ - ログは出力されません。

[ログイングオフ] 以外のロギングレベルオプションを選択する場合は、[ログファイル名] フィールドが有効になります。

**ログファイル名** - ログファイル名を入力します。AVG エージェントサービスは、サービスがインストールされているリモートステーション上に、選択された名前でログファイルを格納します。絶対パス ( C:\avgagent.log など ) を入力しない場合、avgagent.exe ファイルが含まれたディレクトリ ( 通常は、 C:\Windows または C:

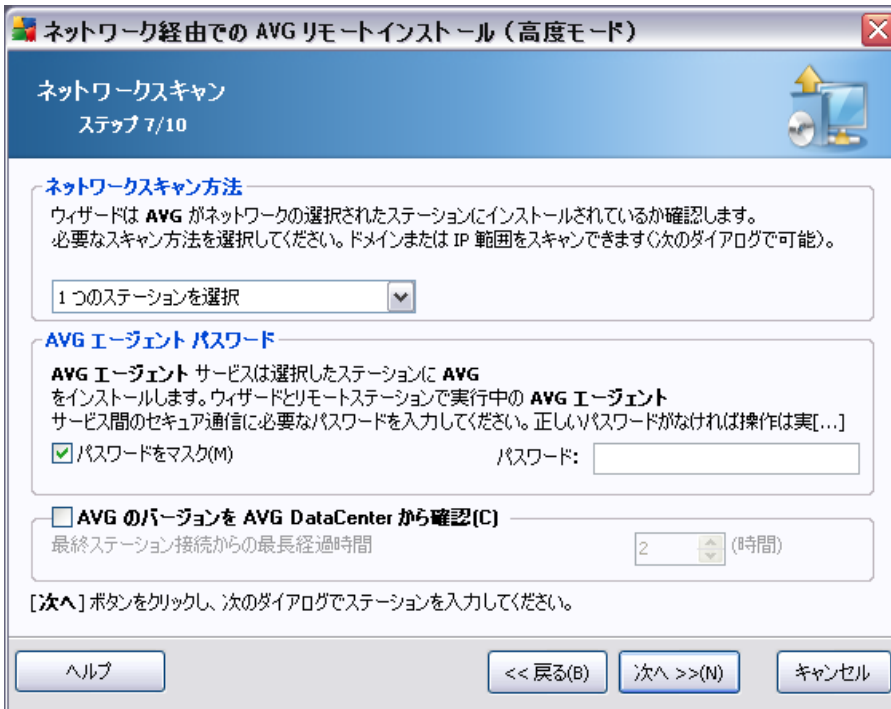
\\WinNT ディレクトリ) が、ログファイルの保存用に使用されます。

*注：保存場所のパスが変更されても、ログファイルは自動的に削除されたり、縮小されたりしません。ロギング機能を使用する場合は、ログの分析が終わったら、ログを手動で削除する必要があります。*

- *AVG インストール後に AVG エージェントを削除* - AVG が正常にインストールされた時点で、自動的に AVG エージェントをステーションから削除します。
- *AVG エージェントサービスを手動でインストールする必要のあるステーションで、サービス AVG エージェントも削除する* - AVG が正常にインストールされたら、AVG エージェントを自動的にインストールできないステーションからも、AVG エージェントを自動的に削除します (推奨されません)。

セクションの右側には、次のオプションがあります。

- **Ping** - リモートステーションの可用性を検出している間に使用される ping 操作の数。ウィザードがすべての ping 問い合わせに対する応答を受信しない場合、ステーションは利用できない状態であると見なされ、以降の処理は行われません。
- **ポート** - AVG エージェントサービスがウィザード接続を待ち受けている TCP/IP 通信ポートデフォルト値は 6150 で、通常はこの値を変更する必要はありません。
- **タイムアウト** - AVG エージェントおよびウィザード通信タイムアウト値 (ミリ秒) AVG エージェントおよびウィザードの通信プロセスで、指定された値の範囲内で応答が得られなかった場合、接続はエラーとともに終了します。ネットワークが混雑している場合や、AVG のインストール速度が非常に遅い場合、このタイムアウト値を上げて、タイムアウトエラーを避けることができます。



ウィザードはまず一部のステーションをスキャンして、ステータスを確認してから、AVGをインストールする必要があります。

[ネットワークのスキャン方法] セクションで、ドロップダウンリストから、ステーションを選択する方法を選びます。オプションは次のとおりです。

- **ドメインのすべてのステーション** - ローカルドメインで利用できるすべてのステーションがスキャンされます。
- **IP 範囲を入力** - このオプションでは、特定の範囲の IP アドレスを選択できます。
- **ファイルからステーションをインポート** - 新しいダイアログが表示され、スキャンするステーションのリストを選択できます。このようなリストは、AVG Remote Administration ( 7.5 ) の以前のバージョンから作成できます。

ソーステキストファイルの各行には、ステーション名または IP アドレスが 1 つ含まれます。

このトピックの詳細については、「[Migrate Stations from/to Different DataCenter](#)」の章を参照してください。

- **1つのステーションを選択** - 特定のコンピュータ名 ( DNS 名 ) または IP アドレスを入力します。
- **Active Directory から選択** - Active Directory から直接、特定のステーションを選択できます。

[AVG エージェントのパスワード] セクションには、[パスワード] フィールドがあり、ここにパスワードを任意で入力して、ウィザードとリモートステーション上の AVG エージェント サービスとの通信を保護することができます。このフィールドを設定した場合、パスワードを入力しないと、ウィザードを使用してリモートステーション上で操作できなくなります。パスワードは AVG エージェント サービスにのみ関連付けられており、その他のリモートステーション設定には影響しません。

[パスワードをマスク] チェックボックス - このオプションを選択すると、パスワードがコンピュータのモニタに表示されるのを防ぐことができます。

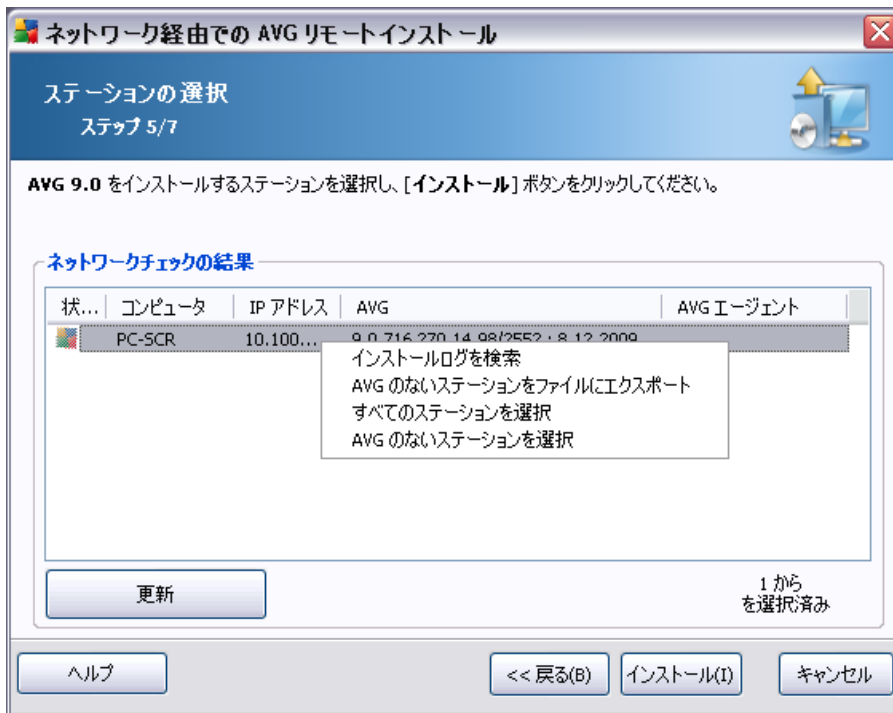
- **AVG バージョンを AVG DataCenter からチェック** - AVG DataCenter ( 存在する場合 ) から各ステーション上の AVG バージョンに関する情報をウィザードに取得させる場合は、このオプションをオンにします。[最後のステーションが通信を受けてからの最大時間] フィールドに、最後にステーションが通信を受けてから経過する最大時間を示す値 ( 時間単位 ) を入力します。

**警告:** AVG リモートインストールは、サポートされているオペレーティングシステムがインストールされているステーションでのみ実行されます。「[サポートされているオペレーティングシステム](#)」章のサポートされているオペレーティングシステムの完全なリストを参照してください。また、管理者権限のあるログインユーザー名が必要です。MS Windows XP Home を稼働しているステーションでは、AVG インストールを手動で実行するか、ログインスクリプトと AVG エージェント サービスを使用する必要があります ( 詳細については、「[Remote Installation on Windows XP Home](#)」の章を参照 )。

また、場合によっては、「[Network Requirements](#)」の章も参照する必要があります。

### 5.3.1. ドメインのすべてのステーション

AVG をドメインからリモートですべてのコンピュータにインストールする場合、ドメインで利用可能なステーションのリストを含む次のダイアログが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- [インストールログを取得]

*注意: AVGインストールが正常に完了し、[AVG のインストール後に AVG エージェントを削除] オプションが有効になっている場合 (詳細なインストールオプションのステップ) は、AVG エージェントが削除されるため、インストールログを取得できません。*

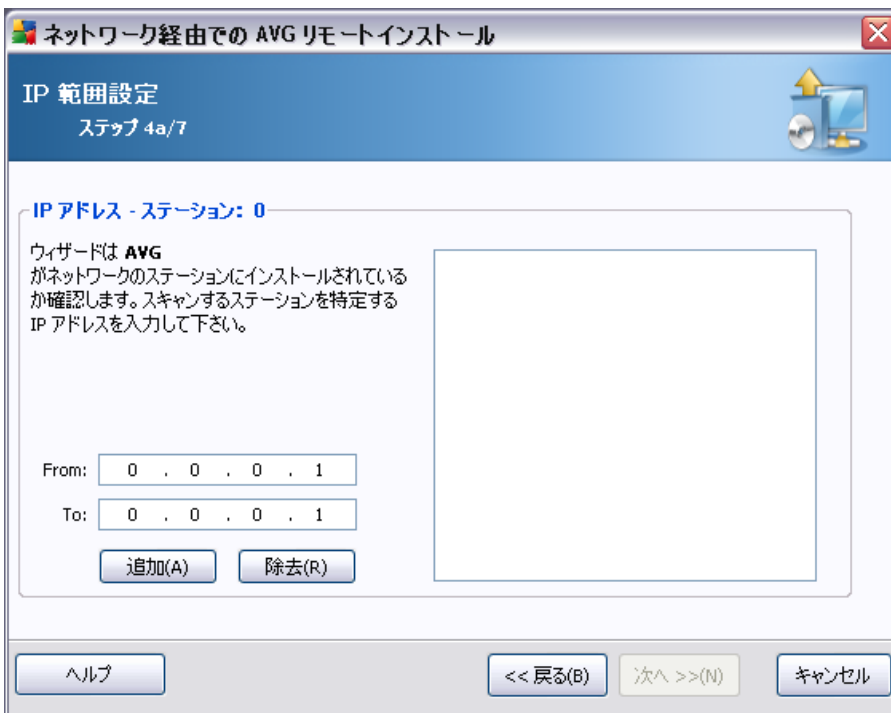
- [AVG のないステーションをファイルにエクスポート] - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- すべてのステーションを選択 - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- AVG のないステーションを選択 - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

### 5.3.2. IP 範囲を入力

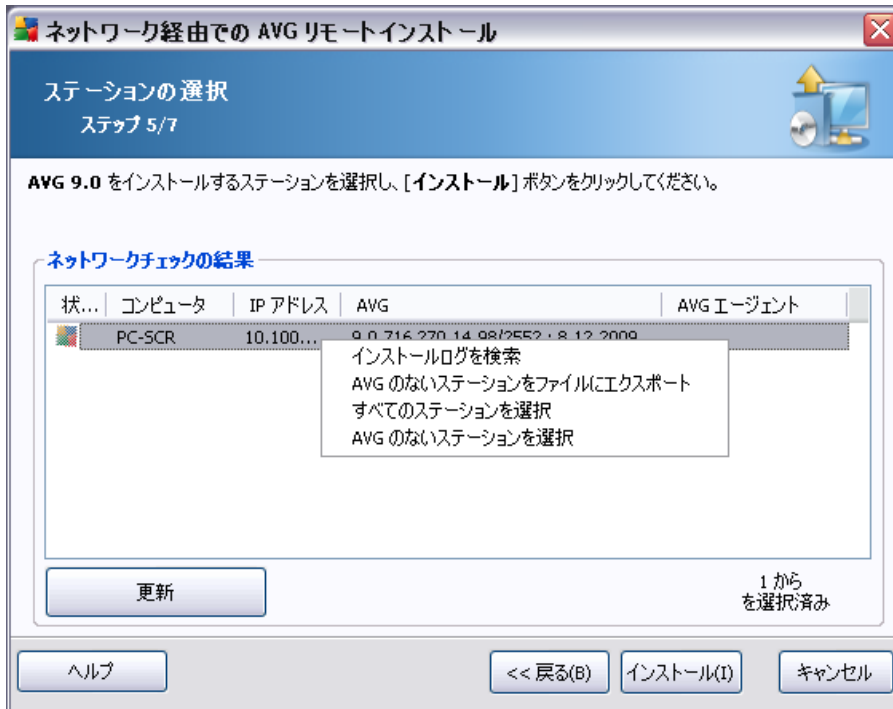
AVG を IP 範囲に従ってリモートにインストールする場合は、以下のダイアログが表示されます。



ここに IP アドレスを入力して、スキャン範囲を指定する必要があります。[開始] フィールドに、開始する IP アドレスを入力し、[終了] フィールドに、終了するアドレスを入力します。[追加] ボタンをクリックして、アドレスをリストに入力します。

右側のリストから範囲を削除するには、削除する項目を選択して、[削除] ボタンをクリックします。

IP 範囲の選択を終えたら、[次へ] ボタンをクリックして、操作を続行します。完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- **[インストールログを取得]**

*注意: AVGインストールが正常に完了し、[AVG のインストール後に AVG エージェントを削除] オプションが有効になっている場合 (詳細なインストールオプションのステップ) は、AVG エージェントが削除されるため、インストールログを取得できません。*

- **[AVG のないステーションをファイルにエクスポート]** - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG のないステーションを選択** - AVG がまだインストールされていないが、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインスト

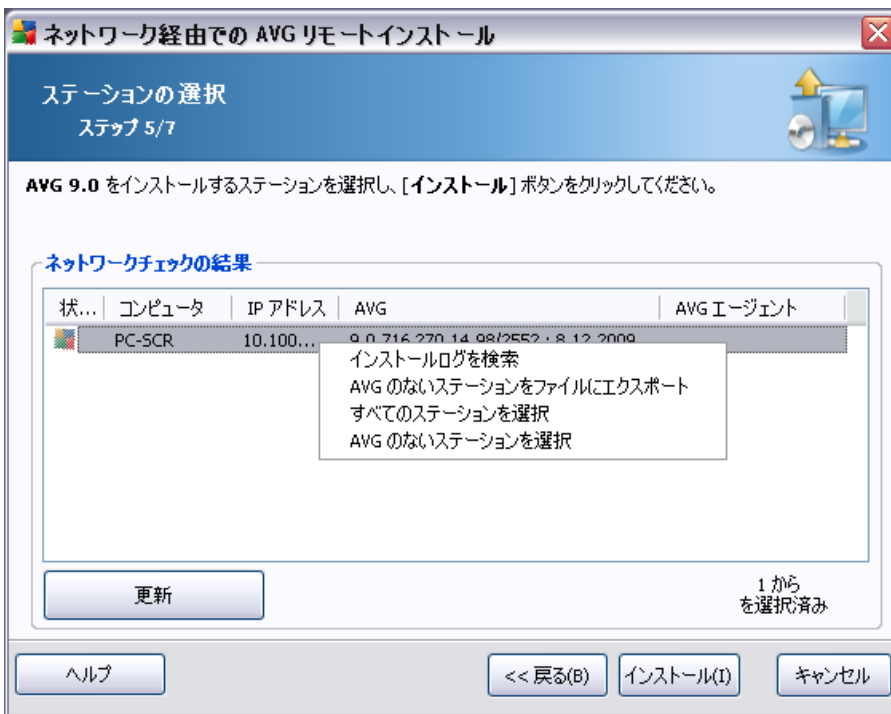
ールプロセスを完了します。

### 5.3.3. ファイルからのステーションのインポート

注：このオプションは通常、ステーションを別の AVG DataCenter に移行する場合に使用します。このトピックの詳細については、「[Migrate Stations from/to Different DataCenter](#)」の章を参照してください。

ファイルから選択したステーションに、AVG をリモートにインストールする場合は、ファイルを参照するためのダイアログが表示されます。ファイルを参照して、選択を確認します。ソースファイル形式には、シンプルなテキスト形式で行ごとに 1 つのステーション名が含まれています。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストールログを取得

注意: AVGインストールが正常に完了し、[AVG のインストール後に AVG エージェントを削除] オプションが有効になっている場合 (詳細なインストールオプションのステップ) は、AVG エージェントが削除されるため、インストール

ログを取得できません。

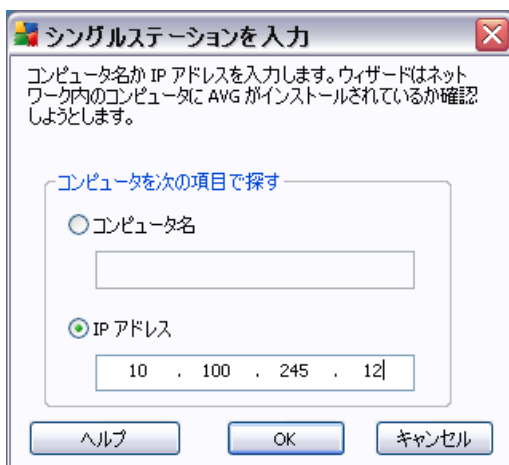
- [AVGのないステーションをファイルにエクスポート] - AVGがインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVGのないステーションを選択** - AVGがまだインストールされていないか、AVGを検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

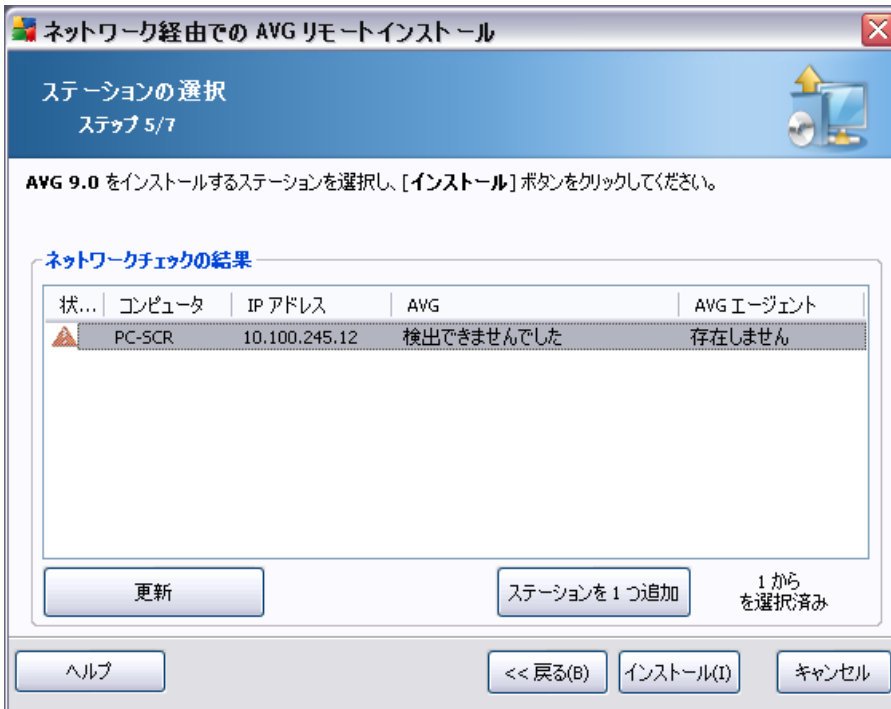
[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 5.3.4. 1つのステーションを選択

AVGをリモートで1つのステーションにインストールする場合は、次のダイアログが表示されます。



[コンピュータ名] または [IP アドレス] フィールドのいずれかをクリックして、適切な名前または IP アドレスを入力してください。) [OK] ボタンをクリックして、**選択内容を確認します**。AVG インストール用に選択したステーションのチェックプロセスが開始されます。完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストールログを取得]

*注意: AVGインストールが正常に完了し、[AVG のインストール後に AVG エージェントを削除] オプションが有効になっている場合 (詳細なインストールオプションのステップ) は、AVG エージェントが削除されるため、インストールログを取得できません。*

- [AVG のないステーションをファイルにエクスポート] - AVG がインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG のないステーションを選択** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

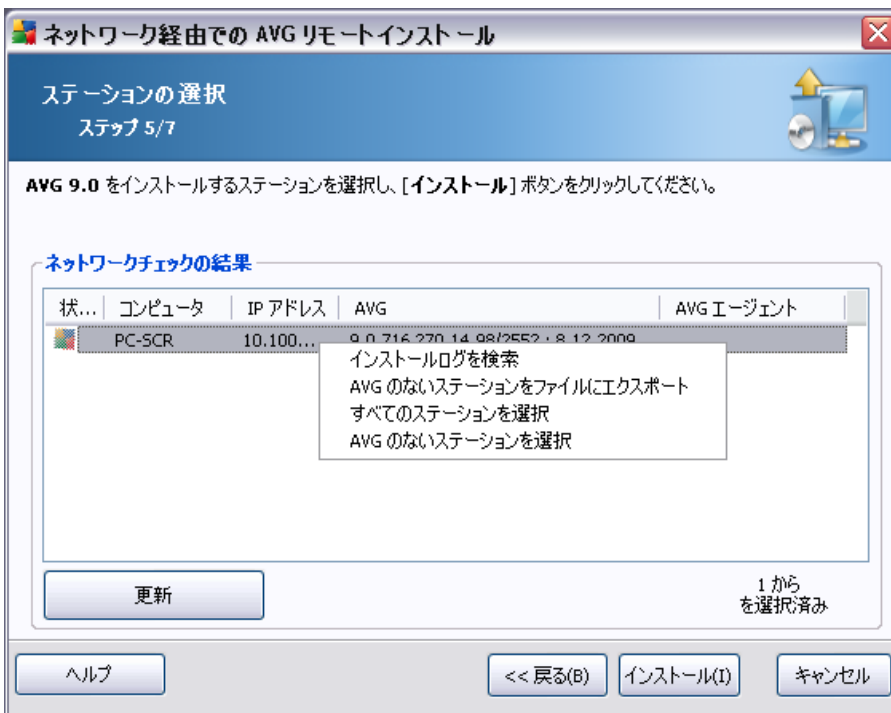
[更新] は、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。[ステーションを 1 つ追加] ボタンでは、別のステーションを 1 つ追加できます。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

### 5.3.5. Active Directory から選択

ネットワークがドメインベースの場合は、Active Directory で選択したステーションに、AVG をリモートでインストールすることができます。新しいダイアログが表示されます (ステーションを選択するための標準的な Windows ダイアログ)。ステーション名を手動で入力するか、または検索用のダイアログ詳細機能を使用して、複数のステーションを選択できます (セミコロンで値を区切ってください)。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストールログを取得

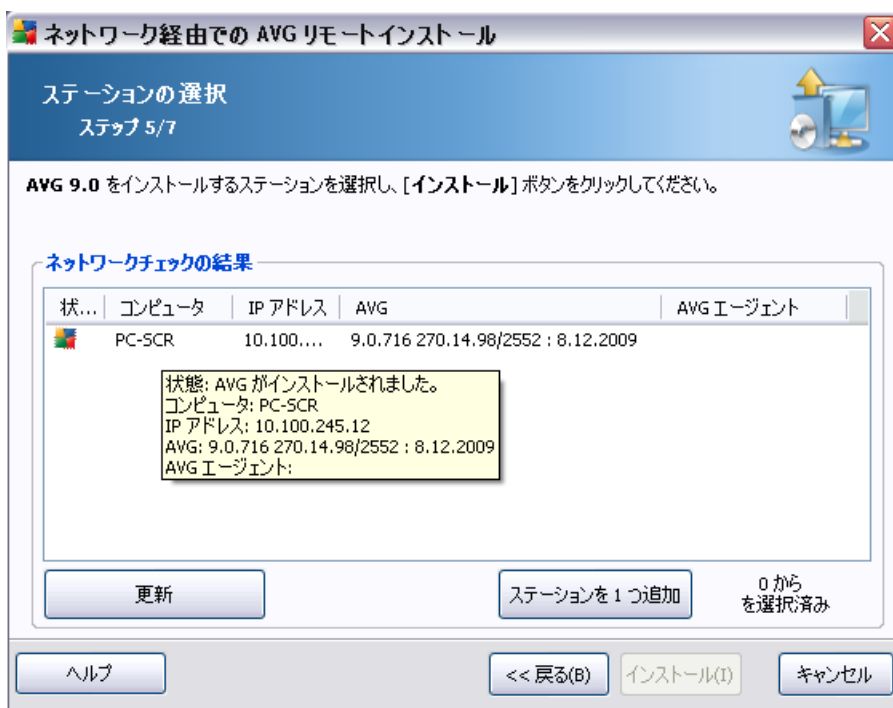
*注意: AVGインストールが正常に完了し、[AVG のインストール後に AVG エージェントを削除] オプションが有効になっている場合 (詳細なインストールオプションのステップ) は、AVG エージェントが削除されるため、インストールログを取得できません。*

- [AVGのないステーションをファイルにエクスポート] - AVGがインストールされていないステーションのリストをファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択** - リスト内のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVGのないステーションを選択** - AVGがまだインストールされていないか、AVGを検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

#### 5.4. リモートネットワークインストール - 最終ステップ

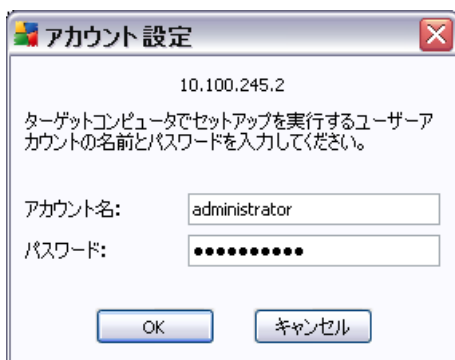


また、リスト内のステーションをポイントしたときに、数秒間、「ツールチップ」というものを表示できます。ツールチップには、ステーションの状態およびその他の詳細が表示されます。

処理を進める準備ができたなら、対象のステーションを選択し、[インストール] ボタンをクリックして、リモートインストールを開始します。

リストから一部のステーションだけを選択した場合は、AVGインストールはこれらのステーションのみで実行されます。それ以外の場合は、リストされているすべてのステーションでインストールが実行されます。

アクセス権が不十分で、リモートステーション上で AVG エージェントサービスをインストールできない場合は、インストール中にドメイン管理者のログイン/パスワードを要求されます。



管理者権限付きのユーザー名を ( 管理者のグループのメンバーであるユーザー名 ) 入力します。[OK] をクリックして変更を確定します。

すべてのステーションで共通の管理者アカウントがない場合は ( 同じログイン名とパスワード )、各ステーションで情報を個別に入力するように求められます。

[キャンセル] ボタンを押すと、現在のステーションのインストールがスキップされて、ウィザードはリスト内の次のステーションでインストールを続行します。

AVG は、ステーションに転送されて、インストールされます。インストールが正常に行われると、各行にインストールの成功が表示されます ( ただし、処理にはしばらく時間がかかる場合があります )。

すべてのステーションがインストールファイルを受信し、インストール処理が完了した時点で、[次へ] ボタンをクリックしてこのダイアログを終了できます。

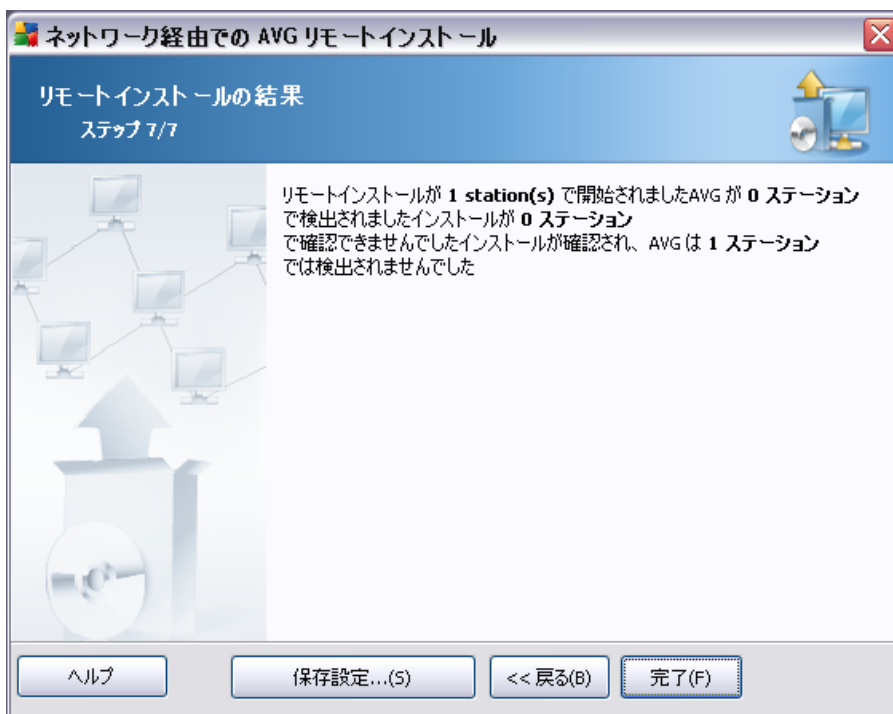
**注：** [ステーション/新規ステーション] または [リモート管理設定] ダイアログの間に選択したグループのいずれかの **AVG Admin console** で、最近インストールされたステーションを後で表示できます。

不正な状態にある ( リモートインストール失敗のため ) 最近インストールしたステーションをリスト表示するには、[ステーション/非準拠ステーション] に移動しま

す。

また、Windows XP SP2/Windows 7/Vista 以上で Windows ファイアウォールを有効にすると、AVG エージェントがインストールされた後で、自動的に通信ルールが作成され、ルールの実行およびネットワーク通信が許可されます。

最後のダイアログには、ステーション上のアクティビティの短い概要が示されます。



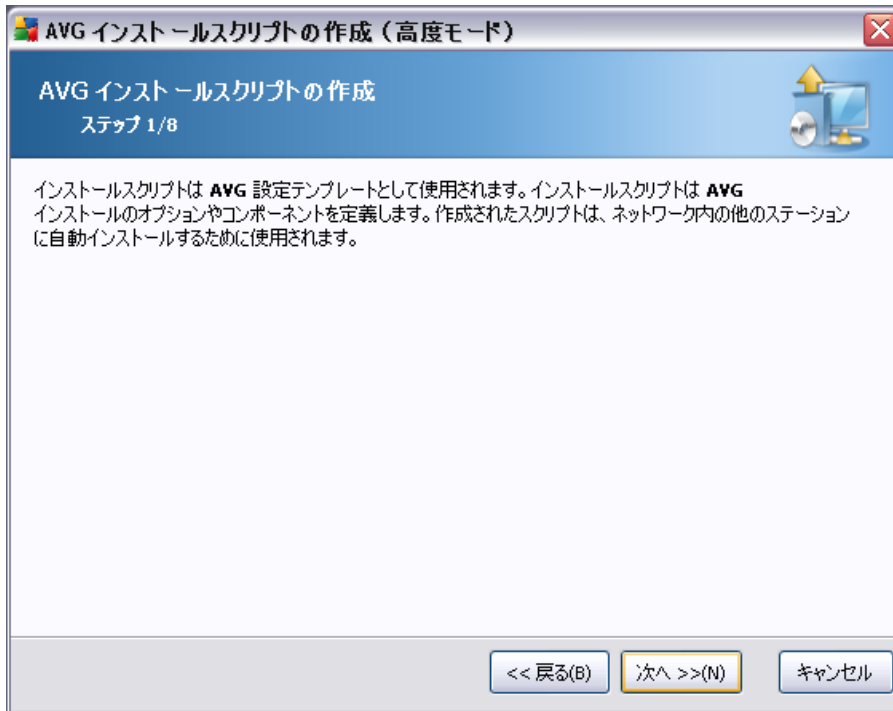
[**設定を保存**] ボタンを使用すると、以前選択した構成を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その構成を再使用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

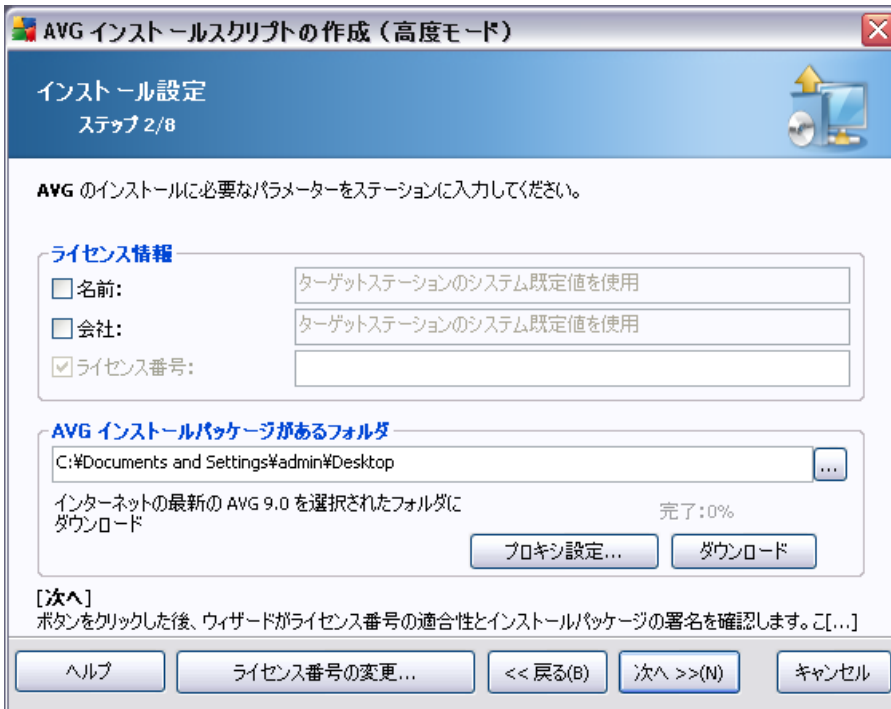
## 5.5. AVG インストールスクリプトの作成

[**AVG インストールスクリプトの作成**] オプションを選択すると、ウィザードがインストールスクリプトを選択したディレクトリに作成します。ディレクトリの内容を CD やネットワークフォルダから、もしくはディレクトリに直接コピーすることでステーションへのインストールに使用できます。

このオプションではネットワークステーションやサーバーへのリモートインストールは利用できません。



最初のステップはこのオプションの概要を説明しています。続行するには、[次へ] をクリックします。



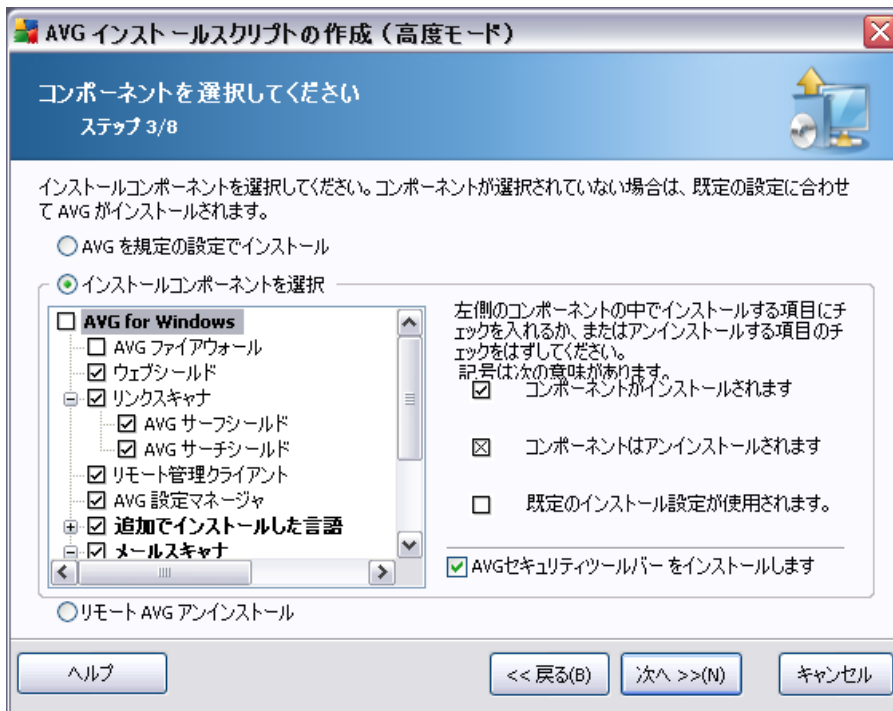
このステップの間に、次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当のチェックボックスを選択しないで、デフォルトシステム設定が使用されるようにします。
- **AVG インストールパッケージのあるフォルダ** - インストールパッケージへの完全パスを入力するか、AVGこの [ ... ] ボタンを使用して適切なフォルダを選択します。

パッケージをダウンロードしていない場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックして、ウィザードを使用してインストールファイルを選択したフォルダにダウンロードします。ダウンロードプロセスは [ダウンロード] ボタンから確認できます。

- **プロキシ設定ボタン** - インターネットへの接続にプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、[プロキシ設定] ボタンをクリックし、プロキシサーバー情報を入力します。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンを使用して、ローカルステーションにイン

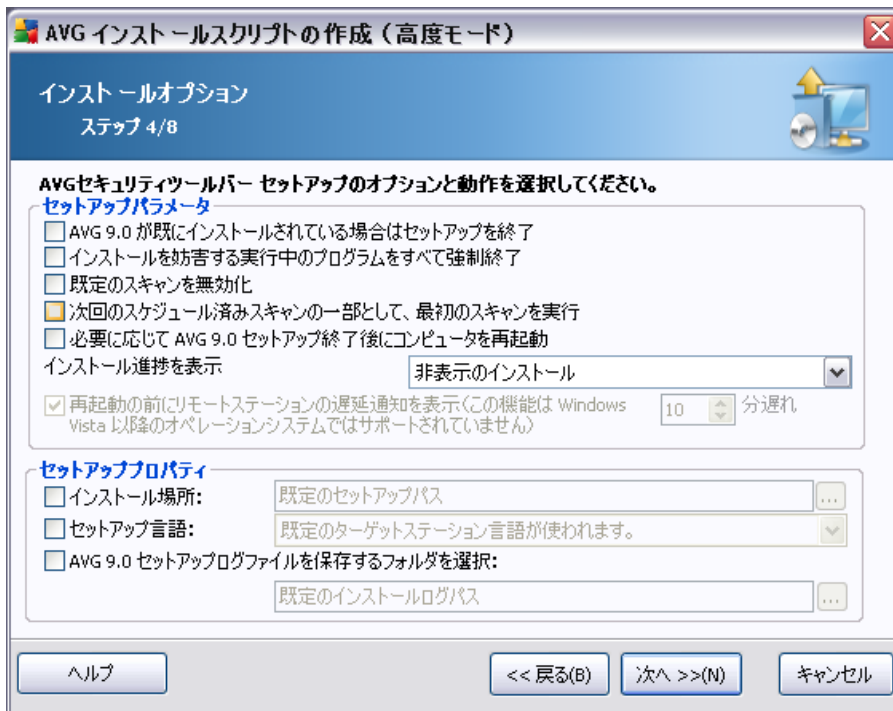
ストールされた AVG Remote Administration に適用する新しいライセンス番号を入力します。



このステップでは、AVG をデフォルト設定でインストールするか、カスタムコンポーネントを選択するかを選ぶことができます。

- **デフォルト設定で AVG をインストール** - デフォルトコンポーネントをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- **インストールコンポーネントを選択** - このオプションを選択すると、インストールまたはアンインストールできるコンポーネントのリストを示すツリー構造を表示できます。AVGコンポーネントのリストから以下を選択します。
  - インストールする必要があるコンポーネント。次のようにマーク付けします。☑
  - インストールするかアンインストールするコンポーネントをこのようにマークします。☒
  - ブランクにしたコンポーネントにはデフォルト設定が使用されます (□)。

- リモート AVG アンインストール - AVG を削除できます。



[セットアップパラメーター] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **AVG 9.0がすでにインストールされている場合はセットアップを終了** - AVG 9.0 が既にターゲットステーションに存在する場合は、リモート管理は実行されません。
- **インストールを妨害するすべての実行中アプリケーションを停止** - リモートインストールプロセスを妨害する可能性のあるすべてのアプリケーションを強制終了します。通常は、実行中の電子メールクライアントやインターネットブラウザです。
- **デフォルトスキャンを無効化** - 毎日のスキャンのデフォルト設定が無効になります。
- **最初のスキャンを、次にスケジュールされたスキャンの一部として実行する** - 最初の最適化スキャンは、最初にスケジュールされたスキャンとともに実行されます。
- **必要に応じて、AVG 9.0セットアップ完了後にコンピュータを再起動** - 場合によっては (ファイアウォールコンポーネントのインストールなど)、インスト

ールを完了するためには、コンピュータを再起動しなければならない場合があります。

- **インストールの進捗状況を表示** - ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。
  - **インストールを非表示にする** - セットアッププロセスの間、ログインしているユーザーに対し、情報がまったく表示されなくなります。
  - **インストールの進捗状況のみを表示** - インストール中、ユーザーが何らかの介入をする必要はありませんが、進捗状況だけがステーションに表示されます。
  - **インストールウィザードを表示** - ステーションにインストールが表示され、現在ログインしているユーザーは、すべてのステップを手動で確定する必要があります。
- **リモートコンピュータのスケジュール済みの再起動に関する通知メッセージを表示** - 直前のチェックボックスがオンになっている場合、再起動を実施する前の待機を定義することができます。デフォルト値は 10 分です。

*注：このオプションは、MS Windows 2000 ではサポートされていません。*

[**セットアッププロパティ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール場所** - インストールの場所をカスタマイズする場合は、パスをここに入力して選択できます。デフォルト設定を維持することをお勧めします。
- **言語のセットアップ** - AVG インストールのカスタム言語を選択します。
- **AVG 9.0 セットアップのログファイルが保管されているフォルダを選択する** - セットアップログファイル用としてカスタムロケーションが望ましい場合は、ここでその場所を選択します (フォルダはターゲットステーションに存在している必要があります)。

AVG インストールスクリプトの作成 (高度モード)

リモート管理設定  
ステップ 5/8

AVG DataCenter の接続文字列を入力してください。ステーションを AVG リモート管理と統合しない場合は、[リモート管理] オプションのチェックを外してください。

遠隔管理 (a)

AVG DataCenter 接続文字列: PC-SCR:4158

ユーザー名:

パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

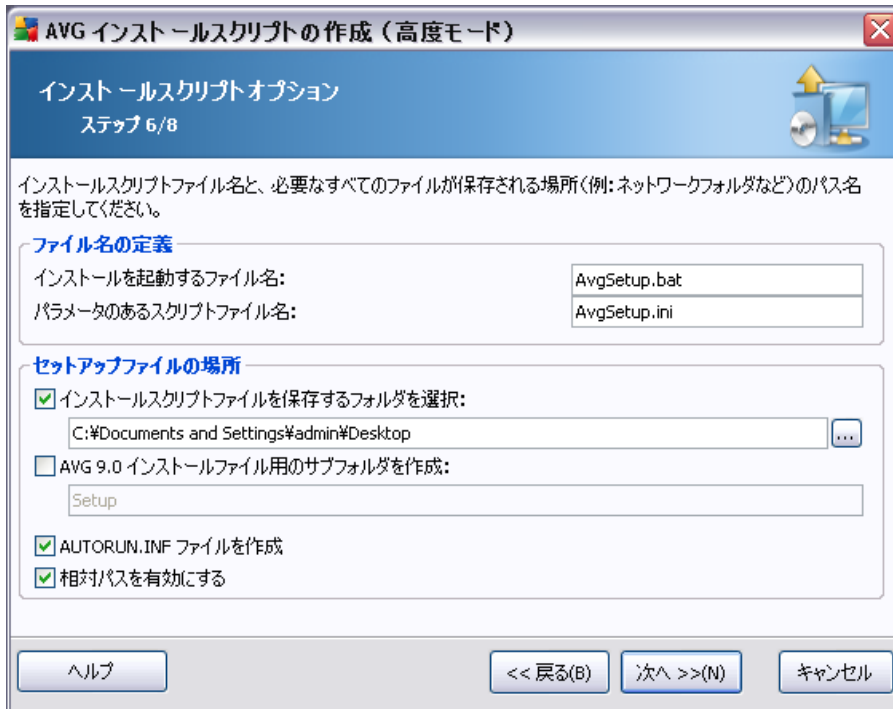
アップデートサーバーアドレス:

ヘルプ << 戻る(B) 次へ >> (N) キャンセル

次のオプションはこのステップで利用できます。

注：これらの設定について不明な点がある場合は、デフォルト設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。該当する場合は、ユーザー名とパスワードも入力します。ステーションを AVG Admin console で管理しない場合は、このオプションをオフにしてください。
- **新しいステーションをグループに追加** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップグレードサーバー** - ステーションで使用するアップデートサーバーが既に存在する場合は、このチェックボックスをオンにし、そのアドレスを入力します。



このステップでは、インストールスクリプトファイル名、保存場所、その他のオプションを指定できます。

[ファイル名定義] では次のオプションを定義します。

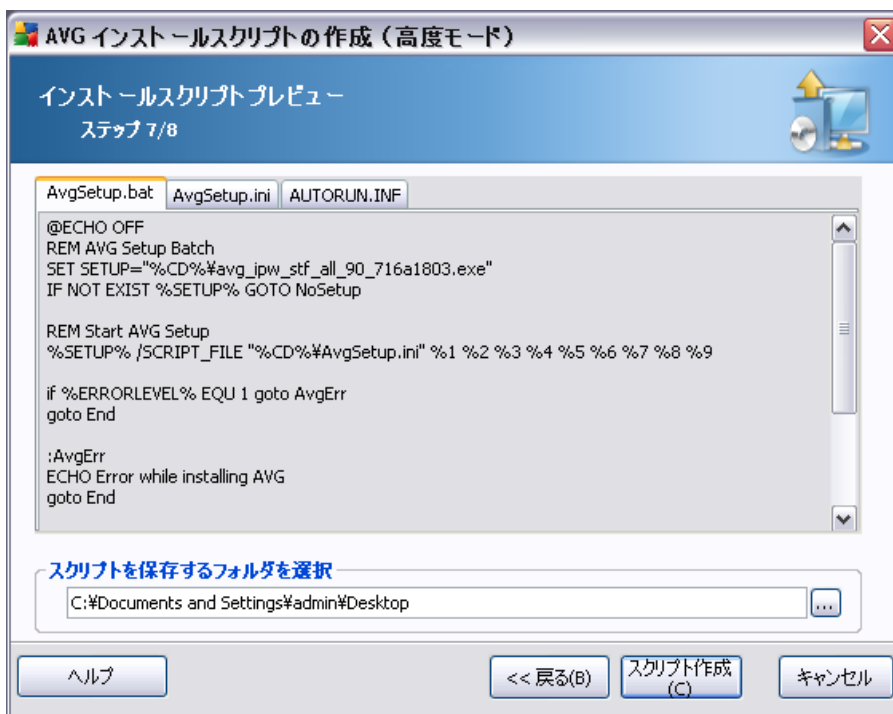
- **インストールを起動するファイル名** - インストールの起動に使用するファイルのカスタム名を入力します。ファイル拡張子は **.bat** でなければなりません。
- **パラメータ付きのスクリプトファイル名** - スクリプトパラメータファイルのカスタム名を入力します。ファイル拡張子は **.ini** でなければなりません。

[セットアップファイルの場所] では次のオプションを定義します。

- **インストールスクリプトファイルを格納するフォルダを選択** - このチェックボックスにチェックを付け、インストールスクリプトを格納するカスタムディレクトリを選択します。
- **AVG 9.0インストールファイルサブフォルダを作成** - AVGセットアップファイルをサブフォルダにコピーし保存する場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **AUTORUN.INF ファイルを作成** - スクリプトを CD/DVD または USB フラッ

シユディスクに作成し、挿入した時点で自動的にインストールを実行する場合は、このチェックボックスをオンにして、AUTORUN.INF を作成します。

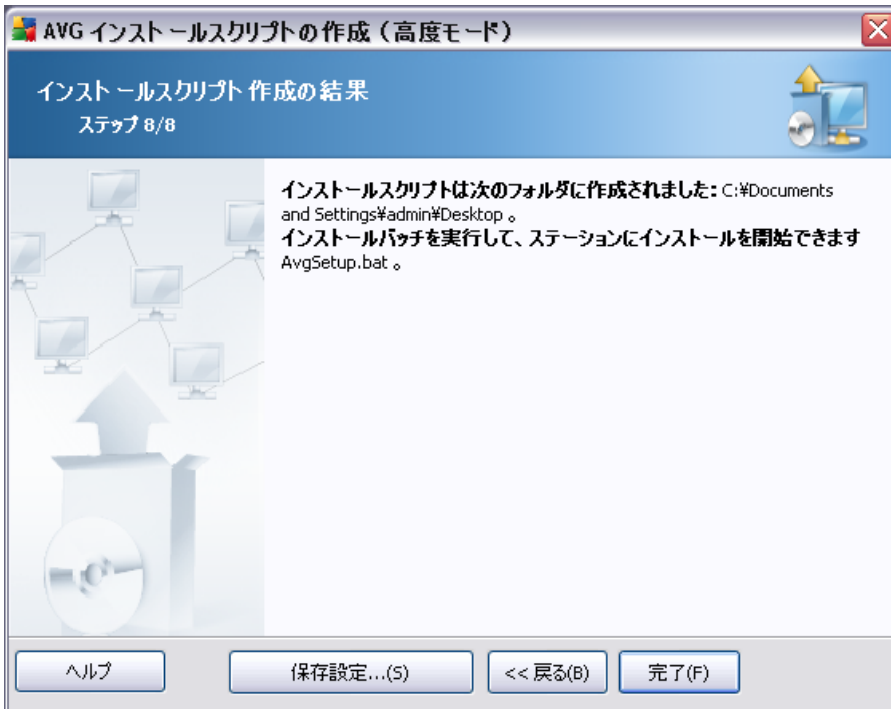
- **相対パスを有効にする** - このオプションにチェックを付けておくことをお勧めします。相対パスは、現在のソースディレクトリに対して相対的です。たとえば、ソースディスクドライブとパスが c:\avginstallation で、このオプションをオフにすると、出力スクリプトはまったく同じパスのインストールファイルを検索します。これは多くの場合、スクリプトを実行するターゲットステーションで異なり、スクリプトが動作しない可能性があります。



このステップにはセットアップファイルとコンフィグレーションファイルのプレビューが含まれます。最初のタブには、セットアップファイルに関する情報が含まれ、2 番目のタブには事前設定された値が含まれます。

まだ出力パスの入力を完了していない場合は [スクリプトの保存先フォルダを選択] セクションに入力します。

インストールスクリプトをコンパイルし選択した場所に保存するには [スクリプト作成] ボタンをクリックします。



[**設定を保存**] ボタンは選択した設定を保存します。再度ウィザードを実行する際に、この設定を最初に読み込むだけで利用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

作成したスクリプトファイルを使用するには複数のオプションがあります。ここに、2つの最も一般的な例があります。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには：

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。

*注意: スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できません。*

2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。
3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。



スクリプトを外付けハードドライブや USB フラッシュディスクなどのリムーバブルデバイスに保存できます。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには：

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。
2. 自動実行機能がステーションのオペレーティングシステムで有効になっていて、スクリプト準備中に autorun.inf ファイルの作成を選択した場合、インストールは自動的に開始されます。
3. そうでない場合は、リムーバブルデバイスディスク文字を開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。

## 6. AVG 管理コンソール

### 6.1. AVG 管理コンソールとは

**AVG Admin console**は、ステーションをリモートで管理するためのインターフェイスです。ネットワーク管理者による AVG ステーションの設定およびステータスのメンテナンス、AVG ステーション上でのさまざまな操作のリモート実行を実現します。このコンソールから、次のことを実行できます。

- AVG ステーションのコンポーネント状態を監視
- AVG ステーションの設定を定義
- スキャン結果を確認し、ウイルス感染を管理
- AVG ステーションのスキャンまたはアップデートをリモートで起動
- ローカルネットワークのアップデートファイルを配信
- AVGステーションのウイルス隔離室にアクセス
- ファイアウォールログファイルの表示

**AVG Admin console**を起動するには、Windows の [スタート] メニューに移動して、[スタート/すべてのプログラム/AVG 9.0 リモート管理/AVG Admin console] を選択します。または、[プログラムファイル] フォルダに移動して (通常は、C:\Program Files)、[AVG\AVG9 Admin\Console\] フォルダを選択し、AVG9AdminConsole.exe をダブルクリックします。

スタートアップ中、**AVG Admin console**は自動的に、最後に使用された **AVG DataCenter** への接続を試みます。接続に失敗するか、**AVG Admin console** を初めて起動する場合は、ダイアログが表示されて、**AVG DataCenter** 接続用の接続文字列を指定するように求められます。通信ストリングは、AVG ステーションの通信ストリングと同じ形式を使用します。詳細については、「[Configuration/Connection string](#)」の章を参照してください。

一般には、**AVG Admin console**が **DataCenter** と同じコンピュータにインストールされている場合、[localhost:4158](#) という通信文字列を使用できます。

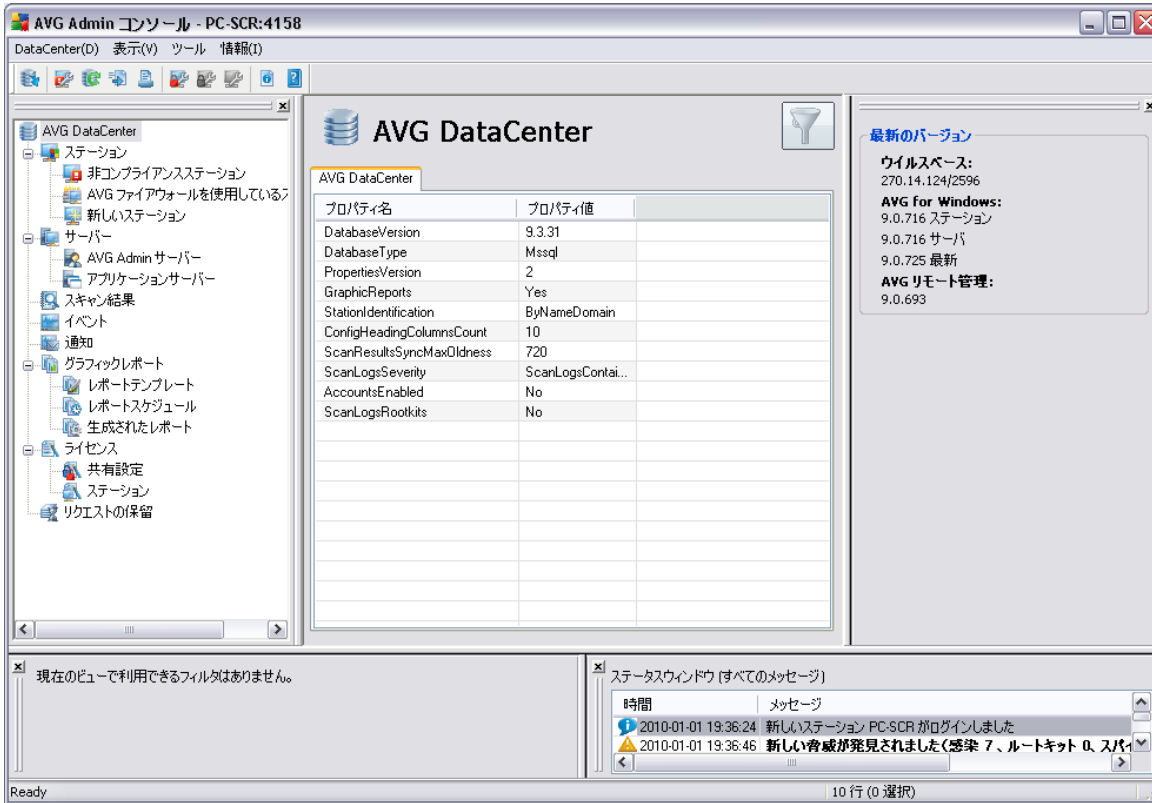


一般的な通信文字列の構成は、[http://server\\_address:port](http://server_address:port) で、

- **server\_address** は **AVG Admin Server**が実行されているサーバー名またはアドレスを示します。
- **port** は **AVG Admin Server**のポート番号を示します。デフォルトポートは 4158 です。**AVG Admin Server**がこのデフォルトポートを使用している場合は、通信文字列にこの番号を含める必要はありません。

**DataCenter** がパスワード保護されている場合、**ユーザー名**と**パスワード**を各フィールドに入力する必要があります。正しいパスワードやログイン名がないと、AVG Admin consoleを起動できません。

## 6.2. AVG 管理コンソールインターフェイスの概要



**AVG Admin console**インターフェイスは完全にカスタマイズ可能です。ユーザーはニーズに合わせて個々のパネルの移動や、有効化/無効化ができます。既定のビューでは、ナビゲーションツールバーと上部メニューの他に、6つのすべてのパネルが表示されます。

### 6.2.1. 上部のメインメニュー

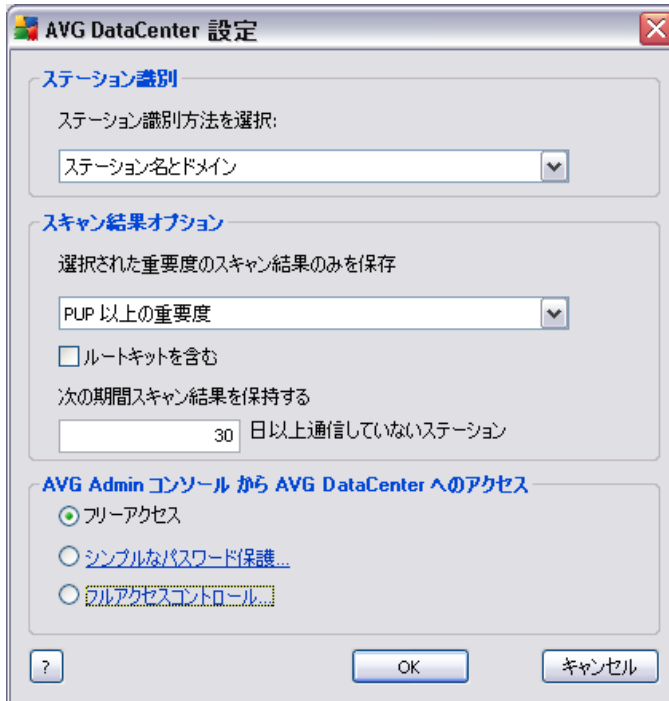
上部メニューには次のメニューアイテムがあります。

#### [DataCenter] メニュー

[DataCenter] メニューには、次のオプションがあります。

- AVG DataCenter に接続...  
別の **DataCenter** に接続できます。

- AVG DataCenter 設定 ...



[**ステーションの識別**] セクションには、ドロップメニューがあり、このドロップダウンメニューを使用して、[現在のビュー] セクション内でステーションを表示する方法を選択できます。

[**スキャン結果オプション**] セクションでは、保存するスキャン結果を重大度に応じて選択することができます。[**ルートキットを含める**] チェックボックスをオンにすると、ルートキットのあるスキャン結果の保存も含めることができます。

**スキャン結果を最大 保存する** - ステーションからのスキャン結果を保持する日数を入力します。デフォルト値は 30 日です。

次のセクションでは、AVG DataCenter アクセスのセキュリティ保護方法を選択します。

**フリーアクセス** - デフォルト設定。AVG DataCenter にはだれでもアクセスできます (パスワードは不要)

**簡単なパスワード保護** - 新しいダイアログが開くので、そこでカスタムパスワードを入力します (検証のため、両方のフィールドの同じパスワードを入力する

必要があります)。AVG DataCenter に接続するたびに、パスワードが必要になります。

**完全アクセス制御** - 詳細については、「[How to manage access rights](#)」の章を参照してください。

- **データベースエクスポート...** - このダイアログでは、バックアップファイルを作成して (DataCenter の内容をファイルにエクスポートするなど)、AVG Admin console が実行されているコンピュータ上のフォルダにそのファイルを保存できます。
- **終了** - AVG Admin console を終了します。

### [ビュー] メニュー

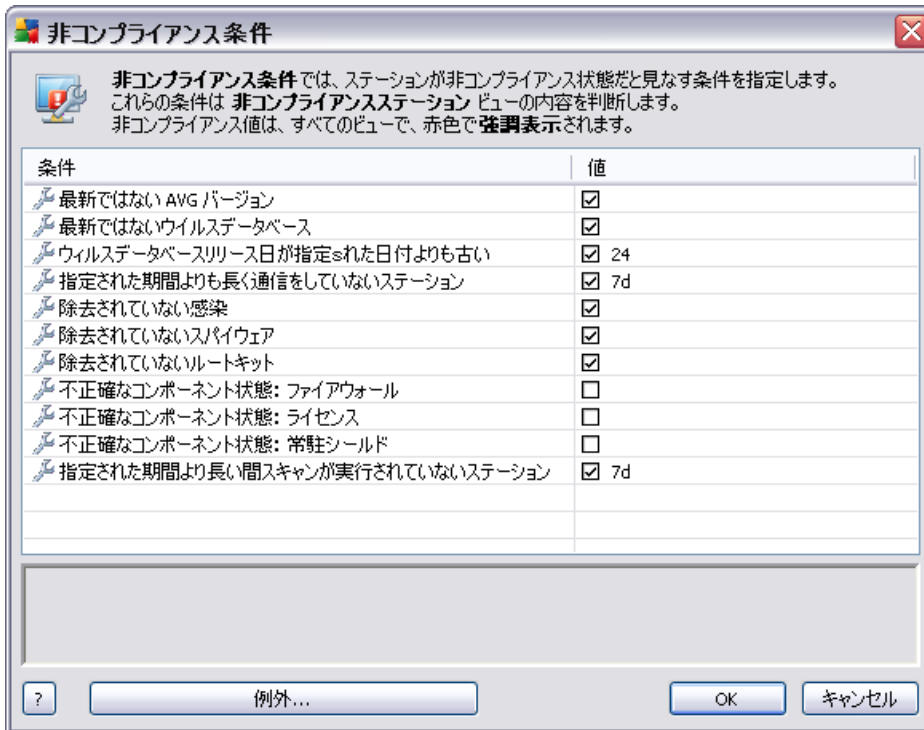
[ビュー] メニューには、次のオプションがあります。

- **パネル**

ここでは、個々のメインインターフェースパネル (ツールバー、ナビゲーションツリー、クイックヘルプなど) を、チェックボックスをオン/オフするだけで、表示/非表示にできます。

すべてのパネルの元の位置を復元するには、[パネルのデフォルト位置] アイテムを使用します。アプリケーションを再起動すると、パネルは復元されます。

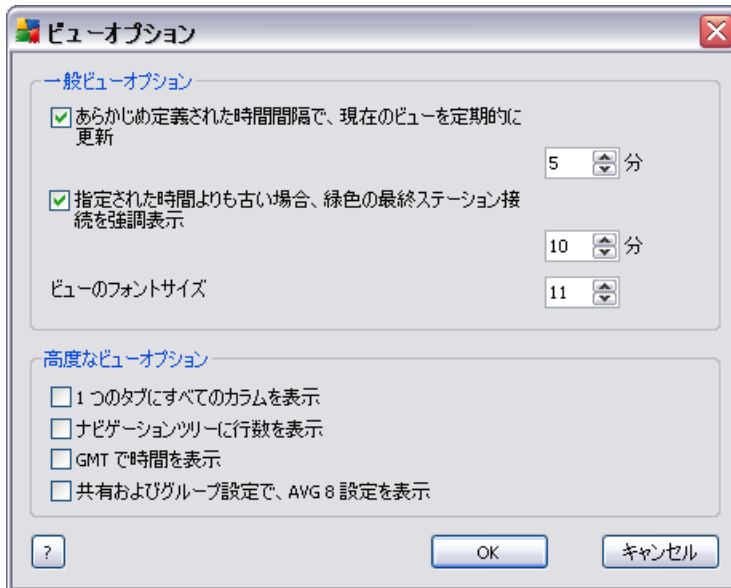
- **非標準状態...**



ステーション上のどの状態を非標準としてみなすかを選択できます。選択に応じて、非標準ステーションはすべての使用可能なビューで、赤い色で強調表示されます。

[例外...] ボタンを使用すると、選択したルールから除外するグループを定義できます。

- デフォルト列設定 - このオプションを使用すると、インターフェイスの列設定を元の状態に戻すことができます。
- オプション



[一般的なビューのオプション section] セクションでは、ビューの選択を行います。

- **事前定義された時間間隔で、現在のビューを定期的に更新する** - このチェックボックスをオンにして、分単位で時間値を選択すると、現在開いているビューが自動的にかつ定期的に更新されます。
- **最後に通信を受けたステーションが** よりも前でない場合は緑色にする - このチェックボックスをオンにして、分単位で時間値を選択すると、最後に通信を受けたセルが強調表示されて、ステーションが適切に通信しているかどうかを確認することができます。
- **ビューのフォントサイズ** - ビューの必要なフォントサイズを選択します (デフォルト値は 11 です)。

[詳細ビューオプション] セクションでは、以下を選択します。

- **1つのタブですべての列を表示する** - このオプションをオンにすると、すべての列が 1つのタブにグループ化されます (すべての情報へのアクセスが容易になります)。
- **ナビゲーションツリーで行の数を表示する** - 有効にすると、ナビゲーションツリーのすべてのアイテムに、括弧で括られた数字が付きます。この数は、使用されている行数が反映された数です。

行の数は手動で、またはメニューアイテム [ナビゲーションツリーで行数を表示/更新する] を選択してアップデートすることができます。また、デフォルトでは、自動的に 5 分間隔でアップデートされます (この間隔は、事前定義された時間間隔の現在のビューの [ビュー/オプション/定期的な更新] を使用して変更可能)。

**注意：** 行の数は、フィルタリングオプション (特定のビューで使用可能で定義可能な場合) によっても影響されます。

- **時間の値を GMT で表示する** - このチェックボックスをオンにすると、すべてのビューのすべての時間の値が GMT (グリニッジ標準時) に変換されます。チェックボックスをオフにすると、値はユーザーの現地時間に戻ります。
- **AVG 8.0 設定を共有およびグループ設定で表示する** - オンにすると、ステーションの共有設定およびグループ設定には、AVG 8.0 設定も表示されます (ネットワーク内に AVG 8.0 ステーションがある場合)。

このオプションを有効にすると、ウィルススペースおよび AVG 8.0 バージョンが [最新バージョン] パネル (メニュー [表示/パネル/最新バージョン]) 表示されます。

- **更新...** - 現在のビューセクションに表示されるすべてのレコードを更新します (F5 キーボードキーも使用できます)。
- **ナビゲーションツリーの行数を更新する** - ナビゲーションツリーの、括弧で括られた行の数がアップデートされます。
- **現在のビューの内容をエクスポート...** - 現在のビュー (ステーションのリストなど) を .csv (カンマ区切り形式) ファイルに保存し、MS Excel や同様のスプレッドシート形式のアプリケーションに簡単にインポートできます。
- **印刷...** - 標準の Windows 印刷ダイアログを開き、現在開いているビューを印刷できます。

## [ツール] メニュー

[ツール] メニューには、次のオプションがあります。

- **ステーションの共有設定...** - ステーションの共有設定を編集するためのダイアログが開きます (ステーションの共有設定の詳細については、[「Configuration/Shared Settings for Stations」](#) の章を参照してください)。
- **ステーションの共有ファイアウォール設定...** - ファイアウォールの共有設定を編集するためのダイアログが開きます (ファイアウォールの共有設定の詳細に

については、「[Configuration/Shared Firewall Settings](#)」の章を参照してください)。

- **アプリケーションサーバーの共有設定...** - アプリケーションサーバーがインストールされたステーションの共有設定を編集するためのダイアログが開きます (これらの共有設定については、「[Configuration/Shared Settings for Application Servers](#)」の章を参照してください)。
- **データベースの保守...** - DataCenter データベースを保守するためのスクリプトを選択できるダイアログが表示されます。詳細については、「[How to maintain the DataCenter database](#)」の章を参照してください。
- **AVG Admin Server設定...** - AVG Admin Server設定を編集するためのダイアログが開きます (AVG Admin Server設定の詳細については、「[Configuration/AVG Admin Server Settings](#)」の章を参照してください)。
- **AVG をステーションにインストールする...** - AVG ネットワークインストーラウィザードが起動し、AVG をステーションでインストールするための手順をガイドします。このトピックの詳細については、「[AVG Network Installer](#)」の章を参照してください。

#### [情報] メニュー

[情報] メニューには、次のオプションがあります。

- **ヘルプ** - ヘルプファイルが開きます。
- **新しい機能...** - AVG 管理アプリケーションの重要な新機能について、段階ごとのサマリーを表示します。
- **アップデートをチェック...** - **AVG Admin console** は起動中、**AVG Admin console** の新しいバージョンがあるかどうかを自動チェックします。ただし、このダイアログを開いて、新しいバージョンが入手可能かどうかをすぐにチェックすることもできます。

ダイアログのリンクを使用して、直接最新のインストールパッケージをダウンロードすることもできます。

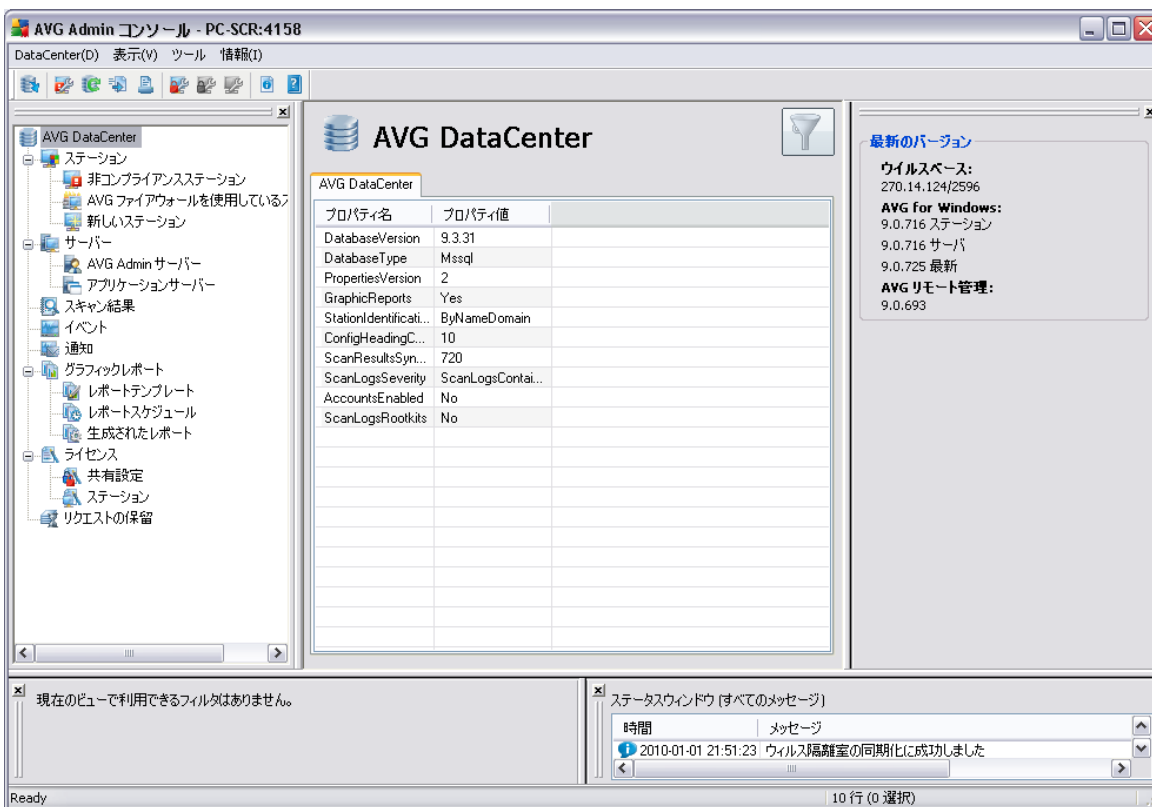
起動時の確認機能を無効にするには、[起動時のアップデート確認] チェックボックスをオフにします。

- **最新のドキュメントをダウンロードする** - AVG Web サイトドキュメンテーションダウンロードページが、デフォルトのインターネットブラウザで開きます。

- **AVG レスキュー CD をダウンロード** - AVG ウェブサイトのレスキュー CD ダウンロードページで既定のインターネットブラウザを開きます。製品をダウンロードするには、AVG レスキュー CD のライセンス番号を入力する必要があります。
- **AVG Admin console について...** - 著作権情報とアプリケーション/データベースバージョン番号を表示します。

## 6.2.2. ナビゲーションツリー

ナビゲーションツリーには、階層順に編成されたすべてのグループが含まれています。グループは、ステーションとその構成のリスト、スキャンの結果表などのデータ構成レビューです。グループの内容自体は、**現在のビュー**の中央のテーブルに表示されます。



The screenshot shows the AVG Admin Console interface. On the left is a navigation tree with categories like 'ステーション', 'サーバー', '通知', 'レポート', and 'ライセンス'. The main area displays a table of properties for 'AVG DataCenter'.

プロパティ名	プロパティ値
DatabaseVersion	9.3.31
DatabaseType	Mssql
PropertiesVersion	2
GraphicReports	Yes
StationIdentificati...	ByNameDomain
ConfigHeadingC...	10
ScanResultsSyn...	720
ScanLogsSeverity	ScanLogsContai...
AccountsEnabled	No
ScanLogsFootkits	No

On the right, a panel titled '最新のバージョン' (Latest Version) lists:

- ウイルスベース: 270.14.124/2596
- AVG for Windows: 9.0.716 ステーション, 9.0.716 サーバ, 9.0.725 最新
- AVG リモート管理: 9.0.693

At the bottom, a status bar shows 'Ready' and a message window with the text: '2010-01-01 21:51:23 ウィルス隔離室の同期化に成功しました'.

ナビゲーションツリーでは、次のセットが表示されます。

- [ステーション](#)

- [サーバー](#)
- [スキャン結果](#)
- [イベント](#)
- [通知](#)
- [グラフィックレポート](#)
- [ライセンス](#)
- [リクエストの保留](#)

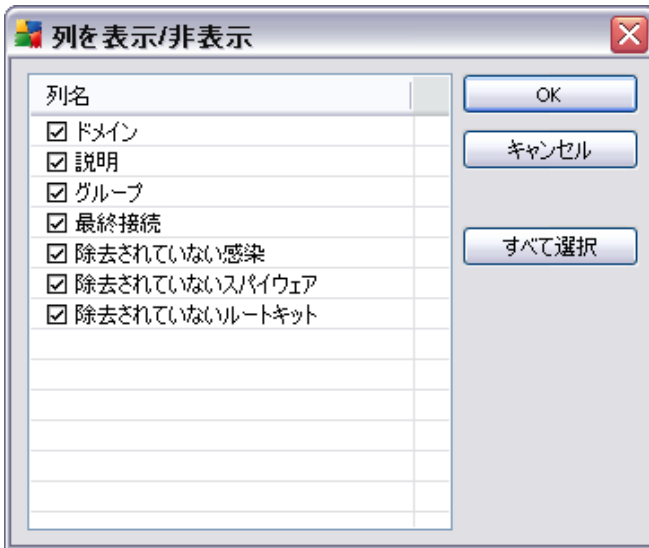
それぞれの章には、このアイテムの説明が記載されています。

### 6.2.3. 記録セクション

画面の [現在のビュー] セクションにある中央のテーブルに、ナビゲーションツリーで選択したグループのデータを表示できます。一部のセットには特定のビューのかなりの量のデータが含まれる場合があります (例: ステーション/ユーザー情報)。これは関連するデータがグループに編成され、対応するタブを選択するときに、すべてのグループを表示できるためです。

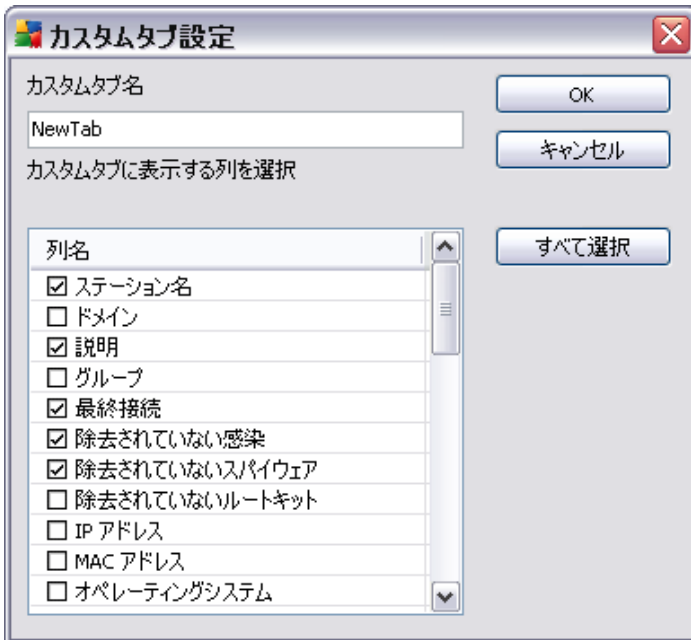
中央のテーブルからレコードを選択するには、希望するレコードをマウスでクリックして実行する必要があります。同時に複数のレコードを選択できます。**CTRL** キー (新しいレコードを現在の選択に追加) か、**SHIFT** キー (最初に選択したレコードと最後にハイライトしたレコードの間の全レコードを選択) を使用できます。選択したレコードを右クリックして、コンテキストメニューを開きます。コンテキストメニューから現在の選択に関するさまざまなアクションを呼び出せます。

特定の列だけを選択して表示する場合は、任意の列を右クリックします。[列を表示/非表示] ダイアログが表示されます。



ここでは、表示または非表示にする列をオンまたはオフにすることができます。[すべて選択] ボタンを使用すると、すべての列が表示されます。

また、所望の列を表示するカスタムタブを、選択したビューに追加することもできます。任意のタブを右クリックして、今テキストメニューから [カスタムタブを追加] を選択します。新しいダイアログが表示されます。



カスタムタブ名を入力して、タブ内で表示する列を選択し、**[OK]** をクリックして選択を確定します。また、**[すべてを選択]** ボタンを選択して、すべての列を選択することもできます。

カスタムタブを作成したら、任意のタブを右クリックして、**[カスタムタブを削除]** を選択すると、タブを簡単に削除できます。既存のタブを変更するには、同じメニューから **[カスタムタブを変更]** を選択します。

Ctrl キーと F キーを同時に押すと、ステーション名を素早く検索できます。次に、ステーション名またはその一部を入力します。入力すると同時に結果が強調表示されます。

後で前の検索結果に戻る場合は、F3 キーボード ボタンを押します。

#### 6.2.4. ステータスパネル

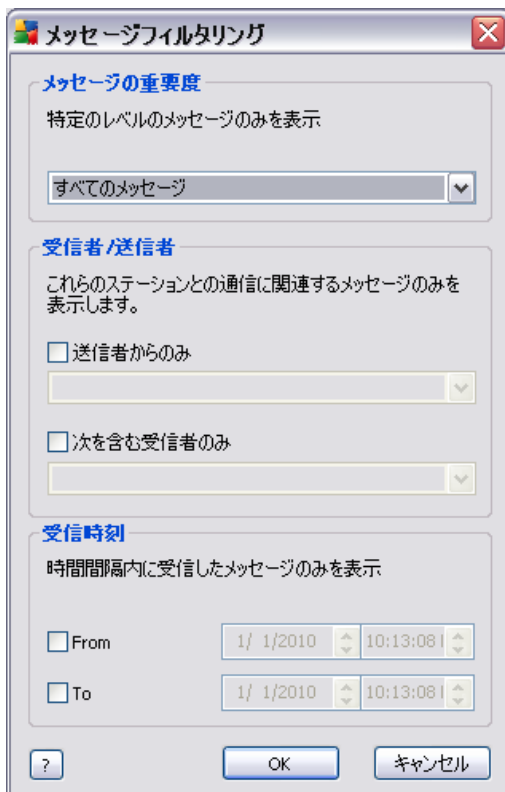
AVG Admin consoleのこの部分では、アプリケーション機能、AVGステーションとの通信、検出された問題、陽性のスキャン結果警告などに関するさまざまなシステム通知と情報が表示されます。

デフォルトではステータスウィンドウパネルは画面の右側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのステータスウィンドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

ステータスメッセージの機能の詳細については、「[Requests handling and status messages](#)」の章を参照してください。

[ステータス] ウィンドウ領域を右クリックすると、次の複数のオプションから選択を行うことができます。

- **すべて表示** - ステータスウィンドウはすべてのメッセージを表示します。
- **エラーと警告を表示** - ステータスウィンドウは、エラーおよび警告メッセージのみを表示します。
- **エラーを表示** - ステータスウィンドウは、エラーメッセージのみを表示します。
- **メッセージフィルタリングを有効化**



このオプションでは、より広範なパラメーターに従ってメッセージをフィルタできます。ドロップダウンメニューから、表示するメッセージのタイプを選択できます。

[受信者/送信者] セクションには 2 つのチェックボックスがあります。上のチェックボックス、[送信者からのみ] をオンにすると、ユーザーは固有の送信者を選択できるコンテキストメニューにアクセスできます。その送信者のメッセージはステータスウィンドウパネルに表示されます。下のチェックボックス、[を含む受信者のみ] をオンにすると、ステーションの 1 つのグループを含むメッセージのみを表示することができます (このグループはコンテキストメニューから選択します)。

最後に、[受信時刻] 領域で、[開始] または [終了] (あるいは両方) チェックボックスをオンにして、メッセージを表示する時間間隔を設定できます。それよりも古いか新しいメッセージは表示されません。

- **メッセージフィルタを無効化** - メッセージフィルタがオフに切り替わります。
- **ウィンドウの内容を保存** - ウィンドウの内容が随時テキストファイルに保存されます。

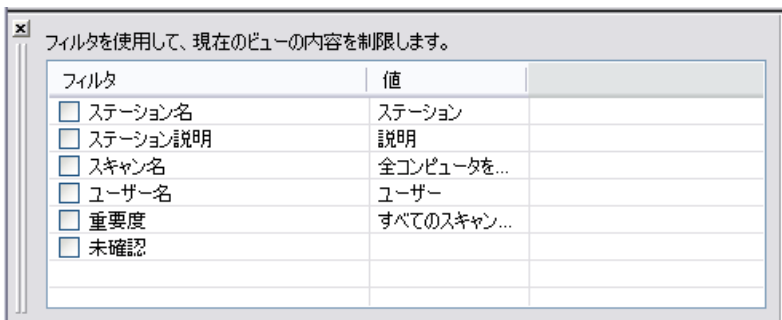
### 6.2.5. クイックヘルプパネル

このパネルには、最も一般的なタスクや問題とソリューションのリストが表示されます。トピックを開くには、名前をクリックします。ソリューションは新しいウィンドウに表示されます。

デフォルトではクイックヘルプパネルは画面の右側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのヘルプウィンドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

### 6.2.6. フィルタパネル

フィルタパネルには現在のビューで利用できるフィルタリングオプションのリストが表示されます。選択したビューで利用できるフィルタがある場合にのみ、リストがアクティブになります。



個々のフィルタの説明については、各ツリーアイテムの章を参照してください。

- [ステーション](#)
- [サーバー \(アプリケーションサーバー\)](#)
- [スキャン結果](#)
- [イベント](#)
- [グラフィックレポート](#)
- [リクエストの保留](#)

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、[表示/パネルメニュー](#)のフィルタウインドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

#### 6.2.7. 最新のバージョン

AVG Admin consoleのメインウィンドウのこの部分では、現在のウィルススペースとAVGのバージョン情報を表示できます。

デフォルトでは最新バージョンパネルは画面の右側にあります。パネルが非表示の場合は、[\[表示/パネル\]](#)メニューの[\[最新バージョン\]](#)アイテムをクリックして有効にすることができます。

### 6.3. 同期プロセス

AVGリモート管理によって管理されているステーションは定期的にAVG DataCenterとの同期を実行します。この処理には次の同期が含まれます。

- [ステーション設定](#)
- [スキャン結果](#)
- [ステーションコンポーネント状態](#)

また、正常な同期に必要な接続要件に関する詳細は、「[Network Requirements](#)」の章を参照する必要がある場合があります。

#### 6.3.1. ステーション設定同期化

ステーション設定の同期中:

- 必須設定は DataCenter からステーションに移行されます。

- 任意設定はステーションから DataCenter へ移行されます。

同期は定期的に行われます。既定では、設定の同期プロセスは60分毎に行われます。すべてのステーションの同期期間を変更するには、次の手順に従います。

1. AVG Admin consoleで、[ツール] を選択し、ステーションの共有設定アイテムを選択します。
2. Remote Administration ノードを選択します。
3. [おきに構成を同期] ドロップダウンメニューから、必要な値を選択します。[OK] ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
4. すべてのステーションが同期するまでお待ちください

あるいは、すべてのステーションで強制即時同期ができます。ナビゲーションツリーのステーションのノードをクリックし、コンテキストメニューから [設定の同期化] を選択します。

*注：グループ内のステーションの実際の設定を変更する場合は、ステーション/グループ名を右クリックして、コンテキストメニューから [グループの共有設定] を選択してから、ステップ 2 を繰り返してください。*

また、同期は以下のタイミングで行われます。

- ステーションの電源がオンになるときおよびオンラインになるときは常に、遅くともその期間中に設定が同期されます。
- ステーションが初めてAVG DataCenterに接続するとき、設定は即時同期されません。
- 1つまたは複数のステーションの設定が変更され、AVG Admin consoleから確認される時。

AVG Admin consoleから即時設定同期をリクエストすることもできます。ナビゲーションツリーのステーションのノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから [設定の同期化] を選択します。

### 6.3.2. スキャン結果の同期化

この同期処理は、ステーションから AVG DataCenter にデータを送信します。これは以下のタイミングで行われます。

- ステーションの電源がオンになるときおよびオンラインになるとき (遅くとも 20 分以内)。

- スキャンの完了後あるいは常駐シールドによって感染が検出された後すぐ。
- AVG ユーザーインターフェイスのステーション上のユーザーによって行われたスキャン結果の修正（修復、ウイルス隔離室に移動等）があった場合すぐあるいは遅くとも 20 分以内。

AVG Admin console から即時スキャン結果同期をリクエストすることもできます。ナビゲーションツリーのステーションのノードあるいはステーションビューの特定のステーションを単純に右クリックし、コンテキストメニューから [すべてのタスク/スキャン結果の要求] を選択します。

### 6.3.3. ステーションコンポーネント状態の同期化

この同期処理は、ステーションから AVG DataCenter にデータを送信します。これは以下のタイミングで実行されます。

- ステーションの電源がオンになるときおよびオンラインになるとき（即時）。
- コンポーネントの状態が変更になったとき（5 分以内）。

AVG Admin console から即時同期化をリクエストすることもできます。ナビゲーションツリーでステーションのノードを選択し、ステーションビューで右クリックし、コンテキストメニューから [すべてのタスク/コンポーネントの状態の更新] を選択します。

## 6.4. ステーション

ステーションアイテムでは、現在 AVG DataCenter で管理されているすべてのステーションに関する複雑な情報を表示できます。ステーションのレコードは、ステーションが最初に AVG DataCenter にログインしたときに作成されます。

ステーションのグループを作成したり（ビューセクションに表示されているステーションのグループのテーブルでコンテキストメニューを使用）、1 つのステーションを特定のグループに割り当てたりすることができます。

デフォルトでは、ステーションは 3 つのグループに分かれます。

- [非準拠ステーション](#) - 非準拠状態（事前定義された条件に一致しないなど）にあるステーションが含まれます。
- [AVG ファイアウォールがあるステーション](#) - ファイアウォールコンポーネントがインストールされたステーションのリストが含まれます。

- [新規ステーション](#) - 管理者が定義したグループに割り当てられていないステーションのみが含まれます。

各グループの詳細については、以下の章を参照してください。

[現在のビュー] セクションでは、特定のステーションに関連した情報を表示できます。タブを使用して、情報は複数のカテゴリーに分類されます。

- **[ステーション] タブ**

各ステーションに関する一般的な情報が含まれています (名前、ドメイン、グループ、最後の通信など)。

- **[詳細] タブ**

IP アドレス、MAC アドレス、オペレーティングシステム、再起動要求など、ステーションに関する追加情報が表示されます。

- **[バージョン] タブ**

各ステーションのAVGのバージョン、ウィルスベース、スパイウェア対策ベース、スパム対策ベースのバージョン情報が表示されます。

- **[コンポーネントの状態] タブ**

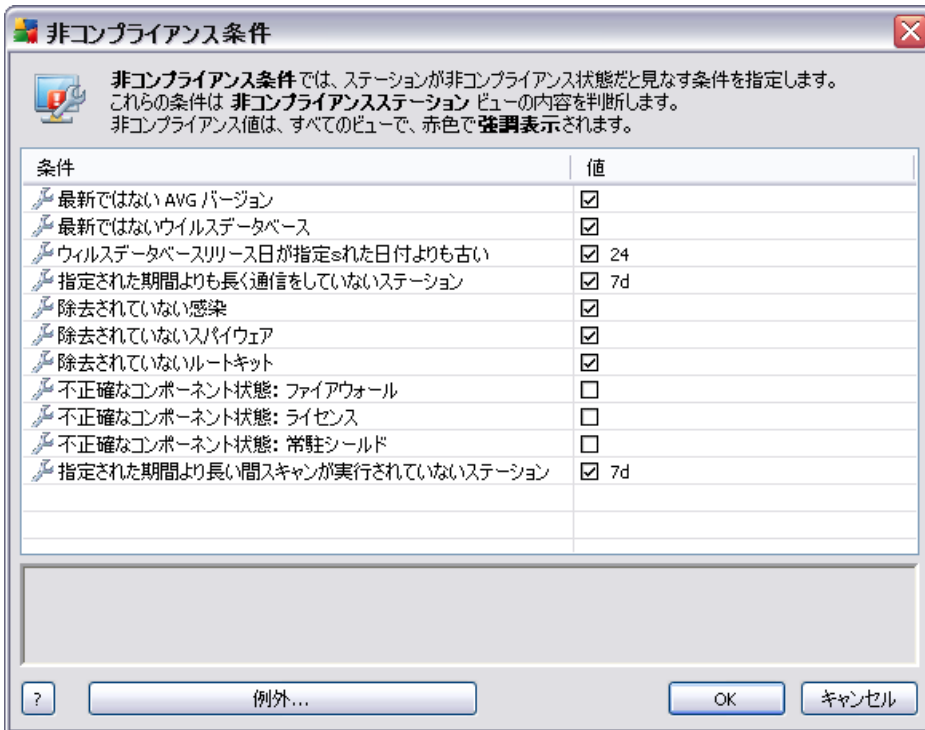
各ステーションのコンポーネントの情報に関する概要が含まれています。

他のオプションや設定の詳細については、「Configuration/[AVG Admin Console](#)」の章を参照してください。

#### 6.4.1. 非準拠ステーション

[非準拠状態] ダイアログには、[ビュー] メニューの [非準拠状態...] アイテムを選択することで、アプリケーションの上部メニューからアクセスできます。

このダイアログでは、非準拠と見なされるときステーションの状態を指定できます。



状態は以下の通りです。

- **AVG バージョンが古い** - ステーションの AVG バージョンが最新ではない場合に、ステーションは非準拠と見なされます。
- **ウイルスデータベースバージョンが古い** - ステーションのウイルスデータベースが最新ではない場合に、ステーションは非準拠と見なされます。
- **ウイルスデータベースのリリースデータがより古い** - このオプションを使用する場合、入力されたインターバルよりもウイルスデータベースが古いステーションが強調表示されます。
- **次の期間以上ステーションと通信していない** - 指定された時間または日数以上 (時間には通常のデジタル値を入力し、日数には 7 日の 7d のようにデジタル値を入力します) ステーションと通信していない場合、ステーションは非準拠と見なされます。
- **削除されていない感染** - このオプションをオンにすると、感染が削除されていないステーションが強調表示されます。
- **削除されていないスパイウェア** - このオプションをオンにすると、スパイウェア

アが削除されていないステーションが強調表示されます。

- **削除されていないルートキット** - このオプションをオンにすると、ルートキットが削除されていないステーションが強調表示されます。
- **不適切なコンポーネントの状態：ファイアウォール** - このオプションをオンにすると、ファイアウォールコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **不適切なコンポーネントの状態：ライセンス** - このオプションをオンにすると、ライセンスコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **不適切なコンポーネントの状態：常駐シールド** - このオプションをオンにすると、常駐シールドコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **より長い期間、ステーションでスキャンが実行されていない** - このオプションをオンにすると、長期間、コンピュータ全体でスキャンしていないステーションまたはスケジュールされたスキャンが実行されていないステーションが強調表示されます。時間単位または日数で指定できます。

次のボタンを使用できます。

- **例外...** - 選択されたルールから除外するグループを定義できます。

[OK] ボタンをクリックして選択内容を確定するか、[キャンセル] をクリックして閉じます。

#### 6.4.2. AVG ファイアウォールのあるステーション

AVG ファイアウォール搭載ステーショングループには、ファイアウォールが有効になっているすべてのステーションのリストがあります。

マウスをダブルクリックするか、**Enter** キーを押して、[ファイアウォール構成] ダイアログを開きます。安全上の理由により、特定の設定のみを変更できます。

すべての設定および状態の詳細を確認するには、「[共有ファイアウォール設定](#)」の章を参照してください。

#### 6.4.3. 新規ステーション

事前定義されたグループに割り当てられていないステーションのみが含まれます。

#### 6.4.4. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。フィルタはデフォルトで、フィルタパネルの左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのフィルタウインドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できません。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*, *Station02* なども表示します。

ステーションのフィルタリングオプションは次のとおりです。

**注意：**フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。**結果は即時表示されます。**

- **ステーション名**

フィルタするカスタムステーション名を入力します。

- **ステーションの説明**

フィルタするカスタムステーションの説明を入力します。

- **ステーションのドメイン**

フィルタするカスタムステーションのドメイン名を入力します。

- **ステーションの IP アドレス**

フィルタするカスタムステーションの IP アドレスを入力します。

- **ステーションオペレーティングシステム**

フィルタで除外するカスタムオペレーティングシステム名またはその一部を入力します。例えば、Windows XP をインストールしたすべてのステーションのみを表示する場合は、次の文字列を入力します。

\*XP\*

- **感染したステーション**

このオプションをオンにして、感染したステーションをフィルタします。

- **リモートインストールの後、ステーションが接続されていません**

このオプションをオンにして、リモートインストール後に接続できなかったステーションのみを表示します。

- **再起動が必要です**

このオプションをオンにして、再起動が必要なステーションのみを表示します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから [すべてのフィルタをオフにする] を選択します。

**注意:** すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

フィルタを無効にするには、チェックボックスをオフにします。

## 6.5. サーバー

[サーバー] アイテムには、AVG アプリケーションサーバーコンポーネントがインストールされたすべての配置サーバーとステーションの概要が表示されます。

### 6.5.1. AVG 管理サーバー

このアイテムは、インストール済みの AVG Admin Server のリストを表示します。任意のサーバーをダブルクリックすると、指定されたサーバーの構成ダイアログが開き、サーバー設定を変更できます。

他のオプションや設定の詳細については、「Configuration/[AVG Admin Server Settings](#)」の章を参照してください。

### 6.5.2. アプリケーションサーバー

このアイテムは AVG アプリケーションサーバーがインストールされたステーションのリストを表示します。

[現在のビュー] セクションでは、特定のステーションに関連した情報を表示できます。タブを使用して、情報は複数のカテゴリに分類されます。

- **サーバータブ**

各ステーションに関する一般的な情報が含まれています (名前、ドメイン、グループ、最後の通信など)。

- **[詳細] タブ**

IP アドレス、MAC アドレス、オペレーティングシステム、再起動要求など、ステーションに関する追加情報が表示されます。

- **[バージョン] タブ**

各ステーションのAVGのバージョン、ウイルスベース、スパイウェア対策ベースのバージョン情報が表示されます。

- **[コンポーネントの状態] タブ**

各ステーションのコンポーネント状態の概要を説明しています。

その他の一般オプションと設定に関する情報は、[設定/AVG Admin console](#)の章を参照してください。

左のツリーにある **[アプリケーションサーバー]** アイテムを右クリックすると、アプリケーションサーバーに適用するオプションを次から選択できます。

- **アプリケーションサーバーの共有設定** - アプリケーションサーバーの高度な共有設定ダイアログを開きます。

- **アプリケーションサーバーのアクセスコントロール**

フルアクセスコントロール機能 (AVG Admin consoleの上部メニュー [**DataCenter**] メニュー、**[DataCenter 設定]** メニューアイテム) をご利用の場合で、1つ以上のユーザーアカウントを作成している場合は、この機能を使いステーションの選択したグループにアクセス権をセットする機能が利用できます (この場合はアプリケーションサーバー)。

このアカウント名のいずれかをダブルクリックし、ロールダウンメニューを表示します。あるいは、右クリックして同じ内容のコンテキストメニューを表示します。ここからアクセス権の種類を選択できます。

- **フルアクセス** - 選択したユーザーアカウントはグループへのフルアクセスを持ちます。
- **読み取り専用** - 選択したユーザーアカウントはグループを閲覧することのみ可能です。

- **アクセス禁止** - 選択したユーザーはグループへのアクセスを禁止されま  
す。
- **設定の同期化** - グループ内のすべてのステーションに設定の即時同期化を要求  
します。
- **プログラムアップデートの実行を要求** - グループ内のすべてのステーション  
にプログラムアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルスデータベースアップデートの実行を要求** - グループ内のすべてのス  
テーションにウイルスデータベースアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策データベースアップデートのロールバックを要求** - グ  
ループ内のすべてのステーションに以前のウイルスデータベースバージョンを使  
用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデートファイルを削除** - すべてのステーションに一時アップデート  
ファイルを削除する要求を送信します。
- **スキャン結果を要求** - グループ内のすべてのステーションにスキャン結果を要  
求します。

アプリケーションサーバー画面内のステーション上で右クリックをすると、次のオプ  
ションを選択できます。

- **ステーションの削除** - AVG DataCenter からステーションを削除します。
- **設定** - [ステーション設定] ダイアログを開きます。
- **ファイアウォール設定** - [ステーションのファイアウォール設定] ダイアログを  
開きます。
- **設定の同期化** - ステーションの設定を AVG DataCenter と即時同期化するよう  
に要求します。
- **サーバープラグインのログを表示** - 選択したサーバーコンポーネントのログを  
表示します。カスタム日時範囲を選択できます。[更新] ボタンを使用して、最新  
の結果を表示します。
- **サーバープラグイン統計を表示** - 選択したサーバーコンポーネントの統計を表  
示します。[更新] ボタンを使用して最新の結果を表示し、[統計のリセット] ボ  
タンで現在の値を削除、[詳細を表示] ボタンでログを表示します。
- **サーバープラグイン統計をリセット** - このオプションを使用して選択したサ  
ーバーコンポーネントの統計を即時リセットします。

- すべてのタスク - サブアイテムに関する詳細は、設定/AVG Admin console/コンテキストメニュー [の章をご覧ください。](#)

その他のオプションと個別のアプリケーションサーバーの設定は、[設定/アプリケーションの共有設定の章をご覧ください。](#)

### 6.5.3. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。フィルタはデフォルトで、[フィルタパネル](#)の左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、[表示/パネルメニュー](#)の[フィルタウィンドウ](#)アイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*, *Station02* なども表示します。

サーバーのフィルタリングオプションは次のとおりです。

注：フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **ステーション名**  
フィルタするカスタムステーション名を入力します。
- **ステーションの説明**  
フィルタするカスタムステーションの説明を入力します。
- **ステーションのドメイン**  
フィルタするカスタムステーションのドメイン名を入力します。
- **ステーションの IP アドレス**  
フィルタするカスタムステーションの IP アドレスを入力します。
- **ステーションオペレーティングシステム**

- **感染したステーション**

このオプションをオンにして、感染したステーションをフィルタします。

- **リモートインストールの後、ステーションが接続されていません**

このオプションをオンにして、リモートインストール後に接続できなかったステーションのみを表示します。

- **再起動が必要です**

このオプションをオンにして、再起動が必要なステーションのみを表示します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから [すべてのフィルタをオフにする] を選択します。

**注意:** すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

フィルタを無効にするには、チェックボックスをオフにします。

## 6.6. スキャン結果

このアイテムでは、ステーション上のすべてのスキャン結果の概要（常駐シールドまたは Web シールドの結果も含む）とともに、特定のスキャンに関連した詳細が示されます。スキャン結果は、ステーションから定期的に取得されるようにデフォルト設定されていますが、必要に応じて手動でリクエストすることができます。

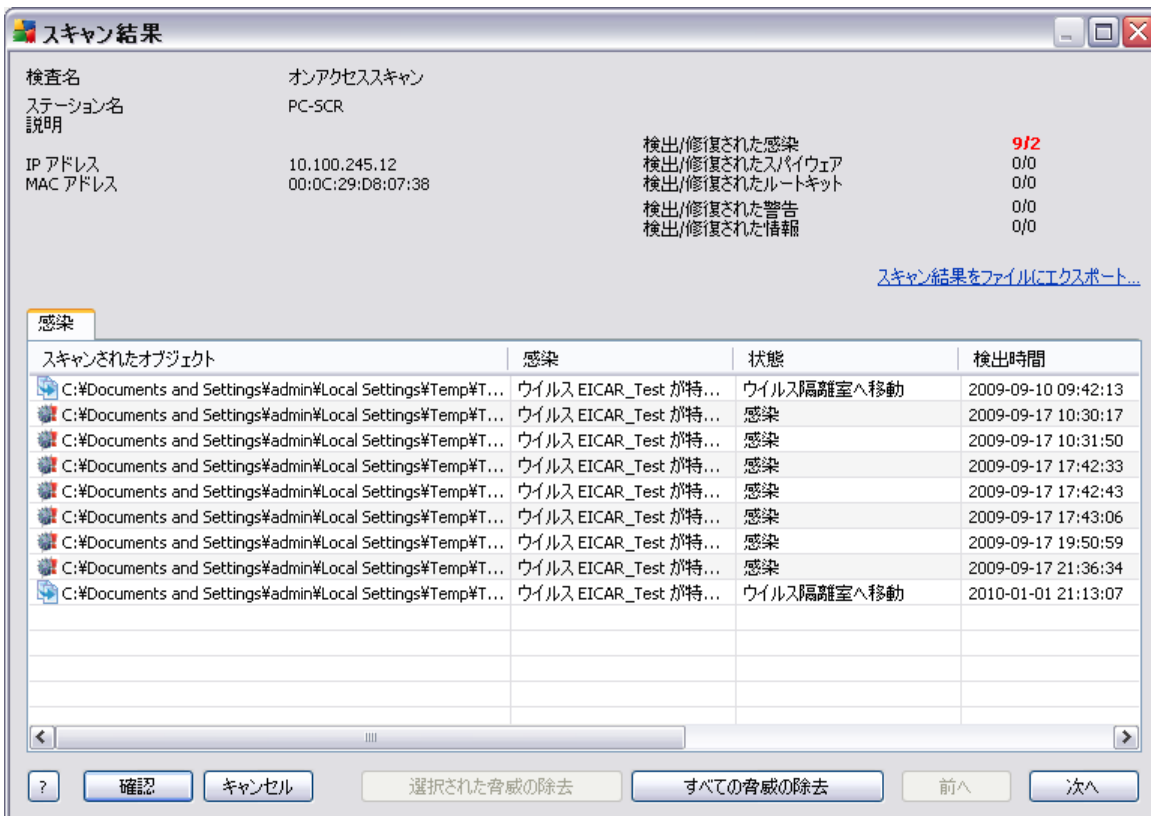
- **個々のステーション -** ステーション/グループビューのステーション名を右クリックして、**すべてのタスク/スキャン結果を要求アイテム**を選択します。
- **グループのすべてのステーション -** グループ名を右クリックして、**スキャン結果を要求アイテム**を選択します。
- **すべてのステーション -** メインツリーのステーションアイテムを右クリックして、**スキャン結果を要求アイテム**を選択します。

右クリックで表示されるコンテキストメニューには、次のオプションがあります。

- **スキャン結果を削除** - 選択したスキャン結果を削除します。
- **スキャン結果を確認** - 選択したスキャン結果を、確認済みとしてマーク付けします。[確認時間] 列には、確認の日時が含まれます。また、他のレポートの許可済みスキャン結果からの感染数は表示されません。

- スキャン結果をアップデート - 選択したスキャン結果を再度同期します。

また、特定のスキャン結果を表示するには、リクエストされた行をダブルクリックするか、または右クリックのコンテキストメニューから [スキャン結果の詳細] オプションを選択します。新しいウィンドウが表示されます。



**スキャン結果**

検査名: オンアクセススキャン  
 ステーション名: PC-SCR  
 説明:   
 IP アドレス: 10.100.245.12  
 MAC アドレス: 00:0C:29:D8:07:38

検出/修復された感染	9/2
検出/修復されたスパイウェア	0/0
検出/修復されたルートキット	0/0
検出/修復された警告	0/0
検出/修復された情報	0/0

[スキャン結果をファイルにエクスポート...](#)

**感染**

スキャンされたオブジェクト	感染	状態	検出時間
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	ウイルス隔離室へ移動	2009-09-10 09:42:13
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 10:30:17
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 10:31:50
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 17:42:33
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 17:42:43
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 17:43:06
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 19:50:59
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	感染	2009-09-17 21:36:34
C:\Documents and Settings\admin\Local Settings\Temp#T...	ウイルス EICAR_Test が特...	ウイルス隔離室へ移動	2010-01-01 21:13:07

確認    キャンセル    選択された脅威の除去    すべての脅威の除去    前へ    次へ

検出されたウイルスによっては、複数のタブが表示される場合があります。各タブには検出内容のリスト (感染、スパイウェアなど) が表示されます。各タブでは、次のオプションが利用できます。

- **確認** - このボタンを使用すると、検査結果を確認済みとしてマークし、他のレポートで許可された検査からの感染数が表示されません。
- **キャンセル** - ウィンドウを終了します。
- **選択した脅威を除去** - 選択した脅威のみを除去します。
- **すべての脅威を除去** - リストのすべての脅威を除去します。

- **前** - 該当する場合は、スキャン結果ビューに前のスキャン結果を表示します。
- **次** - 該当する場合は、スキャン結果ビューに次のスキャン結果を表示します。
- **スキャン結果をファイルにエクスポート** - このハイパーリンクをクリックすると、リスト表示されたスキャン結果をテキストファイル (.csv) に保存します。

リストの検出内容を右クリックすると、次のアクションを選択できます (アクションの利用可否はファイル/感染タイプによって異なります)。

- **修復** - 選択した検出内容を修復するようにステーションに要求します。
- **削除** - 選択した検出内容を削除するようにステーションに要求します。
- **ウイルス隔離室に移動** - 選択した検出内容をステーションのウイルス隔離室に削除するようにステーションに要求します。
- **例外として追加** - 選択した検出内容の例外を作成するようにステーションに要求します。AVGはこのファイルを無視し、レポートしなくなります。

ステーションが有効な場合、リクエストされた処理はリクエスト後、即座に実行されます。ステーションが現在有効ではない場合 (AVG DataCenter に接続していない場合など)、すべての保留中の操作は次回ステーションが接続したときに処理されます。

アクションの要求後、AVGステーションが有効でない場合、要求した検査結果の検出が試行され、すべての選択した感染が処理されます。

以下にリストされているアクション結果の状態の1つが [状態] 列に表示されます。状態は次の通りです。

- **除去** - ファイルの感染は除去されました。
- **感染** - ファイルは感染しています。
- **隔離室に移動** - ファイルはステーション上のウイルス隔離室に移動されています。
- **ウイルス隔離から復元** - ファイルは隔離室から復元されました。
- **削除** - 感染は削除されました。
- **例外として追加** - 感染は例外として追加されたため、脅威とは見なされなくなります。

### 6.6.1. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。フィルタはデフォルトで、フィルタパネルの左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのフィルタウインドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できません。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*, *Station02* なども表示します。

スキャン結果のフィルタリングオプションは次のとおりです。

注：フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **ステーション名**  
フィルタするカスタムステーション名を入力します。
- **ステーションの説明**  
フィルタするカスタムステーションの説明を入力します。
- **スキャン名**  
フィルタするカスタムスキャン名を入力します。
- **ユーザー名**  
フィルタするカスタムユーザー名を入力します。
- **重要度**  
ドロップダウンメニューから、所望の重大度を選択します。
- **未確認**  
このフィルタは、未確認のスキャン結果のみを表示します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウインドウを右クリックして、コンテキストメニューから [すべてのフィル

タをオフにする]を選択します。

注意: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

## 6.7. イベント

イベント項目を使用すると、Alert Manager で定義されているように、AVG DataCenter に送信された個々のイベントを表示できます (詳細については、[Configuration/Alert Manager Settings](#) を参照)。各行は 1 つのイベントを表し、列の名前をクリックするだけで、重大度、イベントタイプ、ステーション名などに応じて並べ替えることができます。イベントの詳細を確認するには、対応する行をダブルクリックします。

使用可能な右クリックオプションは次のとおりです。

- **イベントの詳細** - イベントの詳細が表示されます。
- **既読としてマーク** - イベントは既読としてマークされます。
- **選択したイベントを削除** - 選択したイベントが削除されます。

### 6.7.1. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。フィルタはデフォルトで、フィルタパネルの左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのフィルタウィンドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*, *Station02* なども表示します。

イベントのフィルタリングオプションは次のとおりです。

注: フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **重要度**

フィルタする重要度の値を入力します。

- **イベントタイプ**  
フィルタするイベントタイプの値を入力します。
- **ステーション名**  
フィルタするカスタムステーション名を入力します。
- **ユーザー名**  
フィルタするカスタムユーザー名を入力します。
- **開始**  
フィルタするカスタム日時値を入力します。
- **終了**  
フィルタするカスタム日時値を入力します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから **[すべてのフィルタをオフにする]** を選択します。

**注意:** すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

## 6.8. 通知

通知アイテムは、実行された通知アクションから選択できます。これらの通知を一度設定すると、AVG Admin console内の各種イベントに関する電子メールで管理者に通知できます。

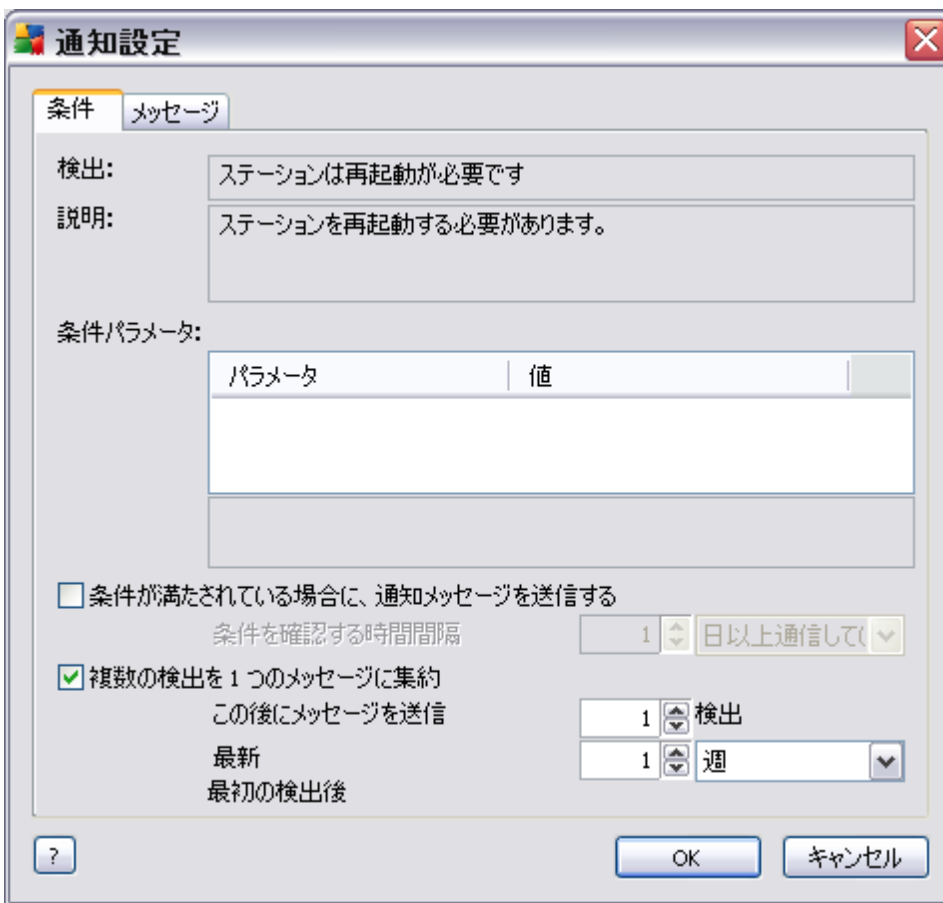
**注:** 電子メール通知を適切に行うには、[\[構成 / AVG Admin Server設定 / 電子メール\] タブ](#)でSMTPサーバーを適切に定義する必要があります。

通知を有効にするには、行を右クリックして、コンテキストメニューから **[有効化]** を選択する必要があります。

行 ( 特定の通知など ) をダブルクリックすると、**[通知設定]** ダイアログが開かれ、さらにかスタマイズを行うことができます ( 以下の章を参照 ) 。

### 6.8.1. [状態] タブ

このタブでは、通知を送信する条件をカスタマイズできます。



パラメータ	値
-------	---

条件が満たされている場合に、通知メッセージを送信する  
条件を確認する時間間隔: 1 日以上通信して

複数の検出を1つのメッセージに集約  
この後にメッセージを送信: 1 検出

最新  
最初の検出後: 1 週

[条件が満たされたときに通知メッセージを送信] チェックボックスをオンにすると、上記のパラメータまたは条件が一般的に満たされた時点で電子メールが送信されます。

また、条件をチェックする期間も選択できます。

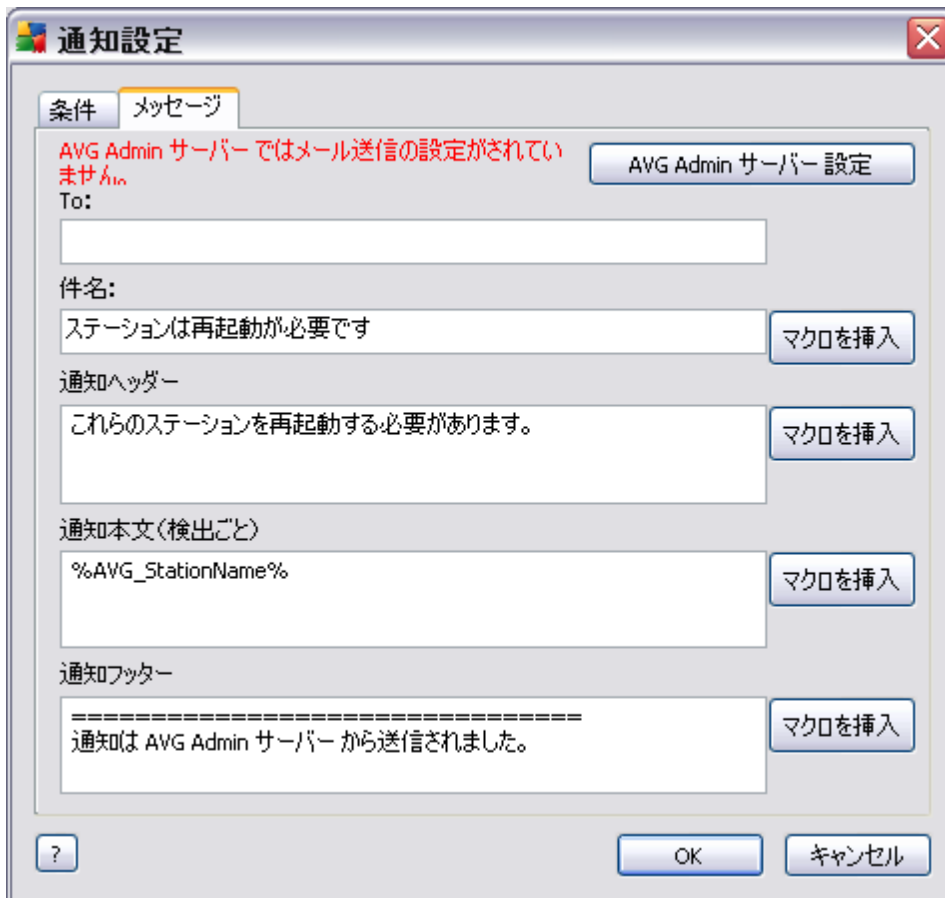
通知メッセージが送信される前に実行すべきイベント発生数をカスタマイズする場合は、[複数のグループを1つのメッセージにグループ化] チェックボックスをオンに

します。

特定の通知では、一部の条件パラメータが利用でき、該当する行をダブルクリックして、必要な値を入力すると、パラメータを変更できます。

### 6.8.2. [メッセージ] タブ

このタブでは、通知メッセージ自体をカスタマイズできます。



通知設定

条件 メッセージ

AVG Admin サーバーではメール送信の設定がされていません。 AVG Admin サーバー 設定

To:

件名:  
ステーションは再起動が必要です マクロを挿入

通知ヘッダー  
これらのステーションを再起動する必要があります。 マクロを挿入

通知本文(検出ごと)  
%AVG\_StationName% マクロを挿入

通知フッター  
=====  
通知は AVG Admin サーバー から送信されました。 マクロを挿入

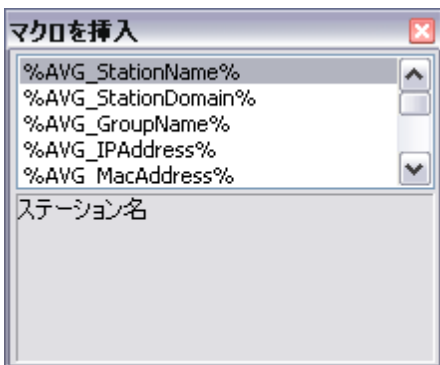
? OK キャンセル

使用可能なフィールドは次のとおりです。

- 宛先 - メッセージの受信者のアドレスを入力します ( [example@somedomain.com](mailto:example@somedomain.com) )
- 件名
- 通知ヘッダー

- 通知本文
- 通知フッター

これらのフィールドでは、メッセージ内に表示するカスタムテキストを入力するか、マクロを使用して変数を入力できます。変数（マクロ）を使用するには、各メッセージ部の隣にある [マクロを挿入] ボタンをクリックします。



メッセージが AVG DataCenter から送信されると、変数は実際の値に変換されます。使用可能な変数（マクロ）は次のとおりです。

- **%AVG\_StationName%** - ステーション名
- **%AVG\_StationDomain%** - ステーションが存在するドメイン名（該当する場合）
- **%AVG\_GroupName%** - ステーションがあるグループ名
- **%AVG\_IPAddress%** - ステーションの IP アドレス
- **%AVG\_MACAddress%** - ステーションの MAC アドレス
- **%AVG\_LastCall%** - 前回 AVG DataCenter に
- **%AVG\_WinVersion%** - MS Windows のバージョン
- **%AVG\_AvgVersion%** - ステーションの AVG バージョン
- **%AntivirusVersion%** - ウィルス対策データベースのバージョン
- **%AVG\_StationDesc%** - ステーションの説明

## 6.9. グラフィックレポート

注：AVG Admin Serverでグラフィックレポートが作成される場合、コンピュータにAVG Admin Serverもインストールされている場合にのみレポートを生成できません。

グラフィックレポートを使用すると、ユーザーは迅速かつ容易に、整ったレポートを生成できます。レポートはさまざまなサマリーや統計を示すことができます。グラフィックレポートには、メイン AVG Admin consoleのナビゲーションツリーからアクセスできます。

レポートは常に、AVG Admin Serverのインストール中に選択された言語で生成されます。

注：作成されたレポートは、AVG9 データフォルダ ( C:\Documents and Settings\All Users\Application data\avg9\Admin Server Data\Reports など ) の一時的なハードウェア上の場所に物理的に保存されます。生成された各レポートは、ある程度のハードドライブ容量を消費します ( およそ 0,1 ~ 0,5 MB ですが、ステーションの数が多い場合はさらに多くの容量が消費される場合があります )。したがって、ディスク容量が十分ではない場合、合理的な数のレポートだけを作成するか、古いレポートを削除することをお勧めします。

AVG Admin consoleデータのエクスポート/インポート (DataCenter/データベースエクスポートで利用可能) 中は、レポートスケジュールのみが処理されます。レポートおよび生成されたレポートはエクスポートまたはインポートされません。

以前にエクスポートされたデータをインポートすると、グラフィックレポートは AVG Admin Server

### 6.9.1. レポートテンプレート

レポート作成ですぐに使用できるあらかじめ定義されたテンプレートがあります。一部のテンプレートでは、より正確なレポートのために追加パラメータを設定できます。

このメニューからレポートを直接作成する場合は、生成するレポートを右クリックして、[テンプレートからレポートを生成] メニューアイテムを選択します。レポートレイアウトのプレビューだけを表示するには、[テンプレートプレビュー...] を選択します。

- **すべてのステーション** - AVG Admin consoleに登録されているすべてのステーションを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- 感染オブジェクトの最小数 - ステーションの最小感染オブジェクト数を入力します。0 = このパラメーターを無効化します。
- **開始 IP アドレス** - IP アドレスの最初の部分を指定します。
- **チャートタイプ** - リクエストしたチャートタイプ ( デフォルト選択はパイチャート ) を選択します。

- **AVG バージョンごとのステーション** - AVG バージョンでソートしたすべてのステーションを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- **チャートタイプ** - リクエストしたチャートタイプ ( デフォルト選択はパイチャート ) を選択します。

- **N 日以上通信していないステーション**

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- **日数** - ステーションが通信していない日数を選択します。
- **チャートタイプ** - リクエストしたチャートタイプ ( デフォルト選択はパイチャート ) を選択します。

- **最も感染しているステーション** - 上位の感染ステーションを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- **レポートのステーション数** - レポートのステーション数を制限します。0 = 無制限。
- **チャートタイプ** - リクエストしたチャートタイプ ( デフォルト選択はパイチャート ) を選択します。

- **最も多いウイルス** - このレポートはすべてのステーションの上位ウイルスを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- **レポートのウイルス数** - レポートのウイルス数を制限します。0 = 無制限。
- **時間間隔** - データを選択する時間間隔 ( 昨日、先週、先月、昨年、無制

限)を指定します。

- **チャートタイプ** - リクエストしたチャートタイプ (デフォルト選択はパイチャート) を選択します。

- **ウィルススキャンレポート** - このレポートはウィルスのステータスを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- **時間間隔** - データを選択する時間間隔 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) を指定します。

- **ステーションのウィルス** - このレポートはステーションのウィルスを表示します。

使用可能なパラメーターは次のとおりです。

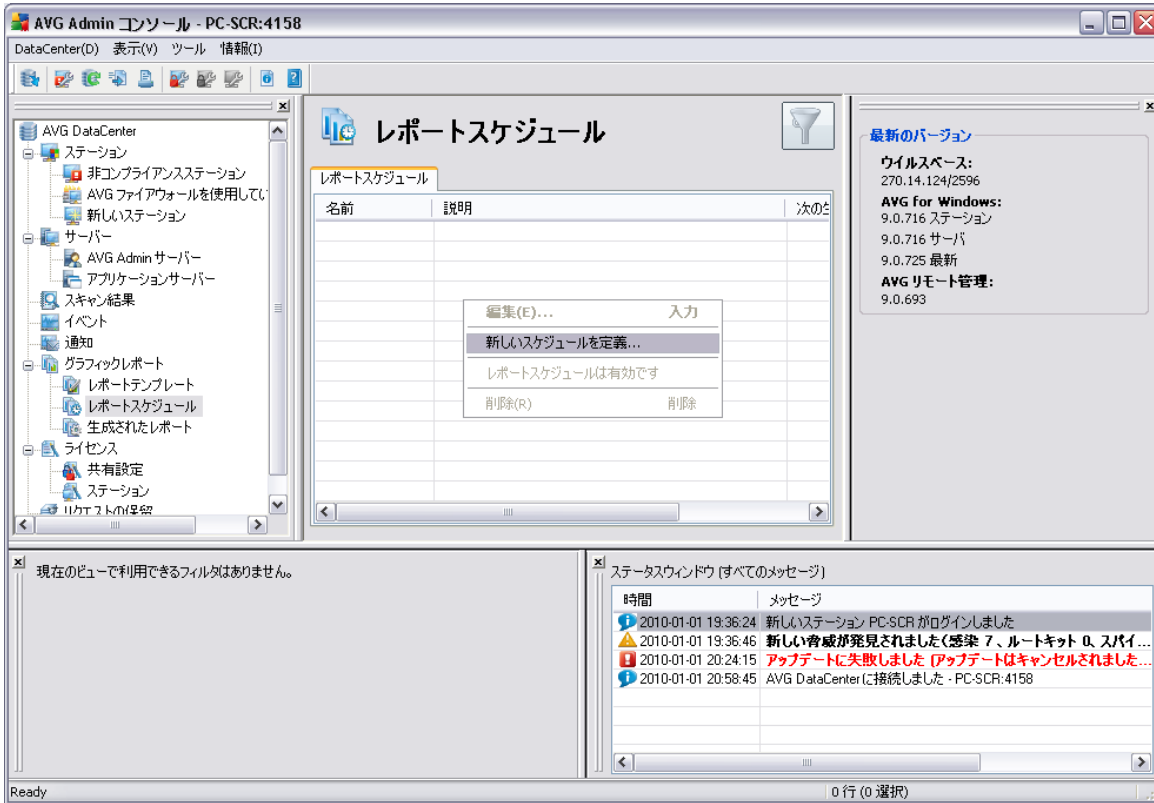
- **時間間隔** - データを選択する時間間隔 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) を指定します。

### 6.9.2. レポートスケジュール

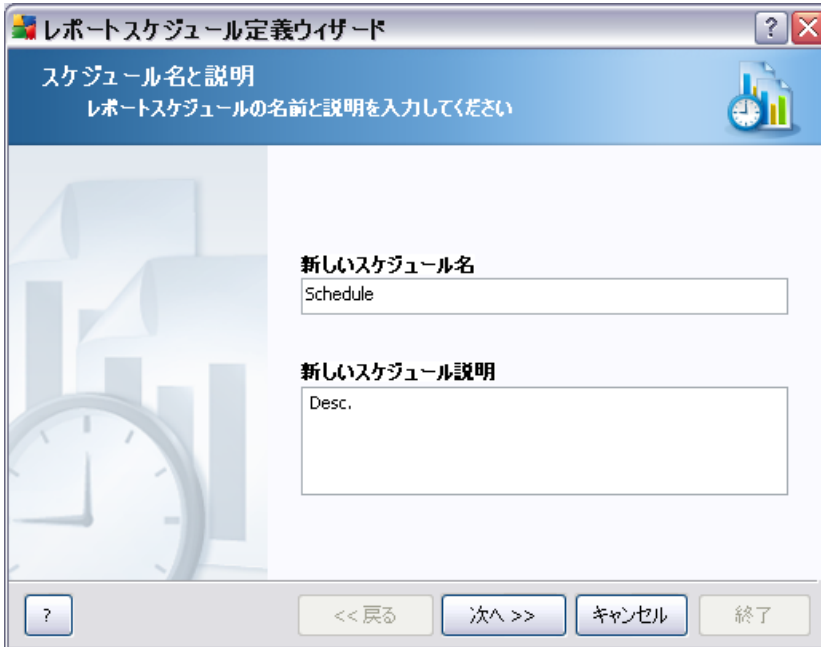
このグループでは、グラフィックレポートスケジュールを作成、編集、および表示できます。個別または複数のレポートで適用するアクションは、右クリックメニューから使用できます。

- **編集** - 選択したスケジュールの編集ダイアログが開きます。
- **新しいスケジュールを定義** - 新しいレポートスケジュールを作成するウィザードを開始します。
- **レポートスケジュールが有効** - 選択したレポートを有効化または無効化する場合にこの機能を使用します。
- **削除** - AVG DataCenter から選択したレポートを削除します。

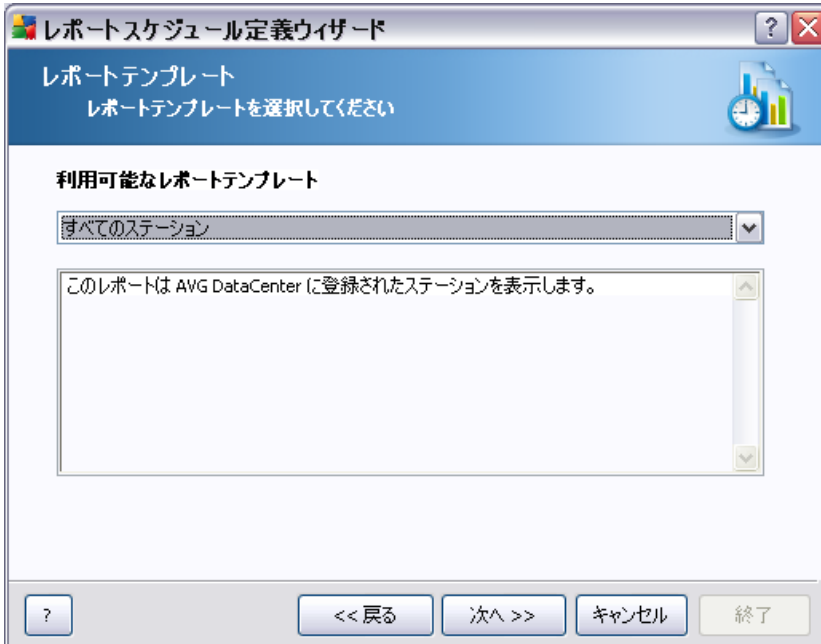
デフォルトでは、使用できるスケジュールはありません。新しいスケジュール済みレポートを準備するには、レポートスケジュールエリアを右クリックして、メニューから [**新しいスケジュールを定義**] を選択します。



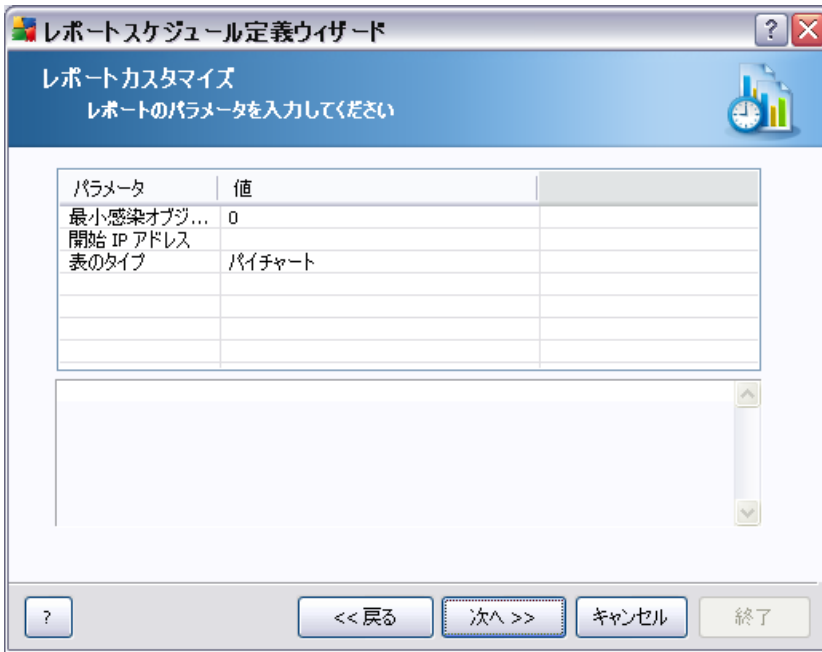
新しいダイアログが表示されます。



名前と説明を入力します。[次へ] ボタンを押して、次のダイアログに進みます。

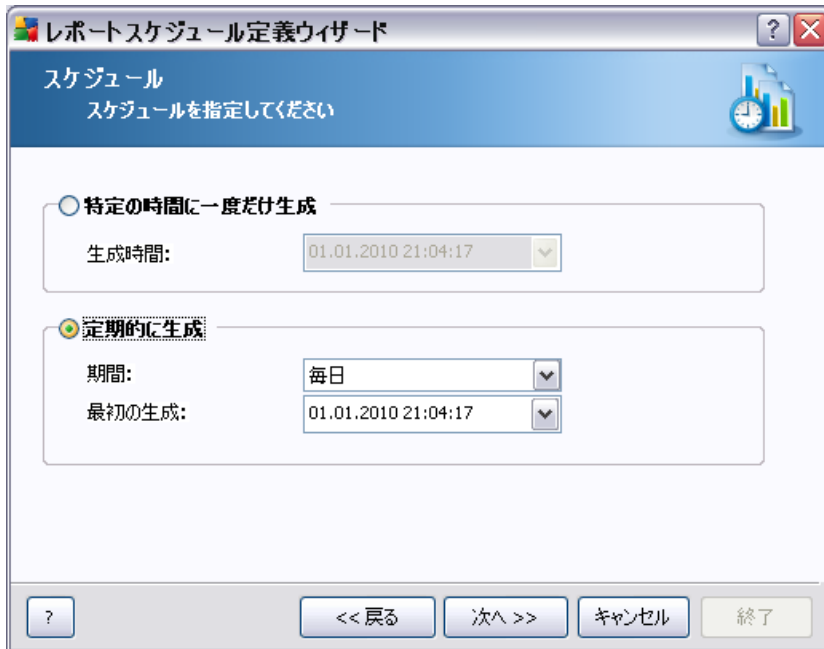


ロールオーバーメニューから、スケジュール済みレポートで使用するテンプレートを  
選択します。



パラメータ	値
最小感染オブジ...	0
開始 IP アドレス	
表のタイプ	パイチャート

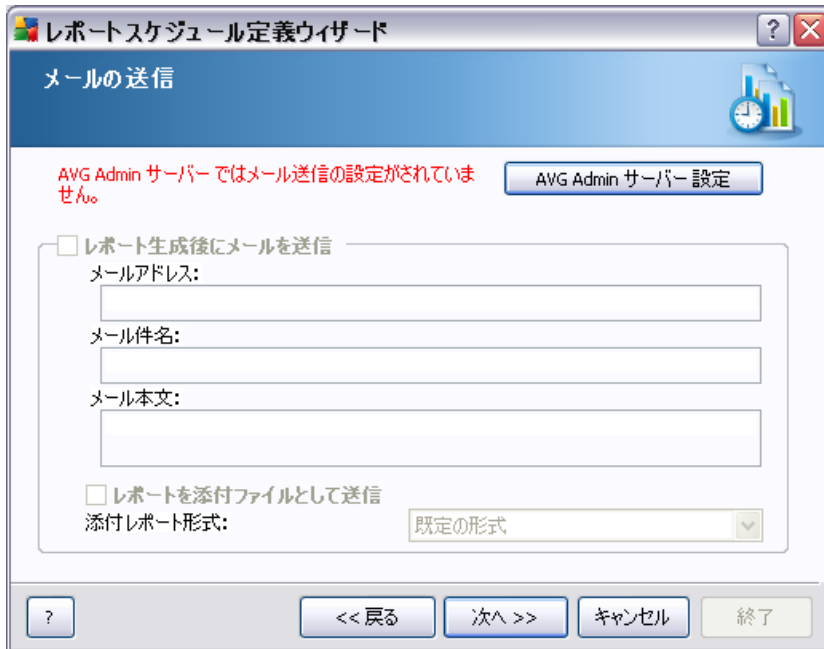
選択したレポートでさらにパラメーターを使用できる場合は、要求された値を入力する  
か、デフォルト値を残します。テンプレートの詳細については、上述の [[レポートテ  
ンプレート](#)] セクションを参照してください。準備ができたなら、[次へ] ボタンを押し  
ます。



このダイアログでは、指定の時間に一度だけレポートを生成するか、または定期的に生成するかを選択します。

- **特定の時刻に1度だけ作成** - 正確な作成日時を選択します。
- **定期的に作成** - 作成の期間（日次、週次、月次）と最初の作成日時を選択します。

[次へ] ボタンをクリックして、次の部分に進みます。



生成されたときにレポートまたは通知を電子メールで送信する場合は、[生成語、レポートを電子メールで送信] チェックボックスをオンにします。

電子メール機能を有効にするには、まず AVG Admin Server ( [電子メール] タブ

今すぐ、SMTP/電子メール設定を構成するには、[AVG 管理サーバー設定] をクリックします。

注：電子メールの送信用に AVG Admin Server設定を構成する方法については、「Configuration/AVG Admin Server Settings」の章の「[電子メールタブ](#)」トピックを参照してください。

すでに AVG Admin Server設定の [電子メール] タブを設定した場合は、該当するフィールドにあらかじめ定義された値が表示されるはずですが、表示されない場合は、AVG Admin Server設定を確認するか、カスタム値を入力します。

レポートを添付ファイルとして直接受信する場合は、[レポートを添付ファイルとして送信] チェックボックスをオンにし、ロールオーバーメニューから、レポートを配信する形式を選択します。

添付ファイルとしてレポートを受信しない場合は、通知電子メールのみを受信し、

準備できたら、[次へ] ボタンを押して、最後の画面に進みます。

次の画面では、すべての設定が正しいかどうかを確認し、[完了] ボタンをクリックして処理を確定します。

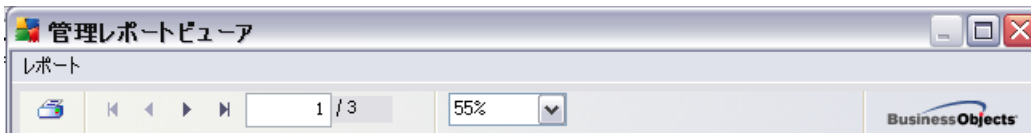
### 6.9.3. 生成されたレポート

このグループにはすべての現在生成されているレポートのリストが含まれます。

レポートを開くには、選択した行を右クリックし、コンテキストメニューから [表示] アイテムを選択します。

レポートを削除するには、選択した行を右クリックし、コンテキストメニューから [削除] アイテムを選択します。

生成されたレポートのいずれかを開いたら、そのレポートを印刷または保存することもできます。



レポートには複数のページがあります。ページ間を移動するには、画面上部の左右ボタンを使用します。

左上隅のプリンタアイコンをクリックすると、標準の Windows 印刷ダイアログが表示され、プリンタでレポートを印刷するか、PDF ファイル (利用できる場合) を生成するかどうかを選択できます。

ファイルにレポートをエクスポートする場合は、[レポート/保存] メニューアイテムを使用します。確認ダイアログが表示され、希望の出力形式 (Adobe Acrobat PDF、HTML 4.0、MS Excel 97-2000 - xls) を選択できます。

### 6.9.4. フィルタリング

リストされた各種フィルタを *生成されたレポートビュー* に適用できます。フィルタはデフォルトで、*フィルタパネル*の左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、*表示/パネルメニュー*の *フィルタウィンドウ* アイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できません。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*、*Station02* なども表示します。

生成されたレポートのフィルタオプションは次のとおりです。

注：フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **レポートテンプレート**

ロールダウンメニューから、フィルタで除外するレポートテンプレート名を選択します。

- **スケジュール名**

フィルタするカスタムレポートスケジュール名を入力します。

- **開始**

フィルタするカスタム日時値を入力します。

- **終了**

フィルタするカスタム日時値を入力します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから [すべてのフィルタをオフにする] を選択します。

注意：すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

## 6.10. ライセンス

このアイテムには使用されている全ライセンス番号の概要が示されます。既存のすべてのライセンス番号の監視や、個々のステーションや複数のステーションのライセンス番号の追加または更新を簡単に行うことができます。

### 6.10.1. 共有設定

ビューでは、すべてのグループのリストが表示されます (カスタムグループも含む)。右クリックのコンテキストメニューから、各グループに対して以下のオプションを使用できます。

- **必須** - 選択したグループに対して、指定されたライセンス番号の使用を必須としてマークします。つまり、このグループのすべてのステーションがこの番号を使用します。

- **ライセンス番号の変更** - 新しいダイアログが開き、別のライセンス番号を入力できます。

変更したら、そのライセンス番号が特定のグループのすべてのステーションに適用されます。

*注：同期プロセスが開始すると、新しいライセンス番号が個別のステーションに配置されます。同期プロセスの詳細については、「[同期プロセス](#)」の章を参照してください。*

### 6.10.2. ステーション

ビューには、すべてのステーションのリストが表示されます。右クリックのコンテキストメニューから、各ステーションに対して以下のオプションを使用できます。

- **必須** - 選択したステーションに対して、指定されたライセンス番号の使用を必須としてマークします。
- **ライセンス番号の変更** - 新しいダイアログが開き、別のライセンス番号を入力できます。

変更したら、そのライセンス番号が特定のグループのすべてのステーションに適用されます。

*注：同期プロセスが開始すると、新しいライセンス番号が個別のステーションに配置されます。同期プロセスの詳細については、「[同期プロセス](#)」の章を参照してください。*

## 6.11. リクエストの保留

このアイテムを使用すると、AVG Admin consoleから送信された、現在保留中のすべてのリクエストを表示できます。また、リクエストを右クリックして、コンテキストメニューの [**選択されたリクエストを削除**] を選択して、リクエストを削除することもできます。

### 6.11.1. フィルタリング

リストされている各種フィルタをリクエストの保留ビューに適用できます。フィルタはデフォルトで、フィルタパネルの左端から使用できます。

デフォルトではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのフィルタウィンドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (\*) を使用できま

す。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される *Stat\** 文字列は、*Station01*, *Station02* なども表示します。

保留中のリクエストのフィルタリングオプションは次のとおりです。

注：フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **リクエストタイプ**

フィールドをダブルクリックして、リクエストタイプのリストを表すドロップダウンメニューを開き、フィルタするリクエストタイプを 1 つ選択します。

- **ステーション名**

フィールドをダブルクリックして、フィルタするカスタムステーション名を入力します。

- **開始**

フィルタするカスタム日時値を入力します。

- **終了**

フィルタするカスタム日時値を入力します。

フィルタを無効にするには、該当する名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから [すべてのフィルタをオフにする] を選択します。

注意：すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

## 7. AVG 管理サーバー

**AVG Admin Server**は AVG ステーションとサーバー上の AVG DataCenter 間の通信を確保するために使用します。AVG ステーションは AVG Admin Server 経由で、Windows オペレーティングシステムインストールの一部である TCP プロトコル (または正確には HTTP プロトコル) を使用して AVG DataCenter に接続します。したがって、AVG ステーションはサードパーティ製のコンポーネントを使用せずに、遠隔管理システムに接続できます。

**AVG Admin Server**は、UpdatePloxy ロールを配置することにより、ローカルネットワークのステーションにアップデートをダウンロードし配布する、プロキシサーバーとして機能します。

基本的には、アップデートファイルを AVG ステーションに配布する非常にシンプルなウェブサーバーとして機能します。アップデートファイルは AVG の中央アップデートサーバーから一度だけダウンロードされるため、特に大規模ネットワークにおけるインターネット接続リンク負荷を大幅に削減できます。

AVG Admin Serverは配置された時点で、自動的に起動します。起動しない場合は、手動で次の方法で起動できます。[すべてのプログラム/AVG 9.0リモート管理]の[AVG Admin Serverモニター]を選択し、[サーバーを起動]をクリックします。

AVG Admin Serverの設定に関する詳細については、[[設定/AVG Admin Server設定](#)]の章を参照してください。

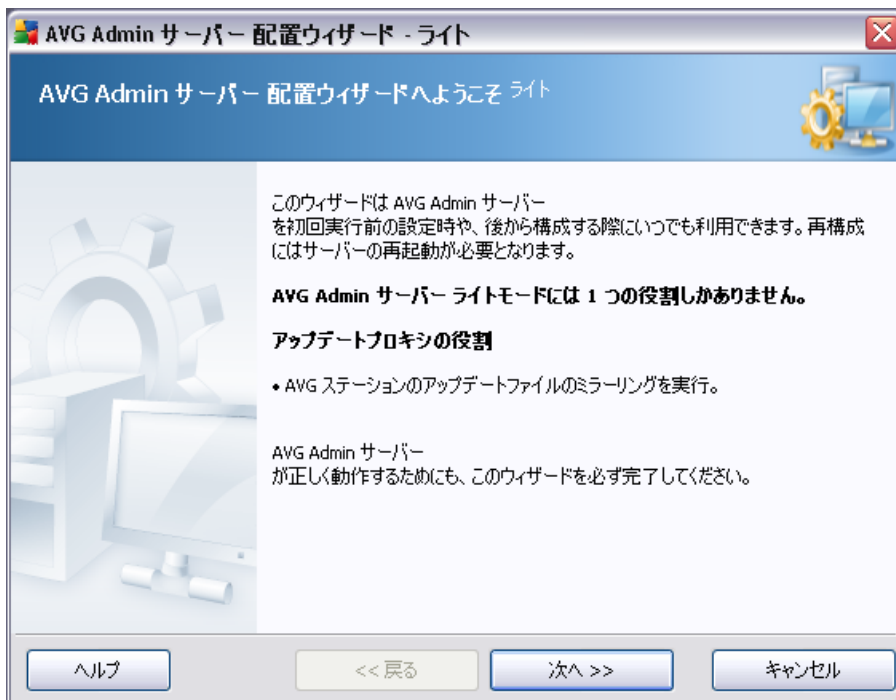
## 8. AVG 管理 Lite

AVG 管理ライトは AVG リモートインストールの簡易バージョンです。これには、AVG Admin Server Deployment Wizard ライトと AVG ネットワークインストールウィザードライトが含まれています。Admin console (AVG Admin console など) や、高度なオプションが利用できません。

- [AVG Admin Server Deployment Wizard ライト](#) - アップデートプロキシロールの配置のみが可能です。
- [AVG ネットワークインストールウィザードライト](#) - AVG インストールスクリプトの作成のみが可能です。

AVG 管理ライト機能のみをインストールして使用する場合は、[ライトインストール] オプションを AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition インストールの途中で選択する必要があります (詳細については、[インストールの種類](#)の章を参照してください)。

### 8.1. AVG 管理配置ウィザード Lite



最初のダイアログはこのウィザードの目的を説明します。[次へ] ボタンをクリック

し、次のステップに進んでください。

**注意:** リモート ネットワークインストールを進めるには、このウィザードを完了する必要があります。

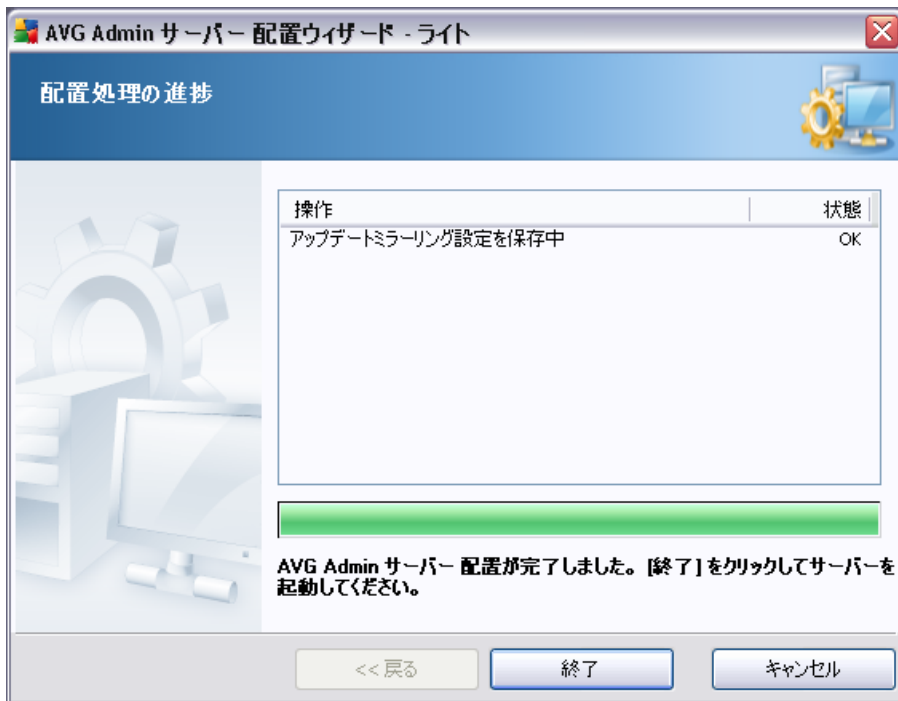
### 8.1.1. 構成の概要



この章では、サーバーに配置される設定の概要を説明します。基本的には UpdateProxy ロールのみがサーバーに配置されます。UpdateProxy ロールはステーションにアップロードをダウンロードして配布するためのプロキシサーバーとして機能します。

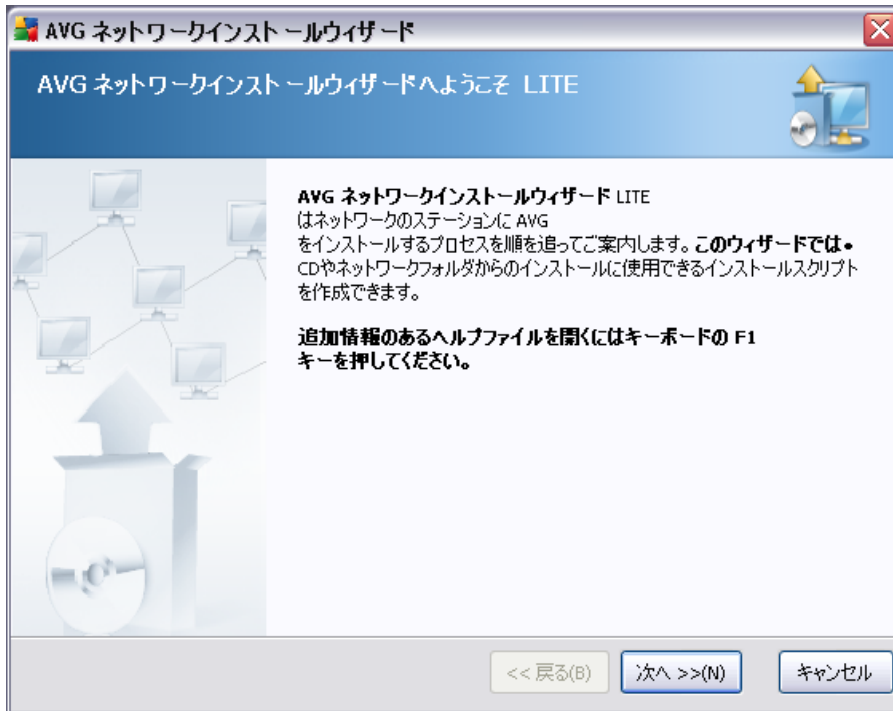
このウィザードでは C: ドライブ (既定) または概要で指定されているドライブにアップデートフォルダを作成します。

### 8.1.2. 完了



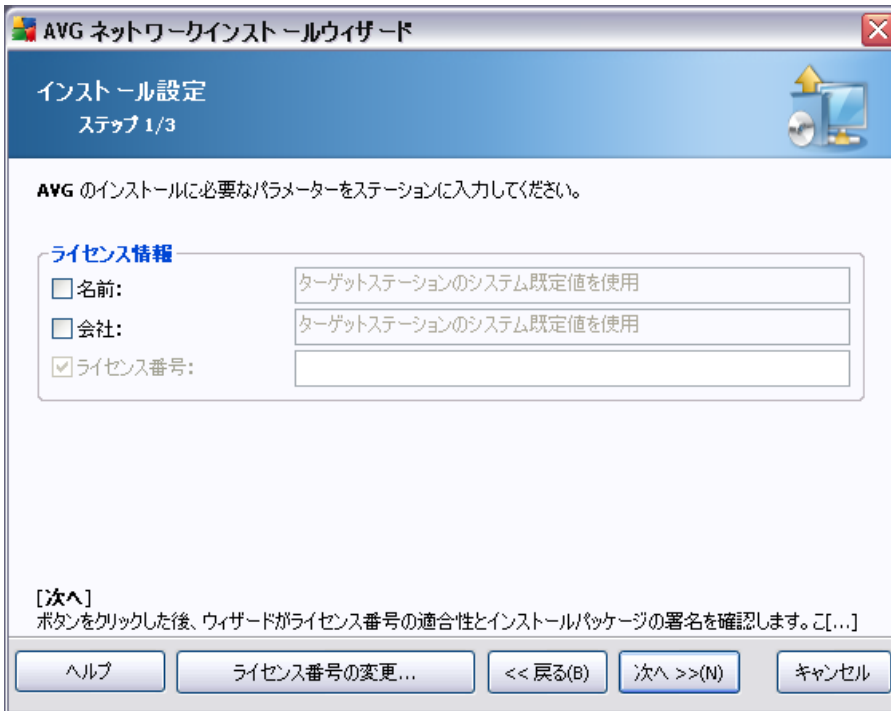
すべてが問題なく完了した場合は、上記のようなダイアログが表示されます。[完了]をクリックしてウィザードを終了し、AVG ネットワークインストーラウィザードライトに進んでください。

## 8.2. AVG ネットワークインストーラウィザード Lite



AVG ネットワークインストーラウィザードライトは AVG スクリプト作成プロセスを簡単に案内します。後に、そのスクリプトを AVG をステーションにインストールする際に使用できます。

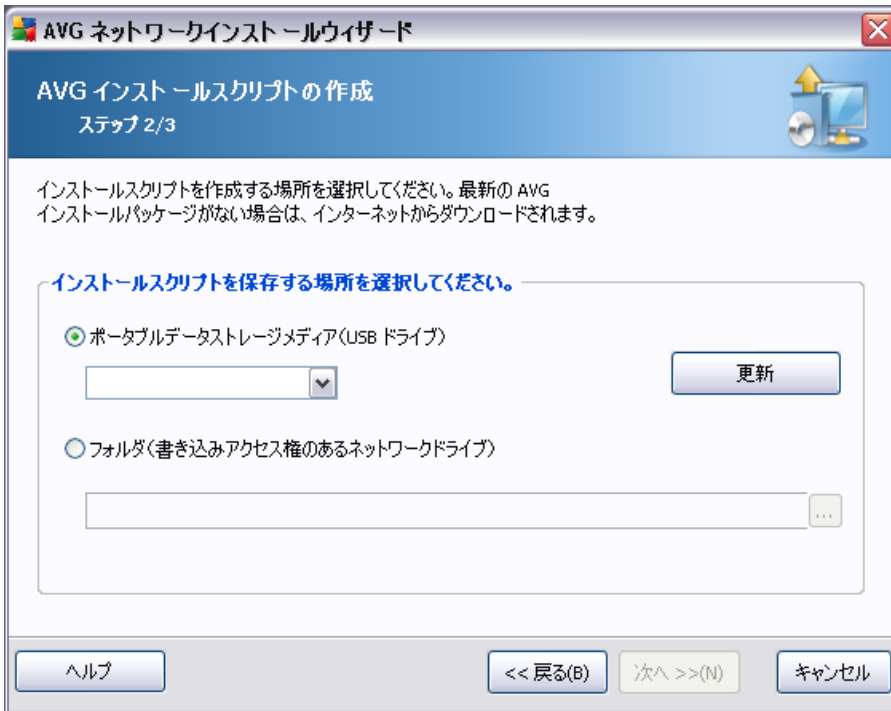
### 8.2.1. インストール設定



要求された値を入力します。[ライセンス番号] は必ず入力しなければならない必須フィールドです。または、[名前] や [会社] チェックボックスをオンにして、適切な値を入力できます。

以前のローカルインストールで既に使用した既存のライセンス番号を変更する場合は、[ライセンス番号の変更] ボタンをクリックして、新しいライセンス番号やその他の任意の詳細情報を入力します。

## 8.2.2. AVG インストールスクリプトの作成



このダイアログではインストールスクリプトの保存場所を選択する必要があります。この場所に最新の AVG インストールパッケージが含まれていない場合、[次へ] ボタンをクリックすると、ウィザードはインターネットからファイルをダウンロードしようとします。この場合は、インターネットが利用できることを確認します。

次のいずれかを選択できます。

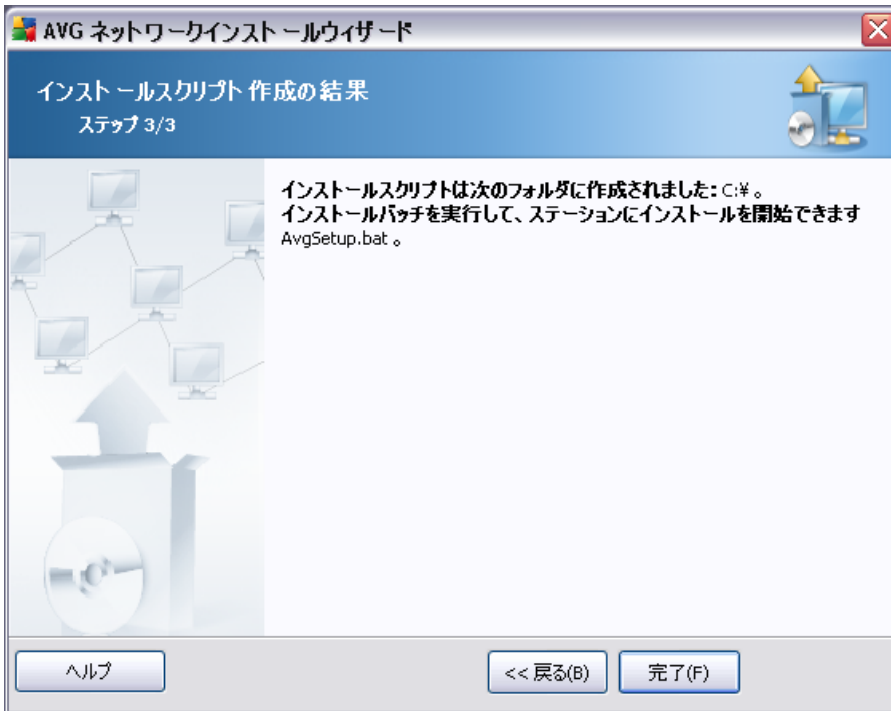
- **ポータブルデータストレージメディア ( USB ドライブ )**

リムーバブル USB デバイスを挿入していない場合は挿入します (フラッシュドライブ、外付けハードドライブなど)。[更新] ボタンをクリックして、ドロップダウンリストのデバイスを表示します。ドライブが書き込み保護されていないことを確認します。

- **フォルダ**

このオプションを選択するとスクリプトを格納するフォルダを選択できます。ネットワークフォルダを選択した場合、正しい書き込みアクセス権があることを確認します。

### 8.2.3. 完了



スクリプトが正常に作成された場合は、このようなダイアログが表示されます。[完了] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには：

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。

*注意:* スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できます。

2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。
3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには：

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。

2. ステーションのオペレーションシステムで自動実行機能が有効となっている場合、自動的にインストールを開始します。
3. そうでない場合は、リムーバブルデバイスディスク文字を開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に終了します。

**注意:**AVG インストールクローンを作成し、配布できません。詳細については、[AVG 設定マネージャ](#)を参照してください。

## 9. AVG 設定マネージャ

注意: このツールは AVG インストールの一部です。

AVG 設定マネージャは主に、AVG 設定をコピー、編集、配布ができる小規模ネットワークに適したツールです。設定はポータブルデバイスに保存できます (USB フラッシュドライブなど)。その後、選択したステーションに手動で適用することができます。

ツールは AVG インストールに含まれており、Windows の [スタート] メニューから利用可能です。

[すべてのプログラム/AVG9.0/AVG 設定マネージャ



- [このコンピュータの AVG 設定を編集する

このボタンを使い、ローカル AVG の高度な設定ダイアログを開きます。ここで行われたすべての変更は、ローカル AVG インストールにも反映されます。

- [AVG 設定ファイルを読み込み編集する

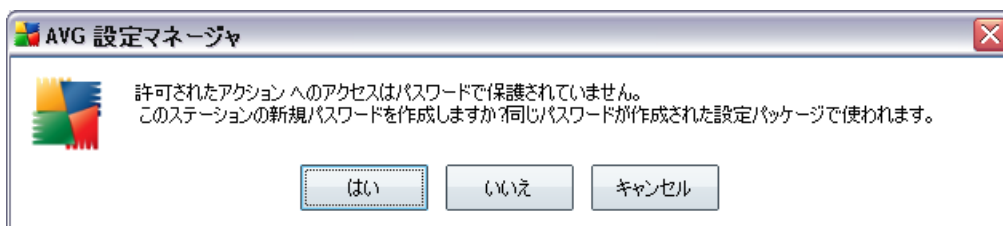
すでに AVG 設定ファイル (.pck) を持っている場合は、このボタンからファイルを開き、編集してください。[OK] または [適用] ボタンをクリックして変更を確定すると、ファイルは新しい設定に置き換えられます。

- [ファイルからこのコンピュータの AVG に設定を適用する]

このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) を開き、ローカル AVG インストールに適用してください。

- [ローカル AVG 設定をファイルに保存]

このボタンから AVG 設定ファイル (.pck) をローカル AVG インストールに保存してください。[許可されたアクション] にパスワードを設定しなかった場合は、次のダイアログが表示されることがあります。



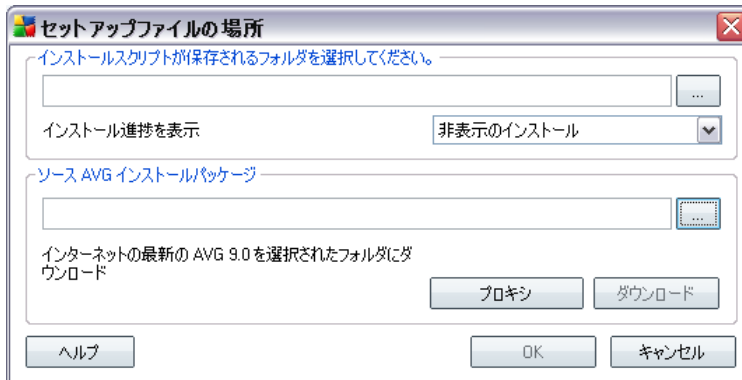
許可されたアイテムへのアクセスにパスワードを設定する場合は、[はい] をクリックして、必要な項目に情報を入力してください。パスワード作成をスキップし、ローカル AVG 設定をファイルに保存へ進む場合は [いいえ] をクリックしてください。

- [AVG インストールのクローンを作成]

このオプションは、カスタムオプションを含んだインストールパッケージを作成することで、ローカル AVG インストールのコピーを作成できます。クローンには、次の設定を除くほとんどの AVG 設定を含めることができます。

- 言語設定
- 音声設定
- ファイアウォール構成
- ID 保護コンポーネントの許可されたリストと不審なプログラム例外

これを実行するには、まずインストールスクリプトを保存するフォルダを選択します。



その後、ドロップダウンメニューから次のいずれかを選択してください。

- **インストールを非表示** - セットアッププロセス中は情報が表示されません。
- **インストールプロセスのみを表示** - インストールはユーザーの操作を必要としませんが、進捗状況はすべて表示されます。
- **インストールウィザードを表示** - インストールは表示され、ユーザーは手動で各手順を確認する必要があります。

[**ダウンロード**] ボタンをクリックして、最新の AVG インストールパッケージを直接 AVG ウェブサイトから選択されたフォルダにダウンロードするか、手動で AVG インストールパッケージをフォルダに保存してください。

正常な接続を行うために、ネットワークにプロキシサーバー設定が必要な場合は、[**プロキシ**] ボタンを使用して、プロキシサーバーを定義してください。

[**OK**] ボタンをクリックすることで、終了プロセスが開始されまもなく完了します。許可されたアイテム ( 前述の説明を参照 ) の設定パスワードを確認するダイアログが表示される場合があります。終了すると、**AvgSetup.bat** が選択されたフォルダに格納され、その他ファイルと共に利用可能となります。**AvgSet.bat** ファイルを実行すると、前の手順で選択したパラメータに基づいて AVG がインストールされます。

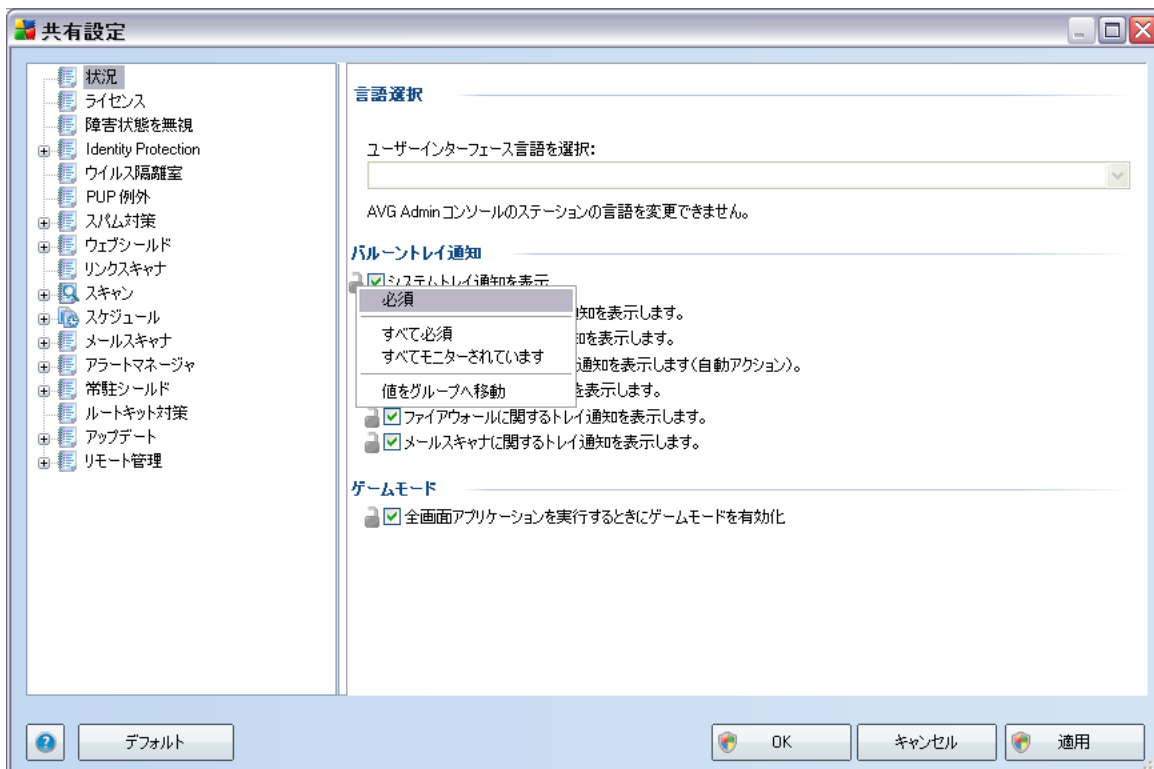
**注意:** 一部のボタンをクリックできない場合は、現在使用しているコンピュータで利用可能な AVG インストールがないことが考えられます。このツールを正しく使用するためには、まず AVG をインストールする必要があります。

## 10. 構成

この章ではAVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの異なる部分の設定オプションについて説明しています。

### 10.1. ステーション/グループの共有設定

このダイアログでは、ステーションの共有設定を定義できます。オプションは、ステーションのオプションとまったく同じです。ただし、いくつかのオプションは例外で、以下の章にその説明が記載されています。他のアイテムの構成の詳細が必要な場合は、<http://www.avg.com> からダウンロードできる『AVG Internet Security User Guide』または疑問符ボタンによるコンテキストヘルプを参照することをお勧めします。



注： [デフォルト] ボタンを使用すると、現在のダイアログの元の設定を復元できません。

### 10.1.1. 一般的な管理および優先レベル

ステーションやグループに該当するすべての設定値は必須値として定義したり任意の値として（既定設定）定義することができます。値は、コンテキストメニュー（右マウスボタン）で、必須から任意の設定まで変更できますが、ファイアウォールの一部の設定は変更できません（「[Configuration/Shared Firewall Settings/Profiles](#)」の章を参照）。

個々の優先度は、次のように設定されます（最高から最低の順に並び替え）

- **ステーションの共有設定**

ステーションの共有設定（上部のトップメニューの [ツール] からアクセス）で必須として定義されている共有設定は、常に最高優先度が設定されます。つまり、上述に設定リストで必須として設定された項目は、より低い優先順位で変更することはできません。

- **グループの共有設定**

ステーショングループ（ステーション枝部のコンテキストメニューを右クリックして、特定のグループワークスペースから利用できるグループの共有設定アイテム）で必須として定義されている共有設定は、特定のステーション設定よりも優先度が高くなりますが、ステーションの共有設定よりは優先度が低くなります。

- **個別のステーションの設定**

ステーションの特定の設定は、最も優先順位が低いものとみなされています。つまり、上述のより優先順位の高いアイテムで必須として設定されたすべてのアイテムは、変更することができません。

ステーションの個々の設定は、ステーションアイテムからアクセスできるので、要求されたステーション名をダブルクリックします。

デフォルトでは、必須アイテムは太字で表示され、特定のアイテムのロックアイコンをクリックしてコンテキストメニューから、[必須アイテム] の値を選択するだけで変更できます。

コンテキストメニューには、次のオプションもあります。

- **すべて必須**- 必須フラグを現在のダイアログのすべてのアイテムに設定します。
- **すべて監視**- 現在のダイアログのすべてのアイテムの必須フラグをリセットします。

アイテムを必須としてマークすると、ローカルステーションのユーザーはそのようなアイテムをカスタマイズできるようになります。

個々のレベルは、各アイテムの隣のアイコンによって区別されます。一般に、必須として設定されたアイテムは、黒い「ロック済み」ロックアイコンでマークされます。赤いロックのアイコンは、その設定がすでに [ステーションの共有設定] (最高レベル) で必須として設定されていることを意味し、青いロックは、その設定が [グループの共有設定] で必須として設定されていることを意味します。

**注：** ロックアイコンは、ステーションでは使用できません。

### 10.1.2. 警告マネージャの設定

アラートマネージャ設定は AVG Admin consoleからのみ利用可能であり、AVG ステーションでは非表示です。ここでは、どのイベントを AVG DataCenter に送信するか、AVG Admin consoleに表示するかを選択できます ([\[イベント\]](#))

このダイアログには有効なイベントアクションの概要が表示されます。サブツリーアイテムを使用してイベントパラメータを設定できます。また、ロールダウンメニューからルール of the 既定のテキストを表示するとき使用する言語を選択できます。



**イベントリスト**

有効化されたイベントアクションの概要パラメータ設定は特定のアクションでのみ変更可能です (「アラートマネージャ」サブツリーアイテムの葉のノード)。

ルールの既定のテキストを表示するために使用する言語: **英語**

イベント	メール	NT イベント ログ	AVG D
ウイルス隔離室オブジェクトが追加されました	はい	はい	はい
ウイルス隔離室オブジェクトが削除されました	はい	はい	はい
ウイルス隔離室オブジェクトが削除されました	はい	はい	はい
脅威が検出されました	はい	はい	はい
スキャンが開始されました	はい	はい	はい
スキャンが終了しました	はい	はい	はい
アップデートが開始されました	はい	はい	はい
アップデートが確認されました	はい	はい	はい
アップデートは終了しました	はい	はい	はい
AVG開始	はい	はい	はい
AVGシャットダウン	はい	はい	はい
AVGコンポーネントは予期せず終了しました	はい	はい	はい
ライセンス番号が変更されました	はい	はい	はい
Identity Protection - マルウェアが検出されました	はい	はい	はい
Identity Protection - 許可リストが変更されました	はい	はい	はい
Identity Protection - オブジェクトが隔離室から復元されました	はい	はい	はい

デフォルト OK キャンセル 適用

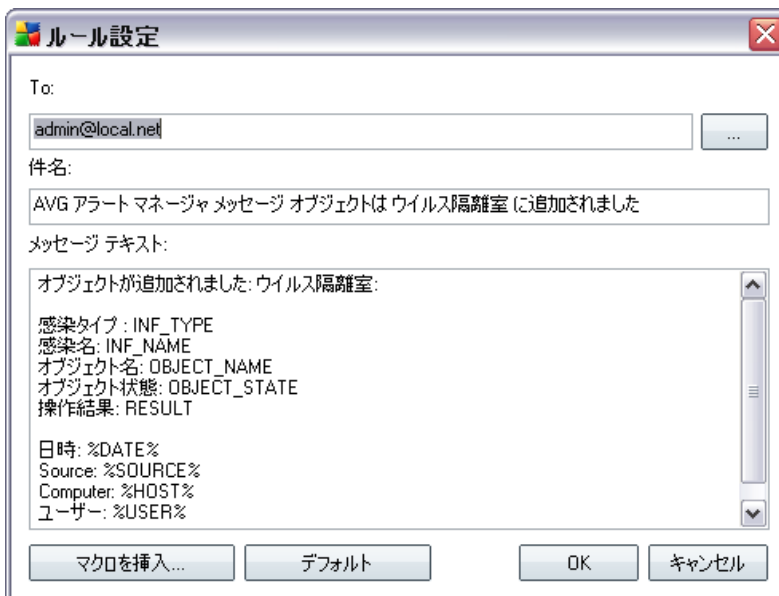
サブツリーアイテムは次のとおりです。

- **電子メールに送信**

このサブツリー アイテムでは、指定の電子メールアドレスに送信するイベントの種類を指定できます。利用できるイベントはダイアログに表示されます。各チェックボックスにチェックを入れ、リストにイベントを追加します。

アドレスを指定するには、[SMTP] ボタンをクリックします。[電子メール送信設定] ダイアログが表示されます。電子メールアドレス (To:)、送信者 (From:)、SMTP サーバアドレス、ポート番号を適切なテキストボックスに入力します。

初期設定では、各イベントはあらかじめ設定したメールアドレスに送信されます。イベントをダブルクリックすると新しいダイアログが表示され、そのイベントの電子メール受信者、件名、メッセージテキストをカスタマイズできます。



[マクロを挿入] ボタンをクリックするとマクロのリストが表示され、メッセージ本文を直接編集できます。行をインデントする場合は (ctrl) キーを押しながら Enter キーを押します。Enter キーのみを押すとダイアログ画面が閉じます。

ダイアログを元の値に戻すには、[既定値] ボタンをクリックします。

- **NT イベント ログに記録**

このサブツリーアイテムでは、特定のステーションの NT イベントログに書き込

むイベントの種類を指定できます。利用できるイベントはダイアログに表示されます。各チェックボックスにチェックを入れ、イベントを追加します。

イベントをダブルクリックすると新しいダイアログが開き、ID、重要度、メッセージテキストをカスタマイズできます。

[マクロを挿入] ボタンをクリックするとマクロのリストが表示され、メッセージ本文を直接編集できます。行をインデントする場合は (ctrl) キーを押しながら Enter キーを押します。Enter キーのみを押すとダイアログ画面が閉じます。

- **AVG DataCenter に送信**

このサブツリーアイテムでは、AVG DataCenter に送信し、後に AVGAdmin consoleのイベント ビューで表示するイベントの種類を指定できます。利用できるイベントはダイアログに表示されます。各チェックボックスにチェックを入れ、イベントを追加します。

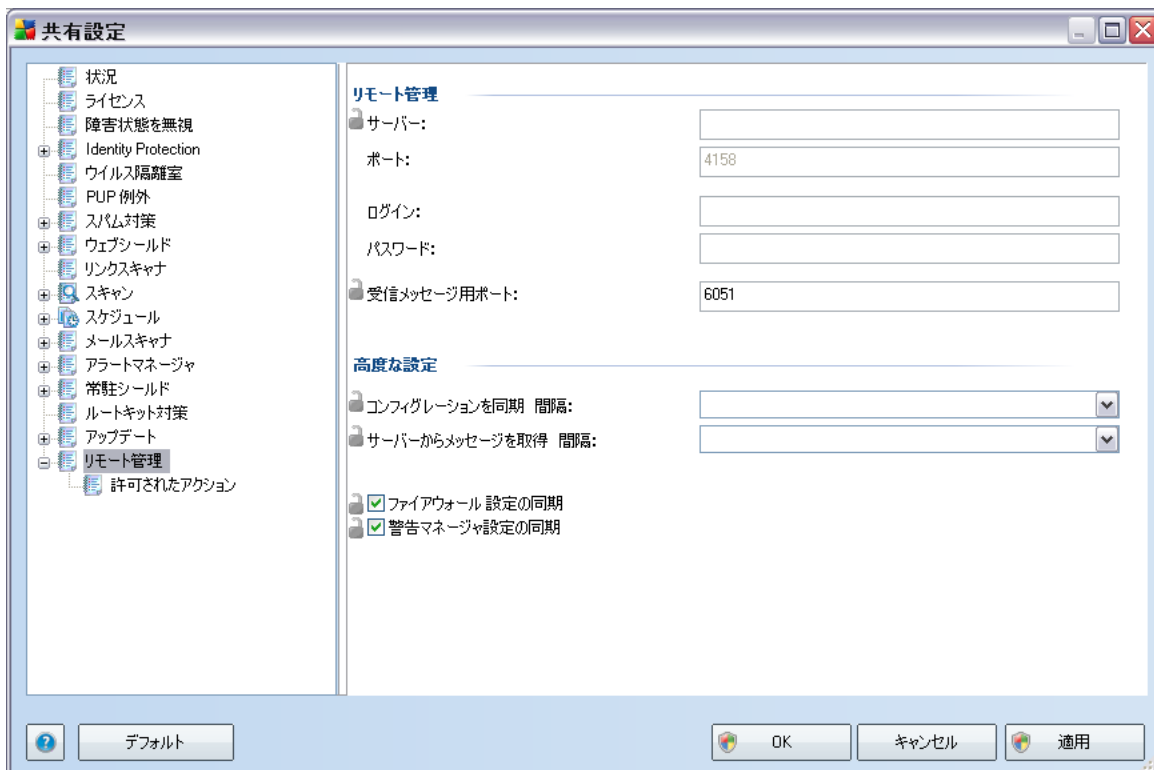
可能なイベントは次のとおりです。

- ウィルス隔離室にオブジェクトが追加されました
- ウィルス隔離室のオブジェクトが削除されました
- ウィルス隔離室のオブジェクトが復元されました
- 脅威が見つかりました
- スキャンが開始されました
- スキャンが終了しました
- アップデートが開始されました
- アップデートがチェックされました
- アップデートが完了しました
- AVG 起動
- AVG シャットダウン
- AVG コンポーネントは予期せず終了しました
- ライセンス番号が変更されました

- ID 保護 - マルウェアが検出されました
- ID 保護 - 許可リストが変更されました
- ID 保護 - オブジェクトが隔離室から復元されました

### 10.1.3. リモート管理

AVG Admin consoleで使用可能な [リモート管理] 設定には、(ステーション設定よりも)さらにいくつかの設定があります。



この設定には以下が含まれます。

- ごとに構成を同期 - 同期する自動間隔を選択します (ステーションは、選択された期間ごとに同期を試行します。つまり、何か新しい変更がないかどうかを検出して、変更のみを転送します)。
- ごとにサーバーからメッセージを取得 - AVG Admin consoleを呼び出してサーバーからリクエストを取得する頻度を選択します。
- ファイアウォール設定を同期 - ファイアウォール設定の同期を必要としない場

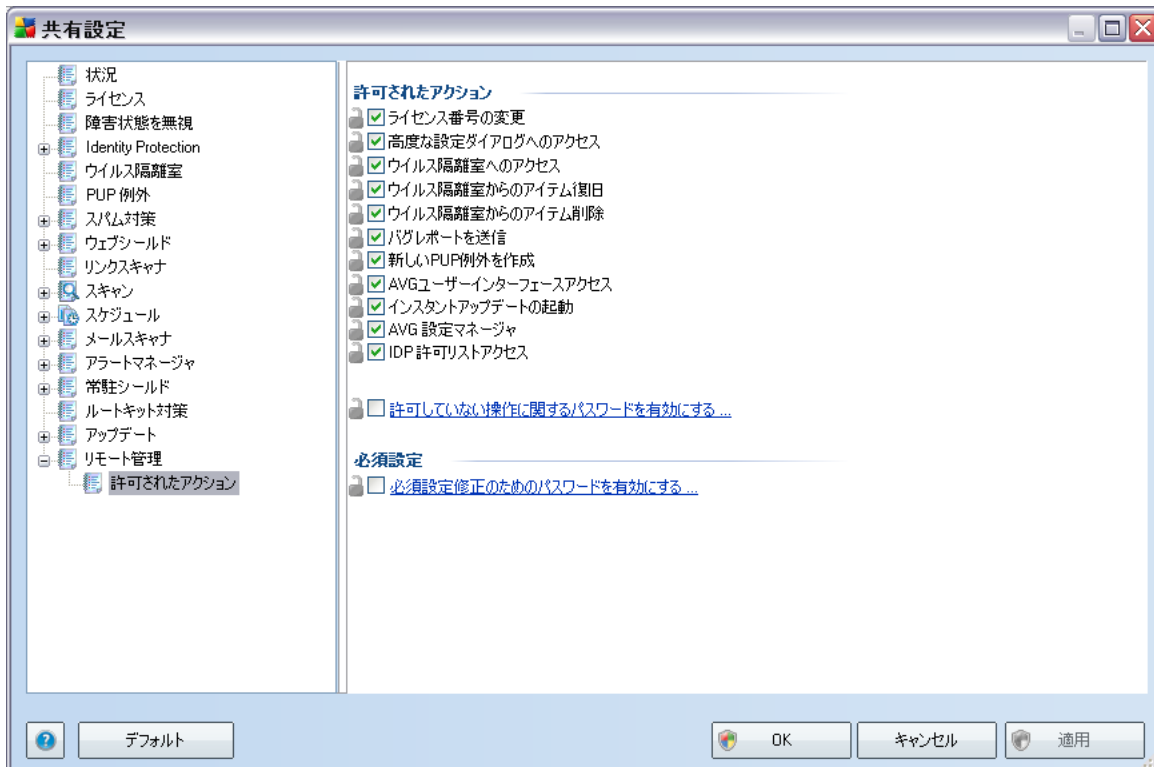
合は、このオプションをオフにして、データフローを軽減し、ネットワークトラフィックを緩和することをお勧めします。

- **警告マネージャ設定の同期** - 警告マネージャ設定の同期を必要としない場合は、このオプションをオフにして、データフローを軽減し、ネットワークトラフィックを緩和することをお勧めします。

#### 10.1.4. 許可されたアクション

許可されたアクションアイテムは、AVG Admin consoleからステーションでの使用を許可または禁止できます。コンフィグレーションは**グループ/ステーションの共有設定**あるいは個々のステーション設定で設定できます。

この機能は、**許可されたアクション**として、メインツリーの**[リモート管理]** アイテムからアクセスできます。



以下のチェックボックスのチェックを外すと、ステーションのユーザーによるこの機能の使用を禁止できます。

- **ライセンス番号の変更** - チェックされていない場合、ステーションのユーザー

によるライセンス番号の変更を禁止します。

- **高度な設定ダイアログアクセス** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーが高度な設定を開き、編集することを禁止します。
- **ウイルス隔離室アクセス** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによるウイルス隔離室へのアクセスを禁止します。
- **ウイルス隔離室からのアイテムの復元** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによるウイルス隔離室からのファイルの復元を禁止します。
- **ウイルス隔離室からのアイテムの削除** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによるウイルス隔離室からのファイルの削除を禁止します。
- **バグレポートの送信** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによるバグレポートの送信を禁止します。
- **新しい PUP 例外の作成** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによる新しい不審なプログラムの例外の作成を禁止します。
- **AVG ユーザーインターフェースアクセス** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによる AVG ユーザー インターフェースへのアクセスを禁止します。
- **AVG トレイの終了** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーが AVG トレイをオフにすることを禁止します。
- **即時アップデートの起動** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによる即時アップデートの起動を禁止します。
- **AVG 設定マネージャ** - チェックされていない場合、ステーションのユーザーによる AVG 設定マネージャの起動を禁止します。

ユーザーが禁止されたアクションをパスワードを入力することで使用できるようにするには、[許可されていないアクションにアクセスするためのパスワードを有効にする...] をクリックし、新しいダイアログで、新しいパスワード (確認のため 2 度) を入力します。

このパスワードはユーザーが禁止されたアクションにアクセスしようとするたびに要求されます。

同様に、ステーションのユーザーによる必須設定の変更を許可できます。これを実行するには、[必須設定の変更のためのパスワードを有効にする...] チェックボックスにチェックを入れ、新しいパスワード (確認のため 2 度) を入力します。これによりユーザーは、ステーションの高度な設定の中で、現在開かれているダイアログの設定変

更が一時的に可能となります。この機能が有効なときのみに表示される [一時的に必須モードを無効化] ボタンを使います。

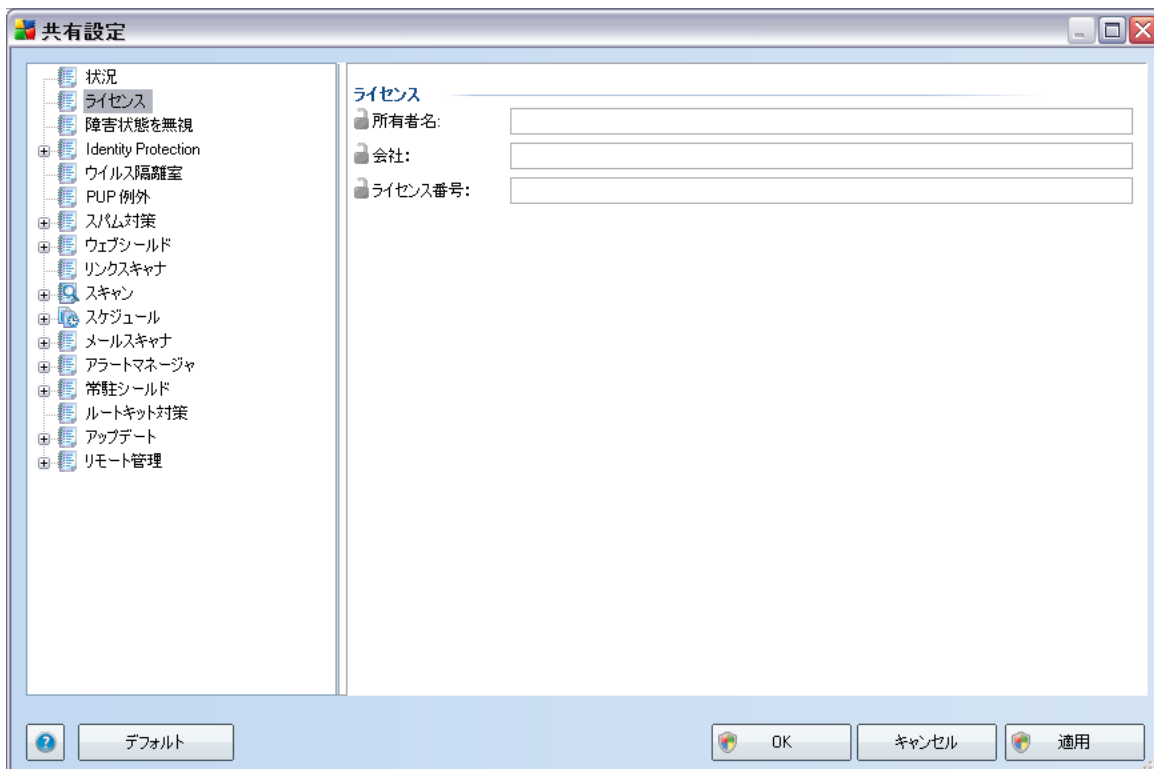
**注意:** パスワードの入力は必須です。また、同期後にステーションのユーザーが変更した可能性のある設定は、その変更後の値が反映されます。

また、ローカル ユーザーに実行中のスケジュールスキャンの停止を許可するかどうかを決定できます。これは、ステーション/グループの共有設定または個々のステーション設定で実行できます。これを実行するには、[スケジュール/スケジュール済みスキャン] スキャンアイテムに移動し、ダイアログの右側の部分で、[ユーザーによる実行中のタスクの停止を許可する] チェックボックスにチェックを付けます。

**注意:** ステーションが同期された時点で、変更が有効になります。同期化処理に関する詳細については、[同期化処理](#)の章を参照してください。

### 10.1.5. ライセンス

[ライセンス] 設定は、AVG Admin consoleのみで使用できます。

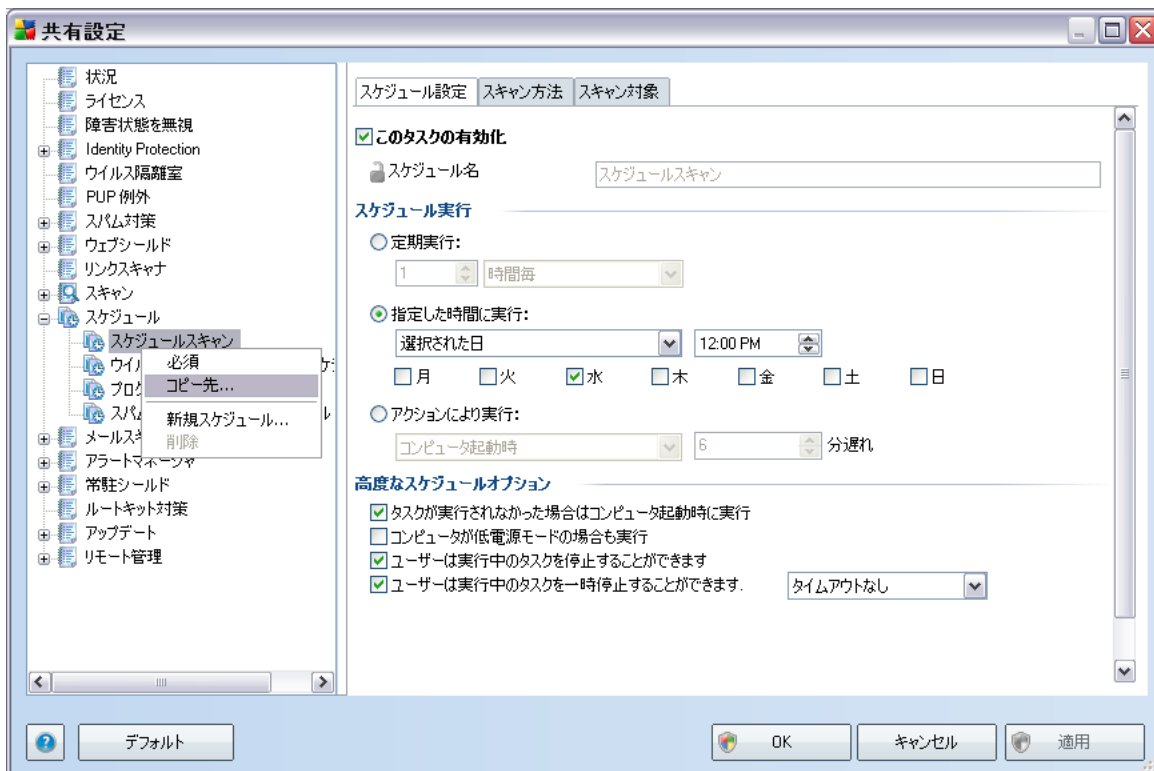


次のオプションを設定できます。

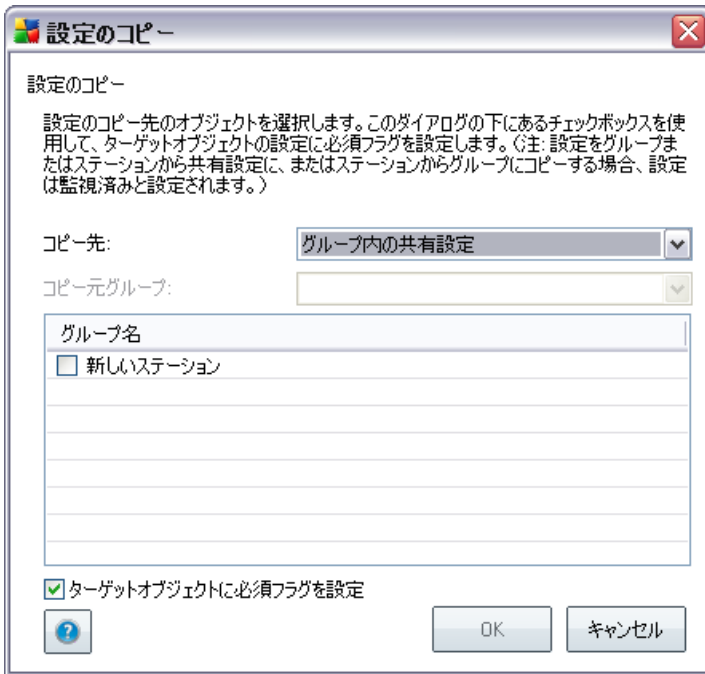
- **所有者名** - 所有者の名前を入力します。
- **会社** - 会社名を入力します。
- **ライセンス番号** - 製品番号を入力します。

### 10.1.6. 構成のコピー

あらかじめ定義されたスケジュール設定をステーション/グループの共有設定 (あるいはシングルステーションの設定) から、グループ、複数のグループ、または共有設定にコピーできます。



左のツリーで、[スケジュール] 項目から選択するサブアイテムを右クリックし、コンテキストメニューから [コピー] を選択します。新しいダイアログが表示されます。



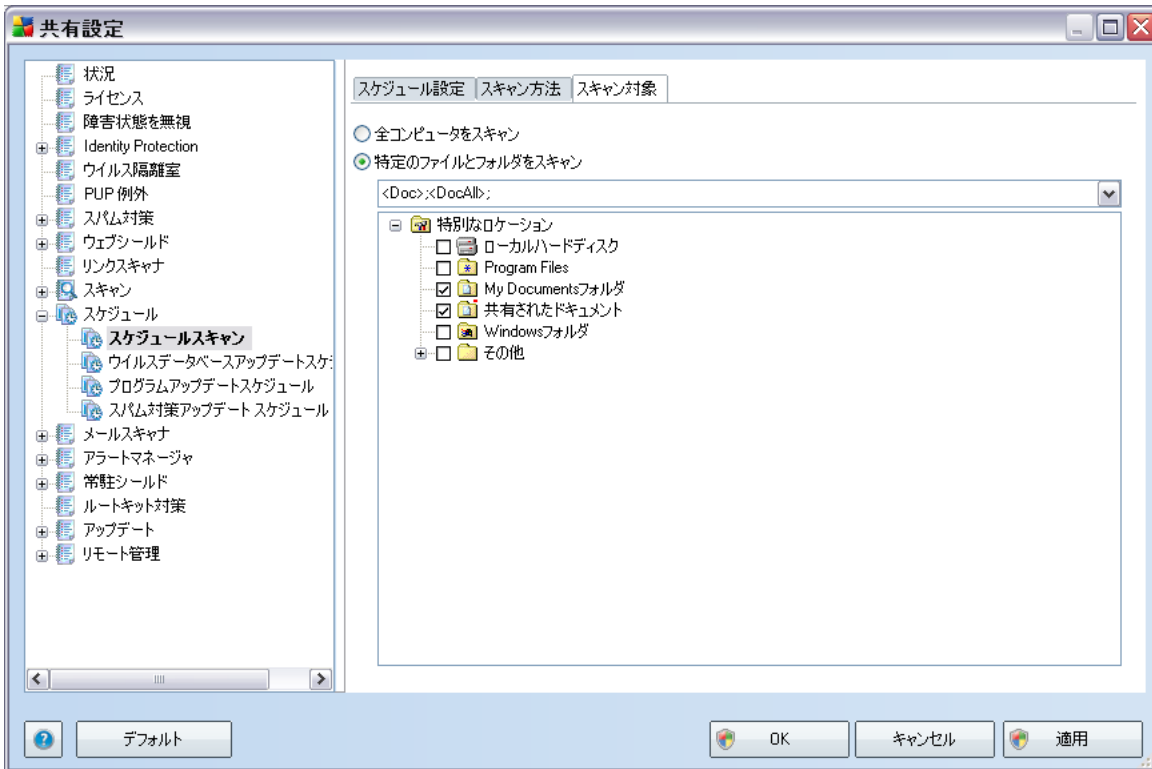
ドロップダウンメニューから設定のコピー先を選択します。グループ、ステーションの共有設定、アプリケーションサーバーの共有設定を選択できます。

[ステーション] オプションを選択した場合は、ドロップダウンメニューの [コピー元グループ] ボタンが利用可能となり、ステーションのリストからグループを選択できます。次に、設定をコピーするステーションを個別に選択します。

[ターゲットオブジェクトに必須フラグを設定する] チェックボックスは設定を必須にするために使用します。チェックしなかった場合は、設定は監視状態に設定されます。

#### 10.1.7. スケジュール済みスキャン

新しくスケジュールされたスキャンの間、事前定義されたオプションを使用して、[コンピュータ全体をスキャン] するか、または [特定のファイルまたはフォルダをスキャン] を選択できません。



2 番目のオプションでは、スキヤンするカスタム選択を選ぶことができます。

- **<Loc>**

すべてのローカル ( 固定 ) ドライブがスキヤンされます。

- **<Doc>**

次の場所がスキヤンされます。

C:\Documents and Settings\**<現在のユーザー>**

ここで、*現在のユーザー*は、スキヤンプロセス中にログインしているユーザーを指します。

- **<DocAll>**

次の場所がスキヤンされます。

C:\Documents and Settings\All Users

- **<Prg>**

プログラムファイル ( C:\Program Files\ など ) の場所がスキャンされます。

- **<WinDir>**

Windows フォルダ ( C:\Windows など ) がスキャンされます。

- **<SysDir>**

Windows システムフォルダ ( C:\Windows\System32 など ) がスキャンされま  
す。

- **<SysDrv>**

システムドライブ ( C:\ など ) がスキャンされます。

- **<Temp>**

次の場所がスキャンされます。

C:\Documents and Settings\<ユーザー>\Local Settings\Temp

ここで、<ユーザー> は、ユーザープロファイル名を指します。

- **<Web>**

MS Internet Explorer キャッシュディレクトリがスキャンされます。

C:\Documents and Settings\<ユーザー>\Local Settings\Temporary Internet Files

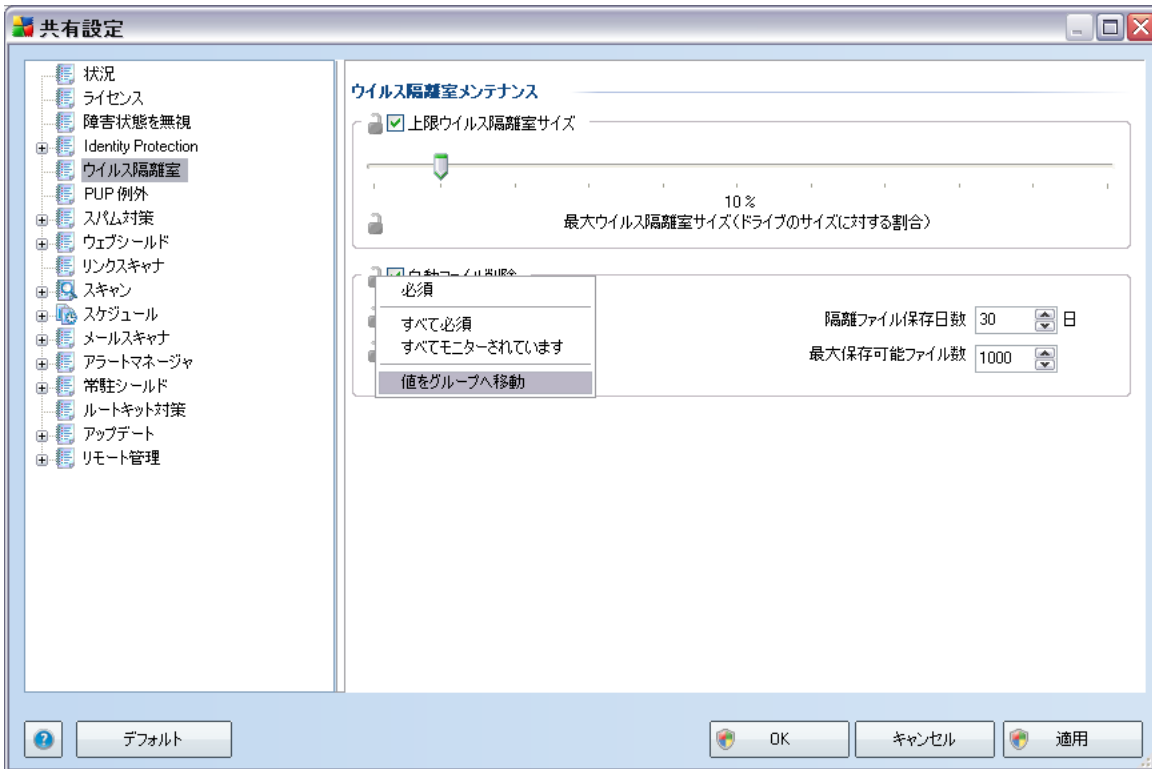
ここで、<ユーザー> は、ユーザープロファイル名を指します。

**警告：** すべてのスケジュール済みスキャンが SYSTEM ユーザーアカウント化で実行されるため、Windows のセキュリティポリシーにより、現在、一部の場所を適切にスキャンすることはできません (つまり、<Web>、<Temp>、または <Doc>)。


#### 10.1.8. グループ/サーバーへの値の移動

特定の構成を限られた数のステーショングループのみに適用する必要がある、[ステーションの共有設定] (他のすべての継承グループに適用される) 内で構成を設定したくないか、またはできない場合は、次のオプションを使用できます。

[ステーションの共有設定] を開き、移動する値が含まれるコンフィグレーションダイアログを選択します。



事前定義された値を他のすべてのグループ設定に移動するには、選択したチェックボックスをオンにして、コンテキストメニューから「**値をグループに移動**」を選択します。選択した構成アイテムの隣にあるロックアイコンが変更されます。

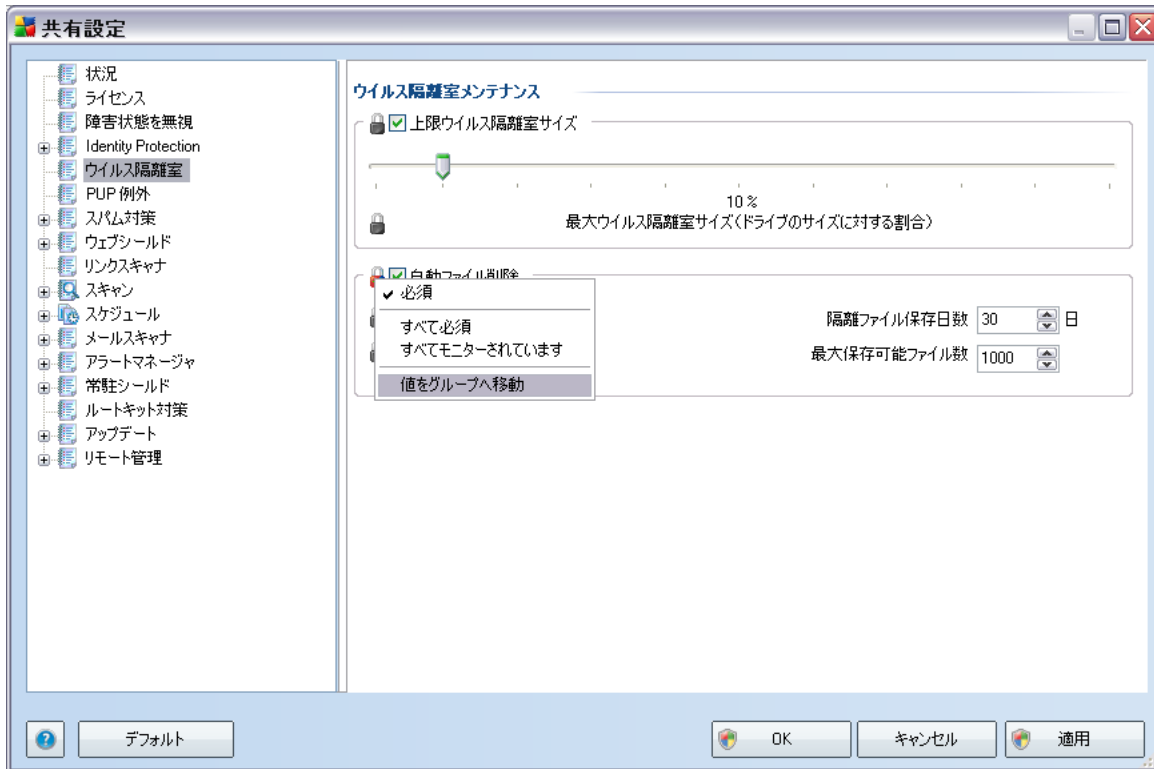
  自動ファイル削除

選択した設定を他のグループ設定に移動するには、**[OK]** または **[適用]** ボタンをクリックします。

**注意：** **[OK]** または **[適用]** ボタンをクリックする前に、設定の値を変更したり、そのステータスを変更したりすると、変更は適用されず、構成はコピーされません。

同様に、**[アプリケーションサーバーの共有設定]** を処理して、選択した構成をすべてのサーバーに移動することもできます。このコンテキストメニューアイテムは、「**サーバーへの値の移動**」といいます。

また、グループ設定の値を **[ステーションの共有設定]** に移動する場合があります。



グループの構成を [ステーションの共有設定] に移動するには、選択したチェックボックスを右クリックして、コンテキストメニューから [値を共有設定に移動] を選択します。選択した構成アイテムの隣にあるロックアイコンが変更されます。



[OK] または [適用] ボタンをクリックすると、値は [ステーションの共有設定] に移動し、必須として設定されます。他のグループでは、「監視」として設定されます。これは、必須フラグをすべてのグループからまとめて容易に削除するために使用できます。

同様に、アプリケーションサーバーの個々のサーバー設定を処理して、選択した構成を [アプリケーションサーバーの共有設定] に移動できます。このコンテキストメニューアイテムは、「値を共有設定に移動」といいます。

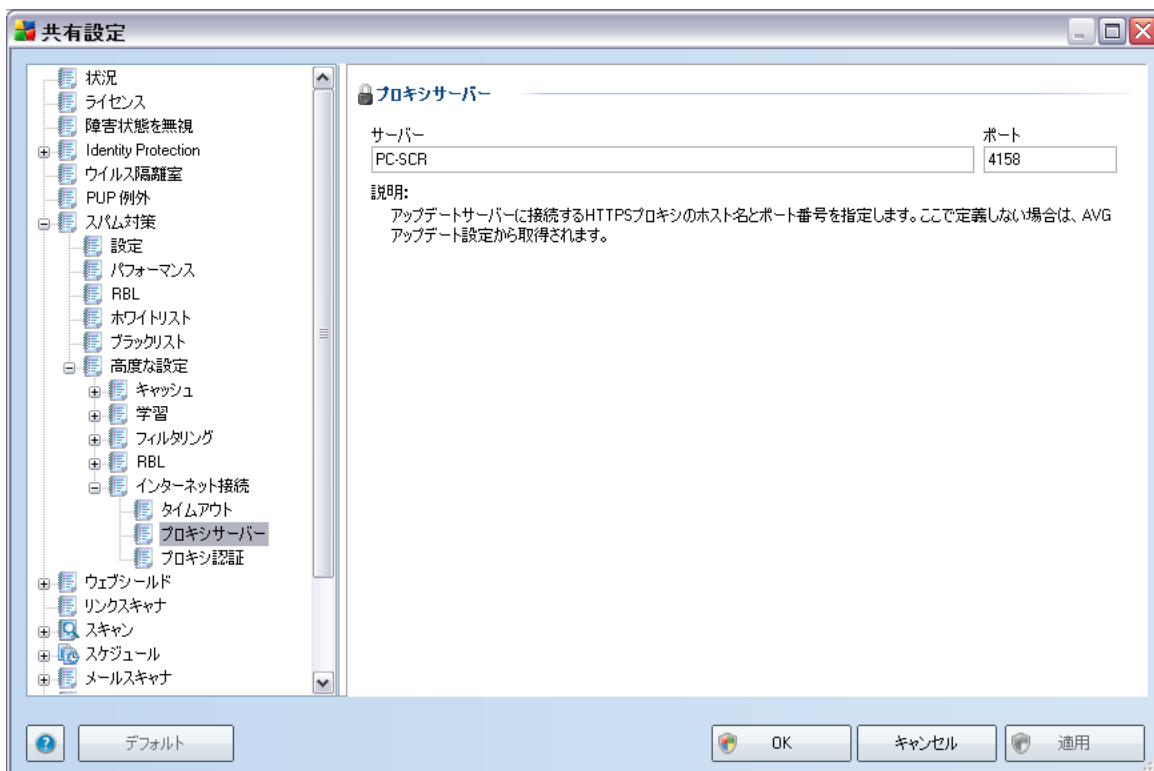
### 10.1.9. スпам対策

**AVG Admin Server Deployment Wizard** 中に UpdateProxy ロールを配置すると、スパム対策アップデートを直接 Mailshell サーバーからダウンロードし、AVG Admin Serverを使ってステーション間に配布するかどうかを選択できます。

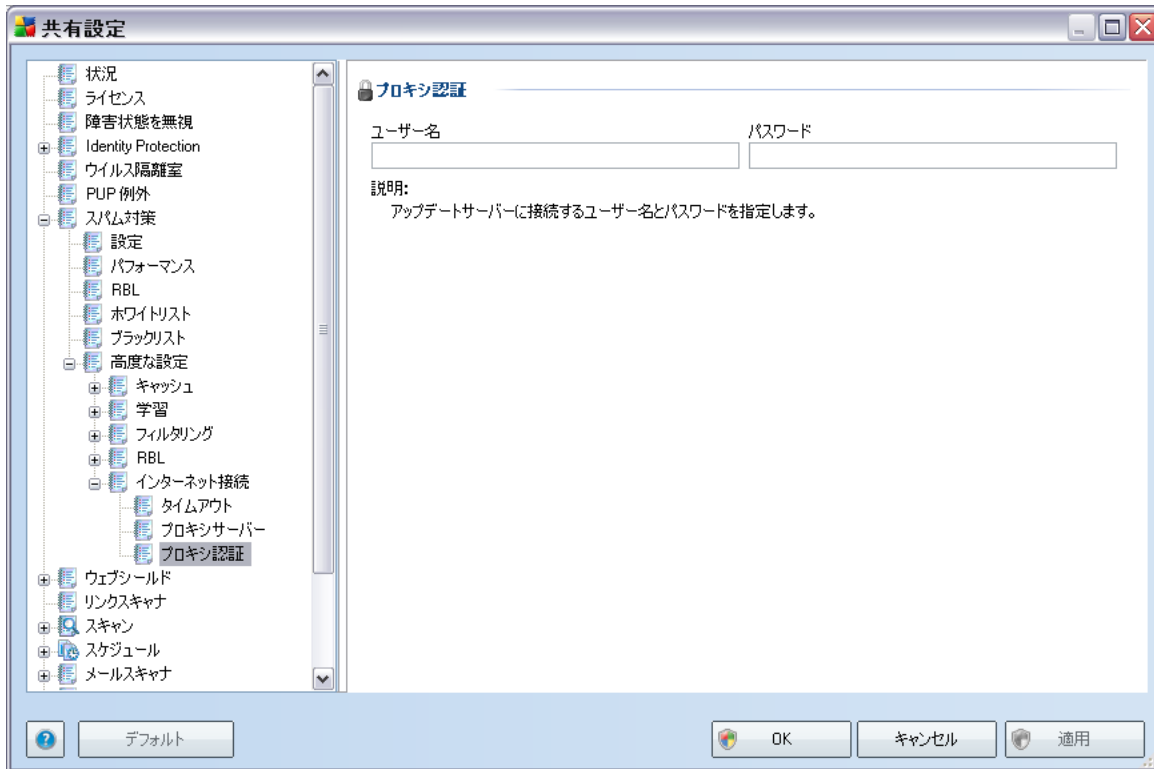
AVG Admin Server設定ダイアログの [[UpdateProxy タブ](#)] から、スパム対策アップデートのダウンロードのオン/オフを変更できます。

また、スパム対策アップデートは共有設定から手動で変更することもできます。これを実行するには、AVG Admin consoleの上部メニューの [ツール/ステーションの共有設定] 項目へ移動します。次に、[スパム対策/高度な設定/インターネット接続] を選択します。

[プロキシサーバー] ダイアログで、ポート番号 (デフォルト値4158) を含む AVG Admin Serverアドレスを入力してください。



AVG Admin Serverがユーザー名とパスワードを使用している場合は、[プロキシ認証] ダイアログを開き、正しいユーザー名とパスワードを入力してください。



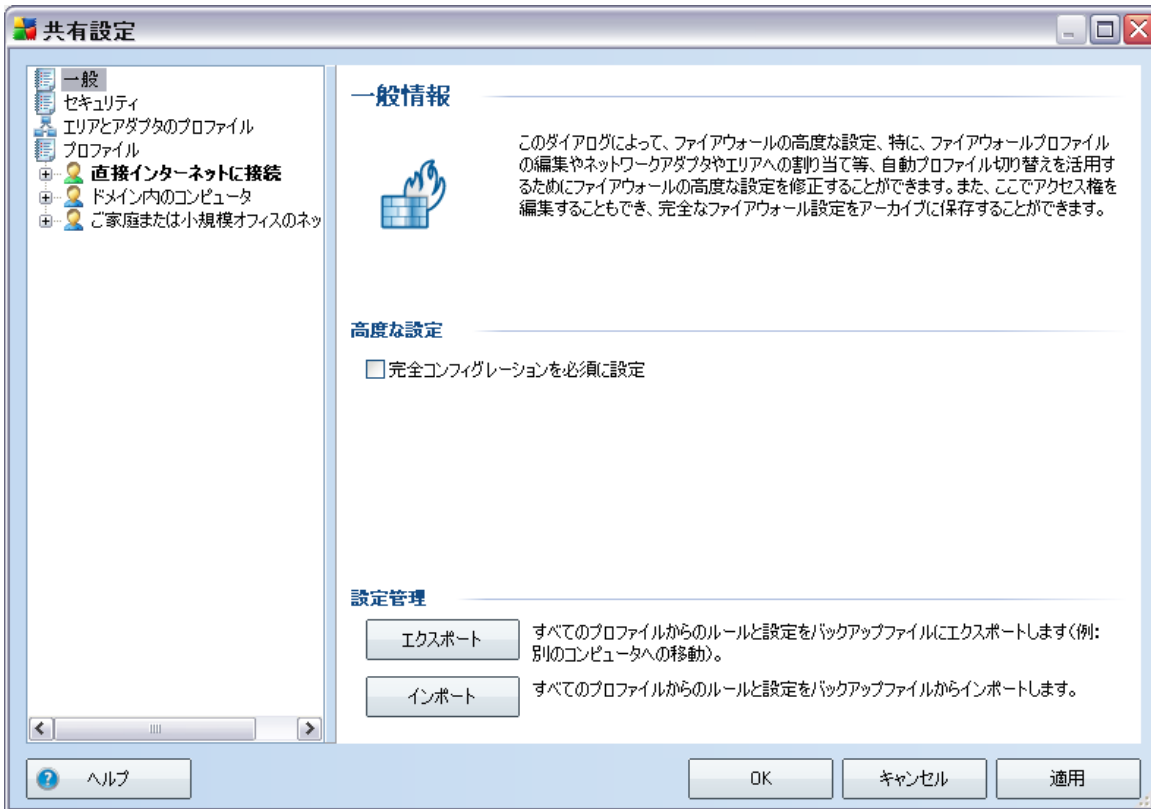
**注意:** 同様に [グループ共有設定] または、必要に応じて個別のステーション用に手動で設定をアップデートできます。

## 10.2. 共有ファイアウォール設定

このダイアログでは、ステーションの共有設定を定義できます。ほとんどのオプションはステーション上のオプションと同じなので、個々の構成でさらに詳細な情報が必要な場合は、コンテキストヘルプまたは <http://www.avg.com> からダウンロードできる『AVG Internet Security User Guide』を参照することをお勧めします。

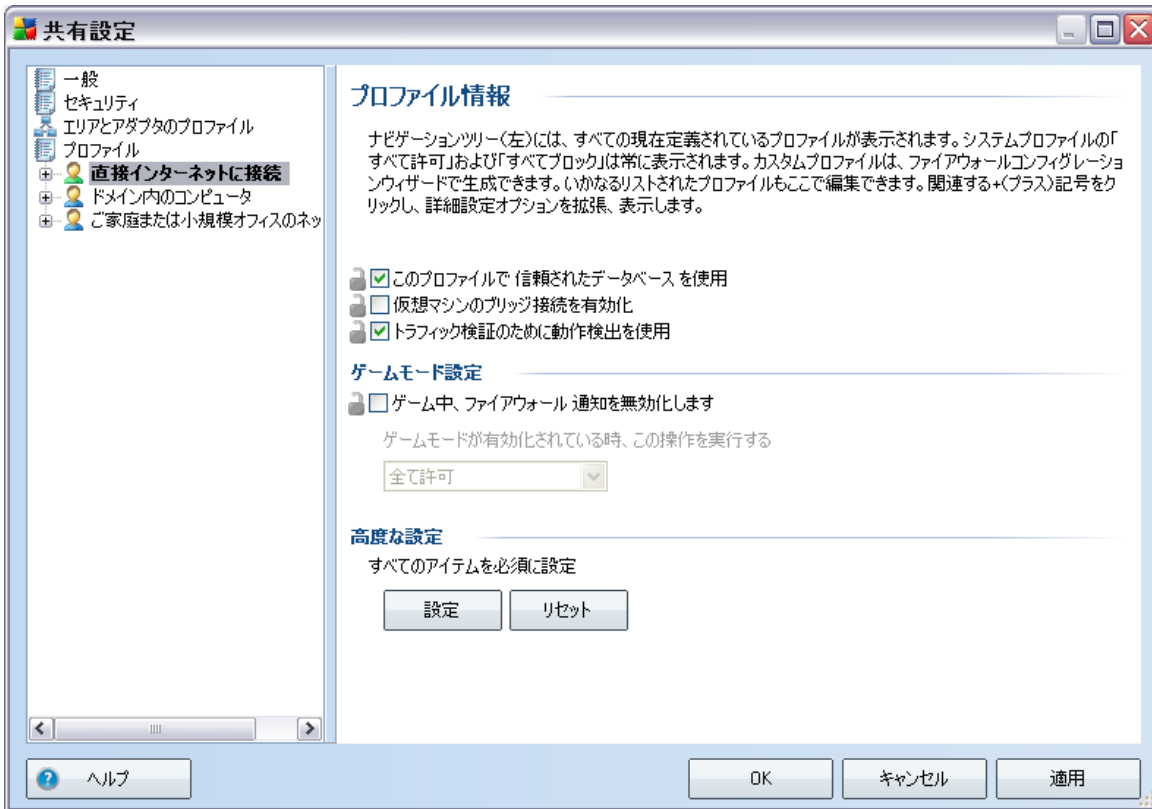
以下の節では、AVG Admin consoleで使用できるファイアウォール設定について説明します。

### 10.2.1. アイテムを必須として設定するには



構成全体を必須として設定することができます。それには、[一般情報] ダイアログの [設定全体を必須として設定] チェックボックスを選択します。

また、プロファイル内の特定の個別またはすべての設定を必須として設定することができます。それには、該当するプロファイルを選択し、メインセクションで [設定] ボタンをクリックして、すべてのアイテムを必須としてマーク付けします。[リセット] ボタンを使用すると、すべてのプロファイルの値が「監視」に戻ります。



### 10.2.2. プロファイル

ファイアウォールプロファイルは、[共有ファイアウォール設定] 内のみで、名前変更/削除/複製/インポートすることができます。

選択されたプロファイルのセットは、自動的に他のファイアウォール設定のセットに適用されます (個別のステーションやグループなど)。

**注:** 太字で強調されたプロファイル名は、必須として設定されていることを意味します。プロファイル設定の必須/監視ステータスは、上述の [領域およびアダプタープロファイル] セクションで検証 (または変更) できます。

**警告:** すべての事前定義済みプロファイル ([すべて許可] および [すべてブロック] は例外) を削除して、有効な (必須) プロファイルがまったくない場合は、ステーションは (同期された後) デフォルトプロファイルの [すべてブロック] を使用するので、通信全体がブロックされて、ステーションに接続できなくなります。

**共有設定**

一般  
セキュリティ  
エリアとアダプタのプロファイル  
プロファイル

- 直接インターネットに接続
  - 定義済みネットワーク
  - アプリケーション
  - システムサービス
- ドメイン内のコンピュータ
- ご家庭または小規模オフィスのネットワーク

**プロファイル設定**

ファイアウォールプロファイルはセキュリティルールのセットであり、インターネット接続方法(会社ネットワーク、独立ネットワーク、その他の方法等)に基づいてコンピュータに適用されます。プロファイル内では、各アプリケーションはネットワーク通信に関連した割り当てられたルールです(ブロック/許可)。基本的なプロファイルを作成するには、ファイアウォール設定ウィザードを使用して下さい。

**現在アクティブなプロファイル説明**

直接インターネットに接続 - ローカルネットワーク/ルーターのない家庭用コンピュータまたは旅行中のコンピュータ(例: ホテル、インターネッ [...])

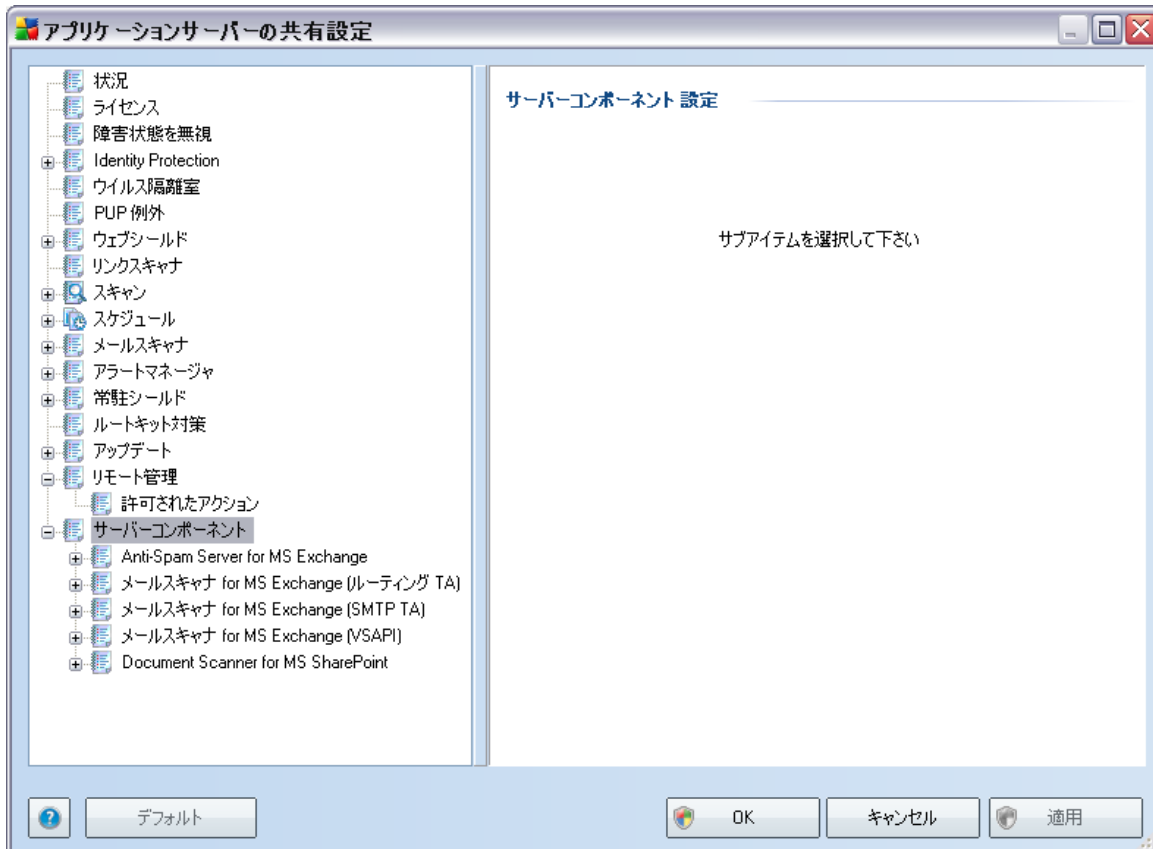
プロファイル名	信頼されたデータベース ...	
すべて許可	✗ 信頼されたデータベ...	有効化
すべてブロック	✗ 信頼されたデータベ...	複製
直接インターネットに接続	✓ 信頼されたデータベースを...	リネーム
ドメイン内のコンピュータ	✓ 信頼されたデータベ...	削除
ご家庭または小規模オフィスのネットワーク	✓ 信頼されたデータベ...	信頼されたデータベースを切り替え
		エクスポート
		インポート

**現在選択されているプロファイル説明**

ユーザー定義のプロファイルは、この2つの基本システムプロファイルのすべて許可とすべてブロック以外のプロファイルを指します。ユーザー定義のプロファイルは、ファイアウォールコンフィグレーションウィザードで自動的に、または手動で既存のプロファイル(システムプロファイル以外)を複製し必要に応じて設定を変更することで生成されます、このように、事実上無数のユーザー定義プロファイルを作成できます。

ヘルプ      OK      キャンセル      適用

## 10.3. アプリケーションサーバーの共有設定



このダイアログでは、アプリケーションサーバーの共有設定を定義できます。オプションのほとんどは、ステーションのオプションとまったく同じです。ただし、いくつかのオプションは例外で、以下の章にその説明が記載されています。他のアイテムの構成の詳細が必要な場合は、<http://www.avg.com> からダウンロードできる『AVG Internet Security User Guide』または疑問符ボタンによるコンテキストヘルプを参照することをお勧めします。

注： [デフォルト] ボタンを使用すると、現在のダイアログの元の設定を復元できません。

### 10.3.1. 概要

個別のサーバーコンポーネントの基本的な概要

- [Anti-Spam Server for MS Exchange](#)

はすべての受信メールをチェックし、望ましくないメールを SPAM とマークします。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、最大限の保護を提供します。

- [E-mail Scanner for MS Exchange \(ルーティング Transport Agent\)](#)

MS Exchange HUB 役割を通過するすべての着信、送信、および内部電子メールメッセージがチェックされます。

MS Exchange 2007 で使用でき、HUB 役割のみにインストールできます。

- [E-mail Scanner for MS Exchange \(SMTP 転送エージェント\)](#)

MS Exchange SMTP インターフェイスから着信したすべての電子メールメッセージをチェックします。

MS Exchange 2007 のみで使用でき、EDGE 役割および HUB 役割の両方にインストールできます。

- [E-mail Scanner for MS Exchange \(VSAPI\)](#)

ユーザーのメールボックスに格納されるすべてのメールメッセージをチェックします。ウイルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

- [Document Scanner for MS SharePoint](#)

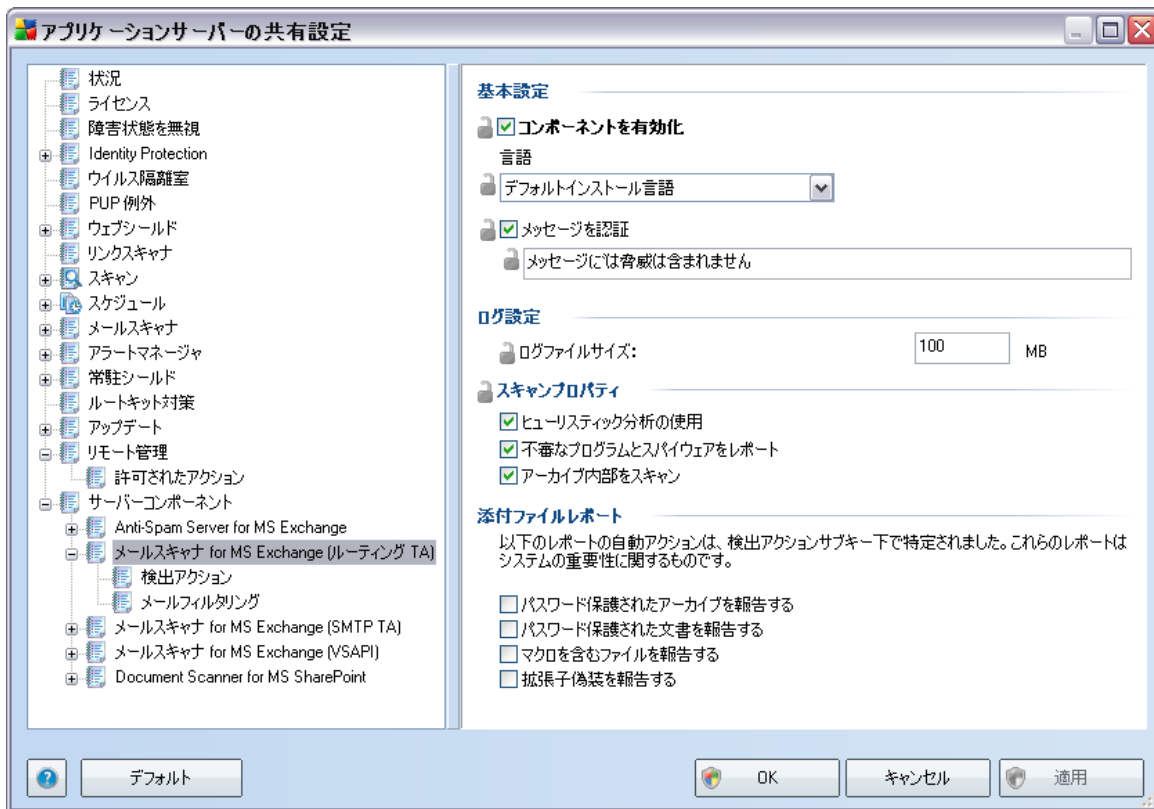
Sharepoint サーバー間のダウンロードウイルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

### 10.3.2. Anti-Spam Server for MS Exchange

**Anti-Spam Server for MS Exchange** でのみ利用できるオプションはステーションの場合とまったく同じです。ただし、あらかじめ設定された既定値は異なります。個々のオプションに関する詳細については、『AVG インターネット セキュリティ ユーザーガイド』を <http://www.avg.com> からダウンロードして参照するか、コンテキストヘルプを使用してください。

### 10.3.3. E-mail Scanner for MS Exchange (ルーティング TA)

このアイテムは [MS Exchange (ルーティング TA) 向けメールスキャナ] の設定を含みます。



[基本設定] セクションは次のオプションを含みます。

- **コンポーネントの有効化** - すべてのコンポーネントを無効化するにはチェックをオフにします。
- **言語** - 希望するコンポーネント言語を選択します。
- **メッセージを認証** - すべてのスキャン済みメッセージに認証を追加する場合はこのチェックをオンにします。次のフィールドでメッセージをカスタマイズできます。

[ログ設定] セクション:

- **ログファイルサイズ** - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100

MB です。

[スキャンプロパティ] セクション :

- **ヒューリスティックを使用する** - ヒューリスティック分析方式を有効にするにはこのチェックをオンにします。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告** - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- **アーカイブ内部をスキャン** - アーカイブファイル内 ( zip、rar 等 ) もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[メール添付報告] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。チェックがオンの場合、そのようなアイテムを含む各メールは件名欄に [INFORMATION] を含みます。これはデフォルトの設定で、[検出アクションのセクション] の[情報] パートから簡単に修正できます ( 次を参照 ) 。

次のオプションが利用可能です。

- **パスワードで保護されたアーカイブを報告**
- **パスワードで保護されたドキュメントを報告**
- **マクロを含むファイルを報告**
- **隠された拡張子を報告**

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)

#### 10.3.4. E-mail Scanner for MS Exchange ( SMTP TA )

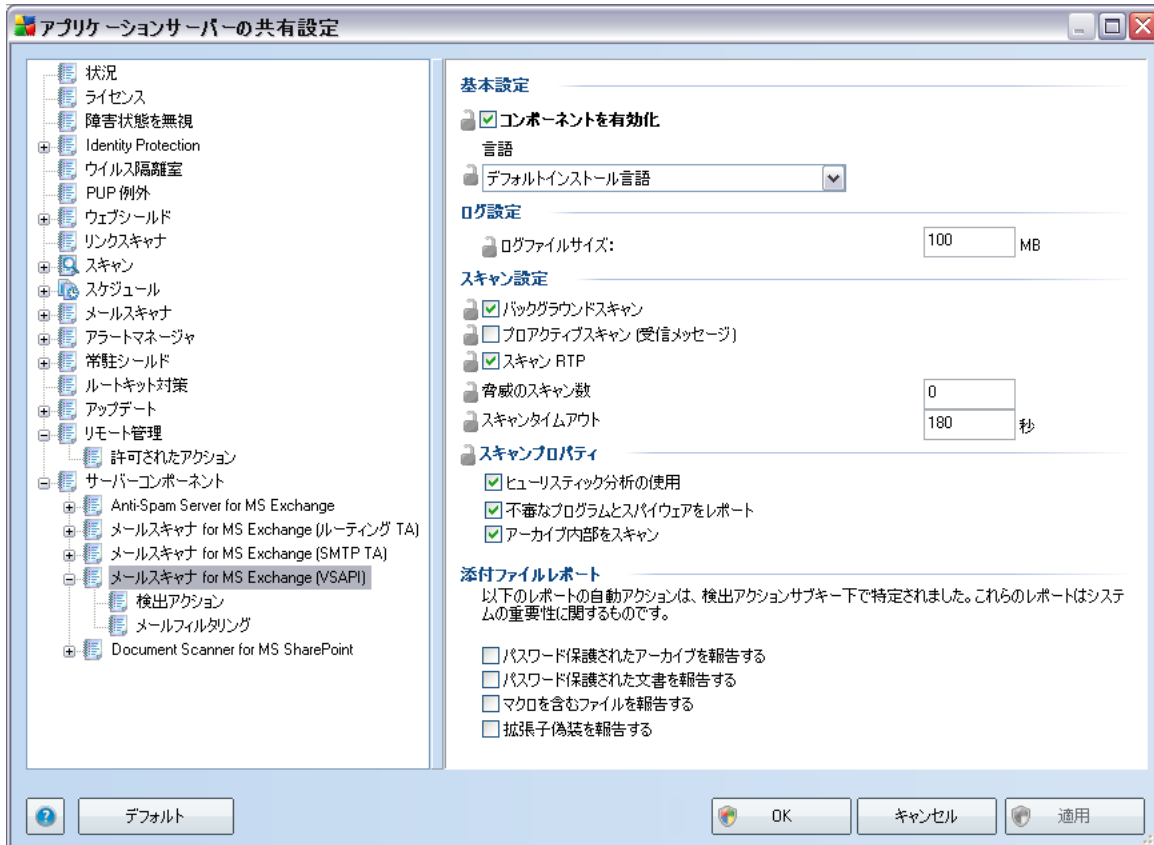
[MS Exchange (SMTP TA) 向けメールスキャナ] 設定はトランスポートエージェントのルーティングと全く同じです。詳細については、前述の [MS Exchange \(ルーティング TA\) 向けメールスキャナ](#) の章をご覧ください。

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)

### 10.3.5. E-mail Scanner for MS Exchange ( VSAPI )

このアイテムは [MS Exchange (VSAPI) 向けメールスキャナ] の設定を含みます。



[基本設定] セクションは次のオプションを含みます。

- **コンポーネントの有効化** - すべてのコンポーネントを無効化するにはチェックをオフにします。
- **言語** - 希望するコンポーネント言語を選択します。

[ログ設定] セクション:

- **ログファイルサイズ** - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100 MB です。

[スキャン設定] セクション:

- **バックグラウンドスキャン** - ここでバックグラウンドスキャンプロセスを有効化/無効化できます。バックグラウンドスキャンは VSAPI 2.0/2.5 アプリケーションインターフェース機能の 1 つです。Exchange Messaging Database のスレッド化されたスキャンを提供します。最新の AVG ウィルスベースアップデートでスキャンされなかったアイテムがユーザーのメールボックスフォルダに入った場合は、スキャンのため AVG for Exchange 2007 Server へ送られます。検査されていないオブジェクトのスキャンと検索は並列で実行されます。

特定の低優先度スレッドは各データベースで使用されます。これにより、他のタスク ( E-mail Scanner for MS Exchange データベースの電子メールストレージなど ) が常に優先して実行されることが保証されます。

- **プロアクティブスキャン (受信メッセージ)**

ここで VSAPI 2.0/2.5 のプロアクティブスキャン機能を有効化/無効化できます。このスキャンはアイテムがフォルダに届けられたがクライアントによる要求がされていない場合に実行します。

メッセージは Exchange 保管庫に送られると同時に、低優先度としてグローバルスキャンの待ち行列に入ります。先入れ先出し (FIFO) ベースでスキャンされます。アイテムが待ち行列にある間アクセスを受けた場合、高優先度に変更されません。

**注意:**

**注意:** [バックグラウンドスキャン] と [プロアクティブスキャン] オプションを無効にしても、ユーザーが MS Outlook クライアントでメッセージをダウンロードする際にアクセススキャナは有効です。

- **RTF をスキャン** - ここで RTF ファイルタイプをスキャンするかどうかを指定できます。
- **スキャンスレッド数** - スキャンプロセスは既定ではスレッド化され、あるレベルの並列性によりスキャンパフォーマンス全体が向上します。ここでスレッド数を変更できます。

デフォルトのスレッド数は「プロセッサ数」の 2 倍 + 1 です。

スレッドの最小数は「プロセッサ数」 + 1 を 2 で割った数です。

スレッドの最大数は「プロセッサ数」の 5 倍 + 1 です。

値が最小値もしくはそれ以下の場合、または最大値もしくはそれ以上の場合にはデフォルト値が使用されます。

- **スキャンタイムアウト** - 1 つのスレッドがスキャンされているメッセージにア

クセスする最大継続間隔 (秒数) です (デフォルト値は 180 秒)。

[スキャンプロパティ] セクション :

- **経験則を使用する** - 経験則分析メソッドを有効にするにはこのチェックをオンにします。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告** - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- **アーカイブ内部をスキャン** - アーカイブファイル内 ( zip、rar 等 ) もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[メール添付報告] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。デフォルトの設定は [検出アクションのセクション] の[情報] パートから簡単に修正できます (次を参照)。

次のオプションが利用可能です。

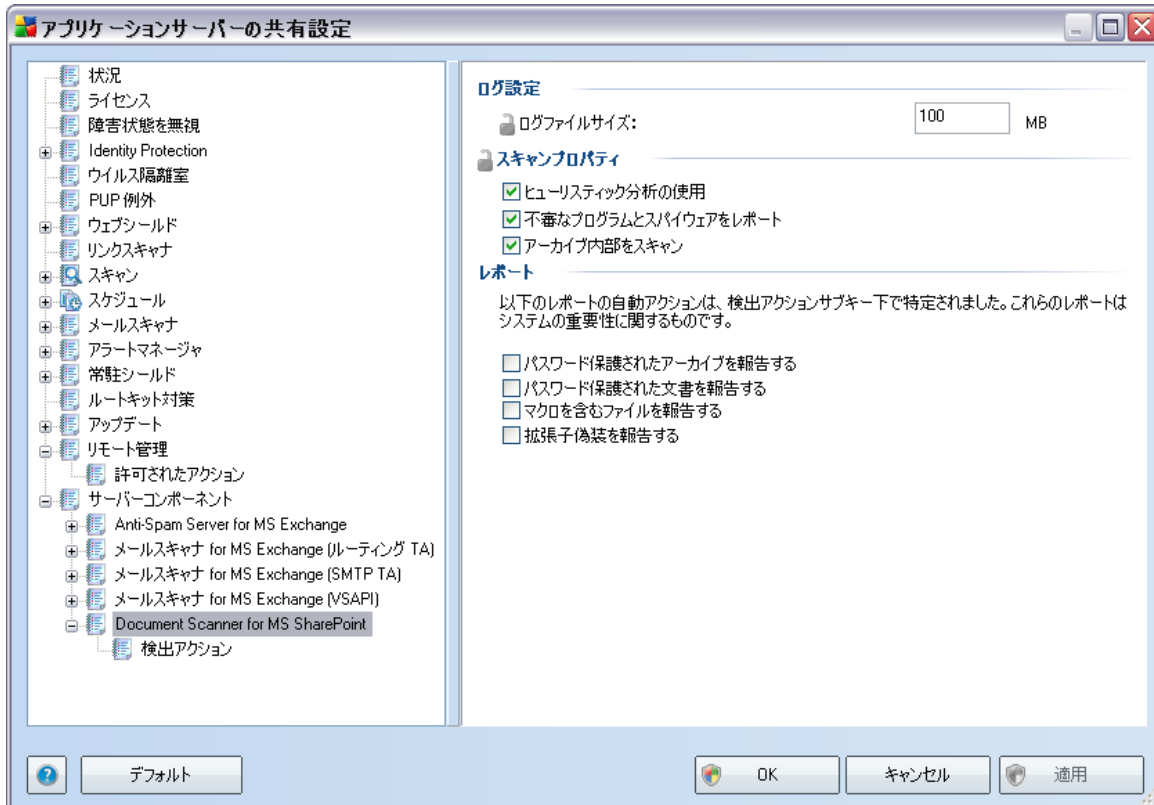
- **パスワードで保護されたアーカイブを報告**
- **パスワードで保護されたドキュメントを報告**
- **マクロを含むファイルを報告**
- **隠された拡張子を報告**

また次のツリー構造でこれらのサブアイテムも利用可能です。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)

### 10.3.6. Document Scanner for MS SharePoint

このアイテムは [MS SharePoint 向けドキュメントスキャナ] の設定を含みます。



[ログ設定] セクション:

- **ログファイルサイズ** - 希望のログファイルサイズを選択します。既定値は 100 MB です。

[スキャンプロパティ] セクション:

- **ヒューリスティックを使用する** - ヒューリスティック分析方式を有効にするにはこのチェックをオンにします。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告** - 不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告するにはこのオプションのチェックをオンにします。
- **アーカイブ内部をスキャン** - アーカイブファイル内 ( zip、rar など ) もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[報告] セクションではスキャン中にどのアイテムを報告するかを選択できます。報告は [情報] の重要度を含みます。既定のアクションは [検出アクション] セクションの [情報] パートから簡単に修正できます (次を参照)。

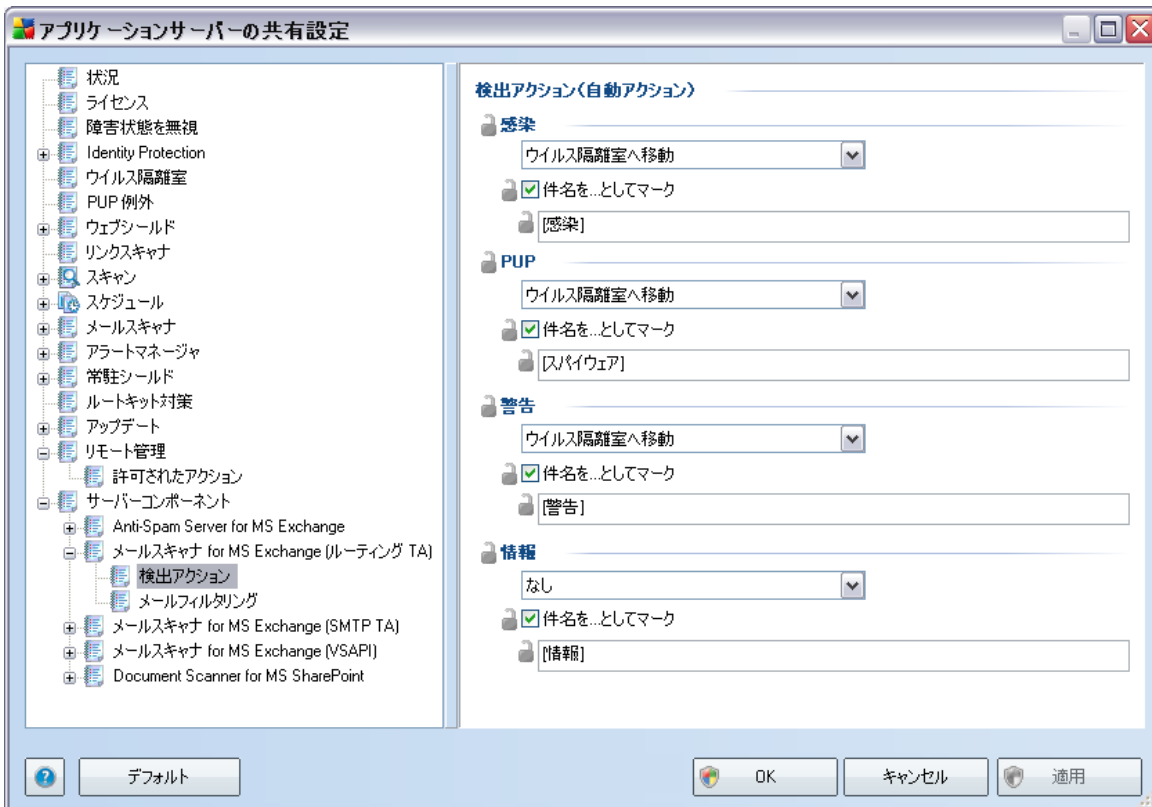
次のオプションが利用可能です。

- パスワードで保護されたアーカイブを報告
- パスワードで保護されたドキュメントを報告
- マクロを含むファイルを報告
- 隠された拡張子を報告

ツリーセクションでは以下のサブアイテムも利用可能です。

- [検出アクション](#)

### 10.3.7. 検出アクション



[検出アクション] サブアイテムでは、スキャン処理中の自動アクションを選択できません。

このアクションは以下のアイテムで利用可能です。

- 感染
- PUP (不審なプログラム)
- 警告
- 情報

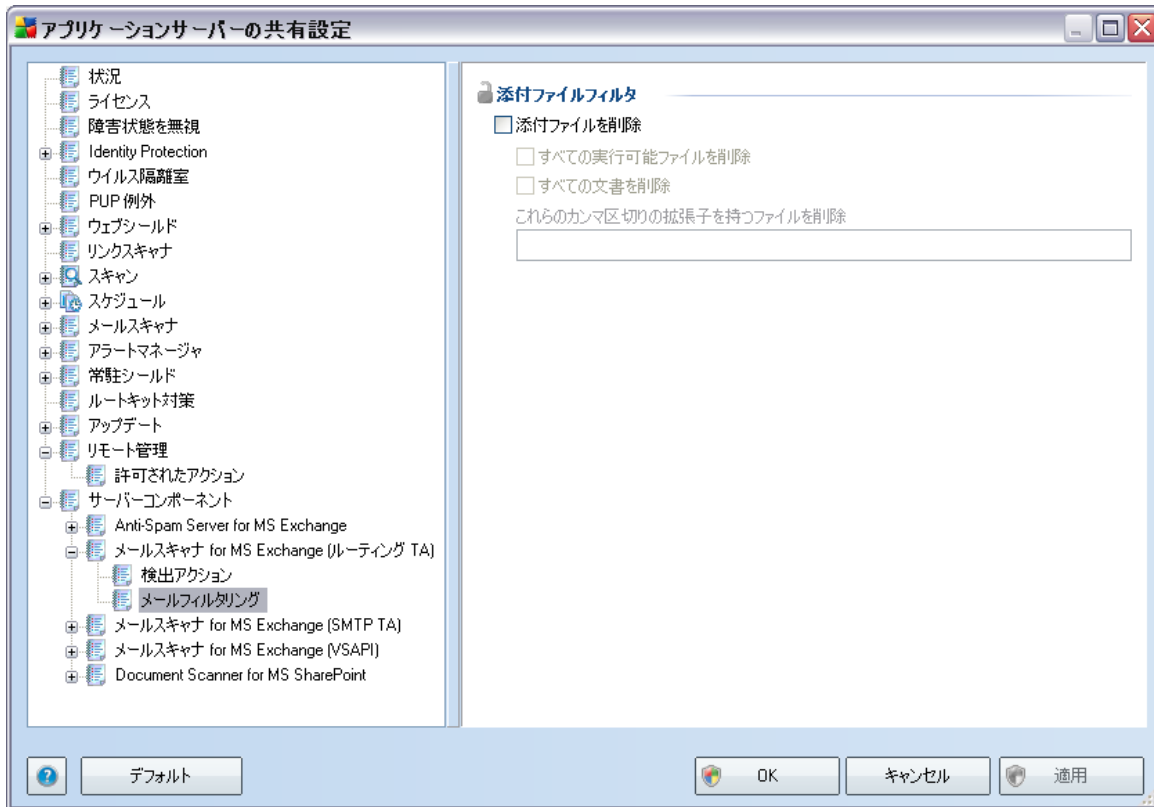
ロールダウンメニューを使い、各アイテムのアクションを選択します。

- なし - アクションは行われません。
- ウイルス隔離室に移動 - 既知の脅威はウイルス隔離室に移動します。
- 削除 - 既知の脅威は削除されます。

既知のアイテムや脅威を含むメッセージの件名文を選択する場合は、[...を含む件名をマークする] ボックスのチェックをオンにし、希望の値を入力します。

*注意: 最後の機能は MS Exchange VSAPI 向け電子メールスキャナおよび MS Sharepoint 向けドキュメントスキャナでは利用できません。*

### 10.3.8. メールフィルタリング



[メールフィルタリング] サブアイテムでは、自動的に削除する添付ファイル (ある場合) を選択できます。次のオプションを使用できます。

- **添付ファイルを削除** - このボックスをオンにして、機能を有効にします。
- **すべての実行可能ファイルを削除** - すべての実行可能ファイルが削除されます。
- **すべてのドキュメントを削除** - すべてのドキュメントファイルが削除されます。
- **コンマで区切られた拡張子でファイルを削除** - 自動的に削除するボックスをファイル拡張子で埋めます。拡張子をコンマで区切ります。

## 10.4. AVG 管理サーバーの設定

AVG Admin Serverモニターは AVG Admin Serverインストールの一部です。AVG Admin Serverモニターはシステムトレイにアイコンを表示し、アイコンの色は AVG Admin Serverの状態を示します。アイコンをダブルクリックすると AVG Admin Serverモニターダイアログが開き、サーバーアクティビティの基本情報を表示します。

アイコンが表示されない場合は、次の手順で表示できます。[Windows スタートメニュー] から [すべてのプログラム/AVG 遠隔管理] を開き [AVG Admin Serverモニター] を選択するか、[AVG Admin console] の上部メニュー [ツール/AVG Admin Server 設定]



[AVG Admin Serverモニター] ダイアログには次のコントロールボタンが含まれます。

- **サーバーを停止** - AVG Admin Serverを停止します。
- **サーバーを一時停止** - AVG Admin Serverを一時停止し、プログラムの実行は継続します。
- **サーバー設定** - AVG Admin Server設定を設定します。

Windows の起動時に自動的に AVG Admin Serverモニターを起動しない場合は、[起動時に AVG Admin Serverモニターを実行] チェックボックスのチェックを外します (推奨されません)。

### 10.4.1. [全般] タブ

このタブには次のオプションがあります。



- [ライセンス] セクション

新しいライセンス番号および個人/勤務先の詳細を入力するには、[変更] ボタンをクリックします。

新しいライセンス番号はネットワークライセンスに対応している必要があります。つまり、遠隔管理サポートが有効になっている必要があります。

- [接続] セクション

ここでは、ポート番号とローカルアドレスを変更できます。

- **ポート** - デフォルトのポート値は 4158 です。[デフォルトポートを設定] ボタンをクリックすると、デフォルト値をいつでもリセットできます。

- **ローカルアドレス** - 受信接続のローカルアドレスを指定します。デフォルト値は空で、ローカルアドレスを示します。指定した名前によって複数の名前解決が実行される場合は、使用可能な最初の名前が使用されます (サーバーはすべての名前を試行します)。

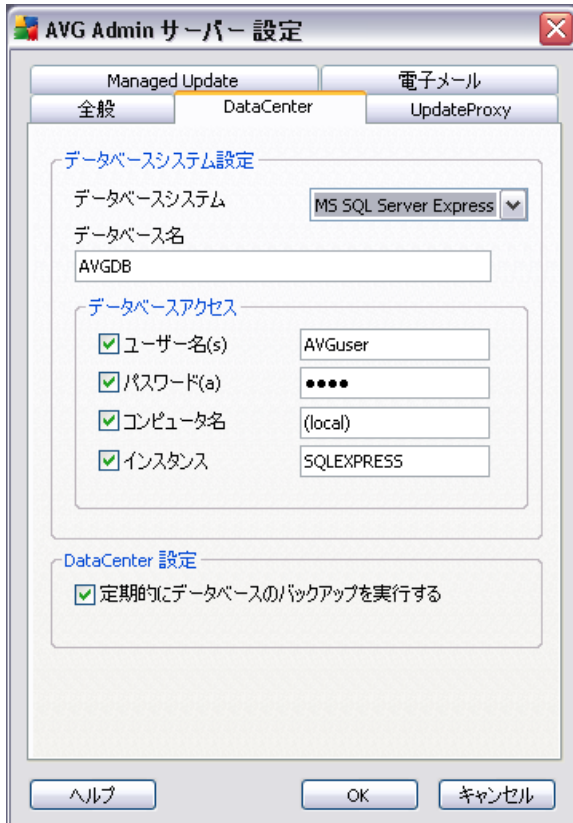
- **サーバーアクセスセクション**

AVG DataCenter にアクセスするには、このセクションで、選択したユーザー名とパスワードを入力する必要があります。値は任意ですが、セキュリティ向上のため、設定することをお勧めします。

**注：**このユーザー名とパスワードは、ステーションと AVG DataCenter の接続のために適用されます。つまり、ステーションを AVG DataCenter に (AVG ネットワークインストーラウィザードまたはマニュアルで) 接続するには、これらの値を正確ににゅうりょくするひつようがあります。

#### 10.4.2. [DataCenter] タブ

このタブでは次のオプションを表示します。



[データベースシステム 設定] セクションにはデータベースオプションを含みます。[データベースシステム] を変更するには、ドロップダウンメニューから他を選択します。

- **Firebird**

このデータベースエンジンは 1 台から 150 台までの小規模ネットワークに適しています。このデータベースは、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition 標準インストールに含まれます。

データベースファイルのロケーションを変更するには、[データベースファイル] フィールドのパスを変更します。

- **MS SQL Server Express**



**Microsoft SQL Server** の縮小版で最大 1000 ステーションをサポートできます。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれません。その利用は商業用ライセンスによって制限されていません。

データベース名を変更するには、[データベース名] フィールドにカスタム値を入力します。

- **MS SQL Server**

このエンジンは大規模ネットワークの 1000 以上のステーションをサポートします。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、Microsoft SQL Server のライセンスによって、使用が制限されます。

データベース名を変更するには、[データベース名] フィールドにカスタム値を入力します。

- **Oracle**

このエンジンは大規模ネットワークの1000以上のステーションをサポートします。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、商業版ライセンスによって、使用が制限されます。

- **MySQL**

このエンジンは大規模ネットワークの 1000 以上のステーションをサポートします。この製品は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの標準インストールには含まれず、商業環境での利用には商業版ライセンスが必要になります。

[データベースアクセス] セクションでは、次のパラメータを変更できます (データベースエンジンによっては利用できません)。

- **ユーザー名** - AVG Admin Deployment Wizard でデータベース作成時に選択したデータベースユーザー名
- **パスワード** - AVG Admin Deployment Wizard でデータベース作成時に選択したデータベースパスワード
- **コンピュータ名** - データベースのあるコンピュータ名を入力します。
- **インスタンス** - ステーションに複数のインスタンスがインストールされている場合は、特定の SQL Server/Oracle インストールを参照します。

[DataCenter 設定] セクションは以下のオプションを含みます。

- **定期データベースバックアップを実行** - チェックがオンの場合、AVG Admin

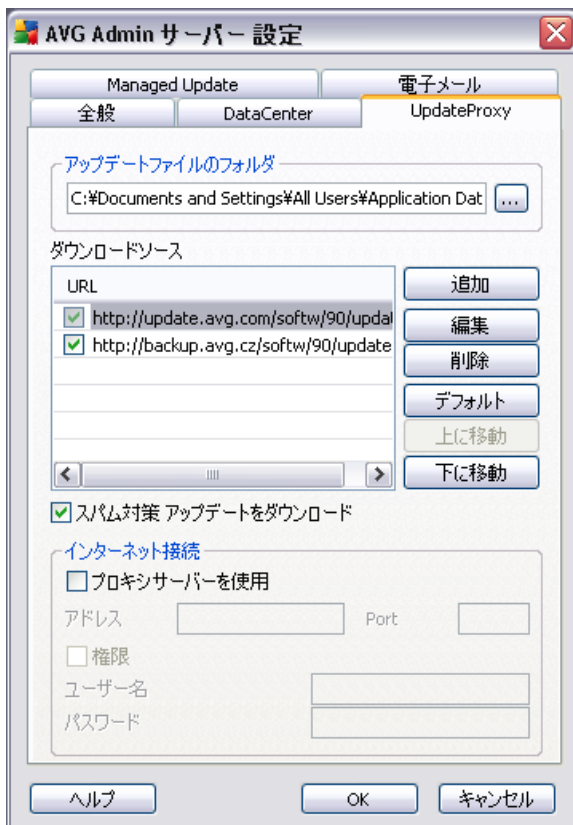
Serverは自動的にデータベースバックアップを作成します。バックアップファイルは次の場所に保存されます。

C:\Documents and settings\All users\Application Data\AVG9\Admin Server Data\AutoDatabaseBackup

フォルダは違いがわかりやすいように、年-月-年 時間の形式で名前がつけられています。

### 10.4.3. [UpdateProxy] タブ

このタブには次のオプションがあります。



- **ファイルフォルダのアップデート** - ダウンロードしたアップデートファイルが格納されるディレクトリへの完全パス名 ( C:\AVGUpdate など ) を入力します。
- **ダウンロードソース**

優先順にソートされている使用可能なアップデートサーバーのリストがあります。上位サーバーが最初に使用されます。 オプションは次のとおりです。

**追加** - 新しいアップデートサーバーを追加するためのダイアログが表示されます。

**編集** - 選択したエントリを編集できます。

**削除** - 選択したエントリを削除できます。

**デフォルト** - 元のアップデートサーバー設定が復元されます。

**上に移動** - サーバーの優先順位を上げることができます。

**下に移動** - サーバーの優先順位を下げるすることができます。

また、特定のエントリをオンまたはオフにすることもできます。AVG Admin Serverは、オンになっているエントリのみを対象にします。

- **スパム対策アップデートをダウンロード** - スパム対策アップデートをダウンロードしたくない場合は、このオプションをオフにします。

**注：** スパム対策アップデートは、Mailshell サーバーから直接ダウンロードできません。

スパム対策アップデートの詳細については、「[Configuration/Shared Settings for Stations/Groups/Anti-Spam](#)」の章を参照してください。

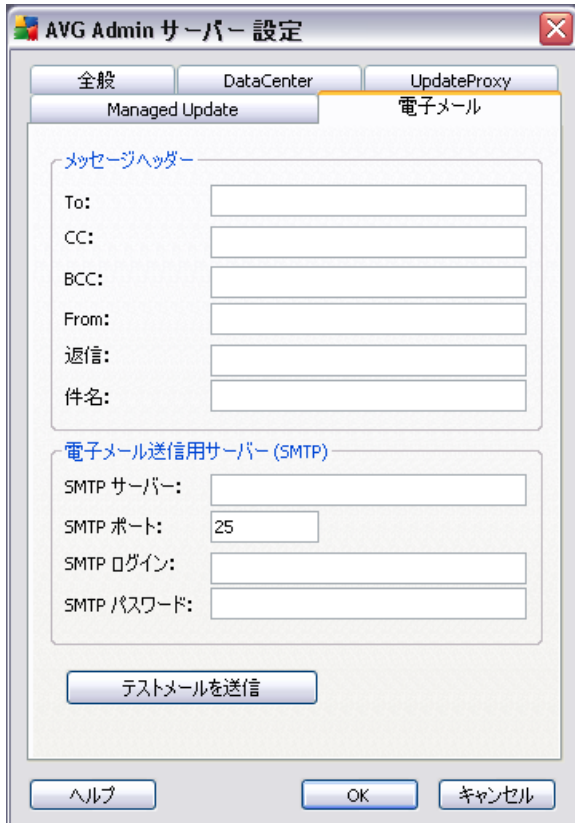
- **インターネット接続**

ネットワークにプロキシサーバーが必要な場合は、ここに入力できます。[**プロキシサーバーを使用**] **チェックボックスをオンにして、プロキシサーバーのアドレスとポート番号を入力します。**

サーバーが正常に接続するためにログインが必要な場合は、[**認証**] **チェックボックスをオンにして、ユーザー名とパスワードを入力します。**

#### 10.4.4. [電子メール] タブ

このタブでは次のオプションを表示します。



[[グラフィックレポート](#)] をメールで送信するか、[[通知](#)] を受信するには、初めにこのタブを設定する必要があります。

**注意:** 入力が必要な重要フィールドは [メール送信用サーバー (SMTP)] セクションにあります (次を参照)。レポートスケジュール定義ウィザードでは、他のフィールド (To/件名/本文) も選択できますが、ここに入力するすべての値がデフォルトと見なされます。

[メッセージヘッダー] セクションは次のフィールドを含みます。

- **To** - レポートが送信される 1 つ以上の電子メールアドレスを指定します。個々のアイテムはカンマで区切ります。このフィールドはレポートスケジュールの定義中にも入力できます。

- **コピー** - 任意の値です。レポートが送信される 1 つ以上の電子メールアドレスを指定します。個々のアイテムはカンマで区切ります。
- **BCC** - 任意の値です。ブラインドコピーとして送信される 1 つ以上の電子メールアドレスを指定します。このアドレスは他の受信者には表示されません。個々のアイテムはカンマで区切ります。
- **From** - 任意の値です。送信者の電子メールアドレスまたは送信者名と電子メールアドレスを角括弧 <user@address.com> で指定します。
- **Reply to** - 任意の値です。電子メールアドレスを指定します。
- **件名** - レポートと認識されるテキストを入力します。

[送信メール用サーバー (SMTP)] セクションはこれらのカスタマイズフィールドを含みます。

- **SMTP サーバー** - SMTP サーバーアドレスを入力します (IP アドレスまたはドメイン名)。
- **SMTP ポート** - SMTP サーバーポート番号を指定します。既定値は 25 です。

SMTP サーバーがメールの送信に認証を必要とする場合は、ログイン情報を次に入力します。

- **SMTP ログイン** - ユーザー名を指定します。
- **SMTP パスワード** - パスワードを指定します。

電子メールプロパティを検証するには、[テストメールを送信] ボタンを使用してテストメッセージを設定されたメール受信者に入力した SMTP サーバー経由で送信することができます。

[OK] ボタンで、サーバー設定のすべての変更を確定します。新しい設定でサーバーが再起動した後に、変更内容が適用されます。[AVG Admin Server] が起動している場合は、サーバーの再起動を要求するダイアログが表示されます (サーバーは再起動中アクセスができなくなりますのでご注意ください)。

## 10.5. 接続文字列

ステーションは AVG DataCenter に接続文字列と呼ばれるものを經由して接続します。この文字列は **AVG Admin Server** アドレスとポート番号を含みます。例：

ローカルホスト: 4158

ステーションを AVG DataCenter に接続し、AVG Admin consoleで管理するには、[リモート管理] コンポーネントがステーションにインストールされている必要があります。このコンポーネントのインストール中は、AVG DataCenter への接続文字列の入力を要求されます。AVG DataCenter にステーションが接続すると、**AVG Admin console**からステーションを管理できるようになります。接続文字列は後ほどステーションの AVG ユーザーインターフェース ([ツールメニュー/高度な設定]) から変更が可能です。

AVG Admin consoleから AVG DataCenter に接続するには、次の手順に従います。

1. **[AVG Admin console]** の上部メニューの [DataCenter] をクリックし、**[AVG DataCenter に接続]** アイテムを選択します。
2. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力し、必要に応じてユーザー名とパスワードを入力します。
3. **[OK]** ボタンをクリックして、選択内容を確定します。

## 10.6. プロキシ サーバー

この章では、インターネットプロキシサーバー関連の問題について説明します。

一般に、プロキシサーバーという語は、外部ネットワークリソースへのアクセスを許可するプライベートネットワーク上のサーバーを指します。

AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition内では、プロキシサーバーの使用については、基本的に 2 つのオプションがあります。

1. 自身のプロキシサーバーを使用して、AVG アップデートサーバーに接続します。その場合は、すべてのステーションでプロキシサーバー設定を定義する必要があります。それには、次の手順に従います。
  - **[AVG Admin console]** の上部メニュー、[ツール] から **[ステーションの共有設定]** アイテムを選択します。
  - **[アップデート]** に移動して、**[プロキシ]** アイテムを選択します。
  - ダイアログの右側で、**[プロキシを使用]** を選択し、ご使用のネットワーク設定に応じて **[手動]** または **[自動]** 構成を定義します。
  - **[OK]** をクリックし、変更を確定します。
  - すべてのステーションが同期するまでお待ちください ( デフォルトの同期時間は 60 分間 ) 。

あるいは、すべてのステーションの強制即時同期を実行できます。[ステーション] ノードを右クリックし、コンテキストメニューから [設定を同期] を選択します。

2. AVG Admin Serverの **UpdateProxy** 役割を配置して、公式 AVG アップデートサーバーとステーションとの間の仲介者として動作させます。UpdateProxy により、DetaCenter に接続された AVG ステーションによってリクエストされたすべての必要なアップデートファイルがダウンロードされます。UpdateProxy を使用することで、帯域が保持されます。複数の UpdateProxy サーバーを配置し、複数のサーバー間で負荷を分散することもできます (ただし、ネットワーク規模による)。

UpdateProxy 役割を AVG Admin Serverに配置するには、*Windows* [スタート] メニューから [すべてのプログラム/AVG 9.0遠隔管理/AVG Admin Server **Deployment Wizard**] アイテムを選択し、ウィザードの手順 2 で、[UpdateProxy ロール] チェックボックスをオンにして、残りの手順を完了します。

また、AVG Admin Serverが AVG アップデートサーバーからのアップデートファイルのダウンロードすることを許可するように、インターネットプロキシサーバーを設定する必要がある場合は、次の手順に従います。

- [AVG Admin Server設定] を AVG Admin consoleの [ツール] メニューから開きます。
- [UpdateProxy] タブに移動し、[インターネット接続] セクションで、[プロキシサーバーを使用] オプションをオンにします。プロキシサーバー詳細を入力し、[OK] をクリックして、選択内容を確認します。

## 10.7. AVG 管理コンソール

### 10.7.1. コンテキストメニュー

左にあるツリーの [ステーション] アイテムを右クリックすると、新しいコンテキストメニューが次のオプションとともに表示されます。

- **新しいグループ** - 新しいグループを作成します (グループに関する詳細は、[ステーショングループ](#)の章をご覧ください)。
- **設定の同期化** - ステーションと設定の即時同期化を要求します。
- **プログラムアップデートの実行を要求** - すべてのステーションにプログラムアップデート処理を開始を要求します。

- **ウイルスデータベースアップデートの実行を要求** - すべてのステーションにウイルスデータベースアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策データベースアップデートのロールバックを要求** - すべてのステーションに以前のウイルスデータベースバージョンを使用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデートファイルを削除** - すべてのステーションに一時アップデートファイルを削除する要求を送信します。
- **スキャン結果を要求** - すべてのステーションにスキャン結果を要求します。

左にあるツリーの [新しいステーション] アイテムまたは既存のグループを右クリックすると、新しいコンテキストメニューが表示され次のオプションを利用できます。

- **新しいグループ** - 新しいグループを作成します (グループに関する詳細は、[ステーショングループ](#)の章をご覧ください)。
- **グループの編集** - グループ名と説明を変更できます (新しいステーショングループには適用されません)。
- **グループの削除** - 選択したグループを削除できます (新しいステーショングループには適用されません)。
- **グループのアクセスコントロール**

フルアクセスコントロール機能 (AVG Admin consoleの上部メニュー内 [ **DataCenter** ] メニュー、[ *DataCenter 設定* ] メニューアイテム) 使用し、1 つ以上のユーザーアカウントを作成している場合は、この機能を使用してステーションの選択したグループにアクセス権を設定する機能が利用できます。

このアカウント名のいずれかをダブルクリックし、ロールダウンメニューを表示します。あるいは、右クリックして同じ内容のコンテキストメニューを表示します。ここからアクセス権の種類を選択できます。

- **フルアクセス** - 選択したユーザーアカウントはグループへのフルアクセスを持ちます。
- **読み取り専用** - 選択したユーザーアカウントはグループを閲覧することのみ可能です。
- **アクセス禁止** - 選択したユーザーはグループへのアクセスを禁止されます。
- **グループの共有設定** - [グループの共有設定](#)を開きます。

- **グループのファイアウォール共有設定** - グループで共有する [[ファイアウォール設定](#)] を開きます。
- **設定の同期化** - ステーションと設定の即時同期化を要求します。
- **プログラムアップデートの実行を要求** - すべてのステーションにプログラムアップデート処理を開始を要求します。
- **ウイルスデータベースアップデートの実行を要求** - すべてのステーションにウイルスデータベースアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策データベースアップデートのロールバックを要求** - 選択したステーションに、以前のウイルスデータベースバージョンを適用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデートファイルを削除** - すべての新しいステーションに一時アップデートファイルを削除する要求を送信します。
- **スキャン結果を要求** - すべてのステーションにスキャン結果を要求します。

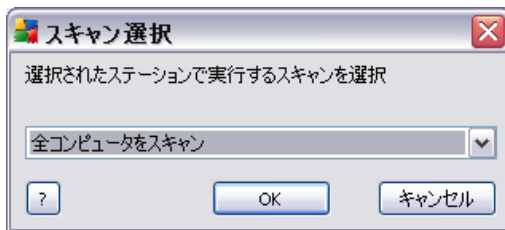
他の右クリックコンテキストメニューコントロールは、[現在のビュー] セクション (ステーションを右クリック) 利用できます。

- **グループに追加** - 選択したステーションをグループに追加します。
- **グループから削除** - 選択したステーションをグループから削除します。
- **ステーションの削除** - AVG DataCenter からステーションを削除します。
- **設定** - [ステーション設定] ダイアログを開きます。
- **ファイアウォール設定** - [ステーションのファイアウォール設定] ダイアログを開きます。
- **設定の同期化** - ステーションの設定を AVG DataCenter と即時同期化するように要求します。

すべてのタスクアイテムは以下のサブアイテムを含みます。

- **プログラムアップデートの実行を要求** - 選択したステーションにプログラムアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルスデータベースアップデートの実行を要求** - 選択したステーションにウイルスデータベースアップデート処理の開始を要求します。

- **最新のウイルス対策データベースアップデートのロールバックを要求** - 選択したステーションに、以前のウイルスデータベースバージョンを適用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデートファイルを削除** - 選択したステーションに一時アップデートファイルを削除する要求を送信します。
- **スキャン結果を要求** - 選択したステーションにスキャン結果を要求します。
- **感染したテスト結果を表示** - 選択したステーションの感染を含むテスト結果のみを表示します。
- **選択されたステーションでスキャンを起動**



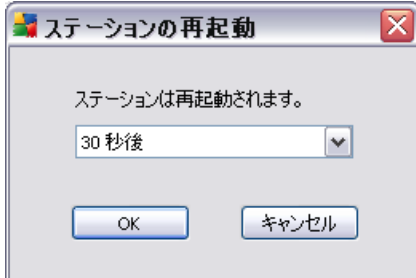
新しいダイアログが表示されます。[ロールダウンメニュー] から、コンピュータ全体をスキャンするか、スケジュールされたスキャンもしくはルートキット対策スキャンを実行するかを選択します。[OK] ボタンをクリックし、選択したステーションに要求を送信します。

- **コンポーネント状態を更新** - すべてのコンポーネントの状態を更新します。
- **ステーションの利用可能性を確認**



このダイアログでは、利用できる（オンライン）ステーションと利用できない（オフライン）のステーションを検索できます。名前の右側の列に各ステーションの状態が表示されます。再度使用状況を確認するには、[再度確認] ボタンをクリックするか、ステーション名をダブルクリックします。

- **ステーションの再起動**

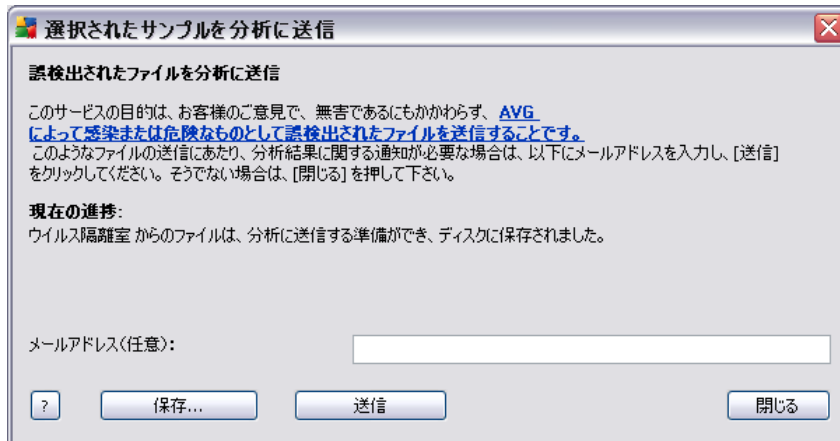


このダイアログで選択したステーションを再起動できます。[ロールダウンメニュー] から希望する待機時間を選択します。

- **ステーション説明**



- **削除** - 選択した脅威を削除するにはこのボタンを使用します。
- **分析の準備**



AVG がステーションのファイルを感染や脅威と誤認した場合、またその恐れがあると考えられる場合は、この機能を使用して対象のファイルを AVG ウィルスラボまで分析のために送信できます。

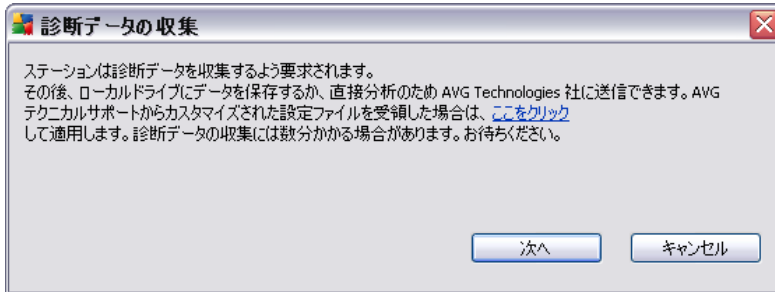
分析の結果を受け取る場合は、有効なメールアドレスを該当するフィールドに入力してください。

サンプルを確定し送信するには、[送信] ボタンをクリックします。

また、選択したファイルを [保存] ボタンを使用して暗号化形式でフォルダに保存ができます。これは後にメールでマニュアルを送信するなどの処理に利用できます。

**注意:**この機能は AVG 9.0ステーションのみ利用可能です。

- **ファイアウォールログを表示** - 選択したステーションのファイアウォール通信ログを表示します。
- **選択したステーションのイベントを表示** - 選択したステーションに関連するイベントを表示します。
- **診断データを収集** - 選択したステーションに診断データの収集を要求します。このデータは AVG テクニカルサポートに直接送信するか、追加処理のためローカルに保存できます。



[次へ] ボタンをクリックし、**診断データのダウンロードを開始します**。ダウンロード処理には多少時間がかかる場合があります。お待ちください。完了後、次のダイアログが表示されます。



メールアドレスとステーションの問題に関する簡単な説明を次のフィールドに入力します。さらにファイルを追加する場合は、[添付] ボタンを使用し、ファイルを選択します (スクリーンショットや以前に AVG テクニカルサポートから要求されたログなど)。必要のない添付ファイルを削除するには、選択した後 [削除] ボタンを使用します。

ネットワークでプロキシサーバーを使用している場合は、[プロキシ設定] ダイアログを開き、プロキシサーバーの詳細を入力します。

処理を完了するには、[送信] ボタンをクリックします。

### 10.7.2. ステーショングループ

管理者は、必要に応じてステーションを定義することができます。定義後、グループ内のすべてのオブジェクトは、このグループ用に設定されている構成を継承します。

このように、管理者はグループ構成を定義し、特定のステーション用に設定されていた以前の構成を、ステーションをグループに割り当てるだけで、変更できます。ステーションのグループへの割り当てによって、管理は大幅に容易になり、ステーション数が1つの画面の記録数を超過した場合に、割り当てを使用します（20～25オブジェクトなど）。

ステーショングループの作成と管理の手順は両方の場合で同じです。以下に、ステーションのそれぞれの手順について説明します。

- **新しいグループの作成**

新しいグループを作成するには、次の手順に従います。

- ナビゲーションツリーで、ステーショングループを右クリックします。
- コンテキストメニューから、[新規グループ] アイテムを選択して、名前を指定します。
- Enter ボタンを押して、グループの作成を確定します。

グループの作成後、新しい共有設定オブジェクトが AVG DataCenter 内にすぐに作成され、さらに編集することができます。新しいグループのすべてのメンバーは、このオブジェクトの構成を自動的に共有します。

- **グループの削除**

グループの削除手順は、グループの作成手順と似ています。

- 削除するグループ名を右クリックします。
- 新しく開いたコンテキストメニューで、[グループを削除] アイテムを選択します。

同じコンテキストメニューを使用して、グループの名前を変更することもできます（[グループを編集] アイテムを使用）。

ステーションは、コンテキストメニューの [グループに追加] アイテムを使用して、ステーションに割り当てることができます。一度に複数のステーションを強調表示して割り当てることが可能です。



新規ステーショングループは、削除できない特殊なシステムグループです。AVG DataCenter に新しく接続したステーションは、リモートインストール中に別のグループに割り当てられていない場合は、自動的にこのグループに割り当てられます。すべてのステーションが、上位ステーショングループで表示されます。

## 11. How to...

この章では、選択したタスクをAVG 9.0 Anti-Virus Business Editionで実行する方法について説明します。現在、対象となっているトピックは次のとおりです。

- [統計をAVG DataCenter に接続するには](#)
- [異なるデータセンター間でステーションを移行するには](#)
- [ステーションを同期するには](#)
- [アップデート関連の問題を解決するには](#)
- [AVG を Windows XP Home にリモートでインストールするには](#)
- [ユーザーインターフェイス言語を変更するには](#)
- [ステーションのユーザーアクションを管理するには](#)
- [リクエストの処理およびステータスメッセージ](#)
- [アクセス権を管理するには](#)
- [DataCenter データベースを保守するには](#)
- [AVG セットアップパラメーターのリスト](#)

注：以下の章を参照しても、リモート管理/インストール/接続の問題が解消されない場合は、<http://www.avg.com>にあるFAQ(よくある質問と答)で正しい解決方法を見つけてください。

### 11.1. ステーションを AVG DataCenter に接続するには

AVG DataCenter に接続するには基本的に 2 つのオプションがあります。

- [AVG ネットワークインストールウィザード](#)
- [手動接続](#)

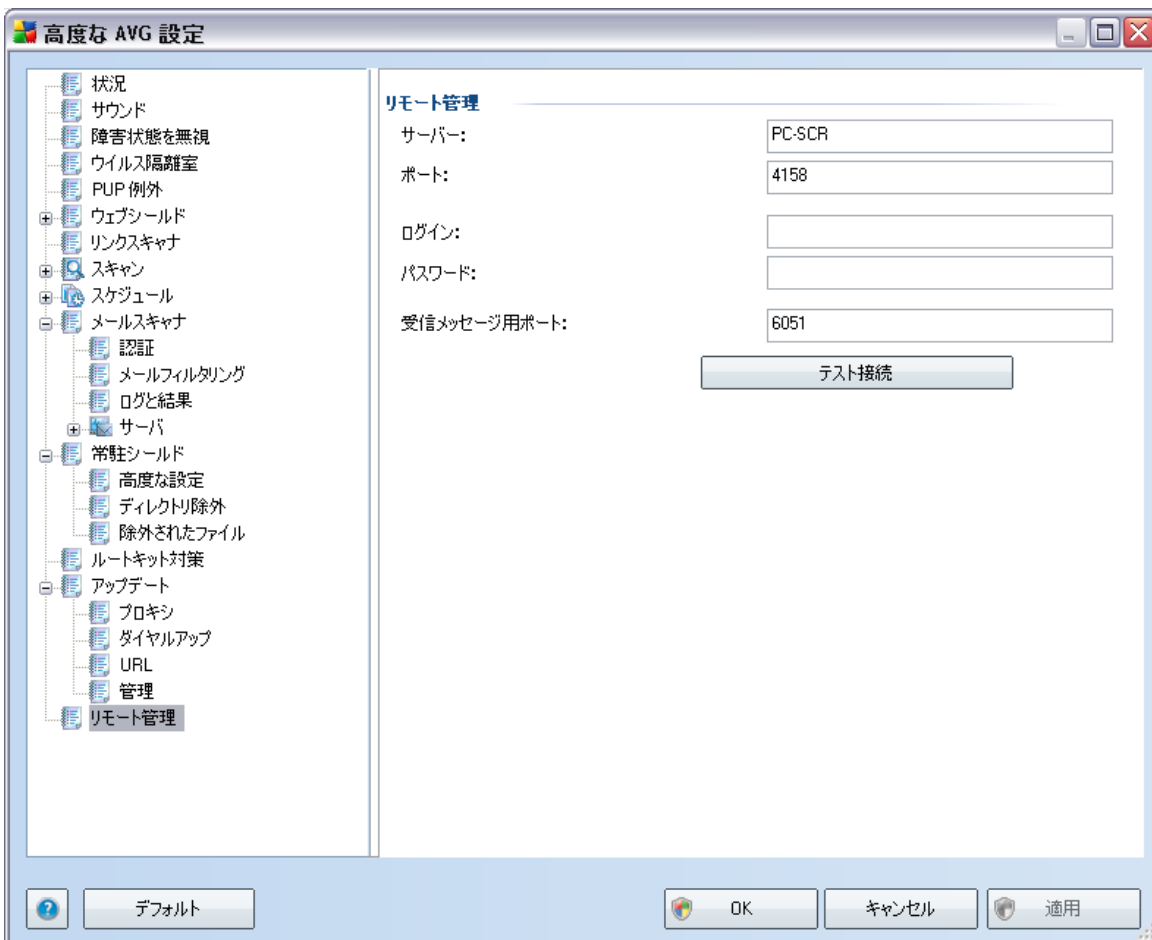
#### 11.1.1. ステーションを手動で接続するには

AVG を手動でネットワークの各ステーションまたはサーバーに直接インストールし、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition へ手動で接続できます。このオプションはすべての Windows プラットフォームで利用可能です。

AVG ステーションを正常にリモート管理するためには、**遠隔管理**コンポーネントを**AVG**インストールプロセスに含める必要があります。このコンポーネントが正しくインストールされた後、手動で正しい AVG DataCenter 接続文字列を指定する必要があります。

接続文字列に関する詳細については、[接続文字列](#)の章をご覧ください。

**AVG**のインストールに関する詳細については、AVG 9.0インターネットセキュリティ（またはご使用の製品）ユーザーマニュアルをご覧ください。次の AVG ウェブサイトの [ダウンロード] セクションからダウンロードが可能です (<http://www.avg.com>)。



**注意:** AVG DataCenter 接続文字列をAVGステーションへのインストール中に直接入力することもできます。

文字列を直接ステーションに入力するには、AVG ユーザーインターフェースを開き、上部メニューの [ツール/高度な設定] から [高度な設定] へ移動します。[遠隔管理] グループを選択します。

ダイアログの右側で、次の入力項目に入力します。

- サーバー - AVG DataCenter サーバー名または IP アドレスを入力します。
- ポート - AVG DataCenter サーバーポートを入力します (既定は 4158)。

AVG DataCenter が接続にユーザー名とパスワードを必要とする場合は、これらの情報を入力します。

- ログイン名 - ユーザー名を入力します。
- パスワード - パスワードを入力します。

[受信メッセージ用ポート] を既定値のままにすることをお勧めします。

すべての必要な情報を入力し、[テスト接続] ボタンをクリックして接続を確認します。失敗した場合は、[ネットワーク要件](#)の章に解決策が記載されている場合がありますので、参照してください。

その他の方法として、[AVG 設定マネージャ] を使用して各ステーションに設定を手動で適用することもできます。

## 11.2. 異なる DataCenter 間でステーションを移行するには

この章では、別の AVG DataCenter からステーションを移行する方法について説明します。次の 2 つのトピックを扱います。

- [ステーションのインポートおよび AVG DataCenter 8.5 からの設定](#)
- [他の AVG DataCenter へのステーションの移行](#)

### 11.2.1. AVG DataCenter 8.5 からのステーションおよび設定のインポート

AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition の新しいバージョンは以前のバージョンと下位互換性がありますが、新しいデータベースを作成するときに、AVG DataCenter 8.5 ステーションを [AVG Admin Deployment Wizard](#) でインポートすることもできます。

インポート手順：

1. AVG DataCenter 8.5 のエクスポートを準備します。 .

それには、AVG Admin console 8.5 を開いて、[**DataCenter**] メニューから [**データセンターのエクスポート**] を選択します。 所望のフォルダを選択して、[**OK**] を押します。

*注： 複数のファイルがエクスポートされるので、目的のフォルダは空である必要があります。*

2. **AVG Admin Deployment Wizard 9.0**を開きます。 新しい空の DataCenter データベースを作成することを選択し、[データのインポート](#)手順の間に、以前の 8.5 データをエクスポートしたフォルダを選択します。
3. 配置プロセスを通常どおりに終了します。

### 11.2.2. 他の AVG DataCenter へのステーションの移行

ステーションを異なる AVG DataCenter に移動するには、まず、AVG Admin Serverを別のコンピュータに配置する必要があります (まだ配置していない場合)。

新しい AVG Datacenter が準備できた時点で、接続するすべてのステーションの新しい接続文字列を入力する必要があります。

新しい設定をステーションに反映させるには、次の手順に従います。

1. AVG Admin consoleで、[**ツール**] を選択し、**ステーションの共有設定アイテム** を選択します。
2. **Remote Administration** を選択します。
3. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力します。[**OK**] ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
4. すべてのステーションが同期するまでお待ちください (デフォルトの同期時間は 60 分間)。

あるいは、すべてのステーションで強制即時同期ができます。ナビゲーションツリーのステーションのノードをクリックし、コンテキストメニューから [**設定の同期化**] を選択します。

ステーションが正常に移行されたことを検証するには、新しい AVG DataCenter に接続します。

1. [**AVG Admin console**] で、上部メニューの [**DataCenter**] をクリックして、[**AVG DataCenter に接続**] アイテムを選択します。

2. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力するか、必要に応じてユーザー名をパスワードを入力します。
3. [OK] ボタンをクリックして、選択内容を確認します。

また、AVG DataCenter の既存の内容全体をエクスポートし、新しく作成された DataCenter にインポートします。それには、次の手順に従います。

*注：この手順はバージョン 9.0 に適用されます。*

1. 既存の AVG DataCenter の内容をエクスポートするには、[DataCenter/ データベースエクスポート] 上部メニューアイテムに移動します。
2. インストール先フォルダを選択するように求められます。選択を確認したら、エクスポートが開始されます。
3. データを新しい AVG DataCenter に戻すには、データをインポートするサーバーで AVG Admin Server Deployment Wizard を実行する必要があります。ウィザードを進め、データベース更新/作成ステップで、[新しい空の DataCenter データベース] を作成します。
4. データインポートステップに進み、[フォルダからデータベースにデータをインポートする] チェックボックスにチェックを付け、最近エクスポート/保存されたバックアップフォルダへのパスを入力します。
5. 選択内容を確認し、ウィザードを終了します。完了したら、元のデータは、新しい AVG DataCenter で利用できます。

### 11.3. ステーションを同期するには

同期プロセスは、「[AVG Admin Console/Synchronization process](#)」の章で説明しています。

### 11.4. アップデート関連の問題を解決するには

アップデートがリモートでトリガーされない場合、ステーションが最新ではない場合、DataCenter に正しく接続されていることを確認する必要があります。次の手順に従うことをお勧めします。

ステーションが正常に応答する場合は、まず、表示するステーションを手動で更新します。それには、**AVG Admin console**でステーションノードまたはステーションビュウの特定のステーションを右クリックして、コンテキストメニューから、[すべてのタスク/ウィルスデータベースアップデートを実行するように依頼] アイテムを選択します。AVG Admin consoleのステータスウィンドウを見て、エラーメッセージをチェックします。

アップデートを確実に完了させるには、設定を同期し (ステーションノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから、**[すべてのタスク/コンポーネントの状態を更新]** を選択)、ステーションビューで **[バージョン]** タブを開きます。ここでは、すべてのデータベースがアップデートされたかどうかを確認できます。

更新が成功した場合、しばらくたった後に、ステーションは再度古くなるので、次の設定を確認します。

1. 上部メニューの **[ツール]** から、**[ステーションの共有設定]** アイテムを選択します。
2. **[スケジュール]** に移動して、**[ウィルスデータベースのアップデートスケジュール]** を選択します。
3. ) ダイアログの右側で、**[このタスクを有効化]** チェックボックスがオンになっていて、スケジュールが正しく定義されていることを確認します。**[OK]** をクリックして、ダイアログを閉じ、変更を確定します。

**注：** **[プログラムのアップデートスケジュール]** でもこのアクションを繰り返す必要があります。

4. **ステーションノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから [設定を同期] を選択します。**

アップデートについて、以前のステップの間にエラーが表示されるか、ステーションでまだ非準拠状態が消えない場合は、これらのステップを続行してください。

1. 上部メニューの **[ツール]** から、**[ステーションの共有設定]** アイテムを選択します。
2. **[アップデート]** に移動し、**[URL]** を選択します。
3. ) ダイアログの右側で、正しいアップデートアドレスが入力されていることを確認します。例えば、AVF 管理サーバーの UpdateProxy の役割を使用している場合、ご使用の AVG Admin Server アドレスが表示されている必要があります。表示されていない場合、デフォルトの AVG アップデートサーバーが表示されているはずです (以下を参照)。
4. ) 必要に応じて、アドレスを訂正し、**[OK]** をクリックして、変更内容を確定します。
5. すべてのステーションが同期するまでお待ちください (デフォルトの同期時間は 60 分間)。



あるいは、すべてのステーションの強制即時同期を実行できます。[ステーション] ノードを右クリックし、コンテキストメニューから [設定を同期] を選択します。

インターネット接続が正常に動作しているにもかかわらず、AVG Admin Serverがまったくアップデートされない場合は、まず、AVG Admin Serverステータスページを確認してください。それには、Web ブラウザに正しいポート番号 (デフォルト 4158) と IP アドレスまたはドメイン名を入力します。例：

<http://localhost:4158/>

[UpdateProxy サーバーロール] セクションでは、UpdateProxy ステータスとダウンロード/アップロード統計が表示されます。

これが正しくない場合や、エラーがある場合は、AVG Admin Serverの UpdateProxy の役割を再度配置してください。それには、再び AVG Admin Server Deployment Wizard を実行します - 「[AVG Admin Deployment Wizard](#)」の章に記載のステップに従ってください。

「**Configuration of update servers**」ステップで、アップデートサーバーが正しく設定されているかどうかを確認してください。デフォルトのアップデートサーバーは次のとおりです。

プライマリアップデートサーバーのアドレス：

**<http://update.avg.com/softw/90/update>**

バックアップアップデートサーバーのアドレス：

**<http://backup.avg.cz/softw/90/update>**

すべてのステップを確認して、ウィザードを終了します。

## 11.5. AVG を Windows XP Home にリモートでインストールするには

Windows XP Home オペレーティングシステムがインストールされたステーションでのリモートインストールでは、手動によるインストールと AVG エージェントサービスの開始が必要となります (ステーションでまだ実行されていない場合)。

AVG エージェントアプリケーションはすべてのAVG 9.0 Anti-Virus Business Editionインストールに含まれています。インストールドライブを C とすると、アプリケーションへのパスは次のようになります。

C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\Console



AVG エージェントが正常に機能するために、まず次のファイルをステーションにコピーする必要があります。

avgagent.exe

avgagent\_cz.lng

avgagent\_fr.lng

avgagent\_ge.lng

avgagent\_it.lng

avgagent\_pb.lng

avgagent\_us.lng

完了したら、ステーション上の AVG エージェントを保存したフォルダに移動し、次のコマンドを実行します。

#### **avgagent.exe -install -start**

エージェントがインストールされた時点で、AVG のリモートインストールを続行できます。AVG

リモートインストールの詳細については、「[AVG Network Installer Wizard Basic Mode](#)」の章を参照してください。

### 11.6. ユーザーインターフェイス言語を変更するには

AVGのインストール中に、使用するユーザーインターフェイス言語を選択するオプションがあります。何らかの理由により、アプリケーションを別の言語で使用する必要がある場合は、次の手順で変更ができます。

AVGコンポーネントを開始する際にこのコマンドラインパラメータを使用し、ユーザーインターフェイス言語を変更できます。

パラメータ	意味
/LNG=xxxx	要求された言語バージョンが利用可能な場合は、その言語が使用されます。それ以外の場合、アプリケーションはオペレーティングシステムの言語に応じて言語を選択します。

	設定可能な値は次のとおりです。 <b>CSY</b> - チェコ語ユーザーインターフェース <b>ENU</b> - 英語ユーザーインターフェース <b>DEU</b> - ドイツ語ユーザーインターフェース <b>FRA</b> - フランス語ユーザーインターフェース <b>PTB</b> - ポルトガル語 ( ブラジル ) ユーザーインターフェース <b>ITA</b> - イタリア語ユーザーインターフェース
--	---

**使用例:**

[Windows スタートメニュー] から [ファイル名を指定して実行] を選択し、要求するコンポーネント、パス、および適切なパラメータを入力します。例:

**注意:** 弊社ではAVGを次の場所にインストールしたと想定しています。

`C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\`

この場所と異なる場合は、次のパスを適宜変更してください。

[**AVG Admin console**] をドイツ語で起動する場合:

`"C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\Console\AVG9AdminConsole.exe" /lng=deu`

[AVG ネットワークインストールウィザード] をドイツ語で起動する場合:

`"C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\Console\AVG9NetworkInstaller.exe" /lng=deu`

[**AVG Admin Deployment Wizard**] をドイツ語で起動する場合:

`"C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\Console\AVG9AdminServerWizard.exe" /lng=deu`

[AVG Admin Serverモニター] をドイツ語で開始する場合:

`"C:\Program Files\AVG\AVG9 Admin\Console\AVG9AdminServerMonitor.exe" /lng=deu`

## 11.7. ステーションのユーザーアクションを管理するには

この章では、管理者がリモートでステーションの AVG ユーザーの操作を制御する方法の例を簡単に説明しています。

既定では、AVG ユーザーインターフェースでのすべての操作は、ローカルステーションのユーザーが変更および中断できるようになっています。

主なユーザーアクセス管理には 3 つの方法があります。

- **許可されたアクション**

[許可されたアクション] を管理することでローカルステーションのそれぞれの操作を禁止することが可能です。詳細は、[設定/ステーション共有設定/グループ/許可されたアクションの章をご覧ください。](#)

- **必須設定**

[必須/監視設定] を使用して、ステーション設定内のさまざまなアクションを無効化/有効化できます。アイテムを必須としてマークすることで、ローカルステーションのユーザーがアイテムをカスタマイズできなくなります。

詳細は、[設定/ステーション共有設定/グループ/一般コントロールと優先レベル](#)の章をご覧ください。

- **スケジュールされたスキャンのキャンセル**

ローカルユーザーによる実行中のスケジュールされたスキャンの停止を許可するかどうかを決定できます。これは、ステーション/グループの共有設定または個々のステーション設定で実行できます。これを実行するには、[スケジュール/スケジュール済みスキャン] スキャンアイテムに移動し、ダイアログの右側の部分で、[ユーザーによる実行中のタスクの停止を許可する] チェックボックスにチェックを付けます。

## 11.8. リクエストの処理およびステータスメッセージ

この章では、AVG DataCenter 内でのリクエスト、その扱い、および処理について説明します。

- **1 つのステーションに送信されたリクエスト**

リクエストが AVG Admin console から送信された場合 ( 設定の同期、アップデート実行など )、メッセージが [ステータス] ウィンドウに表示され、同時に、リクエストが AVG DataCenter に格納されます。

その後、ステーションはリクエストの通知を受信し、オンラインの場合は即座に処理を開始します。結果に関する情報は、AVG DataCenter に戻され、すぐに [ステータス] ウィンドウに表示されます。エラーメッセージが赤い色で表示されます。

特別な場合には、2つの状況が生じることがあります。

- ステーションはオンラインでも、何らかの理由により、リクエストを許可できない場合 (通知ポートが何らかの理由により、正常に動作していないなど)、サーバーは定期的にはリクエストを配信しようとして (デフォルトの間隔は 5 分です)。

*注：この間隔は、ステーション/グループの共有設定、[リモート管理] アイテム、[高度な設定] セクション、[次の間隔でサーバーからメッセージを取得] ドロップダウンメニューで変更できません。*

- ステーションがオフラインで、オンライン直後にリクエストを受信しません。

より時間がかかる特別なリクエストの場合、ステータスウィンドウにより、ステーションがリクエストの処理を開始したことを告げるメッセージが表示され、処理が完了すると結果もすぐに表示されます。

- **グループ/すべてのステーションに送信されたリクエスト**

一部のリクエストはグループまたはすべてのステーションに送信できます (グループ名またはステーションアイテムを右クリックして、コンテキストメニューからアクションを選択します)。

このような結果は AVG DataCenter に格納され、AVG管理サーバーによって、選択されたグループの個々のステーションに配信されます。また、ステーションごとに結果も後で個別に表示されます。

- **複製されたリクエスト**

1つのステーションに対して同じリクエストが複数回送信される場合、AVG DataCenter には保存されず、ステーションは最初のリクエストだけを処理しません。

これは、オフラインステーションにも当てはまります。つまり、重複するリクエストは廃棄されるので、リクエストを複数送信する必要はありません。

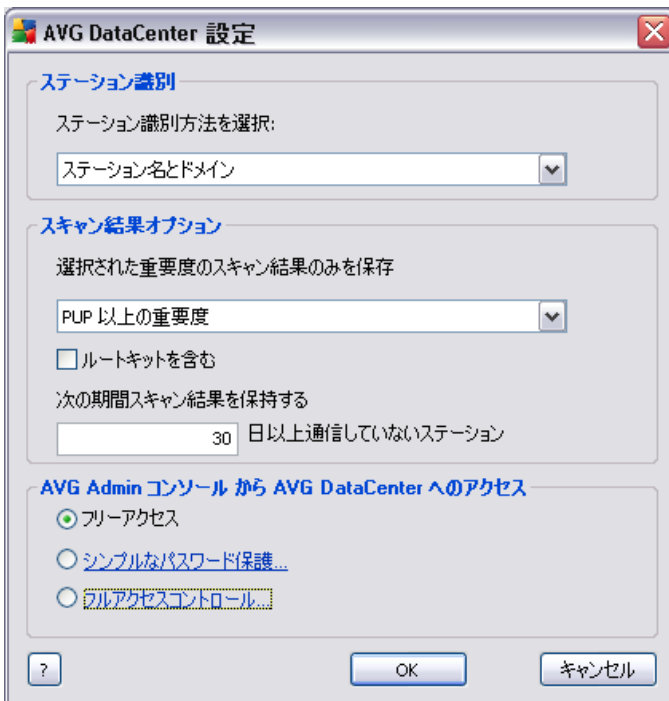
- **リクエストの有効期限**

15日以内に処理されないリクエストは、AVG DataCenter から削除されます。

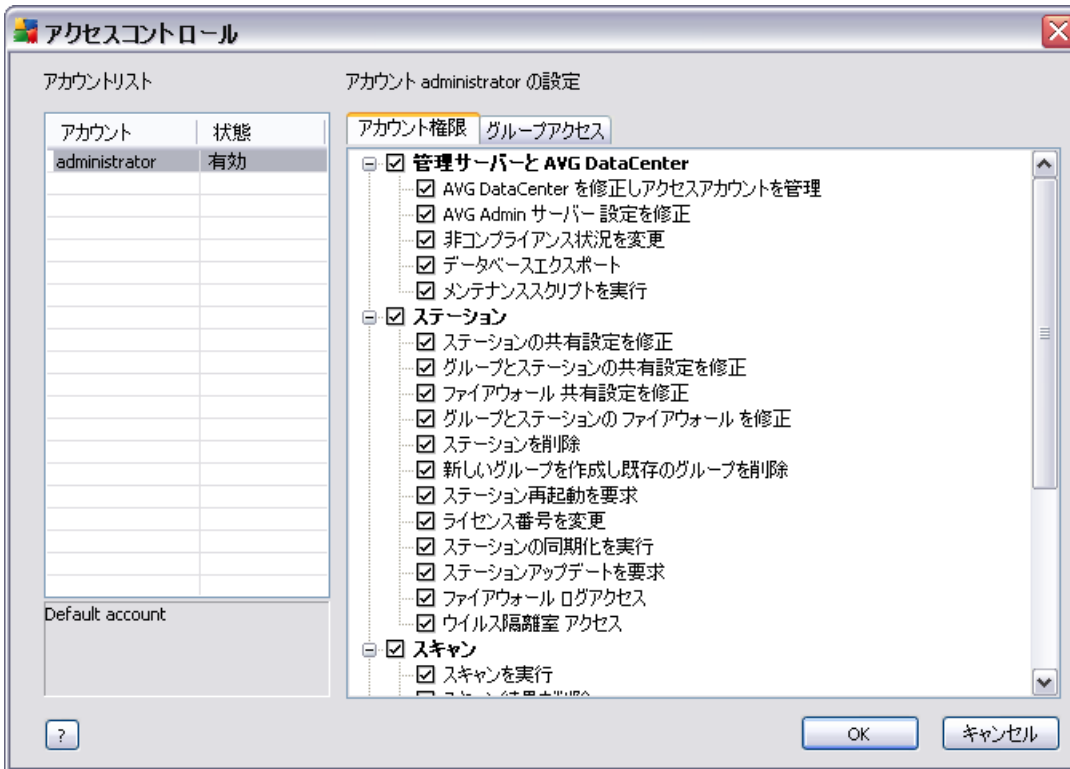
## 11.9. アクセス権を管理するには

複数の人が AVG Admin console にアクセスして、異なるレベルでステーション/設定を管理する必要がある場合は、さまざまなアクセス権を持つ複数のユーザーアカウントを作成できます。

AVG DataCenter へのアクセスを AVG Admin console で管理するには、DataCenter 上部メニューに移動して、[AVG DataCenter 設定] アイテムを選択します。



ダイアログ下部で、[完全アクセス管理] オプションを選択します。新しいダイアログが表示されます。



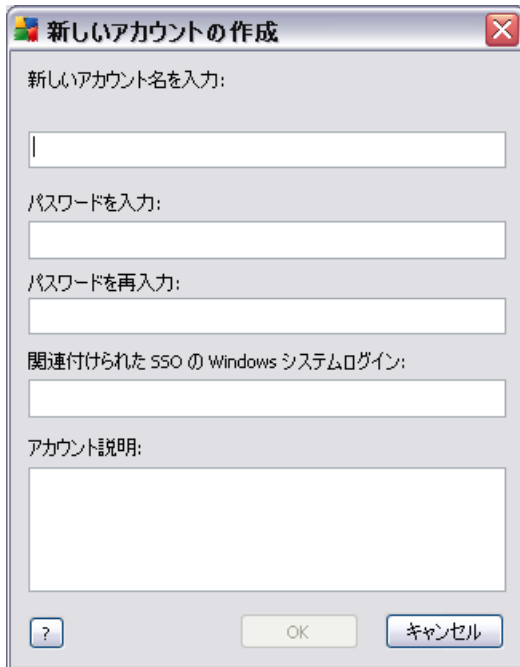
[アカウントリスト] セクションには、現在使用可能なユーザー名とその状態のリストがあります。デフォルトでは、使用可能なアカウントは、空のパスワードを持つ管理者だけです。このアカウントを今後の使用のために維持する場合は、最初に適切なパスワードを選択することを強くお勧めします（その方法については以下を参照してください）。右マウスボタンのコンテキストメニューには以下のオプションがあります。

- **有効**

既存のアカウント名を右クリックすると、そのアカウントを有効または無効にすることができます。少なくとも1つのアカウントを有効にする必要があります。

- **新しいアカウント**

このオプションを選択して、新しいユーザーアカウントを作成します。



アカウント名とパスワード ( 確認のため 2 回 ) を入力します。

[SSO 用の関連する Windows システムログイン] フィールドは、既存の Windows システムログイン名を入力するために使用できます。このユーザー名で Windows にログインすると、パスワードを入力せずに、AVG DataCenter にもログインできます。アカウント名またはパスワードは、Windows システムのログイン名と同じである必要はありません。

アカウントの説明を任意で入力できます。

- **アカウントの編集..**

このオプションにより、既存のアカウントを編集することができます。

- **アカウントのクローン**

既存のアカウントを右クリックして、このオプションを選択し、その設定を新しいアカウントに複製します。新しいアカウント名、パスワード、その他を入力するように求められます。

- **アカウントの削除**

このオプションを使用すると、既存のアカウントを削除できます。

アカウントごとに、アカウント権限の数とグループアクセスオプションが一致します。デフォルトでは、すべてのアクションがあらかじめ許可されています。設定を変更するには、変更するアカウントの名前をクリックして、[アカウント権限] タブまたは [グループアクセス] タブのいずれかのダイアログの右側にある項目を変更します。

- **[アカウント権限] タブ**

このタブには、選択したアカウント名で使用できるアクションのリストがあります。アクションを禁止するには、そのアクション名の隣のチェックボックスをオフにします。カテゴリーの名前（ステーション、スキャンなど）の隣のチェックボックスをオフにすると、そのカテゴリーのすべてのアクションが禁止されます。

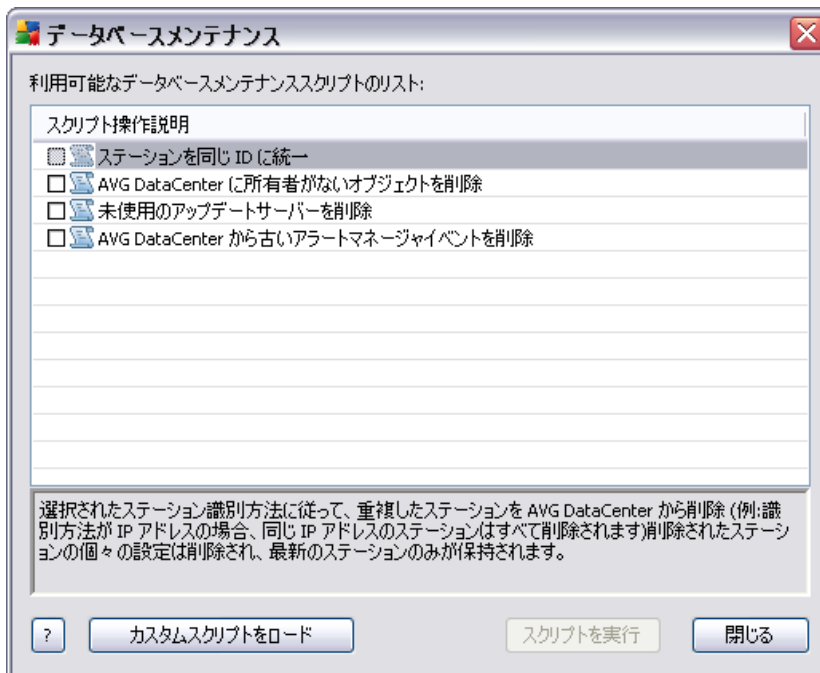
- **[グループアクセス] タブ**

[グループアクセス] タブを使用すると、ステーションのユーザー定義グループにアクセス権を設定できます。このグループのいずれかをダブルクリックし、ドロップダウンメニューを表示します（あるいは、右クリックして同じ内容のコンテキストメニューを表示します）。ここで、権限タイプを選択します。

アカウントのユーザーに対し、グループへの完全アクセスを付与したり、[閲覧のみ] を選択してグループの表示のみを許可したり、[アクセス権なし] オプションを選択してグループへのアクセスを完全に禁止したりすることができます。

## 11.10. DataCenter データベースを保守するには

AVG DataCenter データベースのは、[ツール/データベース保守] 上部メニューから簡単にアクセスできる事前定義されたスクリプトにより、簡単に保守できます。



あらかじめ定義されたスクリプトは次のとおりです。

- **同じ ID でステーションを統合**

このスクリプトを選択すると、選択したステーション識別方法で AVG DataCenter から重複したステーションが削除されます。例えば、識別方法が ID アドレスの場合、同じ IP アドレスのすべてのステーションが削除されます。削除されたステーションの個々の設定は削除され、最新のステーションのみが保持されます。

- **AVG DataCenter に所有者がないオブジェクトを削除**

このスクリプトを選択すると、AVG DataCenter に存在しなくなったステーションの設定、ルール、およびスケジュール済みタスクは、AVG DataCenter から削除されます。

- **未使用のアップデートサーバーを削除**

このスクリプトを選択すると、AVG DataCenter と 7 日以上通信していないすべてのアップデートサーバーが削除されます。

- **古い Alert Manager イベントを AVG DataCenter から削除**

このスクリプトを選択すると、7 日以上経過したすべての Alert Manager イベントが AVG DataCenter から削除されます。

スクリプトを使用するには、適用するスクリプトをオンにして、[スクリプトの実行] ボタンをクリックします。データベースの保守プロセスにはしばらく時間がかかる場合があります。

また、[カスタムスクリプトのロード] ボタンを使用すると、カスタム SQL スクリプトファイルを手動で選択できます。このオプションは、上級ユーザーのみが使用することをお勧めします。

### 11.11. AVG セットアップパラメーターのリスト

以下の表は、利用できる AVG セットアップパラメーターのリストです。上級ユーザーが、提供されたインストールスクリプトの編集や、新規のスクリプト作成など AVG インストールをカスタマイズする際に利用できます。ほとんどのパラメーターは、AVG をサイレントモードで希望のコンポーネントや設定等と共にインストールするため [\[AVG ネットワークインストール\]](#)

構文：

Setup /Parameter\_Name オプション

使用例：

Setup.exe /LANGID 0x407

パラメーター名	詳細
アンインストール	アンインストールモードでセットアップを開始。
<b>HIDE</b>	サイレントモードでセットアップを開始。
<b>LOG &lt;log file path&gt;</b>	インストールログファイルのパスを指定 (パスは存在しなければならない)。  <i>規定値：</i>

	%TEMP%\avg9inst.log
<b>SCRIPT_FILE</b>	追加セットアップパラメータファイルへの完全なパス。
<b>NAME &lt;name&gt;</b>	登録ダイアログ中に使われるユーザー名。
<b>COMPANY &lt;company&gt;</b>	登録ダイアログ中に使われる会社名
<b>LICNO &lt;license_number&gt;</b>	ライセンス番号
<b>LANGID &lt;lng_id&gt;</b>	<p>インストールに使われる言語。以下のオプションが利用可能です。</p> <p>0x405 - チェコ語</p> <p>0x406 - デンマーク語</p> <p>0x407 - ドイツ語</p> <p>0x40C - フランス語</p> <p>0x409 - 英語 (英国)</p> <p>0x40E - ハンガリー語</p> <p>0x410 - イタリア語</p> <p>0x411 - 日本語</p> <p>0x412 - 韓国語</p> <p>0x413 - オランダ語</p> <p>0x415 - ポーランド語</p> <p>0x416 - ポルトガル語 (ブラジル)</p> <p>0x816 - ポルトガル語</p> <p>0x419 - ロシア語</p>

	<p>0x41B - スロバキア語</p> <p>0x41F - トルコ語</p> <p>0x804 - 中国語 ( 簡体 )</p> <p>0x404 - 中国語 ( 繁体 )</p> <p>0x043E - マレー語</p> <p>0x0421 - インドネシア語</p> <p>0x081A - セルビア語</p> <p>0x040A - スペイン語</p> <p>最終的には、Windows でサポートされている他の 16 進表記ロケールコードも、セットアップが適切な言語ファイルを含んでいれば使うことができます。</p>
<b>ADD_FEATURE &lt;feature_name&gt;</b>	<p>コンポーネント ( 機能 ) をインストールに追加。</p> <p>利用可能な機能値のリストは以下の次の表の通りです。</p>
<b>REMOVE_FEATURE &lt;feature_name&gt;</b>	<p>インストールからコンポーネント ( 機能 ) を削除。</p> <p>利用可能な特徴量のリストは以下の次の表の通りです。</p>
<b>TARGET_DIR &lt;path&gt;</b>	インストールフォルダ
<b>QUIT_IF_INSTALLED</b>	AVG が既にコンピュータに存在する場合インストールを終了。
<b>KILL_PROCESS_IF_NEEDED</b>	正常に終了できないプロセスを自動的に終了。
<b>PROGRESSONLY</b>	無人インストール - プロセスバーのダイ

	アログのみ表示。
<b>NOAVGTOOLBAR</b>	AVG ツールバーの抑制インストール
<b>RESTART</b>	インストール完了後、アプリケーションで必要としていない場合でもコンピュータを再起動する。
<b>NORESTART</b>	インストール後の再起動を抑制。  <i>注意：再起動が行われるまで AVG が正しく動作しない可能性があります。</i>
<b>RESTART_DELAY &lt;time in seconds&gt;</b>	再起動が必要な場合、再起動の前にカウントダウンシステムダイアログを表示（サイレントインストールにも適用可能）。
<b>UPDATE_SERVER &lt;servers_string&gt;</b>	アップデートサーバーの URL（AVG ネットワークインストールのみ）。
<b>DCPATH &lt;connection_string&gt;</b>	DataCenterへの接続文字列（AVG ネットワークインストールのみ）。（
<b>ADM_GRP_STATION &lt;group_name&gt;</b>	グループにステーションを追加。（AVG ネットワークインストールのみ）
<b>SKIP_FW_CONVERSION</b>	AVG 8,5 ファイアウォール設定を AVG 9.X のインストール中に変換しない。
<b>NOSTART</b>	AVG プロセス/サービス/ドライバー をインストール中は開始しない（AVG ファーストランウィザードもスキップされたため設定はなにも変わらない）。
<b>DISABLE_SCAN</b>	インストール後の規定のスキャン計画を無効化。
<b>ENABLE_WINFW</b>	AVG ファイアウォールのアンインストール時に Windows Firewall を有効化。

<b>AUTOPROFILE &lt;On Off&gt;</b>	自動プロファイルチェック機能のスイッチを入れる、または切る（ファイアウォールコンポーネントに適用）。スイッチを切った場合は、ネットワークが変更された際に確認のダイアログが表示されません。
<b>SETPROFILE &lt;Domain  OnMove  HomeNetwork&gt;</b>	インストール後にプロファイルをアクティブにセットする。AUTOPROFILE パラメータ存在しない場合、自動的にスイッチが切られます。
<b>FIRSTSCAN</b>	インストール完了時に、スキャンパフォーマンスの最適化を開始。
<b>ADMIN</b>	ファーストランウィザード後、AVG 最適化スキャンダイアログを表示せず、自動的に最初のスケジュールスキャンと共に最適化スキャンを実行するようにセットする。

**ADD\_FEATURE** と **REMOVE\_FEATURE** パラメータで利用可能な機能（コンポーネント）値：

注意：機能を実際にインストールできるかどうかは、主に機能がインストールパッケージに存在するかどうか、ライセンス番号、またプラグインの場合はインストール先 PC にインストールしなければならない他のソフトウェアによって決まります。

Feature name	機能説明
fea_AVG_Firewall	AVG ファイアウォール
fea_AVG_HttpScanner	AVG ウェブシールド
fea_AVG_LinkScanner	AVG LinkScanner
fea_AVG_SafeSurf	AVG サーフシールド
fea_AVG_SafeSearch	AVG アクティブサーチシールド

fea_AVG_AntiRootkit	AVG ルートキット対策
fea_AVG_AlertManager	AVG_)アラートマネージャ
fea_AVG_SystemTools	AVG システムツール
fea_AVG_CI	AVG リモート管理ライブラリ
fea_AVG_Languages	すべての言語
fea_AVG_Language_CZ	チェコ語
fea_AVG_Language_FR	フランス語
fea_AVG_Language_GE	ドイツ
fea_AVG_Language_HU	ハンガリー語
fea_AVG_Language_IT	イタリア語
fea_AVG_Language_JP	日本語
fea_AVG_Language_NL	オランダ語
fea_AVG_Language_PB	ポルトガル語 ( ブラジル )
fea_AVG_Language_PT	ポルトガル語
fea_AVG_Language_PL	ポーランド語
fea_AVG_Language_SC	セルビア語
fea_AVG_Language_SK	スロバキア語
fea_AVG_Language_SP	スペイン語

fea_AVG_Language_DA	デンマーク語
fea_AVG_Language_US	英語 ( 米国 )
fea_AVG_Language_RU	ロシア語
fea_AVG_Language_KO	韓国語
fea_AVG_Language_ID	インドネシア語
fea_AVG_Language_MS	マレー語
fea_AVG_Language_TR	トルコ語
fea_AVG_Language_ZT	中国語 ( 簡体 )
fea_AVG_Language_ZH	中国語 ( 繁体 )
fea_AVG_EmailPlugins	AVG メールプラグイン
fea_AVG_Bat_plugin	TheBat! 向け AVG メールプラグイン
fea_AVG_Exchange_plugin	Microsoft Outlook 向け AVG メールプラグイン
fea_AVG EMC	AVG メールスキャナ
fea_AVG_Antispam	AVG Anti-Spam
fea_AVG_Office_2000_plugin	MS Office 2000 - 2007 向けプラグイン
fea_AVG_Desktop_Shortcut	デスクトップショートカットアイコン
fea_AVG_StartMenu	スタートメニューアイテム
fea_AVG_IdentityShield	AVG ID 保護



fea_AVG_ExchangeServer_AS	MS Exchange サーバー用 Anti-Spam
fea_AVG_ExchangeServer EMC	MS Exchange サーバー用 AVG メールスキャナ

## 12. AVG DataCenter

AVG DataCenter はデータベースと **AVG Admin Server**から構成されています。**AVG Admin Server**は、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG Admin consoleは AVG Admin Serverを使用して、AVG DataCenter にアクセスし、ステーション設定とシステムパラメータを一元的に定義できます。AVG ステーションは AVG Admin Serverにアクセスし、セットアップパラメータを読み込みます。また、AVG DataCenter に現在定義されている設定とスキャン結果を保存します。

ステーションとの通信は [*リモート管理*] コンポーネントがすべてのステーションに正しくインストールされ、AVG DataCenter に接続されている場合のみ利用可能です。

AVG DataCenter は実装 SQL データベースを含みます。または、ローカルネットワーク内で同じまたは別のコンピュータで実行している別のデータベースに接続できます。

*注意: 特定のデータベースエンジンではコンピュータの接続可能数が制限される可能性があります。このトピックに関する詳細については、[DataCenter 口](#)の章を参照してください。*

### 12.1. 保守

長期間、AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition を使用 (AVG Admin consoleなど) すると、AVG DataCenter に矛盾や重複が発生する可能性があります。すると、ネットワーク負荷が増加して、保守オプションが悪化します。AVG DataCenter の保守が容易になるように、使用頻度の高い保守操作を実行するためのスクリプトを複数用意してあります。保守の間 (スクリプトが有効な場合)、AVG DataCenter はロックされ、ユーザーはアクセスできません。

保守スクリプトは、AVG Admin consoleの [*ツール/データベース保守*] から入手できます。

### 12.2. パスワード保護

AVG Datacenter データベースと AVG Admin Serverのアクセスをパスワード保護できます。

- *AVG Datacenter データベースへのアクセス*

データベースアクセス用のユーザー名とパスワードは必須で、[[AVG Admin Server設定](#)]、[**DataCenter**] タブ、[データベース] セクションで変更できます。

注意: 内部 Firebird データベースのログイン詳細情報は事前定義されているため変更できません。

- **AVG Admin Serverへのアクセス**

任意で、AVG Admin Serverアクセス用のユーザー名とパスワードを設定できます。この場合は、[[AVG Admin Server設定](#)]、[全般] タブ、[サーバーアクセス] セクションに移動します。

このユーザー名とパスワードは、ステーションと AVG DataCenter の接続のために適用されます。ステーションを AVG DataCenter に (AVG ネットワークインストーラウィザードまたはマニュアルで) 接続するには、値を正確ににゅうりよくするひつようがあります。

複数の人が AVG Admin consoleにアクセスして、異なるレベルでステーション/設定を管理する必要がある場合は、さまざまなアクセス権を持つ複数のユーザーアカウントを作成できます。

AVG DataCenter へのアクセスを AVG Admin consoleで管理するには、DataCenter 上部メニューに移動して、[[AVG DataCenter 設定](#)] アイテムを選択します。このトピックに関する詳細については、「[...方法/アクセス権の管理方法](#)」の章を参照してください。

### 12.3. AVG DataCenter を別のデータベースに変換するには

AVG Admin Server Deployment Wizard は既存の AVG DataCenter からその他のデータベースフォーマットへ自動変換が可能です。

[エクスポート/インポート] 機能を利用し、AVG DataCenter 間で変換することもできます。AVG Admin consoleから AVG DataCenter をポータブルテキスト形式でエクスポートすることが可能です (メニュー [[DataCenter/ データベースエクスポート](#)])。また AVG Admin Deployment Wizard 中にデータをインポートすることもできます。

ウィザードに関する詳細については、[AVG Admin Deployment Wizard](#) の章をご覧ください。

### 12.4. Web インターフェイス

AVG Admin Serverには、そのステータス、役割の詳細、その他の情報が表示された Web インターフェイスが備わっています。

ご使用のインターネットブラウザに接続文字列を入力すると、ステータスページにアクセスできます。



<http://localhost:4158/>

ここで、**localhost** はご使用の AVG Admin Serverアドレスを表し、**4158** はデフォルトのポート番号を表します。

DataCenter および UpdateProxy の役割の概要といった基本的な情報以外では、次のボタンを使用できます。

- **すべてのステーションのリスト** - DataCenter によって現在保持されているすべてのステーションがリストされます。
- **非準拠ステーションのリスト** - 現在、エラー状態にあるすべてのステーションがリストされます。
- **サーバーの処理対象のステーションのリスト** - UpdateProxy の役割がインストールされている場合にだけ、このオプションを使用できます。このサーバーからアップデートを受信しているステーションをリストするには、このボタンを使用します。

## 13. AVG 管理アップデート

**注意:** AVG 管理アップデートサービスとその設定は、正規ライセンスをご利用のお客様のみ利用可能です。

AVG 管理アップデートは、AVG Technologies Corporation のお客様のためのサービスの一つで、強制 AVG アップデートを有効にします。このサービスを使用すると、登録された **AVG Admin Server** は、新しいアップデートが利用可能であるという外部の通知 (AVG Technologies サーバーにあるプログラムが送信する特別な TCP/UDP パケット) を受けることができます。アップデートファイルがダウンロードされ、アップデート通知が指定された AVG ステーションに即時配布されます (詳細は [クライアント] タブを参照してください)。

つまり、アップデートをリリース後すぐに取得し、配布できます。スケジュールされた通常のアップデートチェックよりもさらにシステムを最新の状態に保つことができ、セキュリティが強化されます。スケジュールされたアップデートも利用できます。弊社では、万が一 AVG 管理アップデートが機能しない場合に備えて、スケジュールアップデートも並行して設定して利用することをお勧めします。

**注意:** パブリック IP アドレスを持つサーバーのみアップデート通知パケットを受信できます。また、ファイアウォールで保護されたネットワーク内のサーバーは、ポート番号 (既定値では 4157) を受信用に許可する必要があります。

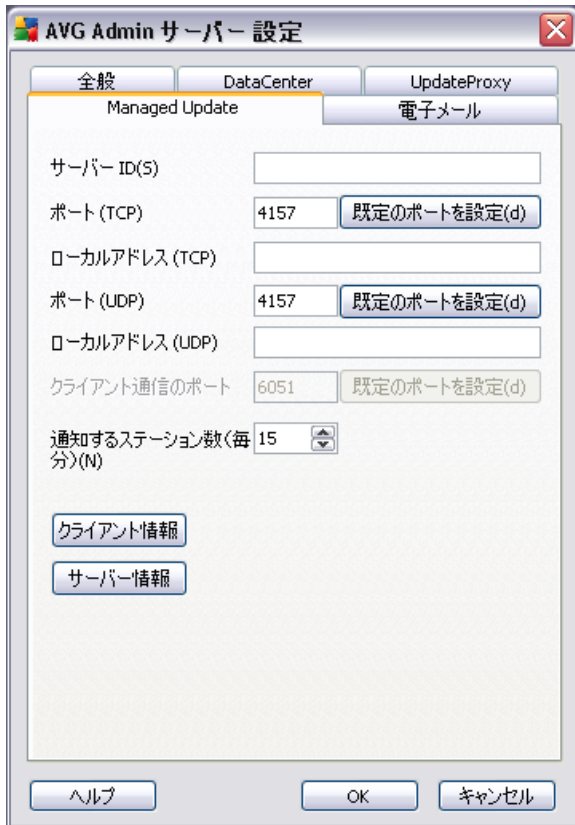
AVG 管理アップデート機能は AVG Admin Server モニターのタブから制御できます。このアプリケーションは [Windows スタート 9.0] メニューの [すべてのプログラム] フォルダの [AVG リモート管理] フォルダからアクセスできます。

[AVG Admin Server モニター] インターフェース内にある [サーバー設定] ボタンをクリックします。



注意：AVG Admin Serverモニターインターフェースとその機能性についての完全な説明は、このドキュメントの [設定/[AVG Admin Server設定](#)] の項を参照してください。

[管理アップデート] タブをクリックし、AVG 管理アップデート設定を開きます。



ここで、AVG 管理アップデート機能に関する AVG Admin Server受信パラメータを管理できます。タブ内には次のフィールドがあります。

- **サーバー ID**

サーバーの ID です。必須パラメータです。これは AVG Technologies が登録した AVG 管理アップデートサービス ID と同じでなければなりません。

- **ポート (TCP)**

このフィールドは、AVG Admin Serverが受信コマンドを待機する TCP ポートを定義します。

- **ローカルアドレス (TCP)**

このアドレスは、AVG Admin Serverが TCP 暗号化された受信コマンドを待機するアドレスです。

- **ポート (UDP)**

このフィールドは、AVG Admin Serverが受信コマンドを待機する UDP ポートを定義します。

- **ローカルアドレス (UDP)**

このアドレスは、AVG Admin Serverが UDP 暗号化された受信コマンドを待機するアドレスです。

- **クライアント通信のポート**

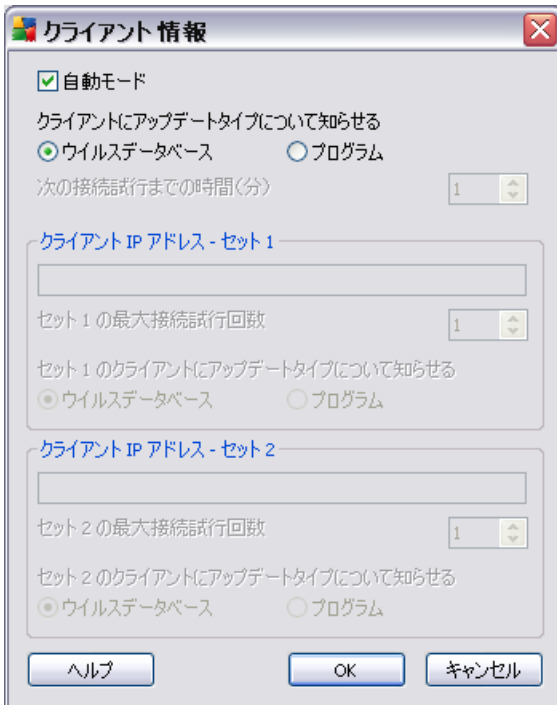
AVG Admin Serverとステーション間の、AVG 管理アップデート関連の通信用ポート番号を入力してください。

*注意: ポートはステーションで設定されたポート番号と同じAVG 9.0 Anti-Virus Business Editionでなければなりません。*

[通知するステーション数 (毎分)] セクションでは、毎分通知を受けるステーション数を選択できます。過負荷を避けるために、デフォルト値は 15 になっています。

*注意: 該当する [既定ポートの設定] ボタンをクリックすると、上記のフィールドの既定のポート値を設定できます。*

[クライアント情報] ボタンをクリックすると、次のダイアログを表示されます。



このダイアログは AVG Admin Serverからクライアントへ、あるいは AVG Admin Server間でのアップデート配布のパラメータを設定するためのものです。自動と手動の2つのアップデート配布モードが利用可能です。

- **自動モード** (このオプションがチェックされています)

このモードでは AVG DataCenter のサポートが必要です (AVG Admin Serverをアップデート管理目的でのみで使用する場合は、このモードにアクセスできません)。

AVG Admin Serverは自動モードで AVG DataCenter からステーションのリスト (または IP アドレス) を取得して、アップデートコマンドをステーションに送信します。この原理は AVG Admin Serverコンソールアプリケーションと同じです。コマンドは AVG DataCenter に格納され、通知がステーションに送信されません。ステーションに到達できない場合、AVG DataCenter データベースとの次の同期化時にコマンドが処理されます。

[アップデートタイプをクライアントに通知] セクションでは、ウイルスデータベースアップデートについてステーションに通知するか、プログラムアップデートについてステーションに通知するか、ラジオボタンを使ってを選択できます。

- **手動モード (自動モードがチェックされていません)**

手動モードでアップデート配信する特定の AVG ステーション IP アドレスを定義します。特定のクライアントに異なるルールを定義する場合は、クライアントを2つのグループに分けられます。このモードは AVG DataCenter がサポートされていない場合でも使用できます。

[**次の接続試行までの時間**] では、前回の試行中に応答しなかったステーションにサーバーが接続を試行するまでの時間 (分) を指定します。すべてのクライアントにアップデートが通知されるまで、あるいは許可された接続試行回数を超えるまで、クライアントに接続しようとしています。

各グループのフィールドは以下のとおりです ( X はグループ番号を示します ) 。

- **クライアント IP アドレス** - クライアントの IP アドレス: 入力可能な値は、フル IP アドレス、ステーション名、カンマ区切りの IP アドレスのリスト、IP アドレス範囲値 ( 範囲の開始と終了アドレスをダッシュで区切って入力 )、またはネットワークマスクとあわせたアドレスです。次はアドレスの入力例です。

122.64.200.216 ( IP アドレス )

122.64.200.125-122.64.200.133 ( IP アドレス範囲 )

192.168.0.1,192.168.0.3 (カンマ区切りの IP アドレスのリスト)

station26 (ステーション名)

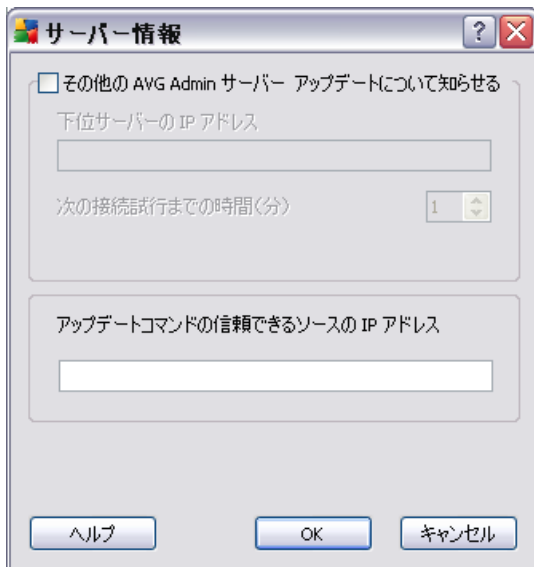
10.10.2.0/255.255.255.0, 122.64.200.173 (サブネットマスクとアドレス)

- **最大セット X の接続試行回数** - 指定されたセットの最大接続試行回数です。0 に設定された場合は、無制限に試行が許可されます。既定値は最初のセットは 1 で、2 番目のセットは 0 です。
- **セット X からアップデートタイプをクライアントに通知** - [ウィルスデータベース] または [プログラム] をラジオボタンを使って選択できます。

**注意:** ステーションを両方のセットにした場合、2 番目のセットにあるものとして処理されます ( 2 番目のセットの優先度が高くなります )。このようにして、すべてのステーションを最初のセットと、2 番目のセットに適用する特別なルールを持つステーションに定義できます。

**注意:** AVG Admin Server モニター設定インターフェースで行われたすべての AVG 管理アップデートに関連する変更は、[OK] ボタンをクリックすると保存されます。

[サーバー情報] ボタンをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- **AVG Admin Server にアップデートを通知する**

このチェックボックスにチェックを入れることで、アプリケーションが他の AVG Admin Server に新しくダウンロードされたアップデートについて通知することを許可します。

正しいサーバーの IP 値を [下位のサーバーの IP アドレス] フィールドに入力します。AVG 管理アップデートのアップデートコマンドがこれらのアドレスに送信されます。このコマンドの一部として、アップグレードに使用される URL 情報が含まれます。

AVG Admin Server が定義されたサーバーのいずれかから AVG 管理アップデートコマンド許可の確認を受信していない場合、後で試みが繰り返されます。[次回接続試行までの時間] セクションで要求時間間隔 (分) を選択します。

- **アップデートコマンドの信頼できるソースの IP アドレス**

AVG Admin Server がセキュアではない AVG 管理アップデートコマンドを別の AVG Admin Server から受信する必要がある場合、信頼できるサーバーの IP アドレスをこのフィールドに定義する必要があります。

AVG Technologies から AVG 管理アップデートコマンドを許可する AVG Admin Server に従属したサーバーのみを入力します。



このタブ内のすべてのサーバーアドレスは [クライアント情報] ダイアログのアドレスと同じ方法で入力できます (完全な IP アドレス、ステーション名、IP アドレス範囲、IP アドレスとマスク、またはこれらの組み合わせ)。

## 14. アップデート

### 14.1. 一般情報

AVG は、2 つの選択可能なアップデートレベルを提供します。

- **定義アップデート**には、信頼できるウイルス対策、スパム対策、およびマルウェア対策保護に必要な変更が含まれています。一般的には、コードの変更は含まれず、定義データベースのみをアップデートします。このアップデートは、利用可能な場合、すぐに適用する必要があります。
- **プログラムアップデート**には、さまざまなプログラムの変更、修正、および改善が含まれています。

アップデートをスケジュールリングするときに、ダウンロードして適用する優先レベルを選択できます。

2 つのタイプのアップデートを区別することができます。

- **オンデマンドアップデート**は、必要に応じていつでも実行できる即時 AVG アップデートです。
- **スケジュール済みアップデート** - AVG 内で、アップデート計画を事前に設定することも可能です。スケジュールされたアップデートは、設定にしたがって定期的に実行されます。新しいアップデートファイルが特定の場所にある場合、それらはインターネットから直接、またはネットワークディレクトリを介してダウンロードされます。入手可能な新しいアップデートがない場合は何も実行されません。

**注意:** スケジュール済みプログラムアップデートおよびスケジュール済みスキャンの時間と一致する場合は、アップデートプロセスが最優先され、スキャンは中断されません。

### 14.2. ローカルネットワーク内でのアップデート

AVG ステーションは、AVG Technologies Web サーバーから直接アップデートを行うことができます。また、アップデートファイルを LAN サーバーにダウンロードして、AVG ステーションをローカルアップデート用に構成することができます。

小規模なネットワーク（通常は 20 ~ 25 ステーション）の場合は、インターネットから直接アップデートすることをお勧めします。AVG アップデートファイルは、必要なファイルが最小の容量でダウンロードできるように設計されています。

ネットワークが 50 以上のステーションで構成されている場合、入手可能なすべてのアップデートファイルのミラーリングをローカルネットワーク内で保持することをお勧めします。AVG ステーションが最新のファイルを使用してプログラム/ウィルスアップデートを実行できるように、(以前の全 AVG バージョンアップデートで使用可能な) アップデートファイルはすべて、このようにダウンロードする必要があります。

通常、アップデートファイルローカルミラーリングには 2 つのオプションがあります。推奨するオプションは、複数のサーバーにも配置できる UpdateProxy の役割を使用する方法です。詳細については、「[Deploying multiple UpdateProxy roles](#) chapter for more information」の章を参照してください。

UpdateProxy の役割を使用することで、AVG Admin Server は自動的に、必要なアップデートファイルをすべてダウンロードすることができます。その後、AVG ステーションは AVG Admin Server が実行されているコンピュータ上のアップデートファイルを検索します。このオプションは、ローカルネットワーク内でアップデートファイルを配布する方法としてよく使用されています。

ただし、この種のアップデートには、他の Web サーバーを使用することも可能です。サーバーは、AVG ステーションがアクセスできる隔離されたフォルダを共有する必要があります。例えば、Microsoft Information Server を使用している場合、アクセス可能なすべてのフォルダのルートは通常、「C:\InetPub\wwwroot」です。Web インターフェイスがアクセスできる C:\InetPub\wwwroot\avgupdate フォルダが、「localweb」という Web サーバー上にあるとします。Web (HTTP) クライアントは、URL <http://localweb/avgupdate> によって、このディレクトリ内のドキュメントとファイルにアクセスできます。AVG はこれらのステップに従って、同じ URL <http://localweb/avgupdate> をアップデート用に使用します。

配布用のアップデートファイルは、<http://www.avg.com> Web サイトのセクション **Support Center/Downloads** からダウンロードできます。

## 15. AVG Admin Server for Linux

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaは、AVGステーションと DataCenter の接続に HTTP 通信プロトコルを利用し、AVG DataCenter の管理用としてデザインされています。DataCenter データベースへのアクセスには Firebird サーバーが使用されています。

AVG プロキシサーバーも、AVG Admin Serverの一部であり、HTTP プロトコル経由でアクセスできるアップデートファイルのミラーリングを行います。

この章では次のトピックについて説明します。

- [インストール](#)
- [スタートアップパラメータの説明](#)
- [設定](#)

ニュース、またはアプリケーションに関する変更については、*Changelog* ファイルから確認できます。

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaには、AVG プロキシサーバーの機能が含まれています。コンフィグレーションファイル内には、設定をカスタマイズするために利用可能な複数のオプションがあります。詳細については、*avgadmsrv.conf* のマニュアルページや、コンフィグレーションファイル内にある各オプションの説明を確認するか、次の[設定](#)の章を参照してください。

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaには、AVG 管理アップデートサービスが含まれます。このサービスは、ローカルネットワークの AVG ステーションに新しいアップデート通知を最も速い方法で提供します。

このサービスに関する詳細については、[AVG 管理アップデート](#)の章を参照してください。

Firebird サーバーデータベースエンジンに関する情報が必要な場合は、次のウェブサイト参照してください。

<http://www.firebirdsql.org>

### 15.1. インストール

この章では、AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta のインストールについて説明します。

インストールを正常に完了するには、次のライブラリが必要です。

- **libgds.so**
- **libstdc++.so.6**
- **libgcc\_s.so.1**
- **libc.so.6**

AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta は、次の Firebird サーバーと互換性があります。

- **Firebird Super Server 2.0 (推奨)**
- **Firebird Classic Server 2.0**

#### 15.1.1. Firebird インストール

注：サポート対象の Firebird サーバーのいずれかをすでにインストールしている場合は、[AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta Installation](#)の項に進んでください。

サポート対象の Firebird サーバーのいずれかをダウンロードして、インストールしてください。一部の配布バージョンでは、Firebird サーバーが既に含まれているため、簡単にインストールできます。例えば、Debian/Ubuntu です。

```
# apt-get install firebird2.0-super
```

```
# dpkg-reconfigure firebird2.0-super
```

その他の場合は、インストールパッケージをダウンロードして、手動でインストールできます。ファイルは、以下の URL から入手できます。

<http://www.firebirdsql.org/index.php?op=files>

#### 15.1.2. データベースのセットアップ

既に DataCenter データベースがある場合は、次の場所 (デフォルト) にコピーします。

```
/opt/avg/avgadmsrv/var/db
```

次に、**avgdb.fdb** に名前を変更します。

注意：AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta 起動前に、**avgdb.fdb** ファイルへのアクセス権を確認することができます。Firebird サーバーは **avgdb.fdb** データベースへの読み込み/書き込みのアクセスを持っている必要があります。



AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta を初めてインストールし、DataCenter データベースファイルがない場合は、AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaインストールスクリプトが空の DataCenter データベースをインストールします。

AVG DataCenter 用に特別な Firebird ユーザーアカウントを作成する場合は、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/firebird/bin/gsec -user SYSDBA -password masterkey -add <ユーザー> -pw <パスワード>
```

```
# /opt/firebird/bin/gsec -user SYSDBA -password masterkey -display
```

後から、AVG Admin Serverのインストール処理中に、このユーザー名とパスワードを要求されます。

### 15.1.3. AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta インストール

次の URL からAVG Admin Server 9.0 for Linux Betaの最新インストールパッケージ (avgadmsrv-9.x.xxx.i386.tar.gz ) をダウンロードしてください。

<http://www.avg.com/download>

*注意: 現行のバージョンの AVG Admin Server (8.0 以上) をアンインストールする必要はありません。インストール中に、古いデータベースと構成を保持するか、それとも置換するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。最初にデータベースと構成をバックアップしておくことをお勧めします。*

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaをインストールするには、次の手順に従ってください。

1. インストールファイルを解凍します。

```
$ tar -xvzf avgadmsrv-9.x.xxx.i386.tar.gz
```

2. avgadmsrv ディレクトリに移動します。

```
$ cd avgadmsrv-9.x.xxx.i386
```

3. ルートユーザーとして対話型インストールスクリプトを実行する。

```
# ./install.sh
```

4. ライセンス契約の確認

ライセンス契約をお読みください。表示されている条件に同意する場合は、**q** を

使用して画面を閉じて、[yes] を入力して続行します。

## 5. グループ名の確認

[Enter] キーを押して、AVG Admin Serverのインストール先のデフォルトグループ名 (avg) を使用するか、カスタマイズした名前を指定します。

## 6. ユーザー名の確認

[Enter] キーを押して、AVG Admin Serverを実行するデフォルトのユーザー名 (avg) を使用するか、カスタマイズした名前を入力します。

*注意: AVG Admin Serverを正常に実行するためには、ルート権限は必要ありません。非特権ユーザーアカウントで AVG Admin Serverを実行することをお勧めします。*

## 7. Firebird サーバーデータベースのインストール

インストールスクリプトは、Firebird データベースを作成しようとします。そのため、後から自分でデータベースを作成する予定であったり、既存のデータベースが存在したりする場合以外は、Firebird エンジンを実インストールしてサービスが実行されるようにすることをお勧めします。

Firebird サーバーを実行するユーザー名 (デフォルトは firebird)、データベース所有者 (デフォルトは **SYSDBA**)、およびパスワード (デフォルトは **masterkey**、ただしカスタマイズした名前を使用することを強くお勧めします) を入力するプロンプトが表示されます。

## 8. AVG Admin Serverの起動

次のコマンドを使用して、AVG Admin Serverを起動します。

```
# /etc/init.d/avgadmsrvd start
```

### 15.1.4. ライセンス

有効なライセンス番号で登録しないと、DataCenter に接続することも、ご使用のローカルネットワークの AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta を使用して HTTP プロトコル経由でアップデートを実行することもできません。

この機能を使用する場合は、AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionの有効なライセンス番号で製品を登録してください。登録する場合は、次のコマンドを使用します (サンプルのライセンス番号を実際の番号に置き換えてください)。

```
# avgadmsrv --register 9ISMB-AX9VD-PXC4X-4X4D4-ABSRV-ZUMMY-1PLN
```



ライセンス番号を入手するには、担当の AVG 代理店までお問い合わせいただくか、<http://www.avg.com> にアクセスしてください。

#### 15.1.5. AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta 構成

一部のデフォルト設定を変更する必要がある場合は、構成ファイルで変更できます。次の場所から設定ファイル `avgadmsrv.conf` を開くことができます。

```
/opt/avg/avgadmsrv/etc/avgadmsrv.conf
```

変更後には AVG Admin Server を再起動する必要があります。サーバーを再起動する場合は、次のコマンドを使用します。

```
# /etc/init.d/avgadmsrvd restart
```

以下の「[構成](#)」の章に、詳細な構成に関する説明を示します。

#### 15.1.6. インストールの検証

インストールをテストするには、AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta を AVG ステーションまたは AVG Admin console から接続してみてください。以下の形式の接続文字列を使用します。

```
http://host[:port]
```

#### 15.1.7. インストールのトラブルシューティング

AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta の実行中に問題が発生した場合は、インストールパッケージにある **faq** ファイルを確認します。サーバーアプリケーションのログファイルと Firebird サーバーログファイルのエラーメッセージを確認します。AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta ログファイルは以下のディレクトリに格納されています。

```
/opt/AVG/avgadmsrv/var/log
```

必要に応じて、次の URL にある Firebird サーバーのインストール手順と関連ドキュメントをご確認ください。<http://www.firebirdsql.org>

AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition の詳細については、<http://www.avg.com/download-documentation> の Web サイトで入手できる詳細なドキュメントを参照してください。

## 15.2. スタートアップパラメーター

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaは、AVGステーションとDataCenter間の接続用にHTTP通信プロトコルを使用して、AVG DataCenterの操作を行うように設計されています。正常にするためには、DataCenterコンピュータ(サーバー)が、HTTPプロトコルで個々のステーションから利用できなければなりません。

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaはデーモンとして稼働し、デフォルトでは、着信接続のためにポート4158でリスニングします。サーバーを開始/停止するには、**avgadmsrvd**初期スクリプトを使用してください。サーバーのメイン構成は、**/opt/AVG/avgadmsrv/etc/avgadmsrv.conf**に格納されています。このファイルがない場合は、サーバーはデフォルト値またはコマンドラインで入力された値を使用します。

AVG Admin Server 9.0 for Linux Beta (avgadmsrv)の構文は次のとおりです。

```
avgadmsrv [-c file ][-p number ][-d file ][-r license ]
```

```
avgadmsrv -v | -h | -l
```

スタートアップパラメーターは次のとおりです。

- **-c, --config file**

デフォルトの構成ファイル以外を使用してください。デフォルト構成ファイルは *avgadmsrv.conf* で、デフォルトでは次のディレクトリにあります。

```
/opt/avg/avgadmsrv/etc
```

- **-p, --port number**

Port番号は、AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaが接続をリスニングするポートです。既定値は4158です。

- **-d, --dbase file**

DataCenterデータベースへのパスの仕様。既定値は次のとおりです。

```
/var/opt/avg/datacenter/avgdb.fdb
```

- **-r, --register license**

製品をライセンス番号とともに登録します。

- **-l, --license**  
ライセンスに関する情報を表示します。
- **-v, --version**  
AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaのディスプレイバージョン。
- **-h, --help**  
AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaのディスプレイコマンドラインヘルプ。
- **-D, --daemonize**  
AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaをバックグラウンドで Unix デーモンとして実行します。
- **-P, --make-pidfile FILE**  
管理プロセス ID を指定したファイルに書き込みます。

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaデータベース関連パラメータ:

- **--versionDB**  
現在のデータベースバージョンを表示します。
- **--sqlScriptsPath DIR**  
次のパラメータで使用する SQL スクリプトのあるディレクトリへのパス。デフォルトパスは次のとおりです。  
  
/opt/avg/avgadmsrv/var/db/scripts/
- **--exportDB DIR**  
指定したディレクトリにデータベースをエクスポートします。
- **--importDB DIR**  
指定したディレクトリからデータベースをインポートします。
- **--createDB**  
新しいデータベースを作成します。

- **--upgradeDB**

データベースを最新バージョンにアップグレードします。

- **--executeSQLscript FILE**

指定した SQL スクリプトをデータベースで実行します。

### 15.3. 構成

AVG Admin Server 9.0 for Linux Betaの構成は、`/opt/avg/avgadmsrv/etc` ディレクトリの **avgadmsrv.conf** ファイルにあります。自動セットアップは、`/opt/avg/avgadmsrv/var/db` ディレクトリの **avgdb.fdb** ファイルに保存されている DataCenter で動作します。ポート 4158 はAVG ステーションとの接続に使用され、サーバーはすべてのインストール済みのネットワークアダプタの通信を受信します。

**avgadmsrv.conf** ファイルはプレーンテキスト形式です。各パラメータは行に分かれています。空の行や # (ハッシュマーク) で始まっている行は無視されます。

オプションは次の通りです。

- **Port**

サーバーが受信接続に使用するポートを指定します。UpdateProxy ロールが有効な場合は、このポートを使用してアップデートを提供します。既定値は 4158 です。

- **LocalAddr**

サーバーが受信接続に使用するローカルアドレスを指定します。デフォルトでは値は空になっているため、どのローカルアドレスでも使用できます。指定した名前が複数のアドレスを解決する場合は、最初に利用できるアドレスが使用されず (サーバーはすべてのアドレスの使用を試みます)。

- **EnableDataCenter**

Datacenter ロールを有効にするかどうかを選択します。このパラメータを 1 に設定すると、DataCenter ロールが有効になります。このパラメータを 0 に設定すると、無効になります (デフォルト)。

- **DatabaseType**

データベースタイプを指定します。現在の唯一のオプションは、**Firebird**

- **ConnectionString**

データベースファイルへのフルパスです。デフォルト値は **avgdb.fdb** です。データベースファイルはデフォルトで `/opt/avg/avgadmsrv/var/db` ディレクトリ内に保存されます。リモート Firebird サーバーとデータベースファイルは次の文字列で指定できます。 `[remote_host:]database_path`

- **Username, Password**

ステーションが DataCenter へのアクセスに使用するユーザー名とパスワードです。これらの値が空の場合、認証は必要ありません。これらの値が設定されている場合、ステーションはユーザー名とパスワードを使用する必要があります。デフォルトでは認証は必要ありませんが、パスワード保護することをお勧めします。

- **DBAUsername, DBAPassword**

データベースにアクセスするためのユーザー名とパスワードです。Firebird サーバーのデフォルト値は次のとおりです。

DBAUserName=SYSDBA

DBAPassword=masterkey

- **EnableUpdateProxy**

UpdateProxy ロールを有効にするかどうかを選択します。このパラメータを 1 に設定すると、UpdateProxy ロールが有効になります。このパラメータを 0 に設定すると、無効になります (デフォルト)。

- **LocalHttpServerRoot**

AVG Admin Serverがステーション用にダウンロードしたアップデートファイルを保存するディレクトリ例: `/opt/avg/avgadmsrv/var/update`。デフォルトでは、この機能は無効です。

- **URI**

アップデート URI で使用される URI (アドレス部) は、AVG Admin Serverからアップデートにアクセスします。デフォルト値は `/avgupdate` です。アップデート URL は `http://<サーバー名>:4158/avgupdate`

HttpServerRoot=/avgupdate

- **HttpLogPath**

既定ではサーバーは HTTP 要求のログを出力しません。このオプションが設定された場合、すべての HTTP 要求は指定されたファイルに「アパッチサーバーコンバインドログファイル形式」でログインします。

- **UpdateURL**

アップデートファイルをダウンロードするためにサーバーがしようするアップデート URL のリストURL はセミコロンで区切ります。「+」接頭語は有効な URL を示します。

デフォルト値は次のとおりです。

```
+http://update.avg.com/softw/90/update;+http://backup.avg.cz/softw/90/update
```

- **Proxy**

指定したプロキシサーバーはアップデートのダウンロードで使用します。利用可能な形式は次のとおりです。

```
http://user:password@server:port
```

- **ProxyAuthType**

プロキシ権限の種類を指定します。利用可能な値は [すべて] (既定)、[基本]、および [NTLM 認証] です。

次のオプションは、電子メール通知で使用する電子メール設定を指定します。

**EmailFrom** - 送信者のメールアドレス

**EmailTo** - 受信者のメールアドレス

**EmailCc** - カーボンコピー。その他のメール受信者 (メッセージヘッダーに表示されます)

**EmailBcc** - ブラインドカーボンコピー。その他のメール受信者 (メッセージヘッダーには表示されません)

**EmailReplyTo** - 返信時に使用するメールアドレス

**EmailSubject** - メールの件名を設定

**EmailSmtpServer** - SMTP サーバーアドレス (電子メールメッセージ送信用サーバー)

**EmailSmtpPort** - SMTP サーバーのポート既定値は 25 です。

**SmtpUsername** - SMTP サーバーが保護されている場合は、ここにユーザー名を指定します。そうでない場合は空欄にします。

**SmtpPassword** - SMTP サーバーが保護されている場合は、ここにパスワードを指定します。そうでない場合は空欄にします。

- **UseEncryptedProtocol**

1 に設定すると、ステーションと AVG Admin Serverとの通信が暗号化されます。デフォルトは 1 です。0 にすると、この機能が無効になります。

- **ConnectionCount**

許可されたデータベースへの接続数デフォルトでは、この機能は無効です。

- **SqlRestartInterval**

エラー時に AVG Admin Serverがデータベース接続の再オープンを使用する頻度を示す間隔 (ミリ秒)デフォルト値は 120000 (2 分) です。

- **EnabledStatusPage**

1 に設定すると、AVG Admin Serverステータスページが有効になります。0 にすると、この機能が無効になります。

- **MaxStationUpdatesPerMinute**

毎分新しいアップデートファイルを通知するステーションの最大数このオプションは新しいアップデート後の AVG Admin Serverのオーバーロードを防ぎます。0 にすると、無制限になります。デフォルト値は 15 (毎分 15 ステーション) です。

- **MaxConcurrentRequests**

ステーションからの最大同時要求数このオプションは、AVG Admin Serverのオーバーロードを防ぎます。デフォルト値は 25 (同時 25 要求) です。

- **MaxConcurrentDownloads**

アップデートサーバーから同時にダウンロードするアップデートファイルの最大数 (既定は 5)。

- **MaxUpdateFilesAge**

ステーションにダウンロードされたアップデートファイルを、ドライブから削除するまで保存する日数です (既定は 30)。

- **DatabaseBackupPeriod**

サーバーがデータベースをバックアップする頻度 (時間) です。定期バックアップを無効にするには 0 (ゼロ) にセットします。 (既定は 48 です)。

- **MaxDatabaseBackupAge**

サーバーが定期データベースバックアップを保存する日数 (日)。バックアップをそのまま永久に保存する場合は 0 (ゼロ) にセットします (デフォルト値は 14)。

- **BackupAlsoScanLogs**

1 に設定すると、通常データベースバックアップとデータベースエクスポート処理中に、データベースのスキャンログもバックアップされます (スキャンログが大量になるおそれがあるため、推奨されません)。既定値は 0 です。

- **AntispamAllowedDomains**

AVG Admin Serverからのアクセスが許可されたドメインのリストAVG スпам対策アップデートにのみ影響します。\* を指定すると、すべてのドメインが許可されます。例：

```
AntispamAllowedDomains=mailshell.net;avg.com;avg.cz;
```

- **AntispamMaxConcurrentRequests**

最大同時スパム対策アップデート数0 に設定すると、無制限になります。

- **AntispamProxy**

スパム対策アップデートで使用するプロキシサーバー次の形式を使用します。

```
http://user:password@server:port
```

通常のプロキシサーバーが定義されていない場合にのみ有効です。

- **EnableAntispamUpdates**

1 (デフォルト) に設定すると、AVG Admin Serverは AVG スпам対策のアップデートも提供します。

## 16. FAQ およびテクニカルサポート

AVG 9.0 Anti-Virus Business Editionに関する問題がある場合、購入に関する問題、技術的問題にかかわらず、AVG Webサイト (<http://www.avg.com/faq>) のFAQを参照してください。

この方法でヘルプが見つからない場合は、電子メールでテクニカルサポート部門までお問い合わせください。AVGアプリケーションのシステムメニューにあるヘルプ/メールによるサポートで利用できるお問い合わせフォームを使用してください。

このマニュアルを読んでも、どのレベルまたはタイプの**AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition**機能が最適なのが不明な場合は、AVG Technologiesテクニカルサポート部門: <http://www.avg.com/support-existing>までお問い合わせください。

ご使用のネットワークで、AVG 実装の最適なソリューションを見つけるお手伝いができるように、次の情報をご用意ください。

- ネットワークの規模 ( ファイルサーバータイプ、ネットワークステーションの数 )
- ネットワーク内のステーション上のオペレーティングシステム
- ステーションの平均的な HW パラメーター ( あるいは、最小パラメーター )
- LAN または WAN、および WAN の接続の質
- AVG 9.0 Anti-Virus Business Edition への要望 ( 管理者の要件、および管理範囲 )